

平和の道具



フランシスカン資料集

目次

前書き	-----	vi
序文	-----	ix
略語表	-----	xi
第一部 「正義・平和・被造物の保全」への取り組みについてのフランシスカンの展望	-----	1
1. 現代社会におけるフランシスカンの在り方 (エロワ・ルクレール OFM)	-----	2
新しい人/重要なメッセージ/出発点キリストとの出会い/新しい関わり方/平和の使者/兄弟共同体の創始者/人間愛の次元/限界と深みの体験/平和に満たされた人/被造物の融和/あらゆる争いを超えて		
2. 小さき者、貧しき者の優先、そして平和への取り組み(Javier Garido OFM)	-----	16
気づき/分析/教会の教えに関する新しい意識/社会・文化的な背景/生活と会則の見地から/会憲の見地から		
3. 福音宣教と養成における JPIC(チャールズ・フィネガン OFM)	-----	23
正義/平和/被造物の保全(エコロジー)/正義と平和とエコロジーにおけるフランシスカンの養成/要約/祈り/研究と内省/行動/結論		
4. 観想、正義と平和とエコロジーへの私たちの取り組みと神との一致 (ジョン・クイグリー OFM)		34
5. 「養成綱領」における正義と平和 (ホセ・アレグイ OFM)	-----	39
「養成綱領」の起源、目標、構成/「養成綱領」における正義と平和/私の目標/「正義と平和」における霊性の原則/「正義と平和のための」養成の目標/「正義と平和から生まれる」養成の場と段階		
第二部 <u>七つの具体的テーマ</u>	-----	57
1. 貧しい人々の優先 (ジョゼフ・G・ロザンスキー OFM)	-----	58
フランシスコの生き方から・・・/貧しい人々の優先/模範としてのフランシスコ/フランシスカンと貧しい人々の優先への新たな呼びかけ/兄弟の生き方からの模範・・・/会憲の参照事項		
2. 平和のために働く (Alain Richard, OFM)	-----	79
フランシスコの生き方から・・・/平和の働き手としてのフランシスコ/フランシスコは争いに立ち向かう/フランシスコの模範は今日の複雑な社会でも模範となり得るのか/私たちに挑戦する暴力/すべての人とすべての被造物の聖性に対する尊敬/非暴力の模範であり、源である三位一体/行動的非暴力の方法論に親しむ/真の平和の働き手となるために貧しくある必要性/兄弟の生き方からの模範・・・/討論のための質問		
3. 被造物の保全・環境正義 (Ambrose Van Si, OFM)	-----	98
フランシスコの生き方から・・・/環境正義/フランシスカンの「環境正義」の原則/実際のレベルでの環境正義 /兄弟の生き方からの模範・・・/討論のための質問		
4. 生命 (Ken Himes, OFM)	-----	115
フランシスカンの視点/創造された生命の価値に対する脅威と否定/完璧主義/手段の合理性		

義/市場原理/兄弟の生き方からの模範・・・/討論のための質問	
5. 人権：個人および集団の人権 (Bernardino Leers, OFM) -----	131
フランシスコの生き方から・・・/過去及び現在における人権/南の国々における人権/フランシスコ、フランシスカンの伝統と人権/人権に関するフランシスカンの使命兄弟の生き方からの模範・・・/討論のための質問	
6. 女性およびフランシスコとクララのカリスマ (Margaret Carney, OSF) -----	150
異なるコンテキスト/フランシスコの文化的コンテキスト/フランシスコにとってのクララとヤコバの重要性/フランシスコの女性との関係 ポジティブな側面と困難な側面/兄弟たちの生き方からの模範・・・/討論のための質問	
7. エキュメニカルな対話、宗教間の対話、異文化間の対話-----	164
フランシスコの生き方から・・・/アッシジのフランシスコの人生における対話/対話による福音宣教/OFM 総本部の中に設けられた対話のための新しい奉仕活動。/エキュメニカルな対話のための委員会/宗教間の対話のための委員会/諸文化との対話のための委員会/OFM 宗教間の対話のための委員会/兄弟たちの生き方からの模範・・・/討論のための質問	
第三部 実践：“HOW TO DO”セクション-----	185
1. 第二バチカン公会議後の流れの中にもみるフランシスコ会の正義と平和運動-----	186
第二バチカン公会議の精神によりもたらされた変化/修道生活についての新しい神学における正義と平和のための仕事の重要性/公会議後のフランシスコ会の発展：総会、総評議会、会憲 (パット・マクロスキー OFM)	
2. フランシスコ会内の正義・平和・被造物の保全の組織-----	196
管区レベル/協議会レベル/国際レベル (ローマ、JPIC 担当室)	
3. JPIC の活動におけるフランシスカン家族内の協力-----	210
フランシスカン家族内の協力の原則と現実/フランシスカンズ・インターナショナル/ジュネーブのドミニカンたちと共に/最終評価 (ローマ JPIC 担当室)	
4. 社会分析-----	216
第一段階：出発点	
第二段階：構造分析：一般的な構造/経済的構造/政治的構造/階級構造/文化的構造/宗教的構造/心的構造または態度	
第三段階：聖書と教会の教えに基づくキリスト教的考察	
第四段階：行動計画。グローバルに考え、ローカルに行動すること	
実際的アプローチ/評価(ローマ、総長連合正義と平和と被造物の保全委員会の「JPIC マニュアル」)	
5. JPIC の具体的な活動現場-----	226
日常生活(ロベルト・クランチ OFM) -----	226
「諸国の民」に宣教する使命 (ヘルマン・シャルック OFM) -----	233
小教区司牧活動における正義と平和と被造物の保全の仕事(G・オコネール OFM)-----	244
言葉の奉仕 (パトリック・マクロスキー OFM) -----	249

教育の役務(ボーズ・ブレタ OFM) -----	253
養成の役務(ゲアロイド・オコネール OFM) -----	261
第四部：付録 -----	267
1．貧しい者の優先 1971年から1997年の総会と総評議会における JPIC-----	268
2．聖書のテキスト-----	298
3．フランスカン源泉資料のテキスト-----	304
4．教会の社会教説-----	307
5．貧しい者の優先 会憲における正義・平和・被造物の保全-----	316
6．「フランスカン養成綱領」の中の JPIC に関するテキストの抜粋-----	324
7．JPIC に関するフランスカンの働きの特徴-----	329
8．連絡先-----	336
9．様々な信仰の伝統による祈り-----	342
謝辞	373

前書き

「・・・そこへ行く兄弟たちは
二つの方法をもって、彼らの中で靈的に生活することができる。
一つの方法は、口論や争いをせず、
神のためにすべての人に従い(1 Pet. 2:13)
自分はキリスト者だと宣言することである。
もう一つの方法は、神のみ心にかなうと判断するなら、
神のみ言葉を宣べ伝えることである(ReNB 16,5-7)

「祈りと献身の精神をもって、兄弟的交わりのなかで、根本から福音的な生活を営むこと」、「悔い改めの証しと小さき者であることの証しを立てること」、「すべての人に対する愛のゆえに、全世界に福音を告げ知らせ、和解と平和と正義を行いをもって説くこと」は、小さき兄弟である私たちの生活の必須条件です。

兄弟的交わりのうちに生きる私たちの生活の基盤は、私たちの主イエス・キリストを告げ知らせることにあります。私たちは、暴力・戦争・疎外・環境破壊などに絶えず脅かされている世界に、私たちの生き方を通してキリストを知らせるという使命を持っています。私たちの会の創立者である聖フランシスコは、正義・平和・被造物との調和に献身することによって、言葉と行いのうちに、福音を告げる者としての比類なき模範を当時の兄弟たちと人々に示しました。私たちが福音を告げる者となるためには、素直な心で、自分自身を受け入れ、兄弟たちおよび私たちに委ねられたすべての被造物と調和して生きること、そして、私たちの兄弟であり主であるキリストのうちに神と一致していることが必要です。

「靈的に生活し」、「口論や争いを避け」、「すべての人に従い」、イエスが救世主であることを告げ知らせるということは、とりもなおさず、私たちが賜物として授けられ、さまざまな脅威にさらされているいのちの大切さを告げ知らせ、守らせるということです。ジャーナリズムやラジオ、テレビなどのマスメディアは、現代人および全被造物が「死の陰」に暮らし(LK 1,78) それゆえに、「あけぼのの光の訪れ」(LK 1,79)が必要であることを実証しています。環境破壊と、現代社会の人々の増大する貧困化との間には密接な相関関係があります。生命の危険を感じ、豊かな生活を求めてさまざま難民の数は増える一方です。個人の欲求を即座に満たそうとする豊かな社会は、未来の世代により良い世界を残したいという多くの人々の切なる願いを考慮していな

いのです。そのような社会、つまり、何が何でも絶えず進歩発展することを至上命令とする社会によって、多くの人々の生活が脅かされているのに、その人々を地球規模でつなぎ、ひとつの方向に向かわせることは容易ではありません。

だからこそ、私たち小さき兄弟たちは、福音的生き方、多様性を認め合う兄弟的交わり、そして簡素な生活によって、キリストのうちにキリストのゆえに自由に生きることがを証しするよう招かれています。

そうするように支えることが本書の目的です。本書はマニュアルではありません。語の厳密な意味で、マニュアルの基準を満たしていないからです。本書の目指すところは、フランシスカンの霊性、貧しい者の優先、祈りと黙想の勧め、フランシスカンの召命の価値と基盤についての共同対話・「正義と平和と被造物の保全」の観点から見た具体的状況における具体的な行動などに関する記事を提供することによって、兄弟たちに考えるヒントを与えることです。本書は、1995年にソウルで開かれた正義と平和と被造物の保全のための国際評議会の要請に応えるもので、この分野におけるフランシスカンの関わりが私たちの霊性の必要不可欠な部分であることを兄弟たちが自覚する手助けとなることを目指しています。

本書を検討した結果、総理事会は、本書をすべての兄弟、特に正義と平和と被造物の保全に関する管区および協議会の担当者たちに提供することにいたしました。もっと深い考察とより抑制の利いた文体を期待する兄弟たちの中には、本書の記事や実例に不満を覚える人もいるでしょう。それはそれで建設的なことであると思います、各人がテーマを掘り下げるきっかけになるわけですから。原稿は何度か読み直して、間違いを訂正するように努めました。それにもかかわらず、読者の方々は不正確な点や誤りを発見することでしょう。不備な点はどうかお許しください。これが完璧だということもありません。本書の目的は、JPICのための具体的な行動を支えることです。

世の中にいるために私たちが基盤とするのは観想であり、内的な声に耳を傾けること、時代のしるしに静かに注意を払うこと、神の現存とみ業を体験することです。この世にいるということは、すなわち、旅することであり、深い畏敬の念をもっているのち、被造物、人々を喜んで迎え入れることなのです。それは、神がおられ、すべてを取り囲み、すべてを包んでおられるからです。本書がすべての兄弟にとって、そのように生きる励みとなることを願います。

本書の制作と推敲のためにご協力くださったすべての方々に心より感謝申し上げます。携わったすべての方が模範的に働いてくださいました。中でも、その方々の代表として、「正義・平和・被造物の保全」担当室の私の協力者フランシスコ・オコネール OFM の名を挙げたいと思います。神が、ご協力くださったすべての方々に十分に報いてくださり、祝福してくださいますように。

1999年3月25日、ローマにて、
ピーター・ショール OFM
総理事 JPIC 担当室長

序 文

本書のはじまり

ローマ総本部の JPIC 担当室、および各管区協議会のコーディネーター15名から成る JPIC 国際評議会と管区の JPIC 担当者は、正義・平和・被造物の保全という福音的・フランシスカンの価値観を自分のものとするよう兄弟たちを励まし、促すという重要な任務を負っています。それは、兄弟たちがそうした価値観を自分の生き方に取り入れて、兄弟愛に満ちた平和で解放的活動に協力的なライフスタイルを充実させるためです。本会の JPIC 国際評議会は、1995年8月にソウルで開かれた会議において、兄弟たちを方向付け、励ます方法を検討し、これらの価値観を本会内に推進する道具として JPIC 資料集の作成を総理事会に提案することにしました。総理事会は1995年12月の会議において、この提案を承認し、本書の作成をローマ本部の JPIC 担当室に委託したのです。

目的

本書は、会憲の第4章および5章からインスピレーションを受け、それらの箇所に対する知識を深め、これを遵守する一助となるものの、それらの章の注解書ではありません。本書の目的は、兄弟たちを方向付け、励ます任務を持った管区の担当者や委員会の助けとなる資料を提供することです。本書はまた、初期養成の担当者や生涯養成に取り組む各兄弟共同体、および司牧職に携わる兄弟たちの役に立つことも念頭に置いています。

本書は助けとなる資料であって、完璧な専門書ではありません。私たちは本書の限界を知っています。まず、第二部のテーマですが、世界のすべての地域に通用する観点を確立することはほとんど不可能です。しかしながら、各テーマの終わりに設けた質問は、地域ごとの現実を見据えて話し合いをするのに役に立つはずで、その一方で、世界の各地から大勢の兄弟がこの資料集に寄稿してくれたために、本書が統一性に欠け、重複する箇所があるのは否めません。第二部の各テーマをもっと詳しく説明すれば、本書はこれよりはるかに分厚いものになっていたでしょう。しかし全般的に見て、この資料は読む価値のあるものであり、目的の達成に役立つものであると私たちは信じています。

構成と内容

本書は四部構成です。第一部では、フランシスコ会の源泉資料、現行の会憲、教会の公文書に見られる霊性について説明しながら、正義と平和と被造物の保全に関するフランシスカンの考え方を、本書全体の理論的枠組みとして取り上げています。フランシスカンにとって、正義と平和と被造物の保全のために献身することは、聖フランシスコから受け継いだ使命でありますから、小さき兄弟としてのアイデンティティーと福音宣教の使命を形成するものです。それゆえに、この内容は初期および生涯養成の内容として取り入れるべきものです。

第二部は七つの具体的なテーマで構成されています。これらのテーマは私たちのカリスマの立場からもっともふさわしく、また興味深いものと思われれます。テーマごとに付してある理論的な部分は短いものですが、各テーマを微細にわたって説明することを避け、むしろ、問題意識を掘り起こし、考察・反省と行動を促すことを主眼としました。この短い理論を仕上げるために、世界中の兄弟たちの体験談や証言を加えました。こうした体験談や証言は、私たちの会憲が提示している理想が実現不可能なユートピアではないということを教え、それぞれの地域の状況に応じた様々な行動が可能であることを示しているのです。各テーマの終わりには、個人であるいはグループで考察・反省することを目的とした話し合いのための質問が付してあります。

本書を企画するにあたり、それぞれの管区長協議会も、各テーマをさらに深く研究するのに役立つような、しかもその地域の文化的感覚や要求に応えるような文献目録を提供することも考えていたことを申し添えます。

How to Do セクションと題された第三部は、過去 25 年間の本会内の JPIC 活動の歴史、JPIC 国際評議会、正義と平和の分野における管区や協議会の組織構成、JPIC の仕事におけるフランシスカン家族内の協力、日常生活と小教区、・コミュニケーションメディア、教育、福音宣教活動、初期および生涯養成などの各分野における JPIC の活動について扱っています。

第四部では、上記のテーマに関するフランシスコ会総会や総評議会、会憲、聖書、フランシスコ会の源泉資料、教会の社会教説、および養成綱領を紹介しています。そのほか、様々な祈りや国際機関の連絡先なども掲載しています。

ローマ、JPIC 担当室

略語表

1. 聖書

Ac	使徒言行録	3 Jn	ヨハネの手紙 III
2 k	列王記下	Jon	ヨナ書
Am	アモス書	Jos	ヨシュア書
Ba	バルク書	Jude	ユダの手紙
Col	コロサイの信徒への手紙	Jg	士師記
1 Co	コリントの信徒への手紙 I	1 K	列王記上
2 Co	コリントの信徒への手紙 II	Lm	哀歌
1 Ch	歴代誌上	Lv	レビ記
2 Ch	歴代誌下	Lk	ルカによる福音書
Dn	ダニエル書	1 M	マカバイ記 I
Dt	申命記	2 M	マカバイ記 II
Ep	エフェソの信徒への手紙	Ml	マラキ書
Est	エステル記	Mk	マルコによる福音書
Ex	出エジプト記	Mt	マタイによる福音書
Ezk	エゼキエル書	Mi	ミカ書
Ezra	エズラ記	Na	ナホム書
Ga	ガラテヤの信徒への手紙	Ne	ネヘミヤ書
Gn	創世記	Nb	民数記
Hab	ハバクク書	Ob	オバデヤ書
Heb	ヘブライ人への手紙	1 P	ペトロの手紙 I
Hg	ハガイ書	2 P	ペトロの手紙 II
Ho	ホセア書	Phm	フィレモンへの手紙
Is	イザヤ書	Ph	フィリピの信徒への手紙
Jm	ヤコブの手紙	Ps	詩篇
Jr	エレミヤ書	Pr	箴言
Jb	ヨブ記	Qo	伝道の書
Jl	ヨエル書	Rv	ヨハネの黙示録
Jn	ヨハネによる福音書	Rm	ローマの信徒への手紙
1 Jn	ヨハネの手紙 I	Rt	ルツ記
2 Jn	ヨハネの手紙 II	1 S	サムエル記上

2 S	サムエル記下	2 Tm	テモテへの手紙 II
Sg	雅歌	Tt	テトスへの手紙
Si	シラ書 (集会の書)	Tb	トビト書
1 Tm	テモテへの手紙	Ws	知恵の書
1 Th	テサロニケの信徒への手紙 I	Zc	ゼカリヤ書
2 Th	テサロニケの信徒への手紙 II	Zp	ゼファニヤ書

2 . 教会公文書

CA	回勅「新しい課題」(ヨハネ・パウロ 2 世、1991 年)
CP	使徒的勸告「コミュニオ・エト・プログレシオ」
DH	「信教の自由に関する宣言」第二バチカン公会議 196 年
DM	回勅「いつくしみ深い神」(ヨハネ・パウロ 2 世、1980 年)
EN	使徒的勸告「福音を伝える」(パウロ 6 世、1975 年)
ES	回勅「エクレジウム・スアム」現代社会と教会との対話 (パウロ 6 世)
GS	現代世界憲章 (第二バチカン公会議、1965 年)
LC	教書「自由の自覚」1986 年
LE	回勅「働くことについて」(ヨハネ・パウロ 2 世、1981 年)
MM	回勅「マーテル・エト・マジストラ」(キリスト教の教えに照らしてみた 社会問題の最近の発展について、ヨハネ 23 世、1961 年)
OA	使徒的書簡「オクトジェジマ・アドヴェニエンス」 (『レールム・ノヴァールム』公布 80 周年を迎えて、パウロ 6 世、1971 年)
TMA	使徒的書簡「紀元 2000 年の到来」(ヨハネ・パウロ 2 世、1994 年)
PP	回勅「ポプロールム・プログレシオ」 (諸民族の進歩推進について、パウロ 6 世、1967 年)
PT	回勅「パーチェム・イン・テリス」(地上の平和、ヨハネ 23 世、1963 年)
QA	回勅「クアドラジェジモ・アンノ」(社会秩序の再建、ピオ 11 世、1931 年)
RH	回勅「人間のあがない主」(ヨハネ・パウロ 2 世、1979 年)
RM	回勅「救い主の使命」(ヨハネ・パウロ 2 世、1990 年)
RN	回勅「レールム・ノヴァールム」(労働者の境遇、レオ 13 世、1891 年)
SRS	回勅「真の開発とは」(ヨハネ・パウロ 2 世、1987 年)
VS	回勅「真理の輝き」(ヨハネ・パウロ 2 世、1993 年)

3 . 聖フランシスコの書き物

Adm	「訓戒の言葉」
BenLeo	「兄弟レオのための祝福」
BenBern	「兄弟ベルナルドのための祝福」
CantSol	「太陽の歌」
EpAnt	「聖アントニオへの手紙」
EpCler	「聖職者への手紙」
1 EpCust	「長上への手紙 I」
2 EpCust	「長上への手紙 II」
1 EpFid	「全キリスト者への手紙 I」
2 EpFid	「全キリスト者への手紙 II」
EpLeo	「兄弟レオへの手紙」
EpMin	「ある管区長への手紙」
EpOrd	「全兄弟会にあてた手紙」
EpRect	「民の支配者への手紙」
ExhLD	「神への賛美の励まし」
ExhPD	「主祷文についての釈義」
FormViv	「聖クララに与えられた生活様式」
LaudHor	「全時課に唱えられるべき賛美」
OffPass	「主の御受難の聖務日課」
OrCruc	「十字架上の主の御前で捧げられた祈り」
RegB	「勅書によって裁可された会則」
RegNB	「勅書によって裁可されていない会則」
RegEr	「隠遁者のために与えられた規則」
SalBMV	「幸いな処女マリアへの挨拶」
SalVirt	「諸徳への挨拶」
Test	「遺言」
TestS	「シエナでなされた遺言」
UltVol	「聖クララに書き送った最後の望み」
VPLaet	「書き取られた文書 真の完全な喜び」

4 . 初期のフランシスカン源泉資料

1 Cel	チェラノのトマス : 「聖フランシスコの第 1 伝記」
2 Cel	チェラノのトマス : 「聖フランシスコの第 2 伝記」
3 Cel	チェラノのトマス : 「Treatise on the Miracles」
AP	「ペルージャの無名者による伝記」
CSD	「聖痕についての考察 (Considerations on the Stigmata)」
Fior	「聖フランシスコの小さき花」
LM	ボナヴェントゥラ : 「聖フランシスコの大伝記」
Lmin	ボナヴェントゥラ : 「聖フランシスコの小伝記」
LP	「ペルージャの伝記」
L3S	「三人の伴侶の伝記」
SC	サクルム・コンメルチウム (Sacrum Commercium)
SP	「完全の鏡」

5 . その他の略語

GG.CC.	会憲
CFF	フランシスカン家族協議会
FI	フランシスカンズ・インターナショナル
ICJPIC	正義・平和・被造物の保全国際協議会
JPIC	正義・平和・被造物の保全
OFM	小さき兄弟会
NGO	非政府組織
RFF	フランシスコ会養成綱領
MedF	メデリン養成
CFI-TOR	律修第三会国際フランシスカン協議会

第一部

「正義・平和・被造物の保全」への取り組みについての フランシスカンの展望

この第一部では正義・平和・被造物の保全への取り組みについてのフランシスカンの展望と本書全体の神学的枠組みを明確にします。その神学的枠組みとは私たちの霊性、フランシスカンの源泉資料、会憲と総則、養成綱領、そして教会の公の教えに基づくものです。

- 1．現代社会におけるフランシスカンの在り方
- 2．小さき者、貧しき者の優先、そして平和への取り組み
- 3．福音宣教と養成における正義・平和・被造物の保全
- 4．観想、JPIC への私たちの取り組みと神との一致
- 5．『養成綱領』における正義と平和

1．現代社会におけるフランシスコの在り方

新しい人

キリスト教の歴史を飾る数多くの聖人たちのなかであって、アッシジのフランシスコは今日なお最も人々を魅了し、共感を得ている者の一人です。その影響はキリスト教を超えて広がっています。フランシスコはすべての人々のものなのです。「早咲きの花のつぼみのように」登場したフランシスコは、私たち一人ひとりのなかの開花しようとする人間性を垣間見せてくれます。最初の伝記作家であるチェラノのトマスは、「彼は新しい人、来るべき時代の新しい人のようだった」と記しています(1Cel 82)。

ですから、混迷する現代社会にあって、フランシスコだけが咲かせ方を知り、この世界との新しい関わり方(在り方)によって特徴づけられるあの知恵の秘密について知りたくて多くの人々がフランシスコのもとに聞きに来るのも不思議ではありません。なぜなら、この新しい在り方こそ、フランシスコがこの世界に残してくれた最も貴重な贈り物だからです。すなわち、非常に人間的であると同時に福音と宇宙に根ざす在り方、「被造物との融和のなかですべての敵意を兄弟間の緊張に変えてしまう」(ポール・リクール) 恵みを備えた完全な在り方なのです。「彼以上に完全に誰に対しても全存在をかけて、献身的に神の万物への愛を具現してくれた人はかつていなかった」とルイス・ラヴェルは記しています(L・ラヴェル著「四人の聖人」アルビン・ミシェル編、パリ、1959年 p88)。

では、アッシジのフランシスコの秘密とは何だったのでしょうか。どのようにしてフランシスコは世界との関わり方、人間のあらゆる争いが平和へと誘われるあの在り方へと自分を開放したのでしょうか。

重要なメッセージ

この問いかけは私たちにとって極めて重要です。私たちの工業文明は今袋小路にあります。私たちは現在の科学と技術の進歩を当然のことながら誇りに思っています。科学技術の発展は、デカルトの望みどおり、私たちを「万物の主であり、所有者」としてきました。しかし今、私たちは非常に重い付けがまわってきたこ

とに気が付きました。一方では、私たちの環境、ひいては生活の質が、人間の支配が進み人間の技術が自然をコントロールするに従い、脅かされています。またもう一方では、もっぱら利潤追求の法則による天然資源の技術開発が、失業や社会正義の面で大きな問題を引き起こしています。排他的な状況が人間社会のなかで増幅し、平和が深刻に脅かされています。工業文明の産物である人間は、これまで、ものを所有することばかり考えて来ました。今こそ、人間は正義と平和に関心を払い、自然と対等に兄弟づきあいをするを学ばなければなりません。今、このことについて、万物の兄弟であるフランシスコは、私たちに重要なメッセージを投げかけているのです。

彼のメッセージを正しく聞き取るためには、ひとまず「アッシジの貧者」という既成のイメージを脇に追いやらなければなりません。私たちは、彼を被造物の「魅力的な王子様」のように考えてきました。おそらく魅力的でしょう、でもそれはうわべだけのことです。本当のフランシスコはまったく別の姿と心の持ち主なのです。彼はキリスト教の歴史上最も大胆な改革者の一人でした。福音書に忠実でありながら、当時の政治・宗教制度を打破していったのです。当時の制度では、教会は封建時代の大王であることが多く、また聖戦と十字軍が正当化されていました。彼はまた、自治都市の新しい偶像、すなわちお金と契約を結ぶことを拒否しました。また、人間より劣る被造物に対する彼の兄弟愛に満ちた態度は、決してセンチメンタルなものではなく、創造についての明快で深い理解に基づくものでした。

出発点 キリストとの出会い

アッシジの貧者が始めたこの世界における新しい在り方の源泉には、若きベルナルドネの回心に始まる霊的な体験があります。ベルナルドネに注がれた霊の息吹を見出したいのなら、彼の体験の核心に触れなければなりません。

フランシスコは生まれながらにして「万物の兄弟」だったわけではありません。そのようになったのです。深い回心の末にそうなったのです。まだ若い青年のときのフランシスコは、私たちが賞賛するような平和の人ではありませんでした。確かに、フランシスコの最初の伝記作家は、他人に率直で、愛想がよく、礼儀正

しい人物像を描きました。ところが、この魅惑的な外見の奥深くには、暴力と野心と征服欲そして支配欲が潜んでいたのです。

裕福な商人の息子として、フランシスコは稼ぐことに貪欲で権力志向の強い新興階級に属していました。封建制度のくびきから解放された中世の自治都市では、商人たちに率いられた裕福な中産階級の人々は商売を営み、権力を行使することを目指していました。こうした新興の社会勢力に流されて、若きフランシスコもまた大きな野心を持っていたのです。彼は目立つのが好きで、太陽のように輝き、人の上に立つことを好み、アッシジの若きエリートの王を気取っていました。

成長するにつれ、野望もまた大きくなってゆきました。父親の商売を継いで単なる反物業者になるのはいやだったのです。フランシスコはとてつもない夢を抱いていました。それは上流階級に属することでした。騎士になることに憧れ、ひいては王子になりたいとさえ思っていました。あるとき横になって眠っている間に父親の店の夢を見ました。夢の中で彼が見た店はありとあらゆる武器に輝く宮殿に変貌していました。そして、これらの武器がすべて彼のために輝いていたのです。フランシスコとその騎士たちのために。青年らしい想像力で、彼は世界征服を夢見ていました。

若いフランシスコは名誉に憧れていました。当時、名誉は戦争で勝ち取るものでした。そしてまさにそのとき彼の身近に戦争が起こったのです、アッシジと敵対する隣の都市ペルージャとの間の戦争でした。フランシスコはアッシジの自衛軍に参加しました。

サン・ジョバンニ橋の戦いに参加しましたが、戦況はペルージャが優勢でした。フランシスコは捕虜となり、敵方の牢獄で一年を過ごしました。アッシジに戻ったときには、すっかり健康を害し、病の床に伏してしまいました。

病気は長引き、何もできないまま孤独の生活を余儀なくされましたが、フランシスコにとってこの病気が人生の転換点となったのです。自分自身を注意深く見つめ、今までの日々を空しいものだったと感じ、その軽薄さを自覚したのです。

けれども病気が回復すると、彼は再び戦いへの野望にとりつかれ、アッシジの若い貴族らと一緒に、南イタリアで皇帝軍と戦う教皇軍に志願することに決めたのでした。しかし、この計画は長続きしませんでした。スポレトに到着するとすぐに、「アッシジへ戻れ」という内なる声を聞いたからです。フランシスコはその声に従いました。この時を境に、神が自分に何をお求めになっているのかを見出すことだけがフランシスコにとっての関心事となりました。

フランシスコは自ら進んでアッシジ郊外の寂れて人のいなくなった小さな教会に独りで引きこもりました。なかでもサン・ダミアノ教会は特別でした。彼はよくそこで、ビザンチン様式のキリストを黙想しながら長い時間祈りを捧げました。平和の光を放つこの十字架上のキリストは、人類に対する神の愛を生き生きと、圧倒せんばかりに示してくれたのです。フランシスコはこの愛の深さと輝きに完全に魅了され、虜になってゆきました。キリストの人間性と完全に与え尽くしたキリストのいのちを通じて、フランシスコは人間をこぼれになる神の慈しみ深さを見いだしていったのです。そしてフランシスコもまた、人間に対する見方を変えてゆきました。彼の心は人間の悲惨さへと向けられていったのです。

『遺言』のなかで、フランシスコは自分の体験した急激な変化について詳しく物語っています。「主は、私・兄弟フランシスコに、償いの生活を、次のように始めさせてくださいました。私がまだ罪のなかにいた頃、ハンセン病者をみることは、あまりにも耐え難く思われました。それで、主は自ら私を彼らの中に導いてくださいました。そこで、わたしは彼らをあわれみました。そして、彼らのもとを去った時、以前に耐え難く思われていたことが私にとって魂と体の甘美に変えられました。」

新しい関わり方

この変化について、もうしばらく考えてみましょう。すべてはここから成長していったのです。フランシスコは、なんのためらいもなくこの回心を、人々や世界に対して自分が新しく開かれたのだと表明しています。彼の世界は爆発したのです。昔なら遠ざけていた人々、見たくもないと思っていた人々、自分の世界か

ら排除していた人々を、今フランシスコはあえて捜し求めているのです。

これは単に関わりの輪が広がったということではありません。関わりの質も変わったのです。もはや、野心や名誉欲、征服欲に駆り立てられることはないでしょう。心を駆り立てるものが変わったのです。フランシスコは、人間をご覧になる神の慈しみ深いまなざしに気づいたのです。そしてこの慈しみ深いまなざしが、フランシスコの世界をひっくり返したのです。彼は、征服欲と支配欲から、思いやりと交わりの態度へと移行したのです。彼の世界は最も貧しい人々に向かって開かれました。過去にも、貧しい人々に施しをする機会がありました。しかし、それは中流階級の裕福な若者が、高みから施すというものでした。貧しい人々は所詮金持ちの仲間ではなかったのです。

今や壁は崩れ去りました。フランシスコの世界に対する見方が変わったのです。自分に注がれた特別な愛の光のもとで新たに世界を見いだしました。いと高き神の御子が、私たちと対等となり、すべての人の兄弟、さらには見捨てられた人々の兄弟となるためにご自分の栄光を示されたことを知ったのです。天のいと高き所にいらした方が身を低くして私たちのもとに来られたのです。それは、フランシスコを世界との新しい関わり方へと駆り立てる、言いようのない光景でした。彼はもはや人の上に立ったり、人を支配しようと思わず、人々と共に生き、人々と兄弟でありたいと願いました。もう世界を征服したいとは思わず、生きとし生けるもののすべてを喜んで迎え、交わりたいと願い、キリストに倣ってすべての人の兄弟、とりわけ最も卑しく、最も貧しい人々の兄弟になりたいと願っていました。

世界とのこの新しい関わり方は、フランシスコをその全生涯にわたって激励し、導くこととなります。そしてまず、神が自分に何を求めておられるのかに対してフランシスコは敏感になり、神のご意志をいつでも喜んで受け入れるようになりました。

ある日、ポルチウクラのサンタ・マリア・デリ・アンジェリ（天使の聖母）の聖堂でミサにあずかっていたとき、福音書の一節が朗読されるの聞きました。主が弟子たちを宣教に派遣するときの一節です。「金も銀も持って行ってはなら

ない。どの家に入るときにも『この家に平和がありますように』と言いなさい。」フランシスコの心が照らされた一瞬でした。自分の召し出し、使命を見いだしたのです(1Cel22)。弟子たちと同じように、彼もまた主の平和を宣べ伝えるために遣わされた者であることを理解しました。「金も銀も金銭も持たず」、権力や富のしるしも身に付けず、ただ平和を宣べ伝える使命だけを抱いて、人々のもとへと向かおうとしたのでした。『遺言』のなかで、フランシスコはこう述べています—「主は私に挨拶の言葉を教えてくださいました。『主があなたに平和をお与えくださいますように』といいなさいと。」彼は征服者としてではなく、友人として、平和の人として人々に接しました。そして、どこへ行ってもフランシスコの存在は「被造物との融和のなかですべての敵意を兄弟間の緊張に変えてしまう」働きをするのでした。彼は、「大いなる謙遜」のうちに万物と交わることによって、平和を作る人、万物との共存の創始者となろうとしたのです。

平和の使者

教会が引き起こした戦争や封建的な統治に背を向けて、フランシスコは出会う人誰にでも「平和と善が訪れますように」と挨拶しながら、各地を巡り歩きました。互いに和解しあい、兄弟姉妹として生きるように人々に勧めました。ポローニャの街の中央広場に集まった街中の人々の前で、フランシスコは、まず憎しみの炎を消し、新しい平和条約を結ぶことの大切さを説いたのです。アレッツォでは、争いの種を追い払い、生まれ故郷のアッシジでは、司教と市長との間に対立が生じると、不眠不休で両者の和解のために尽くしたのでした。

「アッシジのフランシスコの生涯を、表面的にでも、特徴付けたいと望む人々にとっては、フランシスコの生涯は最初から、最も神聖で最も強い愛の生涯であったと言えるでしょう」とP・Lippertは記しています。実を言いますと、彼の愛は同胞に対する人間愛だけではなく、人類に対する神の愛とも言えるものでした。神の愛がフランシスコに働きかけ、フランシスコを通して、まるで春の日差しのように、世界中に交わりと平和の力を広めたのです。

この力は、次々に人々に伝わってゆきました。まもなく、フランシスコは独りではなくなり、何十人、何百人もの若者たちや成人たちが彼のもとに集まり、彼

の模範に倣おうとしました。彼らはまるで、お祭りにでも駆けつけるかのように、フランシスコとその清貧の理想に向かって駆け寄ってきました。なぜなら、そこには生き生きとした共同体があり、兄弟愛の喜びが満ち溢れていたからです。

兄弟共同体の創始者

兄弟共同体、これこそ駆けつけた人々の捜し求めていたものであり、それこそフランシスコが唱えていた平和の姿だったのです。フランシスコのあとを慕って、ものすごい兄弟共同体運動が成長してゆきました。この運動は、当時の人々が切望し憧れていたものだったのです。共通の目的をもって集う兄弟共同体の理想が広まってゆきました。

自由の思想とともに、自治体の反骨精神を呼び起こしたのはこの理想ではなかったでしょうか。封建領主の権力を認めず、自分たちの都市を自由な自治体として樹立しながら、人々は新しい社会関係を待ち望んでいたのです。封建制度には主従の関係しかありませんでした。男であれ女であれ、人々は常に他の人々に隷属していたのです。自治体は、その名が示すように、もっと民主的で、もっと自由で、もっと兄弟愛に満ちている社会関係を約束していました。少なくとも、一般の人々はそのような関係を望んでいたのです。ところが、その望みは早くも失望へと変わってゆきました。

自由な自治体では、金銭の掟、すなわち裕福な商人の掟が封建領主の掟に取って代わっていました。こうして、初期のフランシスカンの運動は、貧しい人々の心に真の兄弟のような生き方への希望の明かりを再び灯していったのです。自治体がなしえなかったことをフランシスコとその兄弟たちは福音書の心で実践し、生活していました。

小さな共同体が女性の共同体も男性の共同体と同じように、イタリアから始まり、急速に西ヨーロッパ全土にその数を増やしてゆきました。それらの共同体は平和と和解の中心地であるかのようにでした。実際、兄弟たちは二通りの兄弟生活をしていたのです、すなわち、当然のことながら自分たちの兄弟会の生活と、出会うすべての人々、特に最も貧しい人々、最もつましい人々との兄弟的生活を

していたのです。兄弟たちの誰一人として他人に対して、ましてや兄弟に対して権力を振るってはありませんでした (RegNB5;9)。「私たちは決して人の上に立つと望んではなりません。むしろ、『神のためにすべての人』のしもべ、および臣下となるべきです」とフランシスコは述べています(2EpFid47)。それぞれに異なった社会的背景をもって集まった兄弟たちは、それぞれの違いを尊重しながら共に生きることを学んだのです。このような共同体は力で制圧する組織とは無関係でした。フランシスコにとって、どの兄弟もみな一人一人かけがえのない存在でした。兄弟愛は個としての存在を尊重して初めて成り立つ関係です。それは、「私たち」の雰囲気の中に、常に「あなた」を歓迎することでした。

このような試みが当時どれほど革命的なものであったか、今日の私たちには想像もつきませんが、当時は教会全体が封建君主的であったことを忘れてはなりません。当時は、教区の長である司教と修道院の長である大修道院長が封建領主として現世の権力を振るい、その権力が地域全体に及ぶことも珍しくありませんでした。このような状況のもとでは、ヨーロッパ全土に広がっていった数え切れないほどのフランシスカンの兄弟共同体は、本当に新鮮なそよ風でした。彼らはこの世界に対する教会の新しい在り方を示したのです。すなわち、教会のなかで最も蔑まれている人々が自分の居場所と自分の尊厳を再発見できるような、そんな兄弟愛に満ちた共同体を作り出したのでした。

人間愛の次元

フランシスコのまなざしは、キリスト教世界にのみ注がれていたわけではありません。もっとずっと遠くを見つめていたのです。彼は人類全体を普遍的な兄弟共同体のなかで和解させたいと願っていました。その当時、世界は二つの勢力圏、すなわち西洋のキリスト教世界とイスラム教世界とに分割されていたのです。両者の間には聖戦や十字軍と呼ばれる戦争がありました。フランシスコはこの分裂を認めることができませんでした。彼はこの二つの世界の橋渡しをしたいと考えました。しかし、時勢は彼の試みには不利でした。第5回十字軍がその頂点に達していたからです。そこで、フランシスコはエジプトのスルタンのもとへ赴こうと決心しました。愚かな夢のようなことでした。ところが、信じられないことに、十字軍の戦いの真っ最中に、フランシスコはイスラム教の首長アル・マリク・ア

ル・カミルから手厚いもてなしを受けたのです。二人は互いに尊敬しあい、認め合ったのでした。これ以上何を望むことができたでしょう。これはすでに大きな成果でした。確かに大きな成果ではありましたが、これで充分というわけではありませんでした。アッシジの貧者の平和への使命は限界に突き当たったのです。

限界と深みの体験

程なくもう一つの限界をフランシスコは知るようになります。今回は彼自身の会の内部にありました。今回の限界にフランシスコは深く傷つき苦しみました。私たちはこの試練を通してフランシスコに従ってゆかねばなりません。彼はこの試練によって清められ、神と人々への関わり方を深めてゆきました。そこから、人類史上最も強く、最も独創的な新しい人が生まれることになるのです。

「被造物との融和」を実現するためには、すべての生き物との間に兄弟愛に満ちた関係を望むだけでは不十分でした。平和を求める心と何ものにも煩わされない心で、この兄弟関係を望むことを学ばねばなりませんでした。つまり、貧しい人の心で、ということです。愛するだけでは不十分で、愛のうちにあってなお貧しくあることを学ばねばなりませんでした。

これは最も難しくしかも最も重要な課題でした。どのような代価を払っても成功したいというのでは、かりに人々を一致させることができたとしても、単なるエゴイズムと自己愛にすぎません。欲望がいのちの役に立たずに、いのちを脆くしてしまうのはそのためです。逆に、いのちがあらゆる自己愛から解放されていれば、いのちはほとばしり、ひろがってゆき、全き自由のなかで創造されてゆきます。

フランシスコは、その「小品集」のなかで、動揺や苛立ち、怒りは自分自身にとっても他の人にとっても愛の妨げになるものだと非難しています。彼によれば、そうした否定的な感情は、ひそかに、そしてしばしば無意識のうちに、わがものにしようとする所有欲となる見逃せない兆候であると考えていました(Adm4:2; 11:2,3 ;13:2; 14:3; :27:2)。人は何か反発や争いが生じるまでは、自分のことを純粹で、寛容で、物事に執着しない人間であると考えがちです。ところが、反発や

争いが生じると、動揺し、苛立ち、攻撃的になるのです。そして、つくろっていた仮面ははがれ、自分のありとあらゆる武器を使って、自分の利益、自分の領域を守ろうとします。そんなとき、人は主がその人を通して行おうとされた善をわがものとして独り占めし、個人のものにしてしまうのです。

フランシスコは動揺と怒りについて明確に自分の意見を述べ、兄弟たちに平和な心でいるようにと勧めましたが（ Adm 15:13; 27:4; RegNB11:4;17:15;RegB3:11; CantSol 10 ）それは、フランシスコ自身が動揺や怒りの誘惑に駆られたことがあったからに他なりません。そうした誘惑は、平和と兄弟愛を実践しようとする試みの最中に、まさに人々の間に「被造物との融和のうちに」真の兄弟愛に満ちた共同体を作ろうとする試みの最中に、こっそりと巧妙にやってくるのでした。

成功がフランシスコに微笑みかけているかのようでした。兄弟たちの数は順調に増え続け、歴代の教皇たちは、できたばかりのこの修道会に特別の行為を示してくれました。フランシスコには、自分の修道会の聖なる兄弟たちを通して実現しつつあるあらゆる善いものを主に感謝するだけの十分な理由があったのです。

ところが、事態は一変し、空には暗雲が立ち込めました。共同体の内部に深刻な対立が生じたのです。兄弟の数が増えるにつれ、よりしっかりとした組織が必要になりました。放浪状態に終止符を打つ必要ができたのです。住居と兄弟たちを養成する期間が必要となってきました。しかし全員がこの新しい方向性に賛成だったわけではありません。兄弟の数が 5,000 人にも膨れ上がった今、12 人しかいなかった昔と同じような福音的生活を送ることはできないことをフランシスコは十分に理解していました。しかし、同時に、兄弟会を当時すでに確立していた伝統的な修道会のような形態にもってゆこうとする兆しが、影響力をもつ兄弟たちの間に芽生えていたことにも気づいていました。今こそ、最も卑しい人々との兄弟的交わりをスローガンとして、質素に福音的自由の理想を守り、世界と新しい関わり方をしてゆくことが必要であると彼は考えました。

フランシスコは深く悩みました。あの兄弟たちは新しい環境に順応したいといっ、兄弟共同体をその本来の召命から離反させようとしているのではなからう

か。彼は自分の活動が妥協させられ、彼の精神を真に理解してくれない兄弟たちに乗っ取られるような気がしました。

平和に満たされた人

この精神的な危機は病気のためにさらに深刻なものとなるのですが、フランシスコにとっては自分自身を裸にするために必要な道程だったのです。「彼は内面的にも外面的にも、身も心も苦しんでいました」(LP21; 1Cel104)。彼は自分の苦痛と動揺を隠すために、隠遁所に独りでこもりました。彼は自分自身を孤独と苦しみの中に閉じ込めてしまう恐れがありました。しかし、神がそこでフランシスコを待っておられたのです。フランシスコは究極の浄化へと招かれました。彼は神の道具となるために、自分自身の道具であることをやめねばなりません。もはや、修道会のことは彼の問題ではなく、神にお任せする問題となったのです。「もう動揺することはない。・・・私が主である」との神の声がフランシスコの耳に響きました。彼は心配事を主にゆだねました。神がおられる、それで充分でした。それからフランシスコの心は晴れやかになりました。

そのときから、フランシスコは平和な心、晴れやかな心で平和の使命を自分に課することができるようになりました。大切なことは、立派な兄弟会を創りあげることではなく、父なる神の善を発散させながら、自分自身が兄弟愛に満ちた人になることでした。今こそフランシスコは、真にこのように書き記すことができました。「この世でどんなことを忍ぶにも、私たちの主イエス・キリストへの愛のために、心身の平和を保つ人はまことに平和をもたらす人であります」。(Adm 15)

共同体の責任者であったある兄弟が、仲間の兄弟が煩わしくて思うように神を愛することができないので、隠遁所へ独りでこもらせてほしいと許可を願い出たとき、フランシスコは、個人的な体験に基づく權威をもって次のように答えました。「・・・主なる神への愛を妨げるもの、兄弟たちからであれ、誰からであれ、妨げられたときは、たとえ、暴力をふるわれても、その妨げを恵みと思いなさい。・・・妨げる人々を愛しなさい。彼らを愛することだけを考えるように。・・・そのほうが隠遁所にこもるよりもずっとあなたにとってためになるはずですよ」。

(EpMin2-8 参照)

被造物の融和

もはや、フランシスコの平和のまなざしを遮るものはありませんでした。なにも彼の中にある聖霊の働きに抵抗することはできませんでした。彼は風のように自由になったのです。彼は「この世界に住む全ての人々」に宛てて「天国からまことの平和」が訪れるようにとの願いを込めて手紙をしたためました。これほど彼の視野の広さをよく表しているものはありません。しかし、彼は単に平和のうちに人々を結び付けたいと願っていただけではありません。その平和をすべての被造物へと広げ、人間を自然と和解させたいと願っていたのです。このように兄弟愛をもって世界と関わりたいという彼の願いは、「兄弟なる太陽の賛歌」や「被造物の賛歌」に込められています。

この「賛歌」はフランシスコが晩年に作ったもので、まぎれもない彼の霊的遺言です。これには、賛美の心が勢いよくほとばしり出ています。小さき「貧者」がすべての被造物のために神を賛美しているのです。この「賛歌」には太陽の輝く光、星々のやさしい清らかさ、風の翼、水の謙虚さ、火の情熱、大地の忍耐があります。世界の美しさをほめたたえ、三度も「美しい」という形容詞が繰り返されています。このように宇宙を賛美するというのは、聖書の詩歌や詩篇の伝統にもみられるものですが、この「賛歌」には新しいものがあります。それは、兄弟的な交わりへの切なる願いです。フランシスコはすべての被造物と兄弟のように交わったのです。支配しようとする心をすべて退け、被造物のすべてを兄弟姉妹として歓迎し、いと高き神のみ旨に結びつけようとなりました。被造物と共にあってこそ、彼は賛美のうちに神の方へと高められていったのです。

被造物とのこの兄弟的交わりはセンチメンタルな感情でも、夢物語でもありません。天然資源を活用し、人々がそれを利用することに異を唱えるものではないのです。フランシスコによれば、天然資源の物的要素は人々の役に立つとき、いっそう兄弟的なものとなるといいます。彼はその美しさをたたえるだけでなく、その実用性をもたたえました。フランシスコは姉妹なる「水」を「益多く謙遜」とたたえ、同様に兄弟なる「風」をそのいぶきはいのちであるとたたえ、姉妹で

母なる「大地」を、色とりどりの果実を生み出すことによって私たちを育ててくれるとたたえています。

被造物とのこの兄弟的交わりのなかには、生命への大きな愛があります。その愛は創造主がご自分のみわざに向けた愛に近く、創造主の愛に融合するものです。ここからフランシスコの生きとし生けるものへの敬虔な尊敬の念が生まれたのでした。フランシスコは森に木を切りに行く兄弟たちに、すっかり切り尽くして砂漠のようにしてしまうのではなく、新たな葉が茂るように生命を残しておきなさいと勧めました。大地を破壊し、生命を苦しめる人間の貪欲さというものをことごとく彼は糾弾しました。いったい何度、フランシスコは意味もなく捕らえられた動物たちを自由に解放してやったことでしょうか。

あらゆる争いを超えて

被造物と兄弟のように交わる人々は、そうした被造物の象徴するものすべてに対しても心を開きます。彼らは、自然界に根ざす自分自身の不可解な部分、すなわち、肉体とその生き生きとした生命力とも親しく接します。フランシスコは何事も拒みませんでした。神に向かってほとぼしる気持ちのなかですべてを受け入れるのでした。彼の霊的生活は、隔絶された世界で営まれるものではありませんでした。彼は宇宙の根源、すなわち、「われらをはぐくみ、つちかうわれらの姉妹、母なる大地」と共に神のもとに向かうのでした。二元論のすべては克服されました。生命の闇の力は光の力へと変容し、おぞましい側面は姿を消したのです。狼は従順になったのでした。森の中を駆け回る狼だけでなく、私たちの中に潜む狼も従順になったのです。生命の荒々しさは愛の力へと変容してゆきました。それは、「夜を照らしたもう兄弟なる火、火はうるわしく、喜ばしく、力強く、たくましい」と歌われている強さなのでした。

自分自身が平和であれば、人は誰とでも親しく交わることができます。フランシスコは被造物の賛歌の中に、赦しと平和の人々の賛歌を加えたいと考えました。そして彼らを被造物のなかでも最高の榮譽を受けるものとしてたたえました。「おお たたえられよ わが主、おん身への愛のためにゆるし、病と苦しみを耐え忍ぶ者によって。 幸いなるかなこと、終わりまで安らかに耐え抜く者、かれ

はおん身より、いと高きお方よ おん身より永遠の冠を受けるのだ。」

「被造物の賛歌」は、自分自身に心を開き、生命力と欲望が程よく調和して愛と光の力となっている完全な人格から生まれた言葉なのです。これによって、フランシスコの霊的生活は完全なものとなり、太陽のように輝くものとなったのです。

フランシスコは新しく生まれ変わる内なる体験を通して、創造の明快な意味を発見したのです。「彼は、新しい人、来るべき時代の人のように見えました。」とチェラノのトマスは述べています(1Cel 82)。フランシスコの「賛歌」は、創造主に対するあふれんばかりの敬意を表しているだけでなく、新たに成っていくことを祝福するものでもありました。彼は、兄弟愛に満ちた心で新たな創造を歌にしたのです。この神聖な夜明けの秘密はフランシスコの清貧、それもこの世の物との関わりにおける清貧だけでなく、神とのかかわりの深奥における清貧のなかにありました。それは、神のなさるままにし、すべてを完全に神にゆだね、創造主の全き愛の現存と一体となることでした。

エロワ・ルクレール OFM

2. 小さき者、貧しき者の優先、そして平和への取り組み

1 気づき

清貧は常にフランシスカンのカリスマの一部でした。フランシスコ自身たびたび次のような言葉で私たちの召命を喚起しています。「私たちが固く約束した清貧と謙遜と私たちの主イエス・キリストの聖福音をまもるためである」(RegB12:4)。しかしながら、フランシスカンの福音生活の解釈と実践は時代とともに変化してきました。会則の遵守に関する教皇庁の宣言「(1230年)教皇グレゴリウス9世による「クオ・エロンガティ」から第二バチカン公会議以前の会憲にいたるまで、最大の強調点は会則を法的にも道徳的にも字義通りに遵守することに置かれていました。清貧とは、基本的には財産を持たず、管区長や修道院長の管轄下で物品の使用を最小限にとどめることでした。誓願と徳とははっきり区別されていましたが、どちらも、同じ視点を共有していました。つまり、目標を持ち組織化した体制のなかでキリスト者としての完璧な生き方を目指す修道生活という視点です。

第二バチカン公会議以降何が起こったのでしょうか。最初のうちは、私たちは公会議は遵守すべき事柄について若干の見直しを行っているにすぎないと思っていました。ところが今、私たちの修道会は困難な段階を潜り抜け、まったく新たに生まれ変わり、その本来の独自性を再構築しつつあることに気が付きました。

そこで小さき者について考えてみましょう。

会則の教えや忠告を守るだけでは不十分です。もっと正しく言えば、貧しい人々を優先することが求められているのです。質素な禁欲生活をして、それだけでは不十分です。社会のなかで地位の低い小さき者となるようなライフスタイルを作り上げてゆくことが必要です。長上の命令に従って物品を使用しても、それだけでは不十分です。もっと正しく言えば、正義を推進し、平和の使者であることが求められているのです。清貧の誓願を全うしようとするだけでは不十分です。争いと不正義が横行し、宗教離れが進む今日の世界にあって、神の国の至福を実践する生き方を見つけなければなりません。

小さき者とは、言うまでもなく霊的な態度を意味しますが、同時に福音にかなった生き方をも意味します。現実にもこのような生き方が実践されているでしょうか。

2 分析

視点がこのように変化してきたのには二つのことが影響していると考えられます。

A. 教会の教えに関する新しい意識

福音の中心が「移動」していることについて考えてみましょう。どの時代にも福音書は時代にあわせて読み直されてきました。今日では、次のことに重点が置かれています。すなわち、

- 1) 救いの歴史を貧しい人々のための神の御わざと考えること。天の国、福音を蔑まれた人々のためと考えること。イエスが救い主として優先されたのは、貧しい人々であること。
- 2) これが神のなさり方であり、したがって、イエスから綿々と続いてきた教会の使命であるならば、今日の修道生活の意義とはいったい何なのか。イエスに倣うことこそ我々の召命の核心であるが、それは個人的な人間関係のなかにあるのか、史実とは無関係に苦行を行うことによってイエスの態度と徳を再現することのなかにあるのか。それとも、我々は現代の社会状況のなかにあって、イエスの足跡を辿り、神の国の歴史を辿るように求められているのだろうか。
- 3) この中心点の移動について、それを裏付ける証拠があります。それは、
単なる精神的解放ではなく、物質的なものも含む完全な神の国の神学の出現。
喜びも苦しみも共に分かち合う、より平等な教会のモデルの探求。
基盤となる共同体の創設と統合。
修道会として、より貧しい人々、社会の底辺にいる人々と共にあろうとし、そのことに絶えず関心を払い続けること。
いわゆる「インサート・コミュニティ」(貧しい人々のなかに混じ

って暮らす共同体)を増やすこと。

人権擁護のための声明に参加すること。

社会・政治的変革の方法としての非暴力主義の採択。

B. 社会・文化的な背景

第二バチカン公会議以降、教会は世界と世界の望みに対して肯定的な態度をとってきました。現在、人類の歴史は、次のような重要な特徴を持つ自己解放の過程を辿り始めたのです。

- 4) 人は誰でも侵すべからざる尊厳と権利を持っており、そのことは世俗と宗教界とを問わず、あらゆる管轄下において尊重されなければならない。その第一の権利とは、自由、すなわち自分の歴史の主人公となる権利である。
- 5) 平等と連帯とは人類の発展において手放すことのできない価値である。不平等の疑いのあるところには、不正もまた存在する。社会的、政治的変革に参加する態度。
- 6) 自由を手にするのできない人々に対する感受性。たとえば、最下層級民、植民地支配下にある人々、女性、第三世界等々。

この運動は西洋近代社会に属しており、広範囲に広がってゆきましたが、初期の頃は極端な楽観主義を特徴としていたため、まもなく矛盾に陥り、争いの種となったのでした(たとえば、自由資本主義と社会主義の対立など)。この運動は後に社会的ユートピア(ポスト・モダン)をめざそうとするあらゆる試みの希望を徹底的に打ち砕くことになるのです。

今日でもなお修道生活において、社会参加に対するさまざまな評価がみられます。また、私たちの修道会が現代のヒューマニズムのさまざまな側面を現行の会憲に組み入れようとしてきたことも確かです。会憲の第4章と第5章は、このことを明確に反映しています。すなわち、私たちフランシスカンは、私たちが生きている社会・文化的背景をしっかりと見極めながら、ある選択を迫られているということです。なぜなら、私たちはそれらの選択肢がフランシスカン運動の源である福音的計画に沿ったものであることを確信しているからです。

実際、小さき者であることは、多くの兄弟の感受性と会憲とに一致して新しい道を指し示す限りにおいて、たとえ会則と生活様式を字義どおりに再現していなくとも、忠実にフランシスコと彼の計画に呼応していると私たちは信じています。

3 生活と会則の見地から

勅書によって裁可された会則 3章 10 - 14 のなかにフランシスカンの使命の特徴を見ることができます。「私は主イエス・キリストにおいて忠告し、戒め、勧める。兄弟たちは世間にでた時、争ったり、口論したり、他人を裁いたりしないように。かえって兄弟たちは、柔和で、平和を愛し、慎み深く、温和、謙遜であり、すべての人に対して、礼儀正しい言葉を用いて話すように。また、差し迫った必要や病気のためにやむを得ない場合を除いて、馬に乗ってはならない。どの家に入っても、先ず、『この家に平安がるように』という。そして、差し出される食べ物はずべて、聖福音によって食べることができる」。

そこで要約してみると、フランシスカンの使命とは小さき者であることに尽き、この文章はこの小さき者となる使命から大きなテーマが引き出されていることを強調しています。

3.1 宣教と巡回

フランシスカンの生活は当時の通常の聖職者たちの様式にならった観想と活動の「混合」でもなければ、その後に見られる準隠遁的な生活様式でもありません。私たちの修道院（クロイスター）とは私たちの兄弟である神の子らの住むこの広い世界全体なのです（SC63）。私たちの家とは、兄弟共同体なのです。したがって、私たちの宣教とは、効率よく組織された建物のなかで説教したり、世話をしたり、教えたり、慈善事業をするなどの具体的な役割を果たすことではありません。私たちは絶えず宣教の状態にあって生きることを求められています。固定資産のない生活様式はその一助となります。

3.2 宣教と人々の間で

私たちは、「枕する所をお持ちにならなかった」（LP57）イエスのように、い

つでも動ける状態になくはなりません。小さき者であるということは、社会の最下層にいる人々と共に生活するということです（RegNB 9 参照）。このように人間の条件を引き受け、迷える人々を探しながら、「内側から」私たちの救いは成就されたのです（2EpFid45;Adm 6 ; 9 ; 11）。

3.3 宣教および山上の垂訓

福音書のなかの宣教についての箇所と山上の垂訓との関係は恣意的なものではありません。フランシスコはフランシスカンの使徒職についてイエスの山上の垂訓に基づいた生活を引用して述べていますが、それはなぜでしょうか。答えは明らかです。兄弟たちは小さき者となるために人々の間に遣わされているということです。だからこそ、聖職者としての職能よりも模範となることを優先したのです、それも、排除することによってではなく、自ら選び取ることによって。神の国で今一番求められていること、それは神の国が人々の間で現実のものとなること、兄弟たちがイエスの弟子となり、言葉と行いでキリストの教えにあかしをたて、主を告げ知らせることなのです（EpOrd9 ; Test 19 ; LP58、103）。

3.4 平和の宣教

すべてのキリスト者の務めとは、和解という考え方に集約されると言えるでしょう（2Cor 5 ; Eph2）。フランシスコは、非暴力の行動によって和解を成し遂げようとします。分裂を生み出すよりは不正に苦しむことを選び、いつまでも待ち続け、最後まで耐え忍ぶ愛により頼もうとしたのです。言い換えれば、私たちの罪を負われたイエスの足跡に従おうとしたのでした（Adm 5 ; 15 ; VPLaet;RegNB16 ; 22 : 1-4 ; RegB10 ; 7-1 ; Test 23）。

実際、フランシスコの召命の過程は貧困と苦しみの世界から切り離せないものでした。フランシスコの伴侶たちが書いた伝記によれば、フランシスコを回心に導いた要因のひとつは貧しい人々に対する思いやりでした。あの回心への決定的な第一歩は、最も悲惨な状態に置かれた人々、すなわちハンセン病の患者や物乞いのなかに入ってゆき、共に暮らすことから始まっています。伝記作家たちは、サン・ダミアノの十字架上のキリストの姿を極端に霊的なものとして解釈していますが、私たちはそのことを、小さき人々と共に暮らしながら貧しい人々に従うことと謙遜なイエスに従うことは同義である、と理解していたフランシスコの意

識と結びつけて考えねばなりません (L3S3; 11-14 ; 2Cel8-12 ; Test 1-5)。

フランシスカンの活動は、社会の最下層とそこに追いやられた貧しい人々への奉仕という状況から生まれました。初期の頃の試みと生活、すなわち、勅書なしに裁可された会則はこのことを恒常的で決定的な選択とみなしています (2 : 7 ; 7 : 1 ; 7 : 13-14 ; 8 : 8-11 ; 9 : 2 ; 11)。チェラノのトマスは清貧についていくつかの挿話を残しており、それらを読み返しても、明らかに初期の着想で、小さき兄弟たちは、貧しい人々に施しをするのではなく、貧しい彼らとの一体感を感じていたと記しています (2Cel84 - 85 ; 87 ; 92)。兄弟に仕える責任と教会のなかで増えつづけ、発展しつづける兄弟共同体のために、フランシスコが自分の望む宣教に献身できなかったことは事実です。それでも、彼は執拗に小さき者の原理を保持し続けました。すなわち、兄弟たちは司教や司祭の許可や同意なくして説教してはならず、司牧においても労働においても、僕の仕事を選ぶべきだという原理です。兄弟たちの役割は何かを所有することではなく、「償いを果たすこと」であり、小さき者であることなのです (RegB9 ; Test7-8 ; LP20;58;2Cel146-147 ; Test24-26)。

4 . 会憲の見地から

私たちの生活規範である会憲のなかで「小ささ」というテーマはとても重要視されています。奇妙に思えるかもしれませんが、その重要性は、小ささというものが清貧の修徳的追求に限定されたフランシスカン生活描写になりやすい厳密な会則遵守にではなく、初期フランシスカン運動にぴったりはまります。

小さき者のテーマは広範囲にわたっており、また、後ほど具体的にみてゆきますので、ここでは、会憲が実際に提示している小さき者としてのフランシスカン召命刷新の原動力についておおまかに説明することにします。

- 1) 私たちのカリスマの定義 (art.1,2) によれば、小さき者であるということは、イエスに従うこと具体例とされており、平和と正義に深く関わることによって福音宣教に密接につながっている。
- 2) 清貧の誓願とは、法的・道徳的、もしくは禁欲的意味において貧しくあるだけではなく、貧しい人々の境遇を共有することでもあると解釈され

ている (art. 8)

- 3) 悔い改め / 回心の精神は内面に根ざすものであると同時に、最下層の人々への奉仕に根ざすものである (art. 32)。
- 4) イエスに従うということは、この世で神の国の至福を生きる弟子として、また、すべての人の僕、従う者、平和で謙遜な心で仕える小さき者となることである (art. 64)。裁可された会則 3:10(「兄弟たちはこの世を巡る時」) が修道院 (クロイスター) 中心の生活ではない生き方を想定していることに注目してください。
- 5) 第 65 条では、小さき者であることの神学的論拠を述べている。小さき者でなければ、あらゆる生活の試みも、貧しい人々へのあらゆる関わりも根本的にその意義を失う。
- 6) 実際、小さき者への召命は、社会の底辺にある人々の生活と境遇を選択することによって培われる。
- 7) この「具体化する」原動力と世間的な価値観に無批判に同化することとを混同してはならない (art.67)。
- 8) 「在り方、関わり方」(具体的な仕事によって正当化される必要のないもの、art.83-84 参照) としての生活様式を選択することは、正義と平和の使命と深く結びついている。フランシスカンとしての忠節の第一の特徴は非暴力の原則である (art. 68-69)。これは、すべての人とすべての被造物と和解し、福音を中心に据えて生きる心を前提としている (art.70-71)。

以上が、小さき者のもつ共通の福音的体験から生まれた力強い証であり、行い です。会憲の第 4 章と第 5 章には、小さき者の持つ躍動的な力を裏付け、完成させるような事例がもっと多く盛り込まれています。ここに述べた事例をみるだけでも、現在の会憲が 21 世紀のフランシスカンの生き方として要求している努力目標が何であるかがわかるでしょう。

Javier Garido OFM

3 . 福音宣教と養成における JPIC(正義・平和・被造物の保全)

「福音宣教」という言葉は、1975年に教皇パウロ六世が第二バチカン公会議閉会10周年記念に*エヴァンジェリイ・ヌンチアンディ*(福音宣教)を発行するまでは、カトリック圏内ではあまり一般的に使われてはいませんでした。第二バチカン公会議前の10年間、西洋の非キリスト教化に直面して、カール・バルトのようなヨーロッパの神学者たちの多くがケリグマ的神学、すなわちイエス・キリストへの信仰を通して救われるとする基本的なメッセージの確固たる宣言を主張するようになったのです。使徒言行録にみられるペトロとパウロの数々の説教が、この基本的な福音宣教のモデルとして使われました。

極めて「司牧的」な公会議であった第二バチカン公会議は、カトリックとプロテスタント双方のヨーロッパの司牧神学の専門家たちの体験に基づいて築かれた福音的な専門用語を強調しました。第一バチカン公会議と比べてみると興味深いものがあります。第一バチカン公会議では「福音」という言葉を一度使用しただけで、ましてや「福音化」とか「福音宣教」という用語は一度も使用していません。それと対照的に、第二バチカン公会議では、「福音」という語が157回、「福音化」が18回、「福音宣教」が31回も使用されています。

パウロ6世によって提案された福音宣教の概念は、福音宣教を要理教育が行っていた「最初の宣言」と解釈していたケリグマ的神学者たちの意味するものよりはるかに広いものでした。パウロ6世にとって福音宣教とは、「実に教会自身の本性に深く根ざしたもともと特有の恵みであり、召命です。教会はまさに福音を宣べ伝えるために存在しています、すなわち、神のことばを説き、教え、恩恵を与える手段となり、罪びとを神に立ちかえらせ、キリストの死と栄光ある記念であるミサ聖祭によってキリストのいけにえを永続させるために存続しているのです」(EN14)。

福音宣教とは「救い」を宣言することです。この救いとは 私たちのテーマにとって大変重要なことなのですが、「あらゆる抑圧から人間を解放する神の大いなる贈り物であり、何よりもまず罪と悪から人間を解放するものであり、この解放によって人間は神を知り、神より知られ、神を目の当たりにし、神にお

いて信頼して憩うという喜びにひたるのです」(EN9)。誰もが救いについての記述の、この最後の数行を受け入れながらも、救いを「あらゆる抑圧からの人間の解放」であると心底理解しているわけではありません。しかしながら、救いをこのように理解することは、聖書とキリスト教の伝統とに符合します。

たとえば、エジプトからの脱出は「純粋に霊的な」出来事ではありませんでした。それはまた、特に傑出した非常に経済的、社会的、政治的かつ文化的な解放でもあったのです。そこで救いとは、今日の私たちの世界において何百万もの人々を苦しめる非人間的な貧困からの解放を含むが、それと同義ではないのです。イスラエルの歴史のごく初期の頃から、神はご自分の愛の計画を説明しておられます。「あなたの神、主は、あなたに嗣業として与える土地において、必ずあなたを祝福されるから・・・この国に住む同胞のうち、生活に苦しむ貧しい者に手を大きく開きなさい。」(Dt 15:4, 11) - 神のお造りになった豊かさを神のすべての子どもたちが公平に分かち合いさえすれば、そこに何かが起こるのです。

同じような趣旨で聖パウロはコリントの信徒たちに語りかけています。「富について言えば、あなた方の間に一定の平等があるべきです。」(2 Cor 8:13 以下) それにもかかわらず貧富の差は広がるばかりです。私たちはそれを神のみ旨に反することとみなさねばなりません。実に、この広がる格差は「まさに人類の未来に対する脅威」(OA7)なのです。絶望的に貧しい人々の数(たとえば何百万もの難民のことを考えてみてください)が劇的に増えつづけている現状では、福音宣教とは、「現代においては特に力強い解放に関するメッセージ」(EN29)を含んでいることを思い起こさなければなりません。神の国のために働くということは、「とりもなおさず、あらゆる形の悪からの解放のために働くことにほかなりません」(「救い主の使命」14)。JPICの務めで根本的に重要なことは、1971年のシノドス(世界代表者司教会議)の教えを強調することです。すなわち、正義のために行動し、世界の変革に参加することは福音をのべ伝えるということの本質的な次元、言い換えれば、人類の救済とあらゆる抑圧からの解放をめざす教会の使命という本質的次元のものと思われるのです。

正義

世界の変革と抑圧からの解放 これらすべては、教会の使命の一部です。あまりに「世間離れしている」ために正義や解放や世界の変革といったものに関心を払わない霊性は、まことに不適切で聖書にそぐわないものです。1987年のシノドスは驚くほど率直な声明のなかでこう述べています。「今日では、正義に関わらずして聖性に達することはできないことを理解するよう、聖霊は私たちに働きかけている」と。正義の行いに参与しないで聖性のうちに成長することはできないというわけです。それゆえにこそ、キリスト教の社会に関する教えは「キリスト教のメッセージの本質的な部分であり、・・・新しい福音宣教の根幹をなしているのです」(「新しい課題」5)。

教会の社会に関する教えの中心にあるのは、「貧しい人々を優先的に選ぶこと」であり、それは「教会のすべての伝統が証言している」選択であります(「真の開発とは」42)。聖フランシスコはこの選択を説き、生き抜いたという点で異彩を放っています。遺言の中で、フランシスコは主が彼を貧しい者の中でも最も貧しい人々、すなわち彼が頑なに拒んでいたハンセン病者の中に導いてくださったと述べています。フランシスコが苦さと甘美さを理解しなおす恵みを与えられたのはこのときでした。これはすばらしい回心の描写です。現代の教皇の教えと非常に似通っていて、フランシスコは貧しい人々を助けることは正義の問題であると考えていたのです。「施しは、貧者の正当な遺産および権利であり、これを私たちの主イエス・キリストが私たちのために獲ち得てくださったのである」(RegNB 9:8)。

平和

若きフランシスコが戦う騎士となることに憧れていたのは確かですが、同様に、回心の後、最も熱烈な平和の推進者となったのも確かです。当時は「世の中」だけでなく教会までもが、たとえば十字軍にみられるように、暴力に頼っていた時代でした。ごく初期の頃のフランシスカンの活動は「平和の代表団」として知られていました(1 Cel24)。フランシスコは、暴力は悪魔の心を喜ばせると主張し、争いに引き裂かれたアレツオの町の悪魔払いをしました。暴力を悪魔にとりつかれたしるしとみなしていたからです(2 Cel108 参照)。フランシスコは主が彼に平和の挨拶を示してくださったと確信していたので、その書き物の中で一

番注意するよう警告した悪徳とは、自分自身の内部にあり、他人の内部にもある平和を破壊する心、すなわち、傲慢、貪欲、不遜、虚栄、嫉妬、誹謗、そして赦すことのできない心でした。フランシスコは死の床にありながら、司教とアッシジの市長という二人の憎しみあっている敵同士を和解させました。フランシスコは死ぬまで平和の働き手であり、文字通り、平和を実現して死んでいったのです。「アッシジの精神」とは平和の精神です。だからこそ、教皇ヨハネ・パウロ2世は世界中の宗教界の指導者たちを集めて平和のために祈りたいと願ったとき、彼らをアッシジへ招いたのです。

フランシスコは、初期の頃の弟子たちに勧めたように、今日の私たちにもこう語りかけています。「平和について語るからには、何よりもまず心の中が平和でなくてはなりません。何人をも怒らせたり、憤慨させたりしてはなりません。むしろ、あなた方の優しさを通して人々を平和と善意へ、親切と一致へ引き寄せるようにしなさい。私たちは傷を癒し、引き裂かれたものを一つにし、道に迷ったものを家路に帰すために召し出されたのです」(L3S58)。

被造物の保全（エコロジー）

第二バチカン公会議は、私たちが使命を遂行するためには「時のしるし」を読み取らなければならないと警告しています。「時のしるし」とは、「聖霊のしるし」とも呼べるものです。なぜなら、そうしたしるしは、神の霊が、私たちの意識を新たな気づきのレベルに引き上げながら、この世と教会において現存し、働かれるさまざまな方法を示しているからです。エコロジー（環境保護）運動は、私たちの時代のしるしのひとつです。ますます多くの人々が、エコロジーの問題を未来の世代への基本的正義の問題と考えるようになり、教皇ヨハネ・パウロ2世の「エコロジーの危機はモラルの問題である」(1989年12月8日のメッセージ)との判断に賛同するようになりました。

優れた科学者で教皇庁立科学アカデミーのメンバーの一人は、「我々は創世記の教えに背いた。支配欲と征服欲に心を奪われ、ケアするというのを忘れてしまったのだ」と主張し、さらに「我々は今までのようなやり方でこの世界を扱うことはできない。物質的繁栄の飽くなき追求にすぎないと思われることのなかで

我々の明確な義務をごまかし続けることは、もはやモラルを重んじる人々にとって受け入れ難いものとなるに違いない」とも述べています。特に裕福な国々における過剰消費と浪費は、環境破壊の主な原因であり、真剣な回心が求められます。

私たちはフランシスカンとしてエコロジーの危機を解決するための科学的な専門知識を持ち合わせてはいませんが、フランシスカンとしてのビジョンは持っています。すなわち、すべての被造物に対する畏敬の念です。この態度こそエコロジーの危機を解決する鍵なのです。だからこそ、今日多くの科学者が宗教と科学の連携を提唱し、エコロジー運動に「魂」を与えようとしているのです。

聖ボナヴェントゥラは、フランシスコの被造物に対する神秘的な見方を見事に表現しています。「これらすべてのことを通して、神への愛をかきたてられたかれは主のみ手によるすべてのわざをよろこび、これらの喜びの源となる現われから、それらすべてに生命を与える原理でもあり、原因でもある方へと心をあげていくのだった。美しい事物の中に、かれは美そのものを見、被造物の上に刻まれた痕跡を通して、かれはいたる所で愛する方に従い、すべてのものをはしごととして、完全に望ましい方のもとに登り、その方を抱きしめるのであった」(LM IX,1)。ボナヴェントゥラは、簡単な言葉でフランシスコのビジョンそれは同時に彼自身のビジョンでもあったのですが - を表現しています。「生きとし生けるもの一つ一つが神のみ言葉です、なぜならそれは神について語っているからです。」(Comment. In Eccles.) 教皇ヨハネ・パウロ2世は、1979年11月29日の書簡 *Inter Sancto Praeclarosque Viros* の中で、明白な理由からフランシスコをエコロジー問題に献身的に取り組んでいる人々の保護の聖人と宣言しています。教皇ヨハネ・パウロ2世の力強いアピールは、このセクションの終わりを飾るのにふさわしいものです。「私たちはもう一度大きな声で叫びます。人間を敬いなさい、人間は神の似姿なのです。このことが実現されるように、主が人々の心を変え政治・経済制度を人間的なものとなさるように、福音をのべ伝えなさい」(Puebla, 1979)。

2. 正義と平和とエコロジーにおけるフランシスカンの養成

会憲(第126条以下)を読むと、「すべての」兄弟が養成の途上にあることが

わかります。「養成中」の兄弟と「養成を受けていない兄弟」とに区別するのではなく、初期の養成段階にある（志願者として受け入れられた日から荘厳誓願の日まで）兄弟たちと、生涯養成中である（荘厳誓願の日から死ぬときまで）兄弟たちとに区別されています。生涯養成は「人の全生涯にわたる旅路」（*itinerarium totius vitae*）（第35条）とみなされています。このような理解にたてば、生涯養成とは、「悔い改める人」として絶えず回心の日々をおくることと密接に関係していることがわかります（L3S37）。私たちは、チェラノのトマスや聖ボナヴェントゥラが描いた聖フランシスコのように、「常に新しく」、「常にもう一度始める」（*Analecta Franciscana X*, pp.80, 222, 366, 577, 621 参照）ように促されています。フランシスコは、死の床で最初の弟子たちを「主なる神にもう一度仕え始めなさい、今までほとんど進歩していないのですから」（1Cel.103）と励ましたように、私たちを励ましつづけています。絶えず火を灯しつづければ炎がやがて消えてしまうように、フランシスカンのビジョンもぼやけてしまいます。聖パウロはテモテに「あなたに与えられている神の賜物を、再び燃え立たせるように」勧めています（2Tim1:6）。もしもこの賜物が - 私たちの場合は、徹底的に福音的に生きるという聖フランシスコのビジョン大切に育まなければ、賜物を失うことになりかねません。残された選択肢は二つ、すなわち、成長か衰退か、進歩か停滞かです。生涯養成・回心は、進歩と成長への道なのです。

生涯養成を全生涯をかけたプロセスとするこの解釈は、教皇ヨハネ・パウロ2世により確認されています。「誰にとっても人生は成熟に向かったの絶えざる歩みであり、成熟は絶えざる養成によって初めて到達し得るものです。時代に即した有効なものであるために、たゆまぬ刷新を必要としない専門職や仕事などありません」（「現代の司祭養成」70）。このため、生涯養成は、「今日緊急の課題です。それは、個人や人々の社会的、文化的条件が急速に変化しているためばかりでなく、第二の千年紀の終わりにあたり、『新しい福音宣教』が教会のきわめて重要な緊急課題となっているためです。」

「新しい福音宣教は新しい宣教者を必要としています」（前掲書 82）。先に触れたように、この新しい福音宣教は、- 私たちもまた、これを「きわめて重要な緊急課題」と考えなければなりません - 「その最重要要素として教会の社会的教

義の宣言を含んでいなければなりません」(「新しい課題」5)。その教義に精通していなければ、私たちはそれを宣言することができません。教会の社会教説を研究し熟考することは、生涯養成の根幹をなすものです。会憲第96条を参照してください。この教え、すなわち回心へのまことの誘いは第二バチカン公会議によって全教会に向けて宣言されたもの、特に司牧憲章である『現代世界憲章』と数々の教皇の回勅の中で宣言されたものです。司教協議会は普遍的な社会的教義をそれぞれの大陸や国々に適用することによって、非常に貴重な貢献をしたのです。なかでも、ラテン・アメリカ司教協議会会議(CELAM)、特に1973年メデリンで行われた第2回CELAMの努力は、特筆すべきものです。

メデリン会議はラテン・アメリカ教会に新たな方向付けを与えながら、新たな活力を注入しました。新たな方向付けとは「貧しい人々を優先的に選択する」というものです。5世紀にわたるラテン・アメリカでの古い「教会の在り方」(貧しい人々への「慈善」を説きながら、独裁政治と支配階級に組んでいた)はメデリンで終焉を迎え、新しい、より福音的な「在り方」が生まれました。メデリンは全大陸の教会にとって生涯養成と回心の輝かしい模範となり、ひいてはラテン・アメリカのみならず全世界の教会にとっても恵みとなったのです。(興味深いことに、「ラテン・アメリカの人々へのメッセージ」のなかで、メデリンは「新しい福音宣教」という言葉を造語し、それ以来この語は、とりわけ教皇ヨハネ・パウロ2世によって数え切れないほど頻繁に使われています。)特に正義と平和とエコロジーの問題における生涯養成のためにメデリンから重要なことを学ぶことができます。それは、体験の重要性です。この会議においてラテン・アメリカの司教たちは、帰納的な方法論を用いました。彼らは、抽象的な教義の研究からスタートせずに、何百万人ものラテン・アメリカの貧しい人々の実体験の分析からスタートしました。彼らは第二バチカン公会議の次の言葉を自分自身のものとしたのです。「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に貧しい人々や苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある」(GS1)。

聖フランシスコもまた、ハンセン病についての本を読むことによってではなく、ハンセン病者のなかに出かけてゆき、彼らに尽くすという体験によって回心したのです。『遺言』2を参照してください。フランシスコが苦いものと甘美なもの

を定義しなおすに至った生きた体験とはこれだったことがわかります。フランシスコは兄弟たちにも同様の体験と回心を望んでいました。兄弟たちは「世間から見捨てられた人々、貧しくて身寄りのない人々、病人、ハンセン病の人、路傍で物乞いする人々の間で共に生活する時、喜ぶべきである」(RegNB9:2)。貧困や飢え、路上生活者の問題、暴力の蔓延、環境破壊についての本や記事を読み、講義に出席することは、実際に役立つことであり、また必要なことでもありましょう。これらの諸問題について説得力ある発言をするためには、情報を熟知している必要があります。しかし、私たちが絶えず回心し、生涯養成を続けてゆくためには、貧しい人々と生活を共にし、非人間的な貧困や暴力、環境破壊の問題をキリスト教的に解決しようと務めている人々と共に働く体験のほうがはるかに重要なことなのです。「現代の人々は、教師よりも証人に、教えよりも体験に、理論よりも生活と行動により大きな信頼を置いています」(「救い主の使命」42)。

兄弟たちはみな、時々でもいいですから、正義と平和とエコロジーに貢献する職務に直接携わる体験をするべきです。こうした体験から得られる利点は、どのような職務であれ、私たちのすべての職務のなかに存在するこれら正義や平和の問題により重要性を見いだすようになるということです。このようにして、私たちが奉仕する人々の意識を高め、それによって彼らの絶え間ない回心を促すことで、彼らと共により効果的に神の国をこの地上に実現することができるのです。このことは、青年の奉仕活動と特に関係があります。なぜなら、青年たちはそのエネルギーと熱意とを傾けて、神の国の価値観を推進するために独自の必要な貢献をするように招かれているからです。社会的・文化的に分析する訓練を受けた青年たちは、この世界に蔓延する社会的病弊の根源をよく理解し、それを除去するために自分のエネルギーを捧げてくれることでしょう。そして、争いを平和的に解決するよう教育することは誰にとってもためになることですが、特に青年たちの役に立ちます。彼らは暴力の犠牲になりやすく、暴力に訴える誘惑にかられやすいからです。要約して、三つの段階を次に提案します。

3. 要約

祈り

正義と平和とエコロジーの問題は、往々にして「世俗的」な事柄と考えられがちですが（実際多くのまじめな世間の人道主義者の関心を集めています）私たちはこの問題に信仰者として取り組んでいます。まず聖書のこれらの問題に触れている個所について祈りながら熟考することが大切です。なぜなら、私たちは何よりもまず被造物のための神のご計画を知り、それを実行したいと願っているからです。聖霊は福音宣教のすべての活動において常に重要な仲介者ですので、聖霊への祈りは特に必要です。『典礼憲章』（35#4）の中で、第二バチカン公会議は「言葉の典礼」とも呼ばれている神のみ言葉の祭儀を勧告しています。フランシスコ会の会憲（22#2）も、兄弟共同体においても人々との交わりにおいても同様のことを行うように勧めています。正義と平和、そして被造物の保全のためのこのような祭儀は、正義と平和のためのミサ聖祭の聖書朗読個所を用いれば容易に行うことができるでしょう。聖書の言葉のほかに、初期から現代に至る多くのフランシスコ会の源泉資料もこれらのテーマを扱っています。エコロジーのためのミサ奉献文にあたるものはありませんが、被造物の保全を扱った言葉は聖書の随所に見られます。たとえば、創世記 1:2:4-7, 15; 9:8-17; レビ 25:23-24; 詩篇 8, 65, 104, 147, 148; ヨハネ 1:1-5; ロマ 8:18-25; コリント 1:15-23; 黙示録 21:1-5 などです。数多くのフランシスコ源泉資料のなかでも、聖フランシスコの『太陽の賛歌』は特にすばらしいものといえます。

研究と内省

教皇はその書簡「*紀元 2000 年の到来*」(36)の中で、「何人くらいのキリスト者が教会の社会教説を実際に知っており、実践しているだろうか」と問いかけています。この言葉は私たち、特に説教し教える職務にある兄弟たちに、良心について誠実に検討するよう呼びかけています。私たち自身、正義と平和と被造物の保全という緊急課題に関するカトリックの伝統をどれくらい知っているのでしょうか。私たちの考え方は本当に普遍的といえるのでしょうか。つまり、「地球規模で考え、足下から行動している」といえるのでしょうか。このような避けがたい問いかけに対して、私たちは自分の職務のなかで、どれだけ真剣に考えているのでしょうか。私たちが関わっている人々の大部分がカトリックの社会的伝統を知らないとしたら、その責任の大半は私たちにあります。私たちは教皇ヨハネ・パウロ 2 世が新しい千年紀に繰り返し力説した言葉を思い起こす必要があります。すな

わち、「新しい福音宣教とは、教会の社会教説の宣言を最も重要な要素として含まなければなりません」(「新しい課題」5)。この教えは世界に通用する諸原則を持ち、それぞれの大陸、国、地方の具体的な状況に応じて「具現」されるものでなければなりません。そのように具体的に適用するためには、それなりの能力、研究成果、内省、そして社会的文化的分析が必要となります。このように考えてくると、正義と平和とエコロジーの分野における問題の実際的な解決がほぼ全面的に信徒の能力と善意にかかっている以上、信徒の役割の重要性を強調せねばなりません。私たちに問われていること、それは、わたしたちは自分の仕える信徒たちの間にキリスト教的な社会的良心を育てているかということです。信徒が聖性へと至る道のりは、修道生活のような世間から逃れることによってではなく、神のご計画に沿うように現実の秩序を刷新することに献身しつつ、この世の中に生きることによるのです。教皇ヨハネ 23 世が述べているように、「対立のないところに勝手に対立を見て取るべきではありません。つまり、個人的完成とこの世における各人の活動を対立したものとみなすことであって、あたかも、現世の関心事を脇に追いやることによってのみ人間が完成されるかのように考えることです。そうではなくて、この世における各人の活動は、各人が日々の仕事を通して完成される神の摂理に完全に符合するのです。そして実際に人類全体にとって、日々の仕事が現実の秩序の中にあるのです」(MM2249 f)。ですから、信徒であるということは、この世の秩序の刷新を求めて現世に生きる「完成の状態」にあるということです。信徒の方々は、私たちからこのメッセージを聴いているでしょうか。

行動

私たちの職務のなかで正義と平和、被造物の保全の問題について研究し、これにさらなる注意を払うべきであるとの提言をいくつかしてきました。その他の活動は地域の状況に左右されるところが大きいので、各協議会や管区会議、修道院会議に任せるのが最適だと思われます。それぞれの会議の果たす役割は重大です。なぜなら、私たちの生涯養成は個人的であると同時に共同体的である(GGCC 135)のために、個人として、また兄弟共同体として現代の緊急の要請に福音に照らして応えてゆくことが求められているからです。行動なくしては、研究も内省も無益であるということを肝に銘じておきましょう。

結論

私たち小さき兄弟は教皇ヨハネ・パウロ 2 世が「大聖年」(「紀元 2000 年の到来」17)と称しているものの準備を進めながら、聖フランシスコの模範が現代の緊急の社会的挑戦に応ずるにあたって、ありがたいことにきわめて多くのことを私たちに教えてくれていることに気づかされます。フランシスコは真に「貧しい人々の父」(1Cel76)であり、初期の兄弟共同体は「平和の代表団」(1Cel24)として知られ、彼自身も自分のことをすべての被造物の兄弟(『太陽の賛歌』)と考えていました。私たちは、フランシスコと教会の愛すべき息子として、教皇の緊急の要請に応えなければなりません。イエスが「貧しい人々に福音をのべ伝える」(Mt 11:5、Lk 7:22 参照)ために来られたことを思い起こすなら、教会が貧しい人々や見捨てられた人々を優先的に選ぶべきことを強調せずにはいられないでしょう。実に、数多くの争いと耐えがたい社会的・経済的不平等のあふれるこの現代社会において、正義と平和のために働くことは 2000 年の大聖年の準備と祝祭のために必要な条件であると言わねばなりません。こうして、『レビ記』の精神に基づいて(25:8-12)、キリスト者は世界のすべての貧しい人々の代弁者として声をあげなければならないのです(「紀元 2000 年の到来」51)。

チャールズ・フィネガン OFM

4. 観想、正義と平和とエコロジーへの私たちの取り組みと神との一致

観想および、正義と平和とエコロジーへの私たちの取り組みについて語るとき、私たちはしばしば不利な立場に置かれます。なぜなら、私たちの福音的生活の重要な側面が不当にも固定概念で捉えられることが往々にしてあるからです。一部の人は、観想と平和のために働くこととの間には相容れない矛盾があると考えています。観想とは、彼らの考えによれば、社会活動やビジネスから身を退き、私たちの歴史や個々の生活の苦しみから生ずる痛み、混乱、疑問を回避した静かで平和な抽象的生活に身を置くことなのです。正義と平和のために働くことは、問題と挑戦を抱えた社会秩序のなかに巻き込まれてしまう外向的活動のように見えるでしょう。このような固定概念を肥大化してゆくと、観想的祈りとは私的で孤独な内面への逃避と言えそうですし、正義と平和とエコロジーのために働くことは、政治体制を変革しようという闘志と怒りに燃えて社会との境界ぎりぎりのところにいる兄弟のためのものと言えそうです。正義と平和とエコロジーのために働くということは、内面性や静かな内省の時間の価値を認めない緊急の社会問題に引っかかっているに過ぎないこととなります。

観想と黙想はしばしば混同されます。黙想とは、私たちの注意と意識を特定の焦点に限定して集中することです。黙想はメンタルな活動ですから、集中するための知的訓練と感情の抑制が必要になります。観想 (con-templo, 「聖なる場所にいる」の意) も、似たような特徴をもっています、たとえば、注意力の集中です。しかし、観想は目指すところが違います。自己観察に満足せず、その人の知的、情緒的、身体的な全人格を積極的に取り入れながら、神との一致を求めることなのです。観想とは、自己観察というよりも、むしろ意識的な一致です。黙想にも観想にも、それぞれ異なる学派と方法論があります。

イエスは弟子たちに、自分たちの周りで起こっていることに注意を怠らず、いつでも行動に移せるように目覚めていなさいと鍛錬を促しました。「天の国は極上の真珠を求める商人のようなものであり、見いだしたらそれを得るために果敢に行動しなければなりません。天の国はまた、花婿を待つ乙女たちになぞらえられます。彼女たちは花婿の到着がわかるよう、寝ずに明かりを灯しておきます。「天の国は主人の帰りを待つ召使のようである。・・・盗人のように夜やっつく

る。日も時間もわからない。だから、いつも目を覚まして用意を整えていなさい。」

弟子が目覚め警戒を怠らずにいるのは、人生の意味を知的に認識するためではなく、奉仕の務めに目覚めた人として再び人生をやり直すためです。イエスは弟子たちに、「あなた方がいのちを得、しかもいのちを豊かに得るために」来たと話されます。イエスのたとえの中には、たとえば花婿を迎えるために、あるいはまた主人を待つ召使の話のように人に奉仕するために他の人々とともに寝ずに起きている人々が登場します。観想は、気づき、行動し、一致するという思いやりの道をたどるのです。これらの段階は、共同であるいは個人で行われる内省によって連結しています。

フランシスコがフランシスカン生活について述べているように、イエス・キリストの聖福音に従う人は自分の生活を守るために社会から身を引くのではなく、新しい被造物となるためにその生活を社会に捧げるのです。イエスは私たちに社会参加と行動と変革を促しておられます。天の国は小麦粉のなかで自らのいのちを失い、まったく新しいもの、すなわちパンとなって人々に食され、人々の役に立つパン種にたとえられます。

善きサマリア人のたとえ話は、キリスト教的な観想に伴う心の動きを非常にシンプルにかつ簡潔に描写しています。このサマリア人は、常に注意を怠らず、あわれみの心から行動することによって神のみ旨と一致しています。このたとえ話の中で祭司は、死んでいるように見える者に触れないことによって自分の身を儀式的に穢れから守ろうとして考えめぐねたすえ、そこに打ちのめされて倒れている人を放置して立ち去ったのでした。律法と預言書をよく知っていたレビ人も、やはり怪我人のもとから立ち去ります。祭司もレビ人もともに、表面的な規則や掟、判断に守られた自分の内なる世界 - おそらくは善意の - に没入していたのです。彼らには、苦しむ人を目の前にしていても、その人の苦痛と悲慘を回避する実際の、宗教的、かつ法的な理由がありました。目覚めて注意を怠らずにいたのは、見て、応答したのはこのサマリア人でした。彼は被造物における自分の立場を理解し、そのとおりに行ったのでした。

サマリア人がけが人にした傷の手当ては、あわれみ・共感の架け橋であり、積

極的な愛の応答でした。彼の応答は三つの意思、すなわち、サマリア人と怪我人と神の意思が融合したものです。あわれみの行動は使命感と緊急性が最優先することが多いため、後で熟慮してはじめて自分が神の救いのみ業に参加していたとわかるのです。

このサマリア人の応答のように、聖フランシスコの生涯も注意深く観る、あわれみを示す、行動するという類似の動きを展開しています。フランシスコの個人的な回心は、フランシスカンの観想を理解する鍵となります。それはさまざまな動きとレベルを含む神との心からの一致の瞬間であり、一つの体験です。すなわち、体験の内省と理解、そして神のものとなり神と共にあるという体験の確認でした。恩寵はサン・ダミアノの寂れた聖堂で始まったものではなく、スパシオ山の静寂のなかで始まったものでもありません。フランシスコは神との自由な一致を、アッシジの城壁の外の路上で体験します。ハンセン病患者に驚いて、彼は思わずその男を抱擁し、口づけしたのです。後になって彼は、ハンセン病患者を抱擁したとき神に抱擁されたような感じがして、彼の全生活が変わったのだと思に至ります。フランシスコがあわれみの行動から流れ出ると表現する「甘美さと光」は、惨めな男に親切にしたことに対する神の父親的なご褒美ではありません。それは、愛したいという思いが一つになった当然の結果でした。内省の過程ではなく、この路上での出来事こそフランシスコが回心の瞬間と思い、神との出会いと確信したものでした。

イエスもフランシスコも、「静かな場所に」行った時、個人的で私的な祈りの時間を持っていました。私たちはこの私的な時間についてはほとんど知りません。聖書とフランシスコの伝記には、イエスとフランシスコが人々や被造物と交流しながら神と直接触れ合ったという話がたくさん載っています。イエスは神との最も重大で直接的な触れ合いを、夢の中ではなくヨルダン川でしています。イエスは多くの群集の中で洗礼者ヨハネの前に立っておられました。ヨルダン川での体験をもっとはっきりと理解するために、イエスは荒れ野に行かれました。ご自分の洞察力を見いだすために行かれたわけではありません。イエスは窮乏し信仰のある他者を前にして、神との直接的な一致を体験しました。イエスは病人が癒される時、神の力が自分の中を歩いていくのを感じることができました。嵐が静まるように命じることも、イチジクの木が枯れるよう命じることもできました。

このように聖なる場所で意識して神と結合し、一体となる時が「行動における観想」なのでした。フランシスコについても、人々と被造物の中にある時、神との一致の喜びに夢中になっている姿を描いた話がたくさんあります。(グレッチオ、「太陽の賛歌」小鳥への説教)。イエスは荒れ野へ、フランシスコは山へ退き、自分の命の中で交流される方について深い理解に達しました。

ナザレの貧しきイエスにおける神の受肉に対するフランシスコの愛は、西洋キリスト教の社会意識の発展の主軸となっています。フランシスコがその当時の社会で疎外された者であったハンセン病者を抱擁したことやアッシジの外のハンセン病者のコミュニティーに入ったことは、新しい観想の道を開きました。フランシスコは神の愛の受肉を喜びにあふれて情熱的に抱擁しましたが、それはやがて、私たちの歴史に厳粛に関わっておられる神を信じ、愛する心を他の人々の間に奮い立たせました。だから本会は私たちに次のように告げているのです。「主によってハンセン病者のもとに導かれたフランシスコの模範に倣って、すべての兄弟一人一人が『落ちこぼされた人々』、貧しい人々、抑圧されている人々、苦しめられている人々、病気の人々を優先させ、彼らの間で生きることを喜び『あわれみを示す』」(GGCC 97条1-2)。受肉への高まる信頼と評価とその影響は、西方教会と西洋文明に新しい道を開きました。その一方で、アッシジのフランシスコを持たなかった東方キリスト教にとっては、聖なる秘儀のほとんどは会衆と至聖所を隔てる壁の裏側でイコンや音楽、お香の中に留まり、病院や孤児院、学校や教会の社会教説の文書の中には表現されませんでした。

私たちの信仰の祖先であるユダヤ人にとって、正義とは罰ではなく、回復・復興でした。盗まれたり、壊されたりしたものを回復することによって、士師は正義を行いました。時として、士師はすべてが払い戻されるまで、人を投獄することもありました。聖書の創世記と黙示録の中で、被造物と人類についての神の最初のご計画と回復をエデンの園と新しいエルサレムに象徴的に見ることができます。正義は神の国が「天にあるように地にも来るよう」、人類が神の現存のうちに平和にしかも目覚めて生きることができるよう、行われるのです。

フランシスコと私たちの伝統を守りながら、私たちは観想と正義への取り組みとの間に誤った二律背反が作り出されることを止めなければなりません。それは

生活に二重の見方をもたらすからです。より小さき者、小さき兄弟として神に召し出された私たち一人ひとは、周囲で起こっていることに注意を払い、神の回復の愛の取り組みに加わるために絶えず注意深く観、準備を整えるという生き方を発展させる責任があります。「小さき兄弟たちは神の民の一員として、時代の新しいしるしに注意を払い、移り行く世界の情勢に対応しつつ、常に教会と心を一つにし、教会が提起する課題と目標を自分のものとして力を尽くし、推進する」（GGCC 4条1）。祈りと内省は神の救いのみ業の体験を守り、確認し、強化します。祈りと内省は、神が私たちの歴史の外にはなく、中におられるのだということ、思い起こさせてくれるのです。今までに起こったことを理解するために、そして私たちの周りの神のみ業に全身全霊で協力するためには、自分たちの活動から離れてみる時間が必要です。

識別力は主の霊が私たちの共同体をどこへ導いているかを理解するための助けとなります。私たちの計画や組織、他の善意の人々や組織との連携と協力、これらは、私たちが社会での出来事にもっと注意を払い、たとえ回避したい道であってもその現実を受け入れ、神が現存し働いておられるところで神と一致するように導いてくれるものでなければなりません。組織や会議、労働、共同生活の中で、私たちは「み国が天にあるように地にもくるよう」神と一致しなければならないのです。

ジョン・クイグリー OFM

5 . 「養成綱領」における正義と平和

はじめに

a) 「養成綱領」の起源、目標、構成

1991年に認可された「養成綱領」は、会全体にとって、初期養成と生涯養成の指針となる文書です。「固有のカリスマと時のしるしへの忠実さに向けて会員を養成することは、会にとっても管区にとっても最大の課題である」(前書き)。管区およびすべての兄弟がこの課題に取り組むのを助けるために、この文書は、1967年の総会以来養成の分野における刷新についての考察の成果を収集し、養成に適用すべく努力を重ねてまいりました。この考察は特に、1987年の会憲で具体的に述べられています。また、1971年のメデリン会議、1973年のマドリッド会議、1981年の総評議会でも取り上げられ、いずれの会議でも中心テーマはまさに養成の問題でした。

1988年の修練長会議、および有期暫願期の養成担当者会議でも、会全体に一定の原則と指針を示してくれる養成のための道具が必要であることがはっきりわかりました。

その結果生まれたのがこの「養成綱領」です。これは法律的な文書というより、方向性を示し、啓発する文書です。

養成綱領は三部に分かれています。

- I. 福音に基づく小さき兄弟の召命：これは会憲の第1条から始まり、会憲の最初の5章で取り扱っているフランシスカン・カリスマの根本的特徴についてまとめています。
- II. フランシスカン養成：ここでは、会憲の第6章について説明し、第6章の各テーマと同じ構成で続きます。
- III. フランシスカン精神における、一般教養・神学・職業・役務面の養成：ここでは、会憲の第6章第6節の“養成に関するその他の事項”について述べて

います。

「養成綱領」は会憲と密接に呼応しています。付録を除く本文だけで会憲から80箇所も引用されています。正義と平和に関する箇所ではその影響がはっきり見て取れます。養成に関するメデリン文書への言及も随所にみられます(付録を除く本文だけで9箇所も言及しています)。

b) 「養成綱領」における正義と平和

正義と平和の問題は「養成綱領」の中で頻繁に登場しますが、それほど研究目的に値するのでしょうか。JPICの見地からこの文書を読む人の答えはもちろん「値します」でしょう。正義と平和の基本要素が盛り込まれているだけでなく、正義と平和は養成のあらゆる主要な局面の基本的な全体像を構成しています。

ここで問題となっているのは正義と平和の言葉を用いて表現した文書のことではありません。とはいえ、正義と平和の根本的な座標軸のすべては、しばしば明快な主眼点として、また常に現実の背景としてしっかりとそこに見いだすことができます。

次のようないくつかの制約があることに注目してください。

- ・不正の構造的な特徴とそれの養成に及ぼす影響についてはあえて触れていない(この点では一回言及されているだけである。)
- ・正義と平和の文化的側面の方が社会・政治的側面より多く盛り込まれている。
- ・社会の最下層に追いやられた女性の問題について触れていない。
- ・特に目立つ点：養成のさまざまな段階における正義と平和のテーマを扱う目的で具体的かつ明確な教示的指針を提供するものではない。

とはいえ、人数が多く複雑な会全体のために一般的な指針を与えようとするこのような文書から多くを期待するのは非現実的であることを認識しなければなりません。つまり、具体的な教示的指導を行うことは、この種の文書の役目ではないということです。この種の文書の役目とは、霊的原則と識別のための到達可能な視野と基準を提供することなのです。

c) 私の目標

ここで私は「養成綱領」を一行ずつ読んで紹介しようとしているわけではありません。また、その教示的局面に立ち入ろうとも思いません。私はただ、基本的に重要であると思われる主張まとめ、コメントを加えて、より深い考察について説明しようと思います。

これらの主張を三つに分類してみたいと思います。すなわち、靈性の原則、養成の目標、そして養成の場、段階もしくは手段の三つです。

そう言いながらも、かなり抽象的で曖昧なレベルに留まり、陳腐な表現をしている自分に気がつき、その点お詫びしたいと思います。

I. 「正義と平和」における靈性の原則

すべての養成は固有の靈性によって支えられています。正義と平和のための養成も同様に靈性を前提としています。すなわち、神と人類との出会いを心に描く方法、自分の生きている社会や世界で神へと向かう心の旅路を知る方法を身に付けていなければなりません。第一部では、三つの要素を強調したいと思います。それは「養成綱領」に盛り込まれ、「正義と平和の靈性」つまり正義と平和そのものであられるイエスに従う靈性、犠牲者の中に神を見る靈性、受肉と実践の靈性を形作る要素のことです。

1 イエスに従う靈性

イエスに従うという言葉が「養成綱領」に何度も出てきます、特に、第一部で頻繁に見られます。「イエス・キリストに従う」という表現は20回以上使われています(前書き: nn. ;3;5;6;8;9;10;11;12;16;17;20;30;35;36;41;44;56;3a;132;142)。養成中の兄弟は特に「弟子」(1;5;26)となって、「キリストの御跡に従う」(1;17)よう、もっと正確に言えば、「貧しく謙遜なキリストをこの世に証し」(24)、「貧しくそして十字架にかけられたキリスト」(1;15;29;36;57)、「貧しく

謙遜で、十字架につけられたキリスト」(17)の御跡に従うように求められています。これが、養成中の兄弟のアイデンティティーであり、養成の全体像であると同時に展望でもあります。

正義と平和の中に養成への鍵があると私は考えます。イエスに従うということが、正義と平和の働きの動機に根拠と意義を与え、小さき兄弟を包み込むのです。従って、養成の第一の目的はイエスに従う人、イエスの弟子をつくることです。フランシスカンの見地からみれば、正義と平和における養成とは、イエスに従うために倣うことを促すことでもあります。

では、養成とは従う人・倣う人を育てるとの認識の上に立てば、何が必要となるでしょうか。正義と平和に関する諸原則や思想、価値観を学ぶだけでは不十分です。正義と平和そのものであるお方に積極的に個人的につき従うことが必要となります。従うことによって初めて人は養成され、形作られるのです。単なる観念的な指導によるものでもなければ、意志の力で実践することでも、表面的な真似事によるものでもありません。もしそうであれば、正義と平和はイデオロギーとボランティア主義に墮する危険があります。正義と平和は一人の兄弟により率先して始められるのではなく、むしろイエスの使命を継続することなのです。正義と平和は単なる活動のプログラムではありません。そうではなくて、希望と絶望とを携えて十字架にかけられたすべての人々と連帯しながら、十字架にかけられた後復活されたお方に自分自身を重ね合わせることなのです。

2 犠牲者のなかに神を見る霊性

「養成綱領」の中からいくつかの主張を取り上げてみましょう。養成中の人はその日々の生活において「神に耳を傾けることができる観想的態度」(60)と「世界における神の現存の意識」(56 2b)を身に付け、「神がこの世界に実現させた善をそこに発見する」(32; cf. Med F 52)者とならなければなりません。生涯養成について「養成綱領」が主張していることはあらゆる養成に当てはまります。すなわち、「それが個人としてあるいは共同体として行われるものであるにしても、自分自身や兄弟において、仕事や自分の文化において、また現代のすべての現実において、貧しく謙遜で十字架にかけられたキリストを見い出すための全生

涯にわたる道程である」(57)。第 33 項では次のように記されています「固有の召命に忠実であるために、小さき兄弟たちは、かれらがそこで生きている人々の具体的状況のなかに根を下ろし、キリストの様々な顔をそこで発見し、フランシスカン生活に適切な形態をそこで見い出す。」では、小さき兄弟はどこに、貧しく謙遜で十字架にかけられたキリストの様々な姿を発見するのでしょうか。彼らが共に生きている人々のなかでも貧しく謙遜で十字架にかけられた人々のなかに、今日の外観を損ねた様々な顔のなかに、近くにおられ愛してくださる神の栄光と情熱と粘り強さが隠され、また姿を現すのです。

養成中の兄弟は、十字架にかけられたお方の顔ばかりでなく、同じく十字架にかけられた人々の顔をも心をこめたまなざしを注ぎ、見知っていなければなりません。それこそが、この世界における神の現存を意識する福音的でフランシスカン的な方法なのです。このまなざしは靈性の根本原則であると同時に養成の目標でもあり、手段でもあります。養成の目的は、このまなざしを養うのを助けることであり、兄弟たちを養成するのはこのまなざしなのです。イエスの弟子であり、イエスを信じる者である小さき兄弟にとって、このことは単に世界を貧しい人々の視点から見るだけでなく、この世界と貧しい人々のなかに神の現存を見ることでもあります。そしてこれこそが、「本物である」(J. Sobrino)ための道であり、この世界と神の現実に忠実であるための道なのです。なぜなら神は犠牲者である「民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知る方」(Ex 3, 7)だからです。

現代人は、神とは誰か、神はいるのかとは聞かず、神はどこにいるのかと尋ねます。アウシュビッツで、エル・サルバドルで、ルワンダで神はどこにおられるのでしょうか。神はいつも「都市の外」に、外側にいて十字架にかけられた方といっしょに十字架にかけられた人々と共におられるのです。犠牲者を見守り優先なさる神は、犠牲者のまなざしで私たちをみつめ、犠牲者のなかにおられることをお望みです。犠牲者を生み出す不正は神を巧妙に隠しますが、神は犠牲者のいるところで探されたり、発見されたりするのを好みません。犠牲者のなかにおられるのです。これは、神を信じるかどうかの問題ではなく、「犠牲者の(現実の)まなざしから神を見、信じること」(J. Sobrino)なのです。そこから、犠牲者に近く犠牲者を優先することは、すなわち、正義と平和を選択することであり、「キ

リスト者として神を体験するチャンス」にほかならないことがわかります。

キリスト者の霊性とは神の現存を確信することでも、神の本質を知ることでもありません。それは、神が貧しい人々を優先されたことを心から実感して体験することにあります。養成の問題も同様に、現代世界に神が現存することを証明できるように準備することではなく、「神は貧しい人々を愛しておられると言い切れる」(G.Gutierrez)ような精神的、情緒的、体験的準備を行うことにあります。

3 受肉と実践の霊性

「養成綱領」は、「小さき兄弟たちは、彼らがそこで生きている人々の具体的状況のなかに根を下ろし、キリストの様々な顔をそこで発見する」(33)と述べています。ボンヘッファーの有名な表現を借りれば、「キリストは人間を世の中の中心に据えた」のであり、端っこではなくて、世界と生活の中心に、静かな広場ではなくて、不正に苦しみ平和をもがき求めることのなかに据えたのです。正義と平和の精神における養成は、不正と争い、希望、プロジェクトのあらゆる混乱を伴う実生活に根ざした霊性によって生かされ、支えられているのです。

ここに、人間的かつ霊的な養成の決定的な基準があります。もし神が私たちの生活のまさに中心に根を下ろされたのだとすれば、神との出会いの体験は生活の中心から、世界の中心から、人類の中心からしかあり得ません。これがすなわち霊性というものです。その発現の場所と神との出会いの場所に関する現実には注意深く根を下ろした霊性。個人の内面性をとりあげるだけの霊性ではなく、他人に開放的な霊性。内向的な霊性ではなく、他者を気遣う霊性。現実から逃避する霊性ではなく、現実コミットする霊性。静寂主義者や自己中心的な霊性ではなく、他者と関わり活動する霊性。精神主義者ではなく、いのちを与え変容させる霊によって養われた霊的な者。社会参加によってさらに個人的なものとなる霊性なのです。外界との関わりに開放的であればあるほど、より深く、より内的になるものです。

以上のことはすべて、霊性と日々の具体的生活がつながって初めて実現します。それは、活動のうちに霊的な内実を見失うためではなく、活動によって霊性を開

放し、変容の源をつくるためです。「養成綱領」が養成について述べていることは、概して靈性についても当てはまります。たとえば、フランシスカン養成とは、「経験的なものである。それは、すべての人の固有の生活と賜物に注意を払い、兄弟共同体としてあるいは個人としての日常におけるフランシスカン固有の様式と諸価値の具体的体験を培う」(47) のであり、「実践的である。それは特に、学んだことを実行に移すのを目ざすから」(48) であります。「養成綱領」は志願者(128&3)、修練者(142)、有期誓願の兄弟(153)およびあらゆる役務的奉仕のために準備する兄弟(175;177)について、生活と具体的体験に基づく養成の必要性を強調しています。単なる教義や観念的な認識から真の養成は生まれません。それは、現実直面し、信仰によって照らされ、信仰のうちに生きることから生まれるのです。現実の深みから発現する靈性は、あらゆる様式、ことに最も脅かされた様式の生活において私たちを見事な奉仕者へと養成してくれます。

・「正義と平和のための」養成の目標

以上重要なことですので、養成の方向を示す靈的な諸原則を指摘しました。より正確でより具体的であることも必要です。この第二部では、「養成綱領」が正義と平和との関連において定めている養成の目標を取り上げてみたいと思います。変革に失敗し、理想郷が消えてしまった世界、懐疑主義と不安感、無力感、「避けられないという運命論的なイデオロギー」が発達している世界では、フランシスカン養成は福音を現代世界に着実に実現させるよう兄弟たちを仕向けることに全力を注がねばなりません。そして、この目標は数あるその他の養成目標の一つにすぎないのではなく、他の養成目標を裏付け意義あるものにしてくれるのです。もっと具体的に言えば、フランシスカン養成は、兄弟たちの間に次の三つの態度と活動を促進するものでなければなりません。すなわち、フランシスカンの視点で世界を見ること、非常に貧しい人々に対し本物で行動力のあるあわれみを示すこと、そして平和な正義と正義における平和のために働くことです。

1. 貧しい人々の視点から現実を見ること

このことは「養成綱領」の修練者に関する部分でよく説明されていますが、養

成のあらゆる段階にあてはまることです。「修練者はフランスカンの観点から現実を知り、批判的に判断し、参与するための能力を磨く」(143)。このフランスカンの観点とは何でしょうか。それは紛れもなく、イエスとフランスコが優先した人々のことであり、この世界で擁護者を奪われている人々のことです。すべての視点がそうであるように、フランスカンの視点も偏っています。しかしそれは神の偏りであり、イエスはこれを福音となさり、フランスコは生活様式としました。「現実を知り」、「批判的に判断し」、「関与する」こと、これがフランスカン養成の目標です。

私たちが現実を見、知り、判断する方法が重要です。私たちはきわめて不確実で、行方の定まらぬ時代に生きているために、現実に対するグローバルな判断というものを本能的に疑っています。そこには、どのような基準をも放棄したくなる誘惑が潜んでいます。私たちが「複雑な銀河系」(J. Garcia Roca)のなかに住んでいるのは確かです。問題を単純化することは避けねばなりませんし、教条主義的確信やイデオロギー的な教説、すべては理解可能とするシステムに逆戻りしてはなりません。それと同時に、小さき兄弟が「社会と世界についての批判的視点を持つこと」(162)そして「諸問題を認め、それらの原因を理解するために、現実に対する鋭敏さを養う」(180)こと、さらに「世界と人間についてのフランスカンの理念を獲得し、物事についてのバランスのとれた批判的判断力を磨く」(32)ことは絶対に必要です。「バランスのとれた批判的判断力」とは、意識的にか無意識のうちにか不正を正当化する公平さ中庸とは別のものです。それは、福音的明快さと偏りによって磨かれた判断力のことなのです。「養成綱領」はまた、兄弟たちが「『時のしるし』を読む能力」(56&1c)を身に付けるよう心がけねばならないと述べています。この「時のしるし」とは、少数の富と多数の悲惨との間に広がる格差のことです。養成が目ざすところは、小さき兄弟の明晰で批判的な世界観を培い、深めることなのです。それは、中庸ではなく、貧しい人々の視点から見た偏りであって、この世界で神を見つめ、神の目でこの世界を見つめる視点であります。

以上述べた目標は、「養成綱領」が小さき兄弟の神学的養成について指摘していることでもあります。すなわち、「自分の信仰を現代世界の諸問題と対比させること」、「信仰の個人的・社会的『実践』を啓発し、促進すること」(165)、「現

代世界と人間理解の手ほどき」(151)を可能にすることなのです。悲惨と飢えはそれが避け得る場合は不正である、ということを理解しない限り、現代世界と人間を理解することは難しいでしょう。不正を前にした時、中立な神学の入る余地はありません。

この意味で、神学が備えるべき特質について「養成綱領」の166と167を引用するのは有意義であると思われます。「祈りに結びついた神学。生活に近く、具体的行動に向けられた神学」(166)、「創造の神学。創造主への賛美を育み、被造物の保全を人々に教え、現代の環境生態問題に信仰の光をあてるもの。現代の貧しい人々の叫びと必要への応えとして、神の救いと解放を現実化するような神学とキリスト論。人間とその権利の尊重に向けられた神学。兄弟的な世界の建設を目指す神学(メデリン総会の養成に関する文書59参照)。終末論的展望にしっかりと根を下ろし、そこに日々の社会参加のための力を見い出せる神学」(167)。

2. 最も貧しい人々への行動力を伴うあわれみ (compassion)

L. Feuerbach は、いみじくもこのことを「苦しみを伴う思い」と定義しています。実際、苦しみが知られる場合にのみ、より正確にいうならば、共に苦しむ場合にのみ真のあわれみと言えるのです。現代世界はかつてないほどに、「あわれみのある理性」(J. Sobrino)を必要としています。先に、貧しい人々の痛みを自分も引き受けて初めて現代世界を理解できるようになると言いましたが、それはこういう意味だったのです。一方で、これと反対のことも言うておかなばなりません。すなわち、この地球上に日々増えつづける「余剰人口」の苦しみを「分担して引き受ける」(I. Ellacuria)ためには、知識にあわれみが伴わなくてはならないということです。

フランスカン用語で表現するならば、このあわれみ(compassion)は「小ささ」と呼ばれます。「養成綱領」では、フランスコ言葉と会憲を引用して次のように述べています。兄弟たちは「貧しくて弱い人々の間で小さき者として生きる」(Art.10, RegNB 9:2)ように、「力も特権もない、もっとも小さな人々の間で、貧しさと謙遜さ、柔和さのなかにそれを忠実に生き」、「また、旅人であり寄留者

として・・・すべての被造物の兄弟であり臣下として生きる」(22)ように召し出されています。小さき兄弟たちは、フランシスコの模範にならい、「貧しい人々の生活と境遇を選び取りながら自分たちが彼らと同一であることを認め、圧迫されている人々や悩む人々、病人たちに奉仕し、また彼らから福音宣教してもらう」こと、そして「正義と平和の道具、この世におけるキリストのパン種として声なき人々の声となって、貧しい人々への明白な選択をする」(25)よう召し出されているのです。特に「養成綱領」は、養成においては兄弟たちが以下の精神に基づいて仕事を選び、引き受けることを明確にしています。すなわち、「小ささと単純さと分かち合いの精神。特に、この世の小さき人々と貧しい人々との分かち合い」(159)。愛とは、具体的な形をとったときに初めて本物となり、身近な人に行動で示したときに初めて具体的となるのです。それと同様に、小さき人々へのあわれみと貧しい人々の優先は、兄弟共同体のなかでもっとも貧窮する兄弟たちに対して、先ず始められ、実行されるべきです。これに関連し、「養成綱領」は、修練者について次のように述べています。すなわち、兄弟共同体のなかの「老齢、病氣、そして弱い兄弟たちへの尊重と配慮」(144)を修練者の初誓願適正審査の識別基準とするということです。

この「小ささ - あわれみ深さ (minority-compassion)」は、小さき兄弟のアイデンティティーの基本要素ですから、正義と平和をみざすフランシスコ養成の根本的目標となります。養成とは、もっとも小さき人々の判断力と感情、知性と心を兄弟が共有し、一体感を持つよう兄弟を励ますものでなければなりません。もっとも小さき人々とは、たとえば、第三世界、第四世界の人々、日々増える社会の周辺に追いやられていく人々のことであり、ガルシア・ロカが言っている「無防備に晒された」人々のことです。すなわち、完全に社会の最下層に追いやられたわけではないが、完全に社会に受け入れられてはいない人々で、社会での存在が不安定で、仕事も不安定、人間関係も不安定、生活感情も不安定な人々のことです。

福音的でフランシスコ的であるためには、貧しい人々の優先が倫理的動機からではなく、またイデオロギーに基づく信念からでもなく、全人格的な心からにじみ出るあわれみに誘発されたものでなければなりません。そうすれば、その選択は恩寵の体験となり、正真正銘の無償の愛を体現することになるのです。まさ

に、「以前に耐え難く思われていたことが、私にとって魂と体の甘美に変えられた」のです。確かに、「愛のない人々の脅しに苦しむ正義の愛の形がここにはあります。」

養成の主要な目標である「小ささ - あわれみ深さ」の中に、フランシスカンのカリスマの心髄である「被造物にたいする尊敬」を挙げることができます。「養成綱領」の随所にその表現がみられます。たとえば、21、56 & 3c、156、162を参照してください。「被造物の保全」とはどういう意味なのでしょう。それは、この世に存在するすべてのものを、神の被造物であるがゆえに、また兄弟としての尊厳を持っているがゆえに、賛美し思いやることなのです。被造物の中にキリストを探求し見いだすことなのです（12 参照）。「養成綱領」では、この「被造物にたいする尊敬」を荘厳誓願への兄弟の適正評価において、その基準として考慮されるべき点であるとしています（156）。養成とは「被造物にたいする尊敬」をエコロジーにおいて体現することを助けることであって、それは富裕な社会の自己中心的な思い込みによる問題意識の欠如やブルジョワ霊性の表面的な自己顕示とはまったく別のものです。それは、フランシスコの信仰の中心をなすものなのです。すなわち、被造物を主体として捉え、人間の操る単なる消費の対象としないことであり、すべての被造物を犯すべからざる権利を持ったものとして尊重する心なのです。養成とは、エコロジーの問題がまさにすべての被造物の存在権と母なる大地に生を受けたものの存続権の問題であることを悟らせるものでなければなりません。

養成がここで兄弟たちに促しているのは、経験に基づいた知性と心の優先です。そのためには、具体的かつ実践的で一貫性のある教授法を打ち立てる必要があります。「養成綱領」はそのような事を提示することが出来ません。養成中の兄弟についての判断基準と実践的選択が「小ささ - あわれみ深さ」の中から育っていくようにするには、どうすればよいのでしょうか。多くの志願者の皮相的な理想を浄化し、健全なものにしてゆくにはどうすればよいのでしょうか。

この世で特権階級にある人々のものの見方や習慣をイエスやフランシスコの優先するものの見方や習慣に変えてゆくには、どうすればよいのでしょうか。特に修練者の養成においてイエスやフランシスコの優先的な態度を見に付けさせる

にはどうしたらよいでしょうか。小さき人々への選択が日常生活に根ざすために、有期誓願中に非常に貧しい人々との出会いの体験を得させるにはどうしたらよいでしょうか。以上の問いかけは養成担当者にとっても、養成中の者にとってもきわめて重要な問題です。このことを考えなければ、正義と平和は曖昧な欲求と空しい言葉に過ぎないものとなる危険があります。

3 . 平和な正義と正義における平和のために働くこと

正義のための行動も平和のための行動も不可分の関係にあります。どちらも一つであり、同じなのです。どちらも養成の唯一の目標であり、分けて考えることはできません。「養成綱領」では次のように述べられています。「小さき兄弟は、正義と平和のために働き、被造物を大切にする」(21)。小さき兄弟は回心して「正義と平和の道具となり」(25、32)、「正義と平和と和解の使者となる」(180a)。それこそが、フランシスカン養成の目ざすところなのです。「正義と平和の探求」(56 2b)は養成中の兄弟のキリスト者としての成長を評価する基本であり、「正義と平和と被造物の保全の意識」(156)は荘厳誓願への兄弟の適正評価において、その基準として考慮されるものです。「正義と平和と被造物の保全に向けて社会を変革するという任務において効果的であること」(162)は養成全般の目標となっています。要約すれば、正義と平和と被造物にたいする尊敬は養成の基本理念であり、基準であり、目標なのです。「養成綱領」に沿ってより具体的に考察してみましょう。

まず、正義のために行動すること。現代の世界や社会で周辺に追いやられ、無防備な状態に晒された人々は不正の犠牲者です。彼らの現状に共感するならば、不正に対して断固戦い、正義のために行動を起こさねばなりません。「養成綱領」は次のように述べています。「小さき兄弟は、すべての形態における不正とこの世界の非人間的な構造に鋭敏となり、それらをなくすために働く」(25)。また、「小さき兄弟は、・・・人間の尊厳とキリスト教的諸価値に反するすべてのものに力強く非を唱えることを心構える」(34)。これは養成の重要な目標の一つです。「養成綱領」は、常に心に留め実践すべき正義の行動として次のように述べています。すなわち、「愛徳のわざの受取人が自分たちの人間的地位の向上と自身の解放の主人公となるように配慮する」(180a)。

このように、正義のために働くことは平和のために働くことと不可分の関係にあります。「正義が平和の名前であるなら」(パウロ6世)平和は実現された正義の名前となります。「養成綱領」はその第一部で、小さき兄弟は「平和の人」(28)、「和解と平和の使者」(3)と呼ばれ、「わだかまりを捨てた和を重んじる人」(22)として「平和の先駆者として、心に平和を携え、他の人々にそれを勧めて」(34、会憲68,2参照)生きる、と述べています。「和解と赦しへの努力」(53,3c)は養成中のフランシスカンの成長振りを特徴づけるものであり、「あわれみと和解の精神」(156)は荘厳誓願への兄弟の適正評価において、その判断基準となるものです。

「あわれみと和解の精神」を持つということは、争いと不正の状況のなかで臆病さを示すことではありません。「平和の人」、「平和の先駆者」として養成するということは、争いを避けるように訓練することではなく、争いに立ち向かう心構えを身につけさせることなのです。養成は、養成中の兄弟が共同体生活を始めるにあたり、「コミュニケーションする能力と葛藤に立ち向かう能力」(56,1b)を身に付けるよう注意を払わなければなりません。兄弟たちは、まず自分の共同体のなかでコミュニケーションする能力と「対立を解決する」(64)能力を養わなければならないのです。

最後に、平和のなかに正義を求め、正義のなかに平和を求めて奮闘することは、至る所に危険が潜み、間違いを犯しやすい仕事であることを指摘しておきたいと思います。正義と平和の道具になろうとする人は、複雑さと不安定さを、ときには曖昧さと誤りをも引き受けねばなりません。対立のなかに身を置く場合でも不正に組せず、憎悪や恨みの感情に屈せずにいることを学ばねばなりません。そのためには内面的な自由と勇気が必要です。そうした内面的な力はスーパーマンの特性ではなく、自分が貧しく赦されている者であり、貧窮しながらも潔くあることを知る者の特性なのです。

・「正義と平和から生まれる」養成の場と段階

「養成綱領」の指示に従いながら、正義と平和が養成の霊的基盤であり目標で

あることを指摘すると同時に、正義と平和が養成の一つの場であり手段であること、すなわち養成の段階と要素をなしていることをこの で強調したいと思います。すべての霊性が、すべての知識や行動と同じように場所と状況によって左右されるならば、養成についても同じことが言えます。養成とは思想を伝達することではなく、バイタリティーを伝えることです。また、養成とは情報のプログラムではなく、変容に至る道なのです。養成とは要するに、霊性と同じように一つの生活様式なのです。そして生活とは、適応し、接触することによって、直感と情愛によって教えられ、学んでゆくものです。結局、養成とは生活様式から打ち立てられるものです。この で、兄弟が養成される一つの場としての正義と平和の三つの特徴を説明したいと思います。すなわち、世界に対して忠実あること、社会・文化の中に融け込むこと、対話の三つです。

1 . 現代世界に対する忠実さ

「養成綱領」には「現代世界」とか「現代の人々」(3 ; 15 ; 66 ; 35 ; 132 ; 137 ; 144・・・)、「現代世界からの要請に対する忠実さ」、「時のしるしへの忠実さ」(前書き)、「人々と時代への自己の忠実さ」(15)といった表現が随所にみられます。

この忠実さとは何を意味するのでしょうか。まず、「注意深くあること」です。「養成綱領」のポプロールム・プログレシオから借りた表現に、兄弟たちは「人間に、人間のすべての面に、そして、すべての人々に対して」(157)注意深くあることが求められている、とあります。そして養成は「この世界と教会から今提出されている訴えに注意深くあること」(50)、養成中の兄弟は「時のしるしに注意を払うこと」(26 ; 32)、「養成修道院の兄弟共同体は、世界とその歴史、あるがままの社会的現実注目すること」(79)と続いています。現代の世界と人々に対する忠実さとは、追従したり無批判におもねたりすることではなく、用心深く受け入れる態度のことです。服従したり、たやすく迎合したりすることではなく、現代の人々の声、呼びかけ、要求に用心深く耳を傾けることなのです。

忠実さとはまた、この世界の現実の必要に応えることでもあります。有期誓願の兄弟たちの養成プログラムについては、私たちは「現代世界の期待と必要に」

(150) 応えなければならぬと記されており、このことは、現代世界と人間理解のほどき(151&3) すなわち、耳を傾け、理解し、応えることを前提としています。ことに霊的交流が大切です。養成は、現代の世界と人々との深い交流を促進するものでなければなりません。修練者について「養成綱領」は、修練者は現代の人々の歴史的・社会的・政治的・文化的・宗教的な現実において、彼らとのより深い交流を理論的にも実践的にも生きることにも備える」(137;会憲127, 3;130 参照)と述べています。正義と平和の精神における養成は、注意深く耳を傾け、積極的に応答し、私たちが生きているこの世界と心の通った交流をし、非難したり責めたりしないことを求めています。現代の人々に私たちの価値観を押し付けるのではなく彼らと歩調を合わせること、また教会の公の教えを警告として伝えるのではなく仲間としてつきあうために、彼らに責めるのではなく彼らと協調しながら養成に携わらなければなりません。

現実世界に忠実であるためには、結局、養成担当者と養成中の兄弟のたゆまぬ創意工夫が必要となります。「養成綱領」は、兄弟たちがすべての民に福音を告げ知らせる新しい方法を見いだすために創意工夫の必要を指摘しています(39)。「養成綱領」によれば、それこそが生涯養成の必要の源であります。養成とは、「生活と奉仕の新しい形態に」開かれることであり(50)、「教会と激動の時節が必要とすることに対して、絶えず適応する能力を持つ」(180a)ことなのです。

福音はいつも斬新です。なぜなら、それはいつも未知の知らせであり、常に変化する人類の歴史において新しいことを告げ知らせるからです。絶えず状況が変化する現代では、なおさら変わりやすいと言えます。現代は昨日の計画と解決が今日は通用せず、新たな変容が新たな不正を生むところ、そして、すべての不正が世界的な次元を帯びるところだからです。そのような世界では、養成は私たちが目を大きく開き、私たちの全存在を解放して他者のために奉仕し、創造的であることを助けなくてはなりません。

2. 人々の生活と文化のなかに融け込むこと

「養成綱領」は、兄弟共同体と現実の世界とにおける生活そのものが養成にふさわしい場所であり、最適な手段であると述べています。「フランスカン養成

は、兄弟共同体において、また、現実の世界において行われる」(43)。福音的、フランシスカンの見地から見れば、私たちが生きているこの世界の動かしがたい現実には貧富の格差です。したがって、フランシスカン養成はこの世界の最も貧しい人々の現実には融け込むこと、彼らの境遇に兄弟的に融け込むこと - いろいろあるでしょうが、真性のものでなければなりません - を要求しています。養成中の兄弟は「社会的、共同体的生活の中に活動的に仲間入りできるように」(45) なるべきなのです。

この特徴は養成のすべての段階に当てはまるものですが、特に有期誓願の兄弟に当てはまります。「有期誓願の兄弟は、自己の召命を生きるように召されているこの世界の現実と、その国の諸問題とに関わり、連帯すべきである」(155)。「どのような役務的奉仕のためにも、実際面での養成は何よりもまず、兄弟共同体、教会共同体、社会、そして特に、貧しい人々の間での日々の生活体験において実現される」(177)。「特に、貧しい人々の間で」という言葉は、常にイエスとフランシスコに特有の表現であり、したがって、フランシスカン養成に特有の側面であると言えます。フランシスカン養成のあるべき場所は、小さき人々の精神のみならず、小さき者となるその体験のなかにあるのです。

貧しい人々のなかに融け込むといっても、その形態は様々でしょう。しかし、養成中の兄弟が生きた世界の現実を目の当たりにして体験することは、正義と平和を目指す養成の目標であると同時に条件であり、手段でもあります。このことは特に生涯養成について当てはまります。「生涯養成は、小さき兄弟の日々の生活状況のなかで行われる。すなわち、祈り、労働、兄弟共同体内外との関係のなかで、また、自分が活動する文化的・社会的・政治的世界との接触のなかで行われる」(58)。現実世界における現実生活の体験が、結局、養成の糧なのです。この基準を実践に応用するにはどうすればよいでしょうか。これについて「養成綱領」は具体的に述べていません。いずれにしても、「養成綱領」が「貧しい人々の間に置かれた小さな養成兄弟共同体」(80)の可能性を考慮しているのは興味深いことです。

この貧しい人々の間に置かれることの根本的な要件として、現地の文化に融け込むことが挙げられます。「養成綱領」は次のような原則を述べています。「フラ

ンシスカン養成は実生活が行われる場の生活状態・環境・時代・に受肉される」(49)。「養成綱領」はまた、有期誓願の兄弟の養成には「固有文化と民衆の宗教性理解の手ほどき」(151, 3)が必要であり、小さき兄弟を福音宣教の奉仕へ準備するには、「文化の受肉への順応性と民衆の宗教性を積極的に評価すること。・・・人々の生活と話し方に近いこと。他の宗教と文化についての知識と対話」(179)が必要であるとも述べています。以上のすべては養成担当者に要求されていることです。すなわち、「養成担当者たちは、奉仕するように呼ばれた場所の文化的背景のなかに自分たちの働きを統合するよう努力すべきである」(100)。

文化とは、人々(個人も民衆も)にとって意味基準、行動の価値基準、そして未来を表すシンボルとなるもので、自分たちを動かし、生活の形を決めるあらゆるものを全部合わせたもののことです。文化とは最も身近な人々と分かち合う底土であると同時に、最も遠くにいる人々に近づき彼らを理解することを可能にしてくれる底土であり、対話と共通の探求を可能にしてくれる底土なのです。自分自身の文化から他者の文化へと自分を開放することが可能であり、必要です。最終的に、自分自身をより深く理解するのを可能にしてくれるのは他の人々の文化なのです。したがって、文化に融け込むということは、単なる適応ではなく、個人や人々の生活の根っこにまで浸透してゆくことなのです。そうすることによって、私たちは福音を宣べ伝えるだけでなく、彼らから福音を受け取ることができます。そのような出会いは、正義と平和に役立つことを願う養成の特権的な場となります。

3. 対話と差異の尊重

「養成綱領」は兄弟共同体内外における対話を重視しています。兄弟は「互いに耳を傾け、対話しながら」(23) 兄弟共同体内の「多様性を尊重し」(75) 「その時代の人々との対話において」(33) 生きるのです。兄弟は、「様々な文化と宗教とに対して、好意を示し対話の姿勢を深める」(26)。養成修道院においては、「信頼・対話・礼儀正しさの雰囲気が育まれるべきである」(76)。養成担当者たちは「他の兄弟と一緒に働き、対話し、その意見に耳を傾ける能力をもつべきである」(84)。「傾聴訓練」(163)は、人文科学の勉学の最重要目標の一つです。

「カトリックでない他のキリスト者、他の宗教、また、不可知論者たちと対話すること」は神学的養成の目標の一つです。「他の宗教と文化についての知識と対話」(179)は、役務への養成の必須条件となっています。

私たちが生きているこの世界の各地は、かけがえがなく見過ごすことのできない他者の存在と行き交う十字路となっています。他者とは、すなわち、固有の言語と論理、宗教と道徳律、倫理観と政治体制を有する人々のことです。私たちの住む世界は、自分の小さな村であると同時にますます多様化してきています。いわゆるポスト・モダニズムは現代社会の極端な多様性から生まれたものです。特に現代には、過去何世紀もの間キリスト教的西洋と西洋中心の教会によってひそかに排斥されながらも、私たちが接している文化と宗教があります。そうした文化と宗教は、私たちが思い込んでいたほど小さなものではなく、はるかに多様で深いものです。それらは、私たちの安心感をかき乱し、自分は偉大だと思っていた西洋人の優越感を打ち砕く文化と宗教であり、したがって、私たちがより人間的な方法でより人間的な神を信じるよう私たちを回心へと導き、促してくれます。

多様性は養成の最大の課題となっています。この多様性を積極的に受け入れるよう助けること、さらに、この多様性が養成の刺激剤となり手段となるように助けることが大切です。そして、懐疑主義や教条主義に陥ることなく、相対主義や不寛容に屈することなく成長しながら、共通の探求を行うように助けることが大切なのです。歩むべき狭き道は対話の道であり、対話によって人々の行き交う十字路は出会いの場となります。差異は対話を生み、意見の相違は正義と平和に向かう共通の道となるのです。

結論として、養成はこの世界において正義と平和に貢献しています。この世界で兄弟たちはイエスの御跡に従うという形で靈的に受肉し、ひいきしてくださる神を信仰するように導かれるのです。兄弟たちは神の目でこの世界を見つめ、十字架にかけられたお方のあわれみの心で神と共にこの世界に関わるよう導かれるのです。養成は兄弟たちに、この世界にあって人々と対話しながら人間として、また信仰者として成長することを教えます。

ホセ・アレグイ OFM (Jose Arregui OFM)

第二部

七つの具体的テーマ

本書の序文で述べたとおり、この第二部は現代において社会的、キリスト教的に非常に重要な七つの具体的テーマから構成されています。もっと多くのテーマを扱うことも可能でしたが、本書をこれ以上分厚いものにしないために、私たちが自らのカリスマを生きるのに最も適しており、かつ最も興味深いものとして七つのテーマに絞りました。

それぞれのテーマには短い理論的解説文がありますが、それはすべてを網羅するものではなく、考察と行動を促すためにテーマを提示するものです。各テーマの理論的解説の仕上げとして、世界中の兄弟たちの体験と証しの紹介が続きます。

各テーマの理論的解説は執筆者が異なるために、重複する個所がいくつかありますが、あえてそのままにしておきました。なぜならこのセクションは一気に読むものではなく、各章ごとに参照し、考察してゆくべきものだからです。

各テーマまたは各章の末尾に長い質問がありますが、それを道具として利用していただきたいと思います。初期養成と生涯養成を含む養成会議や信徒たちとの勉強会にこれらの章を利用する時、末尾の質問事項は考察の一助となると思います。

テーマ：

- 1． 貧しい人々の優先
- 2． 平和のために働く
- 3． 被造物の保全・環境正義
- 4． 生命
- 5． 人権：個人および集団の人権
- 6． 女性およびフランシスコとクララのカリスマ
- 7． 対話：エキュメニカルな対話、宗教間の対話、異文化間の対話

1. 貧しい人々の優先



小さき兄弟会会憲第 97 条

1. 主によってハンセン病者の間に導かれた聖フランシスコの模範に倣って、すべての兄弟一人ひとりが、「落ちこぼされた人々」、貧しい人々、抑圧されている人々、苦しめられている人々、病気の人々を優先させ、彼らの間で生きることを喜び、「あわれみを示す」。
2. 全世界の社会的に小さな人々と兄弟的交わりを持ち、貧しい人々の状況をめぐる今日的な出来事を把握して、兄弟たちは貧しい人々自身が、人間としての尊厳をもっと自覚するように働き、またそれを護り、高めるよう働く。

フランシスコの生き方から・・・

中世の社会において疎外されていた人々であるハンセン病者を抱擁したことがフランシスコの回心のきっかけでした (Test.)。この体験の後、フランシスコ

は世俗を出てハンセン病患者たちの中で暮らし、以前に耐え難く思われていたことが魂と体の甘美に変えられました (Test.)。彼がハンセン病患者の集団に帰属したのは、憐れみとか社会への反発からではありません。もっと深いものがあったのです。ハンセン病患者たちはフランシスコに生活のなかでの居場所、神の御前における自分の居場所を悟らせてくれました。彼は自分のことを、裸で生まれ裸で死んでゆくすべての人々と同じように貧しい者、神の前に何も持たない *sine proprio* 者と考えていました。彼の共同体の兄弟たちは、私有物を持たずに生きる小さき人々として知られていました。実際に、フランシスコは貧しい人々の仲間として彼らと共に歩むことを選びました。彼は貧しい人々や完全に神に身を委ねている人々と共にいたのです。誰一人として偉そうに振る舞う人はいませんでした。

父親の店で働いているとき乞食を拒絶したことへの後悔から、フランシスコは「神の名において求められたものは決して再び拒否しない」ことを決意しました (L3S3)。フランシスコは貧しい人々を、貧しい母から生まれた息子であるキリストの似姿としてとらえ、深く愛し、尊敬していました (2 Cel83)。ある兄弟が貧しい人に厳しい口調で話しているのを見たフランシスコは、その兄弟に、「貧しい人をののしる人は、キリストを傷つけているのです。貧しい人は、この世で私たちのために貧しい人となられたキリストの高貴な似姿をまもっているのですから」(1Cel76)と諭しました。困っている人を見るとフランシスコは悲しみました。たとえば、寒い季節には、貧しい人々に着せるマントをくれるよう裕福な人々に頼んだりしました。フランシスコはまた、父親にののしられた時、貧しい人を招きいれ、自分を祝福してくれるように頼んだこともあります (1Cel12)。物質的援助ができないときは、フランシスコは「愛情を惜しみなく与え、貧しい人々には施しを受ける権利があることを主張しました (LM8:5)。クリスマスには金持ちが貧しい人々に特別な施しをしてほしいとフランシスコは願っていました (2Cel200)。フランシスコは貧しい人に冷淡な口調で話す兄弟を厳しく非難し、次のように言いました。「あの人の貧しさと病は、私たちの主イエス・キリストが人類を救うために肉体的に苦しめられた貧しさと弱さを私たちが愛をもって観想する鏡なのですよ」(LP89)。

フランシスコは貧しい人々を愛しましたが、それは金持ちを軽蔑したという意

味ではありません。事実、フランシスコは兄弟たちに「ぜいたくで華やかな衣服を身にまとっている人、また、美味しいものを飲食する人を見ても」、彼らを軽蔑したりしてはならないと戒めています(RegBc.2)。兄弟会のすべてのメンバーは、その社会的・経済的背景を問わず対等でした。誰も兄弟会内の役割に執着してはなりません(LP83)。フランシスコは彼らを「小さき兄弟会」 - より小さい兄弟たちの会 - と呼びました。それは、彼らがすべての人の僕となるためでした(1Cel38)。

貧しい人々の優先

過去何世紀もの間、フランシスカンたちはフランシスコの次の言葉を自分の言葉とすべくチャレンジされてきました。すなわち「小さき兄弟たちの会則と生活は、私たちの主イエス・キリストの聖福音を守り、従順のうちに、何も自分のものとせず、貞潔に生きることである」。どの誓願もそれなりの困難を伴いますが、清貧の誓願が最も多くの議論と鋭い論争の的となってきたと言っても過言ではないでしょう。フランシスコとその弟子たちが信奉してきたイエス・キリストの極端なまでの貧しさを生きることは可能かどうかについて、何年もの間論争が続けられてきました。知的な論争は貧しい人々の具体的な状況に対してほとんど注意を払っていませんでした。なぜなら、貧しい人々の問題はこの清貧の論争にさして影響があるとも思えなかったからです。

ところが、時代が進むにつれ、清貧の誓願の意味を考察するにあたって、貧しい人々を考慮に入れることが極めて重要になってきました。第三世界から湧き上がる叫び声は、第二バチカン公会議の様々な文書や教皇たちの宣言のきっかけを作り、私たちに世界中の多くの兄弟姉妹の現状である非人間的な貧困の問題を突き付けています。小さき兄弟会はこの叫びに動かされ、現在、神の民のうち最も小さき人々の見地から本会の生活と使命を再定義する作業が行われています。

1987年に公布された会憲のなかで、本会は貧しい人々を私たちの生活と仕事の不可欠な一部とする必要を強調しています。会憲第66条1にはこう記されています。「救い主がご自分を無とされたことをより忠実に模倣し、より輝かしく示すために、兄弟たちは、社会においては取るに足りないと言われる人々の生活と

境遇を受け入れ、常に彼らの間で、小さきものとして生きる。この社会的境遇から兄弟たちは神の国の到来のために働く。第 78 条 1 は次のように宣言しています。「兄弟たちは、仕事を選ぶについて会則が与えた自由をもって、時代、地域、必要に従って、フランシスカンの生活のあかしが輝き出るようなものを優先させ、とりわけ、貧しい人々への連帯と奉仕の分野を求める。第 97 条 1 と 2 では次のように記されています。「主によってハンセン病者の間に導かれた聖フランシスコの模範に倣って、すべての兄弟一人ひとりが、『落ちこぼされた人々』、貧しい人々、抑圧されている人々、苦しめられている人々、病気の人々を優先させ、彼らの間で生きることを喜び、『あわれみを示す』。全世界の社会的に小さな人々と兄弟的交わりを持ち、貧しい人々の状況をめぐる今日的な出来事を把握して、兄弟たちは貧しい人々自身が、人間としての尊厳をもっと自覚するように働き、またそれを護り、高めるように働く。会憲の他の多くの個所でも、兄弟たちは、共同生活を築き上げるに際して貧しい人々を心に留め、彼らを含むようにと促されています。現代用語では、この貧しい人々を含むことを「貧しい人々への優先的選択」と名づけています。フランシスカンのプロジェクトでこれほど中心的な位置を占めるこの「選択」とは何でしょうか。

『カトリック社会思想新辞典』(*The New Dictionary of Catholic Social Thought*, Liturgical Press, 1994) の中で、ドナル・ドールは「貧しい人々への優先的選択」の問題を扱っています。彼によれば、貧しい人々を優先するということは「民衆の生活のあらゆる側面に浸透している不正、抑圧、搾取、および疎外に対する抵抗」に深く関わることであり、「社会を人権とすべての人の尊厳が尊重されるような場所に変えてゆくことに深く関わること」なのです。このようなことに関わるのはたいていの場合、比較的豊かで、自分の相対的豊かさや社会的地位を自覚する人々です。彼らは、この富や名声の少なくとも一部を手放して、恵まれない人々の仲間入りをすることを選びます。このような選択は、多くの場合、キリスト者としての信仰のより深い理解に根ざしています。これに関わる各人が社会に存在する不平等に気づき、相対的な弱者の側に立つことを選ぶという点で、この選択は政治的な意味を帯びています。この選択が相対的弱者のために行われるということを経験した兄弟たちが理解しさえすれば、それは厳密な意味で「貧しい」人々、つまり経済的に恵まれない人々から、さらに政治的、文化的あるいは宗教的な権利を奪われている人々にまで関心を広げるための小さな一歩

となるでしょう。貧しい人々の定義の中には、女性、人種差別を受けている人、そして構造的不正に苦しむあらゆる人々が含まれます。

貧しい人々を優先する人はあわれみの心 (a spirit of compassion) でそれを行う、とドールは述べています。そのためにはまず、貧しい人々と苦しみを分かち合い連帯する態度が必要です。実際的には、それは私たちの生活様式に関わってきます。つまり、何を食べ、何を着、どのような家具に囲まれて暮らすかということです。しかし、もっと大切なことは、「どういう地域に住み、どういう友人とつきあい、どのような仕事をし、そうしたすべてをどのような態度と方法で行うか」という問題でしょう。あわれみの心があるなら、構造的不正を克服しようとする行動に参加しなければなりません。効果的な行動としては、状況の注意深い分析、不正に関わる人々から意識的に遠ざかること、そして不正に挑むための政治的レベルの計画的な協力的行動、さらに、現実的な選択肢を準備することが挙げられます。最後に、貧しい人々を優先する過程において貧しい人々が私たちの行動 たとえそれが善意の行動であるとしても - の対象とならないよう十分な注意が必要です。戦いは貧しい人々のものであり、かれらがこの戦いの主体でなければなりません。私たちの役割は、主体は貧しい人々であるというこの現実との関係において決まるのです。

模範としてのフランシスコ

フランシスカンたちは、インスピレーションと刷新を求めるときは常にフランシスコにその源を探して来ました。「貧しい人々の優先」を私たちの生活と役務に取り入れようとするとき、フランシスコは私たちのこの試みの模範となり得るかという問題が生じます。答えは、簡単に言えば「イエス」でもあり「ノー」でもあります。

『アッシジのフランシスコ』(Francis of Assisi, Crossroad, 1992 ; イタリア語 1959 年)の中で、アルノルド・フォルティーニはフランシスコの世界の社会構造をきわめて綿密に描いています。当時は、封建制度が徐々に資本主義に移行する大変革の時代でした。封建制度は *maiores* と *minores*、すなわち貴族と庶民によって特徴付けられていました。この *maiores* と *minores* というラテン語は

社会の様々な構成員の権力、徳、高貴さ、権威の程度を測り分類するために使われていました。領主は土地への進入路を通して強大な支配力を持っており、大きな荘園の形成によってほとんどの人々は土地に縛り付けられていました。自由な農民たちでさえも、領主に庇護を求めねばなりませんでしたが、都市と貿易の重要性が高まり、必然的に貨幣経済が成長するに従って、領主たちは商人、職人、農民を含む *minores* の台頭にますます悩まされるようになっていきました。これらの下層階級は *maiores* によって課せられた税金や強制労働の憎むべきシステムに抵抗したのです。フランシスコはアッシジの裕福な中産階級の家に生まれましたが、彼の家庭の富は織物貿易と密接に関わっていました。そのような者としてフランシスコは若い頃、当時の社会的変動に関与していたのでした。1198年、フランシスコは16歳のとき、アッシジの封建制度の象徴であった要塞ロッカ・マジョーレの陥落を目撃しました。それに続く十年間は *maiores* がますます困難な状況の中で自分たちの支配権を保とうとしたために、流血と暴力の十年となったのです。

フランシスコが真の主に従えという神の呼びかけを聞いたのはこの時でした。神が自分に何を望んでおられるのかを知ろうとしていたフランシスコは、貧しい人々に特別な優しさを示し、貧しい人々の中でも最も貧しい人であるハンセン病患者を優先していた、とあらゆる伝記作家は証言しています。『聖フランシスコ、人間解放の模範』(*Saint Francis, a Model for Human Liberation, Crossroads*, 1984、日本語訳「アッシジの貧者・解放の神学」エンデルデ書店1985年)の中で、レオナルド・ボッフ(Leonardo Boff)は、聖フランシスコの最初の回心は貧しい人々、社会的に十字架にかけられていた人々に向けられ、その後十字架にかけられたイエス・キリストに向けられたものであると述べています。チェラノの伝記のいたるところに、フランシスコの貧しい人々に対するあわれみとハンセン病患者への優しい看護のようすが描かれています。チェラノは最初の兄弟たちは創立者であるフランシスコの足跡に倣ったと付け加えています。フランシスコのとった道は、二つの方法で封建体制に挑戦することになりました。その一つは、*maiores* の一員であることに付随する富や特権を受けることを拒否して、嫌悪され、抑圧された貧しい人々や社会に忌み嫌われ、隔離され、無視されたハンセン病患者たちと運命を共にしたことです。フランシスコは貧しい人々を金持ちの視点からではなく貧しい人自身の視点から見ることによって、貧しい人々の価値に気づくこと

ができたのです。もうひとつは、共同生活をする上で、彼はすべてのメンバーを「兄弟」として遇することにより、封建的な位階制度を打破しようとしたことです。チェラノの第二伝記 191 の中で、フランシスコは彼のグループの中では *maiores* が *minores* と連帯し、賢い者が単純な者と連帯してほしいと要請しています。彼のやり方は理論的ではなく情緒的でした。彼は自分に従うすべての弟子たちを平等な地盤に立つ「兄弟」とすることによって階級差別に異議を唱えたのです。

しかしながら、フォルティーニもボッフも明言しているように、フランシスコの“*minores*”への選択は、当時新しい社会グループを形成しつつあった *minores* への選択ではありません。すでに述べたように、*minores* には商人、職人、農民が含まれます。彼らは、社会階級としては *maiores* と同じくらい貪欲に富の蓄積と富に付随する権力に関与していました。フォルティーニはその著書の第 8 章で、フランシスカン運動と当時アッシジで盛んになっていた自治体の設立運動とを混同しないようにと注意を促しています。まず、フォルティーニはアッシジの異なる階級間の長年の敵対を終焉に導いた 1210 年の社会協定について言及し、それが、フランシスコとその最初の弟子たちの調和の精神から生まれたものではなく、むしろ自治体の力を増大させるために計画されたものであると述べています。次いでフォルティーニは、フランシスカン運動を *minores* の反乱の結果と考えることも誤りであると述べています。むしろ、「新しいアッシジの自治体は商業の拡大を狙った結果生まれたものである。その自治体は戦争をすれば商業が拡大すると考えた。そして自治体が生まれたことによって、横柄な封建領主に対抗する横柄な商人が生まれた。その自治体は富と工業とにその主な社会的権力基盤を置き、逆らう者への復讐を公認し、容赦なく刑罰や懲罰を実行した。貪欲で暴力的、喧嘩好きで野心的で残酷な人々を擁するこの社会は、フランシスコがピエトロ・ベルナルドネと対照的であったように、フランシスカニズムと対照的なものであった。」ですから、フランシスコが兄弟たちを表現するのに用いた『小さきもの』という言葉は、階級や派閥の名称ではなく、「最も卑しい人々、身分の低い人々、命令を出すのではなくて受ける人々」を指す形容詞なのです。ボッフはさらに、フランシスコが裕福な中産階級の市民という地位を捨て、貧しい人々と共に生きる貧しい人となることによって自分の社会階級を変えることを選んだと述べています。

このように、フランシスコは私たちが「貧しい人々を最優先する」道を選ぶ時、現代の私たちの模範となり得ます。彼は貧しい人々に新たな人間としての尊厳と価値観を植え付けることによって、貧しい人々を「解放」することができました。貧しい人こそ十字架にかけられた貧しいキリストに出会うことができる特権的な位置にいると感じたフランシスコの直感的な選択と、いかに貧しさが私たちの精神と心を澄ませ、神とお互いを受け入れることができるように助けてくれるかということに対する理解は、フランシスコの足跡に従おうとする私たちにとって時間を超越したインスピレーションとなっています。しかし、だからといってフランシスコが貧しい人々の優先に絡む現代の諸問題に気づいてくれると期待してはなりません。彼は封建制度に特有の社会的対立の結果を見ることや、自治体における *minores* の台頭の意味をかすかに感じ取ることはできましたが、「構造的不正」に気づくことはできませんでした。したがって、そうした不正を是正するために「政治的」に関与することもできなかったのです。フランシスコの精神でこれらを識別する能力のある私たちは、構造的不正の原因や作用を理解し、その過程において「貧しい人々を優先する」ことに献身するよう招かれています。貧しい人々はイエス・キリストとアッシジのフランシスコの心に非常に近いところにいるからです。

フランシスコと貧しい人々の優先への新たな呼びかけ

フランシスコが活着している間でも、清貧の問題は兄弟たちの間で論争的となっていました。ですから、フランシスコの死後 30 余年頃ボナヴェントゥラが会の総長に選ばれた時、まもなく論争に巻き込まれ、師父フランシスコの心に近い清貧の徳を擁護する必要を感じたのも驚くにはあたりないでしょう。ボナヴェントゥラはその最初の回状で兄弟たちを次のように非難しています。「兄弟たちは埋葬や遺産の問題に首を突っ込みすぎです。兄弟たちは住まいをたびたび多額の費用をかけて変更しています。・・・これは気まぐれを示しており、清貧を汚すものです。・・・経費が異常なまでに上昇しています。」ボナヴェントゥラはまた、『修練者への指示』(*Instruction for Novices*) の中で、清貧こそ「靈的組織全体の第一の基礎」であることを読者に思い起こさせています。彼はさらに兄弟たちを次のように励ましています。「ですから、あらゆる力をもって清貧を抱き

しめなさい。なぜなら、聖書に記されているように、清貧は『彼女をとらえる人には、命の木となり、保つ人は幸いを得る』[Prov 3 : 18]からです。このように、もしあなた方が聖なる清貧を守るなら、あなた方は天の国にはいるでしょう。なぜなら、真実そのものである方がこう約束しておられるからです。『心の貧しい人々は幸いである、天の国はその人たちのものである』[Mt 5 : 3]。」

このように心配していたにも関わらず、ボナヴェントゥラはフランシスコとは清貧の問題の扱い方が異なっていました。フランシスコの回心は、社会から最も蔑まれた人々と接することによってもたらされ、彼の召命はキリストのように十字架にかけられたこの世の貧しい人々の中に、また彼らを通して十字架にかけられた貧しいイエス・キリストを絶えず見いだすことによって支えられていました。彼の清貧への接し方は、貧しい人々と関わりを持つもので、生活の中で具体的な貧しさに苦しむ人々がきわめて重要な役割を果たすものでした。これとは対照的に、ボナヴェントゥラが擁護した清貧とは、それ自体が独立したもので、この世の貧しい人々と関連付けることなく判断されるものでした。それは学術的な議論の対象となり、かくして、現実に貧しさを体験している人々への注意を欠いたまま数世紀にわたる清貧論争の舞台が整えられたのでした。

今日、フランシスカンたちが清貧の問題を再考するならば、あるいは、より現代的に表現するならば、「貧しい人々を最優先する」ことが緊急の課題です。私たちフランシスカンは、世界中の多数の兄弟姉妹のものすごい貧しさに直面して、フランシスコの精神を自分の中に呼び戻すよう促されています。私たちはラテン・アメリカ、アジア、アフリカなどから湧き上がる叫び声や、ヨハネ 23 世、パウロ 6 世、ヨハネ・パウロ 2 世といった教会の指導者たちの教えや、フランシスコ会の作成した様々な文書によって、この一步を踏み出すように招かれています。フランシスコは彼の時代の貧しさの現状に対して、文字通り直接的に貧しい人々を抱きしめることによって応えました。私たちも同じようにするよう招かれています。

私たちはどのようにしてこの現代における「貧しい人々の優先」を成し遂げることができるでしょうか。一つの模範として「同伴 (*accompaniment*) 」という考え方が挙げられます。『聖フランシスコと神の愚かさ』(*St. Francis and the*

Foolishness of God, Dennis, Nangle, Moe-Lobeda and Taylor:Orbis, 1993) の中で、著者は実在する貧しさの状況、貧困が引き起こす怒りと悲しみ、貧しい人々の中に見いだされる恵みと善、そして分析と別の構造の必要性に対する私たちの最善の応答は、「同伴」という言葉に集約されると述べています。すなわち、「他の道からしばらくの間(その後永久に)離れて、社会の最下層にいる人々と共に歩み、彼らと共にいて解放すること」です。また、「社会の最下層にいてキリストに出会うことにより、かつては貧しい人々を『他人』、恐い者、恐怖と同情と施しの対象としてしか見ていなかった私たちは、フランシスコと共に個人としてまた社会として、深く継続的で、聖霊に導かれた心・魂・精神の回心を体験することができます。私たちの中心はゆっくりと私たちの外側に向かって動き出し、気が付くと私たちは、ポベレッコ(小さき貧者)と軽蔑されたその友人たちといっしょに見知らぬ場所で大いに喜びながら踊っているのです」。フランシスコにとって、馬を下りてハンセン病者を抱きしめようと決意すること、社会の最下層に住む人々と一緒に生きようと決意することは、困難で時間のかかるものでした。しかしながら、いったん決意すると、その決意は彼の残りの人生を方向付け、命の源であるお方との出会いへと彼を導いてくれました。私たちも社会から疎外された人々と共に歩む決意をするならば、十字架上の死によって命をもたらしてくださった苦しむキリストに出会うことができ、ポベレッコの足跡に従おうとする私たちの意欲は鼓舞されるでしょう。

ジョゼフ・G・ロザンスキーOFM (Joseph G. Rozansky OFM)

兄弟の生き方からの模範

外部の人にとって、聖フランシスコと聖クララの姿はおそらく他のどの教会関係の人物の姿よりもはっきりと、貧しい人々の生活体験を分かち合いながら彼らと一つになるという概念を示しているのではないのでしょうか。フランシスコは今でもイタリアではポベレッコという名で知られていますが、彼とクララ会(Poor Clares)の創立者は当時から論争的となっていました。それは、二人の *minores* としてのアイデンティティとハンセン病者のように社会から最小の価値しかないと考えられていた人々に対する開かれた態度によるものでした。

清貧の問題はフランシスカン・ファミリーの中で常に刷新と分裂の争点となってきました。フランシスコとクララは、何も持たず (*sine proprio*) に生きることによって貧しい生活に伴う自由を発見しました。彼らの清貧は節約にせせと励むことではなくて、一つの選択であり、何も自分の所有物として主張することなく、神の被造物の中で物惜しみなく生きるよう彼らを解放してくれた魂の情熱でした。このような生活様式にフランシスコが傾倒するようになったきっかけは、貧しいキリストでした。

今日でも、貧徹底的なしい人々の優先は、物質主義的で成功志向の社会的背景とフランシスカン・ファミリーとの間で相変わらず論争的となっています。修道者である兄弟姉妹たちと在俗の人々が創立者の足跡に従おうと努力するとき、彼らは自分たちがどこまで今日の世界における貧しい人々の仲間入りができるか、あるいは仲間入りすべきかという複雑な問題に直面します。ある兄弟たちは、自分の使命は貧しい人々のために最もよく働くことのできる伝統的な共同体という組織体内に留まることだと考えています。他の兄弟たちは、バラック地区やスラム街、孤立した農村地帯で必要不可欠の奉仕活動を行うことによって貧しい人々と肩を並べて働くよう招かれていると信じています。また、可能なあらゆる形で貧しい人々の仲間入りをし、彼らの生活状況、抑圧、そして死さえも分かち合おうとする兄弟もいます。

ベトナム：国によっては、政府あるいはどうにもならない状況のせいで兄弟たちが貧しい人々を徹底的に優先し、選択せざるを得ない場合もあります。たとえば、ベトナムでは、1975年に国の支配権を握った共産主義勢力の支配者により、すべての修道院が接收されてしまいました。今では多くの兄弟たちがこのような困難は自分たちが「快適」なライフスタイルを捨てて現地の人々と生活を分かち合うようにする神の摂理であったと考えています。大規模な修道院を政府に引き渡し、手仕事に参加することによって、兄弟たちはフランシスカンの価値に対する認識を深め、新しい方法でそうした価値を証しすることができました。今日、ベトナムの教会は、近代化と自由市場経済に向かって急激に変化してゆく国の中で、どうしたら人々に最もよく仕えることができるかという新たな課題に直面しています。ベトナムの聖フランシスコ管区の管区長であるアレクシス・トラン・デュク・ハイ (Alexis Tran Duc Hai) は、共産主義「革命」の年である1975年

に司祭に叙階されましたが、この急速に変化しつつある母国でフランス人たちの果たし得る役割について絶えず心配しています。国が近代化に向かって進むにつれ、彼はこう述べています。「私はベトナムの教会が立派な外観を作り上げることによってではなく、人々の倫理的、人間的側面を強化することによって社会の他のセクターと競合することができると思っています。」

コロンビア：最もラディカルな選択を決意した兄弟たちの中には、祖国を不正と社会的不公平から解放するために戦っているゲリラに参加したディエゴ・ウリベ（Diego Uribe）がいます。常に人々に仕え、自分の誓願に忠実でありたいという願いを抱きながら働いていたディエゴは、1981年12月2日にコロンビアで軍によって暗殺されるまで、ゲリラグループの序列の中で高い地位を占めるようになっていました。荘厳誓願の前でさえも、彼はボゴタで神学を勉強していた時に周囲の極端な貧困と不正に悩み、その悲惨な状況を修道院の壁の内側に住む人々の特権的な生活と比較していました。第二バチカン公会議による深い態度の変化に触発されて、ウリベとその他数人のフランスコ教会神学生は、神学校の快適な住居を離れて、街の最も貧しい地区に引っ越すことを決めました。叙階後、彼は西海岸地域に派遣されましたが、そこは国内で最も湿気が高く、住むのに適さない孤立した地域の一つでした。この地域には2, 3世紀前に古代の金鉱（今では、枯渇している）を採掘するために連れてこられたアフリカ人グループの子孫が未だに大勢住んでいます。彼らは今日でもまだ、実質的には奴隷として生活し、働きつづけています。時がたつに従って、ディエゴは既存の社会構造と自分の使命の意味について以前にもまして深く疑問を抱くようになっていきました。1974年に彼はボゴタの周辺地域で働くために戻り、そこで初めて国民解放軍と接触を持ちました。「ディエゴはとても謙遜で、魅力的な人物でした」と彼の肉親の兄弟で、今はローマのアントニオ神学大学（Antonianum）で教えているフェルナンド・ウリベは語っています。「私たちは男の子5人、女の子3人の8人兄弟で、彼はその中で最も愛らしい子供でした。彼の優しさは、貧しい人々の惨めさに対する彼の感受性を損なうことはなく、彼は、貧しい人々の役に立つことをしたいという願いから、武力闘争こそ貧しい人々を抑圧から解放する唯一の道であると信じたのです」。フェルナンドは、ディエゴが1970年代中期まで関係していた国民解放軍は、この10年か15年の間に特に資金調達の方法とその動機に関して激しい変革を経験したと言っています。フェルナンドは、このグルー

プに参加するという兄弟の決断をまず最初に知った人でした。フェルナンドはこの決断を「いつも尊重していましたが、参加することは決してありませんでした。」彼はまた、1981年12月に兄弟の遺体確認のために山岳地帯に行った唯一の人でした。「ディエゴとその仲間の一人は、ある高い山の上の農家で他の二人のメンバーと会合を開いていた時に暗殺されました。グループで生き残った人々とその家の住人たちは、子どもたちも含めて全員拷問を受けました。その頃、ディエゴの行動はコロンビアのフランシスカンたちの間で論争の的となっていました。ローマの本部(General Administration)は、コロンビアの特殊な状況を考慮に入れて、ディエゴの個人的な選択に理解を示しました。」コロンビアの兄弟たちは今でも、深刻な人権侵害の犠牲となっている貧しい人々や抑圧された人々と関わって暮らしています。彼らの状況は必ずしも報道によって明らかにされているわけではありません。コロンビアの正義と平和委員会(Inter-Congregational Commission for Justice and Peace)が集計した統計によれば、1995年には暴力の犠牲者の数は約9500人に達しています。米国国務省のコロンビアにおける人権侵害に関する報告によると、武力衝突と無差別殺人が相変わらず社会を破壊しており、警察と軍隊がこの暴力の大半に関して責任があることが明らかです。

聖地：世界中の多くの国々では、貧しい人々を優先するということは迫害された人々の側に立つことをも意味します。それは、今日の聖地では、半世紀前にイスラエル国家が建設されて以来ずっと続いているアラブ人とユダヤ人の暴力抗争の集中砲火にあう危険を冒すことを意味しています。イスラエル占領下のヨルダン川西岸とガザ地区では、百万人ものパレスチナ人が先祖代々の土地を離れて人であふれ返る汚らしい難民キャンプに移り、劣悪な環境で今なお暮らしています。彼らは新鮮な食料品から医療品、基本的な教育から就職口にいたるまで、すべてにおいて困窮しています。中でも、とりわけ彼らが必要としているのは、よりよい未来、より平和な未来を望めるような地域全体の永続的な政治的解決策です。フランシスカンたちは、聖フランシスコの時代から聖地にいました。彼らはこの聖地で法的に組織された最も古い組織となっています。数世紀の間、彼らはこの地域を破壊した多くの「聖戦」に巻き込まれてきました。伝統的に、彼らは聖地の管理人として、周囲で荒れ狂う権力闘争の中でキリスト教の愛を絶えず証してきました。「これは今でも、フランシスカンの存在の最も目につく側面です」と、聖地の元クストスであるジュゼッペ・ナザール(Giuseppe Nazarro)は述べて

います。依然として舞台裏では、約 32 カ国からきた 300 名以上の兄弟たちが様々な形で、キリスト教徒と非キリスト教徒の別なく貧しい人々の生活を改善するために働いています。彼らの活動は難民入植地のいたるところに及んでいます、すなわち、イスラエル、ヨルダン、エジプト、シリア、レバノン、キプロス、ロードスの全土です。彼らは一万人以上の学生を抱える約 16 の学校や大学のほかに、孤児院、診療所、セミナー、老人ホーム、若者たちのための教区センターなども経営しており、人々が子どもの頃から体験してきた暴力に代わるものを提供しています。聖地からのキリスト教徒の絶え間ない流出を食い止めるために、兄弟たちはただ同然で住居を何百もの家族に提供し、さらに、若い人々の中東での勉強継続を奨励するために奨学金の提供も行っています。

イタリア：フランシスコとクララによって始められた貧しい人々の優先は、イタリアでは何世紀もの間兄弟たちの活動の特徴となっています。イタリア中心部のトスカーナ地方では、フランシスカンたちは貧しい人々に益するための最初の金融計画を作成しました。*Mons Pietatis* として有名なこれら初期の質屋を始めたのは、フェルトレのベルナルディーノ(Bernardino of Feltre)とテルニのバルナバ(Barnaba of Terni)という二人の兄弟で、1462 年のことでした。他の修道会を含む社会の他の様々なセクターからの反対にも拘わらず、兄弟たちは低い金利で金を貸す確実な方法を提供し、それによって貧しい人々が高利貸しの手に陥ることなく借金を返せるようにしたのです。1515 年に、これら自営の貸付業者は、第五ラテラノ公会議の後、教皇レオ 10 世によって正式に認可されました。似たような信用組合が、まず北イタリアに、ついで国中に生まれました。これが今日の銀行の前身です。

つい最近では、イタリアの兄弟たちは国際的レベルの貧困の問題に関して懸念を表明しています。1991 年にイタリアの小さき兄弟会管区長会議(Conference of Ministers Provincial of the Italian Friars Minor, COMPI)は『経済的倫理の世界的挑戦』(*Global Challenges of economic Ethics*)という革新的な文書を出版しました。この文書は国際債務の問題と、それが貧しい人々の生活に直接及ぼす影響に対してより深い認識を促すものでした。

体験学習交流：今日、世界の様々な地域における貧しい人々の問題を明らかにす

るもう一つの方法は交換訪問です。これによって、ある国のフランス人が他の国々の共同体の努力や体験にじかに触れることが可能になります。このような体験プログラムの一つとして、7人の韓国人兄弟のグループがフィリピンの首都マニラの最も貧しい地域のいくつかを訪れました。後に自分たちの体験を振り返って、韓国の兄弟たちはこのような都市部で人々と一緒に暮らしているフィリピンの兄弟姉妹たちから特に感銘を受けたと言っています。マニラ周辺の貧民街で生き延びるために苦しんでいる何百、何千もの家族は政府による地域の再開発計画のために、毎日立ち退きや強制的取り壊しの脅威に直面しています。同様に、米国では、カリフォルニア管区の養成プログラムにはグアテマラで過ごす期間が含まれています。兄弟たちはそこで、中央アメリカで最も貧しい人々の生活と苦しみをじかに体験することができるのです。

日本：日本では、ピオ本田哲郎の徹底した貧しい人々の優先が兄弟たちの間で論争的となっています。修道会が1985年にバヒアで総評議会を開いたのは、彼が管区長であった時のことでしたが、この会議はいつまでも深い印象をピオ本田に与えました。彼は新しい改宗者の情熱をもって、管区の兄弟たちが貧しい人々と共に預言者的な生活を送ることができるように努力しました。彼の熱意は管区内の一部の兄弟たちには受け入れられましたが、他の兄弟たちには深刻な問題を引き起こしました。管区長としての嵐のような任期の後、ピオ本田は大阪市の釜ヶ崎という地域へ行きました。日雇い労働者として働くためです。日雇い労働者とは、表面的には繁栄し成功しているこの国の中で最も恵まれない人々のグループです。釜ヶ崎は、このような失業労働者の四大寄せ場の一つで、日本が農業国から工業国、技術国へと急激に変化するにつれ、何千人もの雇用されない労働者たちがこの地域へ移住してきました。健康な人々は毎朝四時ごろに、しばしば危険で困難な作業と引き換えの日当を求めて集まってきます。何年もの間、これらの労働者たちは、雇用主としての義務を果たす必要のない労働力として常に肉体労働を提供してきたために、急成長する日本経済の安全弁とみられていました。経済が落ち込むと、それはそのまま日雇い労働者にはね返りました。統計が示すように、このような仕事が劇的に減少したからです。ますます多くの人々が小さなアパートの部屋から追い出されて、施しに頼る路上生活を余儀なくされています。家賃を払うことができる人々でさえ、地域住民の言葉を借りれば「しばしば人を動物のように扱う」警察や地方当局による嫌がらせに直面しています。労務

上の事故による怪我の数はものすごく増えているにも拘わらず、怪我をした労働者への医療の質は悪いことで有名です。現在、ピオ本田は釜ヶ崎の貧しい人々の中で他の兄弟たちといっしょに住んでいます。彼らは、失業中の人々が食事をしたり、無料で散髪をしてもらったり、歓迎される雰囲気の中で人々と交流することのできるデイセンターを開設しました。

ヨーロッパの国々でも、自分たちが仕えようとしている貧しい人々と肩を並べて暮らすという選択をする兄弟が増えています。多くの兄弟たちにとって、このように貧しい人々と関わるということは歴史上の出来事に左右されるものでもありました。第二次世界大戦中のフランスで、司祭や修道者の大多数は工場などで強制労働をさせられていました。こうしたいわゆる「宗教的労働者」たちは、いっしょに働いている人々 しばしば、教会を離れてしまったキリスト者 - との日常的接触が非常にやりがいのあるものだということに気がつきました。社会的福音が活力を得、そのことは多くの労働者たちの信仰の再生に現れていました。戦争が終わると、これらの宗教的労働者たちは、「労働司祭」(Worker Priests)として福音を生き、市場で宣教することによって司牧を続けました。ピエール・アラルは、1997年に亡くなるまでの40年を都市部の貧しい人々と共に生活する活動的な労働司祭として過ごしました。彼と二人の兄弟はパリの町外れに住み、アフリカの国々からの新しい移民たちの問題にますます深く関わるようになってゆきました。ドイツでは、Karl Mohring と Joachim Stobb がやはり労働司祭として生活しています。ピエールと同じように、彼らも自分たちの選んだ生活様式をフランスのカリスマを証しするものと考えており、他のフランスカン共同体や志を同じくするパートナー組織との協力が自分たちの司牧に必要な要素であると信じています。ピエールは彼の共同体の国際地雷廃止運動 (International Campaign to Ban Landmines) への関わりの実例を挙げて、他者とのパートナーシップによって貧しい人々の声はより大きな信頼を得ると言っています。

米国では、多くの古い小教区が都市部の貧しい人々の新しい問題に対処するために既存の組織を再構築しています。これらの大きな小教区は、世紀の変わり目には移民のカトリック家族によって栄えましたが、これらの家族がより豊かな郊外に移るに従って次第に寂れてきました。ニュ・ヨークからサンフランシスコ、

ニューオーリーズからデトロイトやシカゴにいたる各都市で、こうした小教区で働く兄弟たちは現在、アルコールや薬物の依存症者、路上生活者、エイズ感染者のために様々な奉仕活動を行っています。

ジョー・ナングル (Joe Nangle) が 1970 年代にニューヨークを発ってペルーに向かった時、それは彼の心と生き方を変える回心の体験の始まりとなりました。中流の上層階級の小教区で働いていた時、彼は裕福な人々 教会の仕事のほとんどは彼らのために行われていました と非人間的な劣悪な環境で暮らしている貧しい人々との激しい格差に気づくようになります。ラテン・アメリカの司教たちがコロンビアのメデリンに集まって、教会の徹底した貧しい人々の優先に関する最終的な声明を発表した時、ジョーにとって決定的な瞬間がやって来ました。現在、ジョーは首都ワシントンの経済的に落ち込んでいる地域の中心にあるアッシジ・ハウスに住んでいます。彼は正義と平和を積極的に追求する人々、聖職者、信徒から成るこの小さなフランシスカン共同体を設立するのを助けました。これは貧しさと分かち合いの生活を証しするものです。ジョーはフランシスカン・ミッション・サービス (FMS) という「逆ミッション」(reverse mission) の役割を重視する組織の指導者です。「逆ミッション」とは、ボランティアが米国に帰国してから行われるものです。

アフリカの大湖水地帯の兄弟たちは、ブルンジ、ルワンダ、ザイールの民族紛争ですべてを失った人々に必要不可欠な援助を提供しています。難民たちの間での彼らの存在は、貧しい者の中でも最も貧しいこれらの人々の間で生きるという彼らの献身を見事に証しています。VJEKO CURIC はクリスマス休暇中にルワンダで起こった感動的な連帯の実例を話してくれました。「クリスマスの間、何千人もの難民がタンザニアから戻ってきました。教区ではありったけの車を使って最も疲労の激しい人々を家に運ぶ手助けをしました。私たちの病院の医療チームは常に活動していました。何人もの女性がトラックの中や道端で出産しました。私たちはいたるところですばらしい連帯の行為を目にしました。たとえば、持っているわずかな食料や身に付けていた衣類を差し出す人々がいたのです。私たちのワーカーの中には、クリスマスの給料として前払いで受け取ったお金を差し出す人も何人かいました。司教自身も通りにいる人々の状況を知り、彼らと話すために頻繁に出かけ、できる限りの手助けを申し出ました。国連、赤十字、国連難

民高等弁務官事務所のような最も重要な国際組織は、この救いがたい悲惨な現場にはいませんでした。キガリから Kabgayi, Butare にいたる道路は移動する人々でごった返していました。しかし、そこにいたクリスチャンたちは、その道を共に歩いているのがイエスであると感じていました。クリスマスのミサでは、一人一人が食べ物や衣類、現金を差し出しました。そして、代表者たちはこれらの寄付を分配するために外に出てゆきました。いつでもそうであるように、最も美しい贈り物は子どもたちからのものでした。彼らは、自分たちよりも恵まれない子どもたちに差し出すために、たくさんのももの（キャンディー、アボカド、サツマイモ、豆、エンドウ豆、調理や燃料のための薪）を集めていました。VJEKO は 1998 年、ルワンダで射殺されました。

ANASTACIO RIBEIRO は、他の多くの兄弟たちと同じように、ブラジルの土地を持たない人々と共に働いています。彼はこの 20 年間、農業地帯に住んできました。そしてここ 7 年の間は、ブラジル北東部のいくつかの州で働き、2000 以上の家族が休閑地に住み、最終的にはそこを所有することができるよう援助してきました。このプロセスは長く、困難で、しばしば危険を伴うものですが、ブラジルの貧しい人々による解放運動の鍵となっています。旧約聖書のユダヤ人たちが新しい土地へ導かれ、そこで救いを見いだしたように、兄弟たちも土地のない人々を新しい故郷へ導き、そこで彼らが家族を育て、教育し、社会の民主的構造に参加することを学ぶことができるようにしたいと考えています。使われていない土地に「定住する」これらのグループは絶えず攻撃され、しばしば追い出され、時には殺されることもあります。彼らは別の土地に移動して、そこに住み着きます。やがて、彼らは作物を育てることができるようになり、政府に土地を没収させ、土地を持たない人々に分配させるための長く、激しい法的闘争を始めるようになります。ANASTACIO はブラジル政府によって絶えず嫌がらせを受け、逮捕され、長期投獄の脅しを受けていますが、彼を支持する国際的なキャンペーンの助けによって自由でいることができます。

JUSTUS WIRTH はテキサス州のメキシコとの国境に近いところに住んでいます。彼は人間らしい生活を求めて闘う貧しい人々を援助する兄弟のもう一つの具体例となっています。彼は様々な出版物に、メキシコおよびそれを取り囲む北米・南米の人々の窮状を訴えるための数え切れないほどの記事を書いてきました。

最近では、彼は北米自由貿易協定（NAFTA）（North American Free Trade Agreement）がメキシコ北部の人々に及ぼす有害な影響について人々の意識を高めるために熱心に働いています。Justus はまた、1996年11月にローマで開かれた国連食料サミット（United Nations Food Summit）のインターフランシスカン代表団のためにきわめて重要な資料を提供しました。彼はその中で、伝統的な農地から切り離された1500万人のメキシコ人の窮状（これはラテン・アメリカ全体の同様の都市化問題にも反映されています）に焦点を合わせ、国連の食料農業機構（UN's Food and Agriculture Organization）が発展途上国の基礎的食料の自給自足を助けるという現行の方針を継続するよう促しています。私たちが共に生き、じかに接する人々から得る正確な資料を提供することは、往々にして政府が提供したがない証拠書類に裏付けられた情報を集めることになり、国際レベルでの擁護運動の要でもあります。

会憲の参照事項

その他の参照事項：第8条1-3、32条3、34条2、66条1-2、72条1-3、78条1-2、87条1と3、93条1、132条。

1. 最近、あなたの人生に重大な影響を与えた貧しい人は誰ですか？その影響とはどんなことですか？
2. あなたは今まで、落ちこぼされたと感じたことはありますか？あなた自身についてどんなことを教えてくれましたか？兄弟会についてはどうですか？あなたの社会についてはどうですか？
3. 私たちの地域の兄弟共同体は、貧しい人々とじかに接したり、直接的な関わりを持っていますか？持っていないとすれば、どうしたら持てるでしょうか？
4. 私たちは、訪ねてきたり、電話をかけてきたりする貧しい人々をどのように遇しているのでしょうか？

- 5 . 私たちの共同体は、貧しい人々の優先に関する管区の決定を支持しているでしょうか？経済的には？倫理的支持は？
- 6 . 貧しい人々と働くことは、私たちの管区のアイデンティティーを形成してきたでしょうか？どのような形で？
- 7 . あなたは今まで、雑誌やその他のメディアにおいて自分の意見を述べることによって、新聞に見られる貧しい人々の虐待に抗議したことがありますか？投票によって抗議したことはありますか？
- 8 . 貧しい人々を優先することによって、家族との間に争いが生じたことはありますか？争いをどのように解決しましたか？
- 9 . 貧しい人々との関わりにおいて、個人的レベルと共同体レベルの双方で、私たちはどのような段階にいると思いますか？その関わりを深め、発展させるには、どのような具体策が考えられるでしょうか？
- 10 . 私たちの兄弟共同体の生活（祈り、宣教、会話、生活様式）の中で、貧しい人々の優先は現実的にどのような重みを持っているでしょうか？
- 11 . 私たちの地域の兄弟共同体において、貧しい人々・落ちこぼされた人々と交わり、彼らを優先するために、今何をすることができるでしょうか？
- 12 . 個人的レベル・兄弟共同体レベルで、消費主義に対する私たちの態度はどのようなものでしょうか？
- 13 . 兄弟たちに、この世界で不正の状況の原因となっている政治的・社会的構造に気づくように要求するのは正当なことでしょうか？それとも、貧しい人々への直接的な奉仕に取り組むだけで充分でしょうか？
- 14 . フランシスコが 13 世紀に行った貧しい人々の徹底的な優先のほうが、21

世紀初めの今日私たちがそうするよりもたやすかったですでしょうか？

- 15 . 貧しい人々を最優先した現代の兄弟を誰か知っていますか？彼らの仕事を支えているのは何でしょうか？彼らとその働きをどう思いますか？

2. 平和のために働く



小さき兄弟会会憲第 68 条

1. 兄弟たちは、善を行うことによって悪に打ち勝ち、この世界で正義の擁護者、平和の先駆者および働き人として生きる。
2. 口で平和を告げ知らせ、心にはより深い平和を保って、兄弟たちは、誰も怒らせたり、憤慨させたりせず、かえって自分たちを通して、すべての人に平和、柔和さ、優しさを取り戻させる。

フランシスコの生き方から・・・

フランシスコが平和の働き手であったことは、神が彼に教えてくださったあいさつ「主があなたに平和を与えてくださいますように」(Test) から明らかでしょう。神のみ手により創られたすべての人々と結ばれているという連帯感が平和のために働くフランシスコの努力を支えていました。小さき兄弟たちの謙遜が兄弟会内の平和を推進し(1Cel38)、すべての人に対し平和で優しくあろうと努力する(1Cel41)原動力となっていました。フランシスコは兄弟たちが旅に出る時「争ったり、口論したり、他人を裁いたりせず、つねに柔和で平和を愛し、慎み深く、温和、謙遜であり、すべての人に対しては、修道者にふさわしく礼儀正し

い言葉を用いて話すように」(RegB c3)と勧めています。彼自身の説教は平和と救いを告げ知らせ、「以前にはキリストに逆らい、救いから遠く離れていた多くの人々をまことの平和のきずなによって」(LM3:2)一致させるものでした。まことの平和の働き手は「この世でどんなことを忍ぶにも、私たちの主イエス・キリストへの愛のために、心身の平和を保つ人である」(Adm 15)とフランシスコは述べています。フランシスコはその誠実さと「人は神のみ前にあるだけの者であって、それ以上の何物でもない」(Adm 20)という信念によって平和をもたらす人でした。フランシスコによれば、「平安と観想のあるところに、不安も放浪もない」(Adm 27)のです。フランシスコはすべての人のために天からのまことの平安を求めました。彼は、人々に「隣人を自分自身のように愛しましょう。もしだれかが隣人を自分自身のように愛することをのぞまないなら、その人は、少なくとも彼らに悪をもたらさず、善を行うべきです」と諭しています。(EpFid)

フランシスコはイタリアのいくつかの都市に平和をもたらしました。アレツォでは、市民の争いを招いている悪魔が町から出てゆくように兄弟シルベストロに祈らせました(LP81)。フランシスコの助けによってグッピオの人々は、恐怖を掻きたてられていた狼との間で仲直りの契約を結ぶことができました(Fior 21)。スルタンがフランシスコを敬意をもって遇したのは、フランシスコが平和の人であることを見抜いたからに違いありません(1Cel57)。アッシジの司教と市長との確執に対して、フランシスコは「太陽の賛歌」に次の2節を付け加えました。

私の主よ、あなたはたたえられますように、

あなたへの愛ゆえに赦し、

病と苦難を

堪え忍ぶ人々のために。

平和な心で堪え忍ぶ人々は、

幸いです。

その人たちは、

いと高いお方よ、あなたから

栄冠を受けるからです。

ポルチウクラで祈る人々のために教皇から与えられた「アッシジの免償」と有名なグッピオの狼の物語の二つは、フランシスコが平和をもたらすために働いたことを示すよい例でしょう。グッピオの狼の物語は、その歴史性が疑わしい後代の資料にしか登場しないということを認めなければならないとしても、この物語には多くの教訓が含まれています (Fior 21)。

グッピオの狼の物語から、出来事について順を追って検討してみましょう。

- ・ 凶暴な狼がグッピオの町の人々を怖がらせている。狼は動物や人を襲う。人々は町の門の外に出ようとはしない。
- ・ フランシスコはこの町に滞在し、町の人々に深く同情する。
- ・ フランシスコは一人の仲間をお伴に、町の外へ狼に会いに出てゆく。何人かの農夫が加わるがすぐに帰ってしまう。
- ・ 狼が荒々しく近寄ってくる。
- ・ フランシスコが狼に十字架の印をすると、狼はおとなしくなる。
- ・ フランシスコは狼を「兄弟」と呼び、彼の残忍さを叱って彼と契約を結ぶ。
- ・ 彼らは一緒に町へ向かう。
- ・ フランシスコは人々に回心するように勧める。契約が公式に更新され、町の人々は狼に餌を与えることを約束する。
- ・ 契約は尊重され、みな幸せになる。

この物語の中で、以下の点を指摘することができます。すなわち、

- ・ 「キリストはすべての被造物の主である」と認め、キリストの力に全幅の信頼を寄せたフランシスコの勇気。
- ・ 相手に脅威を与えないフランシスコのアプローチの仕方：武器ではなく十字架の印を使った。
- ・ 狼をはっきりとその罪に直面させたフランシスコの勇気。しかも同時に、狼がなぜそのような罪を犯したのかをフランシスコは理解している。
- ・ フランシスコは町の人々に対しても彼らの罪を指摘する率直さを持ち、しかも人々には安全が、狼には食物が必要であることを理解する。
- ・ 明確な契約が公的に作られるべきであるというフランシスコの主張。

1. 平和の働き手としてのフランシスコ

何世紀にもわたって、ある文化圏では、客が到着して「平和」(シャローム、サラーム)と言えば、それは彼が武器を持たずに友人としてやってきたことを意味しています。

フランシスコは啓示によって「神が平和をあなたがたに与えてくださるように」という言葉が与えられました。彼はこの言葉によって教え始めました。8世紀にわたり、フランシスカン・ファミリーは「平和と善」をあいさつの言葉として使ってきました。どんなあいさつも、それが願う人の中で現実となっていなければ、空疎な決り文句になってしまう危険があります。フランシスコにとって彼が願う平和とは、彼の心の中の平和と神の手から生まれたすべての被造物に対する深い尊敬から生まれるものでした。平和を願いながら平和の種を播かない人は、平和を願う人ではあっても平和の働き手ではありません。このような人は神から与えられた贈り物を伝えません。平和の働き手としてのフランシスコの秘訣とは、平和をもたらすのを自分の内なる神に任せたとのことです。グッピオの狼が彼に荒々しく向かってきた時、彼はその狼に十字の印をして「兄弟」と呼びかけました。こうした二つの行動によって、狼は十字架上で示されたキリストの愛によって町の人々と仲直りすることができ、被造物の家族の輪の中に再び招き入れられたのです。狼はその残虐な行いによってこの神の家族から切り離されていました。贖いの恵みを受けてから狼はおとなしくなり、フランシスコの叱責に耳を傾け、グッピオの人々と契約を結ぶようにとの彼の要求を聞き入れる用意ができたのです。

2. フランシスコは争いに立ち向かう

平和の働き手とは、「いい人」「話し方がソフトで誰とでも上手にやってゆく人」であると思われがちです。心理学者たちによれば、こうした鷹揚な人々が誰にでも同意するのは争いを恐れているからであって、神との平和に満ち溢れているからではありません。フランシスコは兄弟たちに、説教するとき論争にならないように、そして優しく、穏やかで、気取らず、謙遜であるように求めました。これらの性質は、小さき兄弟たちの基本的な特徴であると同時に不可欠な要素と

なるべきものです。だからといって、このことは真実を恐れることを意味しません。フランシスコも異議をさしはさむことを恐れませんでした。彼は会則をより緩やかなものにしようとする教皇とその助言者たちに敬意を払いながらも頑固に反対しましたし、十字軍とその非道な行いに抗議しました。スルタンにあなたは本当の神を知らないのだと言い、より快適な生活を求める兄弟たちに反対しました。また、彼は修道院の屋根瓦を認めず、投げ捨てたりもしています。そしてグッピオの狼に対しては、一切の曖昧さもなくその罪を指摘しました。フランシスコは砂糖のように口当たりのよい人ではありません。彼は強い信念を持ち、たとえ耳が痛いことであっても真実を語ります。だからといって、彼の異議の唱え方は脅迫的なものではありませんでした。彼は裏表のない礼儀正しい強さをもって接したので、誰からも敵意を持たれませんでした。対立する相手の聖性を尊重しながら、相手が忘れかけたその人自身の、神の眼から見たすばらしさを相手に気づかせようと努めました。フランシスコがこのようにできたのは、自分の財産や名声、エゴを守る必要がなかったからです。彼には神の名誉と神の愛以外に守るべきものはありませんでした。神は暴力的な人々を柔和な人々に変えて、「ご自分の」お創りになったすべての被造物との交わりの中に再び迎え入れることを望んでおられます。フランシスコは罪深さや悪行といううわべに惑わされることはありませんでした。装った不透明なうわべからでも、フランシスコは人々の中におられる神の聖なる現存を見ることができました。多くの人々は「この凶暴な狼を殺してしまおう。不信仰なスルタンを殺してしまおう」と叫ぶのですが、フランシスコは霊的な目で彼らの中におられる神の現存を見、それに近づくことができるのでした。

3. フランシスコの模範は今日の複雑な社会でも模範となり得るのか

フランシスコの模範は私たちにとっても模範となり得るのでしょうか。私たちはどうすれば世界紛争に平和をもたらすことができるのでしょうか。また、どうすれば私たちの平和が見えない闇の力に影響を与えることができるのでしょうか。現代の紛争の多くは、自分の文化を他者に押し付けることに端を発しています。プライド、民族主義、国家主義、経済的利害が現代の大量殺人に一役買っているのです。しかし、地球規模ではより巧妙な形で、ほとんどの文化が西洋文化、特に北アメリカの文化に侵略支配されています。この侵略はこっそりと行われます。

それは飲み物や食べ物の広告とか情報や娯楽のための映画の宣伝から始まるのですが、次第に生活様式に影響を及ぼすようになります。新しい考え方や行動様式が足場を固め、この新たに侵略してきた文化の基盤となるのは、すべてを数によって特徴づけ評価しようとする信仰であり、それはほとんど宗教的とも言えるものです。数理的模範がすべてを支配します。この新しい文化は、さらには、自由市場の原理をあたかも宇宙の法則、神の如きものとして提示するのです。

4．私たちに挑戦する暴力

キリストの弟子たちもフランシスコの兄弟たちも、このひたひたと押し寄せる暴力、すなわち、文化を根底から変えようとする暴力の挑戦を受けています。人々から人生行路の道しるべである独自の文化を奪うことは暴力であり、不正です。不正や暴力と闘いながら人間的であり続け、平和の働き手となるためには、私たち自身の聖性と出会う人々の聖性を認識することが絶対に必要です。対岸には市場文化というものがある、この世のすべてのものを量、特に富の量で評価しています。活発な経済を生む自由市場の法則が新しい文化、すなわち市場文化の倫理的基盤として押し付けられているのです。このような文化においては、無関心がすべてに浸透し、聖なるものが消えてゆく傾向にあります。文化がおもに金銭的な利得によって突き動かされ、人間と被造物の資源を富の蓄積のために用いる対象として見る時、その結果として聖なるものの感覚が失われるのです。生命の価値は低められ、政治体制を問わず、文化の中心に悪が巣食うようになります。

5．すべての人とすべての被造物の聖性に対する尊敬

盗賊、戦争犯罪者、拷問者、独裁者、自分の利益追求のために何億人もの人々に飢えをもたらす無慈悲な地主や投機家などを含むすべての人の聖性を尊重することは、私たちにとって非常に難しい課題です。これが難しいのは、多くの敵対者が顔の見えない組織や陰の利益を代表しているからです。時としてこれらの利益は明らかに軽蔑に値しますが、それに関わる人々は必ずしも軽蔑すべき人々ではありません。また、地球を破滅に導くようなエコロジーの危機の中であって、すべての被造物の聖性を尊重することもやはり難問です。問題は、凶暴な狼や庭の植物、通りかかる川の流れを尊重し兄弟として扱うことのみにとどまりません。

私たちに問われているのは、地球規模の空気や水、大地、人類の聖性の尊重です。地球の資源は人類全体のものであり、その汚染や破壊によって私たち自身が大いに危険にさらされているのです。核の脅威と権力によって富を蓄積する人々に対決するのは容易なことではありません。彼らの結末は予測がつかず、手におえないのです。貪欲が植物、動物、鉱物、農地、そして人類の発展に必要な地球の美など、地球上のすべての資源を破壊するのを眺めているのはたいへん辛いことです。これらすべての被造物は宇宙的なキリストの共同体、すなわち、生き続けて神の優しさを証しする自由な生き物の共同体の建設において役割を担っています。国際企業や政府が人類に対して無責任に振る舞い、その未来を脅かし、現在も既に多くの人々を苦しめている時、どうすればその責任者たちの目を覚まさせることができるでしょうか。彼らはどうすれば心を開き、すべての被造物を尊重することができるでしょうか。神は私たちの心を開いてくださいました。もし、私たちが彼らを裁くことなく、礼儀正しくゆるぎない努力によって彼らに回心を呼びかけるなら、神は彼らの心をも開いてくださるでしょう。あるいは少なくとも、神は彼らに知恵のありかを示し、彼ら自身の真の利益は、深い改心にあることを教えてくださるでしょう。

もし私たちが自分自身の尊厳に気づかず、自分たちの中に住んでおられる三位一体の神との深い交わりの中にとどまらず、すべての現実を数えることのできる「モノ」として捉える考え方に毒されてしまうならば、愛でさえももはや神秘ではなく「モノ」になってしまいます。そして、私たちに品位を授けてくださった愛であるお方の存在を認めることが難しくなってしまうのです。

6 . 非暴力の模範であり、源である三位一体

三位一体の非暴力性は、神がご自分の聖性を分かち与えられた人類の神秘を深く認識しておられることによって示されています。神は私たちの中に現存しておられることを認識されるだけでなく、私たちの旅を尊重して下さり、私たちがユニークで貴重な存在であり、内に聖なる資質を備えていることを認識させようと辛抱強く試みてくださいます。イエスはその生涯と死において、私たちに人間との非暴力の関わりを力強くお示しになりました。

行動的な非暴力は神の非暴力性をその方法論の模範にしています。その第一の基礎は二つの聖性の間の対話です。すなわち、暴力に身をゆだねることを拒み、自分自身の存在の中心(真の自分)に接している人々やグループが敵対する人々に彼らの中の聖なるものを再発見し、その再発見を紛争の解決に役立てるようと呼びかけています。暴力的な人々は必ずしも、意思の自由を必要とする内面的な旅をするわけではありません。内面的な強さとは自分の力に抗することのできる力であり、反対者の提示する条件のいくつかを受け入れることが自分自身の利益にもなるということを暴力的な人々が認識するためには、彼らが非暴力の人々によって拘束される必要があります。さもなければ、彼らは暴力的行動を続けることによって、さらに多くを失うことになりましょう。彼らは勇気、愛、不動の信念に直面しますが、それらは非物質的な源からその力を得ています。非暴力的な方法論が賢く実践されるならば、暴力的な人々の警戒心を解き、その頑固な論理の殻を破って彼らを解放するのです。

強調しておきたいことがあります。それは、非暴力は神から来るものですが、私たちが行動しない限り神の奇跡は起こらないということです。私たちフランス人の多くは暴力や不正のほとんどが複雑な動機によって起こり、高度に組織化されていることにまだ気づいていません。未解決の紛争のほとんどは、軍事的にせよ経済的にせよ、規模が大きく複雑なために、少数の誠実な個人の愛にのみ頼るのは単純で無責任に過ぎると言えましょう。しかし、これら少数の個人は自らの聖性を証しており、自分の聖性に気づいていない人々に挑戦しているのです。

7. 行動的な非暴力の方法論に親しむ

もし私たちが平和の働き手になろうとするならば、行動的な非暴力の方法論を知る必要があります。どのようなときに非暴力の行動が失敗したか、状況分析が不十分であったからか、非暴力のプロセスで何らかの大事な段階を省略したからではないか、などを知らなければなりません。非暴力が成功するときというのは、たいていの場合、長い準備期間を経ています。つまり、技術的、精神的な準備期間です。それなのに、物事を表面的にしか見ない人は、純粹に神の介入があったからだと考えます。入念な下調べをして、神に私たちが心から変革を求めているという印をはっきりと示さなければ、どれほど意思決定をしても神は私たち

の心を変えてはくださらないでしょう。私たちは賢く行動し、神のみ業に備えていなければなりません。神は予期せぬときに不意打ちをかけられることがあるからです。非暴力の方法論に従う勇気によって、私たちは神の聖性、その頑固な忍耐強さ、そして悪人たちに悪行をやめさせたいという神のご意志を伝える道具となるのです。愛に満ちた神は善を行う人をも悪を行う人をも同じように気にかけてくださいます。どちらも神の子どもだからです。神はご自分の聖性が善人にも悪人にも宿っていることをご存知で、そのどちらもが彼ら自身のため、また、神の体である教会を完成に導く新しい創造のために、破壊の苦い実ではなく交流の実を結んでほしいと願っておられます。たいていの争いの場合、味方は同様の士気を高めるために、敵対する相手方を悪魔のように言います。敵を中傷し、彼らを邪悪で、強情で、変わることのできない尊敬に値しない相手として描くのはよくあることです。しかしこのように、人間を「善人」と「悪人」に分けて考えることは、キリストに従う人々のすべきことではありません。私たちはそれぞれ、善い部分と悪い部分を併せ持っており、敵対する人たちも同様に悪い部分と善い部分を併せ持っているのです。もし私たちが神のあわれみを分かち合いたいと願うならば、暴力の被害者だけでなく、暴力と不正の虜になっている人々に対しても同様にあわれみの念を持たなければなりません。私たちは、現在手にしている、このような暴力や不正からの自由を明日失わないように祈らなければなりません。神の助けがなければ、私たちは敵の最悪の者と何ら変わるところがなくなってしまうでしょう。

8 . 真の平和の働き手となるために貧しくある必要性

フランシスコは何ものも失う恐れがなかったので、脅迫的にならずに異議を唱えることができた、と先にのべましたが、実際、彼は自分のものと呼べるものをほとんど持っていませんでした。平和の働き手となるということは、様々な恐怖を克服することと直接的な関係があります。たとえば、死、すなわち肉体的生命の喪失の恐怖、あるいは、部分的死とも呼べる擬似的死、すなわち、健康、名声、友人、所有物、特権などの喪失の恐怖、もしくは、私たちに力を与えてくれる愛が消えてしまうのではないかと、そしてついには墮落してしまい、憎悪に満ちてしまうのではないかと、という恐怖を克服することと関係があるのです。所有物や特権をほとんど持っていなければ、それらを失う恐れもないわけです。自分のイメー

ジにこだわらなければ、尊厳や生命が危険にさらされている人々をもっと自由に守ってあげることができるでしょう。歴史を振り返ると、一部の兄弟姉妹たちの勇敢さは、貧しさのうちに貧しい人々と生活を共にすることによって培われたものであることがわかります。彼らの真の豊かさは十字架上のイエスの傷ついたわき腹から流れ出る愛の力なのです。

非暴力の闘争は、貧しい人々、愛に満ちた人々の武器です。それは、孤立して闘うことを拒む人々の武器であり、彼らは集団的強調行動をとって闘うことに信頼を置いています。これは「蛇のように狡猾であること」を意味します。

人間も人間でないものも、すべての被造物は私たちの兄弟姉妹です。このことは比喩でもなければ、感傷でもありません。神は私たちと被造物全体を、キリストを頭とする *pleroma*（完全体）の一部となるように招いておられます。この完全体においては、神の現存への畏敬の念がすべての関係を変容させるのです。他者の中におられる神への畏敬の念こそが、真の平和と被造物の保全を広めてくれます。

私たちもその影響を受けて平和の働き手となりましょう。

Alain Richard, OFM

兄弟の生き方からの模範・・・

今日、戦争で引き裂かれた多くのアフリカの国々ほど、真の平和を作ることが必要とされているところは他にありません。現在の総長ジャコモ・ビニと他の二人の兄弟が1980年代初頭にアフリカ大陸で新しいフランシスコ会の活動を始めるにあたり、最初に入植したのが東アフリカの小国ルワンダであったということは興味深いことです。彼らはそこで現地の様式に従って簡素な家を建て、司牧活動を始めました。彼らの活動はやがてこの地域の8つの国々（ルワンダ、ブルンジ、ケニア、ウガンダ、ザンビア、マラウイ、タンザニア、マダガスカル）にゆっくりと広がってゆきました。今日、ケニアのナイロビに本部を置くこの最初の共同体の目標は、様々な国々と民族的背景を持つアフリカ人の召命を助け、真に国際的・多文化的な共同体を作ることです。この共同体建設はこの地域で和解と

架け橋作りの必要性がどれほど切迫しており重要であることを示しています。何人かの兄弟たちは、この平和への継続的な努力のために大きな犠牲を払いました。1986年、33歳の兄弟、ケヴィン・ロウラーがウガンダで殺されました。1994年、ルワンダで部族間の集団虐殺が始まった時、新しい在世フランシスコ会共同体の責任者が殺されました。同じ年の4月、32歳のツチ族ジョージ・ガシュギが荘厳誓願のわずか数ヶ月前に残酷にも殴り殺されました。1996年4月、VJEKO CURICはキガリから20キロメートル離れたキブムのフランシスコ会修道院に1人で帰る途中、もう少しで殺されるどころでした。銃と長いナイフで武装した3人の男が彼に金を要求し、壁のほうを向けと命令しました。CURICは咄嗟の機転で、開いていたダイニングルームのドアから逃げることができました。彼がフツ族とツチ族双方の民族グループを偏見なしに助けようとしたために、両方の過激派から脅迫を受けたのはこれが初めてではありませんでした。彼は、「たとえここにいる他の人々と同じように命を危険にさらしても」自分の使命を果たしつづける誓いを立てていました。1998年1月31日、VJEKOはルワンダのキガリにある聖家族教会の前で射殺されました。教皇ヨハネ・パウロ2世はVJEKOに敬意を表して、こう言いました。「自分の命を捧げることでキリストとアフリカの人々への愛を証しした宣教師たちの長いリストに、新たな犠牲者が加えられた」。

アフリカ大陸の他の地域では、兄弟たちは南アフリカという新しい民主的國家で進行中の癒しと和解の複雑なプロセスの中心にいます。国中の多くの「真実と和解の委員会」のメンバーたちは、人種隔離政策について被害者と加害者が真実を語るのに耳を傾けています。これに伴って兄弟たちは、個人や共同体が40年以上にわたる抑圧と残虐行為から立ち直るのをゆっくりと手助けしています。

「南アフリカは自らの魂をみつめ、ゆっくりと痛みを伴いながらも再生しようとしている心に傷を負った国です」。これは、アイルランドの兄弟パディー・ヌーナンという言葉です。彼はこの25年間、ヨハネスブルグの南にある最も貧しい黒人居住区で働いてきました。そこでは、暴力と不正が生きるための手段となっていました。ヌーナンと他の兄弟たちは、虐殺が起こったことで有名なボイパトングの近くに住んでいます。そのとき彼は最初に現場に到着し、夜の間起こったひどい大虐殺を目撃したのでした。「あのような虐殺が自分の周囲で起こってい

たら、平和を作ることを最優先に考えるというわけにはいきませんでした」と、彼は歌うような優しいアイルランド訛りで説明してくれました。(彼は仕事のときはたいてい、地元の黒人居住区の方言を話します。それが地元の人々に馴染む唯一の方法だと信じているからです。)
「真っ先に頭に浮かぶのは『こうしたことの背後にいるのは誰か』という疑問です。この国で人種隔離政策を終焉に導き、平和を語ることをさらに難しくしている目に見えないたくさんの闇の力が働いていたからです」。このような暴力と抑圧の中で希望を持ち続けることは、彼にとっては難しいことだったに違いありません。彼は1992年のボイパトングの虐殺の後、人々の住む掘っ立て小屋を訪れたときのことを振り返って言いました。
「何時間もの間、傷つけられ、殴り殺された人々を見、彼らの家族の話を聞いた後、道で通りがかりの男性が私に歩み寄り、『神父様、私たちはここに主がおられることを知っています』とささやいたのです。普通の人々がこのように希望を持ち続けている時に、我々教会関係者に疑う権利などあるでしょうか」。ヌーナンはまた、今は政府の要職についている人種隔離政策反対運動の一部のリーダーたちとも親しくしていました。「政治的なストリート・ファイターたちと話をするのも私たちの司牧活動の一部でした。私たちは、彼らが共産主義の反逆者ではなく、まともな人々であることを知っていました」。

このように南アフリカの状況を内側から見ることによって、教会は人種隔離政策反対運動を支援するためにますます積極的な役割を果たすようになってゆきました。「私たちは常に、団結したキリスト者の最前線で働いてきました」とヌーナンは強調しています。「政治的グループや市民グループが追放されて姿を消したとき、その後の空白を埋めるために参加したのが教会でした」。彼は約7年間続いた家賃・公共料金のボイコットの例を挙げて、このように言っています。「フランシスコ会の全小教区が参加して、公共料金を支払うことを拒否したのです。なぜなら、これが最も効果的な非暴力の抵抗運動の一つだったからです」。地域の役人が町の電気を止めると脅した時、ヌーナンと他の司祭たちのグループは、事態を打開するために交渉を試みました。しかしその試みは失敗し、機動隊が出動してグループは逮捕されました。平和のための戦いをこのように個人的に体験したことによって、南アフリカの最終的な解放はヌーナンにとり、筆舌に尽くしがたいほどの喜びの出来事となりました。彼は1994年4月に行われた最初の民主的選挙を監視するために同じ黒人居住区に留まりました。ヌーナンとオー

ストリア出身のウーリッヒ・ザンカネッラは選挙管理委員として公務を果たしました。ヌーナンは地域の管理委員として、またウーリッヒは南アフリカ司教協議会の招きにに応じて国際選挙管理委員として働きました。「私のフランスカンとしての使命という点では、この選挙を監視したことは人々と共に最後の1マイルを歩くような感じでした。それは、アパルトヘイト時代の地獄と罪の後に続く新しい平和と民主主義の時代の到来を告げるにあたって、人々と共にあるというジェスチャーだったのです」。

平和の元后聖マリア管区のデイヴィッド・バーナードは、イギリスでの休暇中に強烈な体験をしました。彼はそこで、未だに南アフリカを悩ませている人種的・部族的な偏見について考えるチャンスを得ました。生まれて初めて、彼は白人中心の共同体の中の黒人修道者として感じていることを一定期間にわたって話し合うことができたのです。この重要な国際的体験を通して、彼は自分の怒りを分かち合い、祖国に帰還した時、大きなフランスカン・ファミリーの中でゆるしの力を発見することができました。

地方の主任司祭ピーター・ウィルソンにとって、南アフリカの和解の体験はこれとはかなり違っていました。ピーターが初めて「白人を受け入れ、ゆるす」ようになり、恨みから解放されたと感じたのは、刑務所の中でのことでした。「それはすばらしい気分でした。結局、すべての人を受け入れることはアフリカの文化の一部なのです。私は「黒人・白人」という差別用語で語りたくはありません。アフリカーナ - (南アフリカ生まれの白人) は、もうアフリカの一部となっています。私たちは復讐をもとめたことはありません。正義がほしかっただけです。私たちはアフリカーナの政策と闘っていたのであって、人々と闘っていたわけではありません」。

ラテン・アメリカやアジアでも、兄弟たちは自分の属する共同体の中で平和のために働き続け、弾圧的な政治体制が覆され、民主主義が弱々しく胎動するのを見てきました。たとえばフィリピンでは、兄弟たちはフェルディナンド・マルコスが1986年ピープルズ・パワー革命によって失脚するまでの長い弾圧政権下で、正義と平和のための戦いの最前線にいました。人々が立ち上がった時、兄弟たちは、大半の人々が長い間ひどい抑圧に苦しんできたにもかかわらず、人々の抵抗

運動を非暴力のレベルに留めるのに中心的な役割を果たしました。マルコスが権力の座を追われてからも 10 年間、兄弟たちは人々にもっと大きな社会的正義を求め続けました。この人口密度の高い島国の経済はマルコス時代の壊滅的な状況からゆっくりと回復しつつありますが、独裁政権の名残は相次ぐ政治腐敗と次々と襲う自然災害と相まって、貧困と暴力が今日のフィリピンの悩みの種であることを示しています。南のミンダナオ島では大規模なイスラム共同体の指導者たちが何らかの形の政治的独立を要求しており、政府はこれまでのところこの問題を解決できていません。兄弟たちは時として周囲の暴力の嵐に巻き込まれることがあります。たとえば、1992 年 10 月、オーガスティン・フラッツザック (Augustine Fraszczak) はイスラム過激派に銃を突き付けられて誘拐され、2 ヶ月以上にわたって監禁されていました。この兄弟の釈放を知らせる声明文の中で、兄弟たちは次のように語っています。「誘拐という犯罪をなくすための最も重要なステップは、バシラン (ミンダナオ島南西にある群島) の社会的、経済的状況を改善することである。」

日本では、フィリッポ濱田とヨブ戸田が発起人となってアジア太平洋地域の人々の和解と理解の推進を図っています。1995 年 8 月、日本が戦後 50 周年を記念した時、二人はアジア太平洋地域で 2000 万人以上の生命が犠牲となった暴力行為に対する人々の赦しを求める声明文を作成しました。この声明の中で、両兄弟は戦前の日本のカトリック教会が直面した多くの困難について述べると共に、教会の無力さを謝罪しています。なぜなら、教会は政府に対して立ち上がり、特に中国と朝鮮半島で残酷な抑圧を受けていた人々を守ることができなかったからです。

その他、ボスニア・ヘルツェゴビナやクロアチアなど、紛争後の状況の中で、兄弟たちは恒久平和の前提としての和解を促進するために働いています。フランシスコ会はこの地域で 700 年以上にわたって宣教活動を続けてきました。最近の紛争によって 3 名の兄弟が亡くなり、戦闘によって修道院、教会、その他のフランシスコ会のセンターが破壊されたために、負傷したり祖国を逃れなければならなかった兄弟たちもいます。

これらの傷を癒すための努力の一環として、ボーズ・ブレタとフランシスカ

ン・ファミリーは、フランシスコ会平和の文化研究所 (Franciscan Institute for the Culture of Peace) を設立しました。1996年4月に開設されたこの研究所はスプリト(クロアチア西部の港市)に本部を置き、ボスニアの首都サラエボに異民族間、異宗教間の対話のためのセンターを数箇所設置しています。この研究所の目的はこの地域の平和に関するあらゆる問題を綿密に調査し、かつては敵対していた者同士の対話を促進し、特に、若い人たちに平和教育プログラムを提供することです。ボーズは研究所は成功すると楽観的に考えています。「もしボスニアとクロアチアの人々が聞く耳を持つとしたら、それはフランシスカンに対してでしょう」と彼は苦笑しながら述べています。「彼らは我々を信用しています。ですから、我々は彼らの信頼を平和と和解の追及という良い目的に利用しなければなりません。我々の目標はまた、相互理解を深め、異文化、異宗教に対する尊敬の念を培うことにより、これ以上紛争が起きないようにすることでもあります。このような相互理解と尊敬は、共産主義政権下で完全に破壊されてしまいました。兄弟たちはまた、ゆるしに関する会議を大々的に宣伝して開催し、科学者、心理学者、ソーシャルワーカー、カテキスタ、異宗教間の対話の専門家を一堂に集めました。この会議は大成功を収め、兄弟たちはゆるしに関する本を出版しました。この本は戦争後のトラウマの問題を扱っている人々のための手引きとして広く利用されています。

戦争中ずっと怪我人の世話をしてきたヘルツェゴビナの兄弟たちは、平和を推進するための努力の一環として、地雷のために四肢を失った人々のためのプロジェクトを始めました。兄弟たちはドイツの整形外科工場と連携して、1996年だけで204名の人々に義足や義手を提供することができました。また同じ年に、同様のシステムで歯科治療サービスを行うことにより、1286名の人々に歯の治療を施すことができました。

アイルランドのフランシスコ会宣教師は、何度もアジア、アフリカ、ラテン・アメリカで和平工作の最前線に立ってきました。しかし皮肉なことに、兄弟たちが北アイルランドに戻ったのはつい最近のことで、プロテスタントの宗教改革以来何世紀もの間フランシスカンは不在だったのです。1984年、リーアム・マッカーシー(Liam McCarthy)は、他の3人のフランシスカンと共にクララ会のグループの援助要請に応えて、ベルファストの波止場周辺地域の工業地帯にある聖ヨ

セフ教会に最初の「新しい」共同体を設立しました。それはリーアムにとって、アイルランドのフランシスコ会の歴史に遅まきながら記された 1 ページであり、また北アイルランドのセクト共同体間で和解とゆるしのプロセスを固めるための絶好の機会でもありました。平和と和解のグループが北アイルランド全体に生まれ始めました。この中には様々な宗教が参加するシャローム・プレイヤー・グループもありました。1993 年に兄弟たちは二つ目の家、いわゆる地域に根ざした共同体ハウスをバリーマフィーに開設しました。これは、西ベルファストの IRA カトリック共同体の人々に援助プログラムを提供するものでした。彼らの偏見のなさが、プロテスタントとカトリック双方の伝統を引き継ぐ在世フランシスカン同士の対話を促し、彼らの存在が北アイルランド全土で平和のためのエキュメニカルな活動を励ましています。

OFM ローマ管区は、コリにある空家の修道院を使って、若い人々のために「平和のための若き教育者たち」という名の宿泊設備付きの養成プログラムを立ち上げました。パオロ・マイエロによれば、フランシスコとクララの生き方に感銘を受け、今日のフランシスカンの活動を目撃している多くの若者たちは、自分の属する社会の中で積極的な平和の働き手となる新たな方法を模索しているとのことです。

平和のためのフランシスカンの協力には、管区や管区協議会を超えたレベルの努力も含まれます。1995 年夏、トレド（スペイン）の 2 人の兄弟エミリオ・ロカ (Emilio Rocha) とフリアン・マルティン・アラゴン (Julian Martin Aragon) は、トラック何台分もの医薬品をスペインの薬局から集め、ボスニアの難民たちに送り届けました。地域の人々の連帯と協力を得て、エミリオとフリアンはボスニアのフォジュニカ (Fojnica) 修道院で数週間生活しました。そこはイスラム市民軍によって 1993 年 11 月 13 日に兄弟レオン・マテ・ミジッチ (Leon Mate Migic) とニコラ・ニキカ・ミリセヴィッチ (Nikola (Nikica) Milicevic) が殺されたところでした。

北米では、反核運動、特に「ネバダ砂漠体験」は、兄弟たちが異なる様々な経歴を持ちながら平和運動に参加している他の宗教者や一般人と共に働く一例となっています。米国防空軍の指導員の経歴を持つ反核活動家というのは珍しいもの

ですが、ルイス・ヴィターレは、米国の軍隊当局の一員としての体験と第二バチカン公会議の変化の影響を受けたことが相まって、フランシスカンとその平和運動に関わるようになったのです。社会学の修士過程を終了した後、ルイスは教区の社会正義事務局設立のためにラスベガスに行くように依頼されました。やがて、彼はアメリカとイギリスの政府が地下核実験を行っているネバダ核実験場の問題に気づき始めました。彼は後にこれを「おそらく史上最大の環境災害」と述べ、このことに対する関心の低さに疑問を抱くようになります。

ルイスは次のように述べています。「政府が新兵器を実験し開発し続ける限り、軍備競争は続くということは明らかでした。私たちは包括的核実験禁止という限られた目標を達成するために、ネバダでの核実験に対する人々の注意を喚起し、抗議行動や他のイベントを組織しました」。

毎年恒例の祈りの集いや他のキリスト教及びアメリカ先住民の団体との協力を通して、次第に参加者たちは1回1回の実験がいかにも地元の環境と土着のシヨシヨネ族の人々の生活を破壊しているかということに気づき始めました。実験のもたらす害悪が次々と科学的に証明されてゆくにもかかわらず、例年の徹夜の祈りによるデモは州政府や国の当局による厳しい抵抗を受けました。デモに参加してその場で逮捕された人々の数は1980年代に着実に増え続けましたが、この反対運動は世界中の人々から支持されて強化されてゆきました。ヘルマン・シャルックは1991年に総長に選出されて後、その職務について最初の巡礼地としてネバダの実験場を選び、祈るために砂漠に向かいました。政府の高官や司教、様々な宗教の代表者たちによる訪問は、人々の意識に強烈なインパクトを与えました。実験場で働く人々の一部の平和活動家と次第に個人的に知り合いになり、初期に見られた緊張関係は和らいでゆきました。ソビエト連邦の崩壊によって包括的核実験禁止条約は可能となりましたが、平和運動は今なおすべての兵器システムの実験禁止のために続いています。

聖地特別分管区のアロイジオ・フロリオは、1991年の湾岸戦争中に兄弟たちが実際に行った社会参加をよく覚えています。当時多くの人々は避難しましたが、フランシスカンの共同体は地域の人々と共に留まったのでした。「様々な信仰を持つ人々の間に私たちが平和的に存在し、彼らに食べ物を与え、彼らの話を聞き、

死者を葬ったことは、聖地に住む人々に対する我々の 800 年間にわたる社会参加の具体的な表れでした。この社会参加は、1994 年ヘブロンのもスクで祈っていた 20 人以上のパレスチナ人が虐殺された時にも再度見られました。聖地特別分管区は、これをユダヤ系住民による「犯罪行為」と呼んで、公的に非難したのです。管区の代表クラウディオ・バラットとアルベルト・ロック、パオロ・マストランジェリ、ハリム・ノージャム、ジョージ・アブ・カゼンは早速ヘブロン市議会を訪れ、何百人もの負傷者を見舞いました。それは、しばしば西側諸国のキリスト教徒に「忘れられ、無視されている」と感じているパレスチナ人たちへの彼ら平和の使節団の使命でもあったのです。

会憲

第 1 条：2

聖フランシスコの弟子である兄弟たちは、悔い改めのあかしと、小さき者であることのアカシを立てなければならない。また兄弟たちは、すべての人に対する愛のゆえに、全世界に福音を告げ知らせ、和解と平和と正義を、行いをもって説かなければならない。

その他の参照：33 条、1；39 条；69 条、1-2；70 条；95 条、1-3；96 条、2；98 条、1-2。

討論のための質問

1. 平和の働き手となる体験をどのような形でしたことがありますか？使徒職の中で？地域社会の中で？家族の中で？管区全体として？
2. あなたが住んでいる都市や国で平和の最も大きな障害となっていることは何ですか？
3. あなたが住んでいる都市であなたやあなたの属している共同体は平和のためにどのような貢献をすることができるでしょうか？
4. あなたの国や地域の司教は平和のために働くことを最優先事項と考えていますか？そうした試みに個人的に協力するにはどうすればよいでしょうか？あなたの地域社会を参加させるにはどうすればよいでしょうか？あな

たの管区は？

- 5 . 平和の働き手として最も重要な資質とは何でしょうか？その資質はあなたの生活の中で育まれていますか？
- 6 . 平和の働き手としての聖フランシスコについてお気に入りの物語はありますか？その物語は平和のために働こうとした時、あなたの役に立ちましたか？
- 7 . 私たちは暴力や不正の犠牲者に同情するだけでなく、激情や無知のために他人に暴力や不正という苦しみを強いている人々にも同情しているでしょうか？暴力や不正の加害者のために祈っているでしょうか？私たちは横柄な態度をとることなく、彼らに向かい合うことのリスクを受け入れ、彼らを解放したい思っているでしょうか？私たち自身も変わらなければならないと思っていますか？
- 8 . 私たちは自分自身の中にむさぼり食らおうとする「狼」を見いだしましたか？その狼はおとなしくなりそうですか？
- 9 . 貧しい人々と共に貧しくなることへの恐怖心が非暴力の戦いに参加するのに最大の障害となる可能性はありますか？
- 10 . 私たちの個人的なライフスタイル、また共同体としてのライフスタイルの中に正義、人権擁護、解放、平和への気遣いがありますか？
- 11 . あなたの共同体は正義と平和のために何らかの行動を起こすこと、または他の人が始めた活動に参加することができると思えますか？これは私たちの共同体、または自分の属するグループやキリスト教共同体の生活を「複雑にする」から傍観しているほうがよいと思えますか？
- 12 . あなたの共同体・管区の福音宣教プロジェクトにおいて、人権擁護、正義と平和の問題はどのような位置を占めていますか？
- 13 . 非暴力について何を知っていますか？会憲が提案する正義と平和への関与において、非暴力が私たちの有効な道具となり得ると思えますか？
- 14 . あなたが対立の状況の中で気づいたこと、それに対してのあなたのしたことを評価してみましょう。あなたの召命や受けた教育のタイプはこの領域においてあなたにどんな影響を与えているでしょうか？
- 15 . 共同体の周囲の環境を観察し、あなたの感じている暴力の種を指摘してください。浮かんでくる様々な種類の答えを分析してみましょう。

3 . 被造物の保全・環境正義



小さき兄弟会会憲 第71条

聖フランシスコの足跡をたどる兄弟たちは、今日至るところで脅かされている自然に対して尊敬の念を示す。このように創造主である神の栄光のために、自然を兄弟姉妹とする関わりを十全に回復し、すべての人間の益とならせる。

フランシスコの生き方から・・・

フランシスコの神と神の創造されたすべてのものに対する深い愛は、「太陽の賛歌」の中に力強く示されています。チェラノはこう言っています。「事実フランシスコは、自然界の造られたすべてのものにおいて、その創造主を称賛する理由を見つけ、すべての物事において、すべてをお造りになったお方に心を向ける手段を見いだした。“主のみ手がなされたすべての業において歓喜し”、それらの喜ばしい景観を見て、それらの命の源である方のもとに飛翔していた」(2Cel 165)。ボナヴェントゥラはさらにこう付け加えています。「彼はすべてのものをはしごととして、完全に望ましい方のもとに登り、その方を抱きしめるのであった」(LM9 : 1)

フランシスコは、兄弟たちに木を全部切り落とすことを禁じました。彼は庭の世話をする兄弟に、庭の周りにある草の境界線をそのままにしておくように命じました。彼は蜂蜜とワインは冬の蜜蜂のためにとっておくべきであると言い、また動物たちを兄弟と呼んでいました。「実に、世の終わりに、『すべてにおいてすべてであるもの』として現れる善の源であるあの慈しみが、すでに聖人の目には『すべてにおいてすべてであるものとして』明らかに見えていたのである」(2 Cel165 ; 『』の部分はコリント書 12 章 6 節より)。あるとき、一羽の小鳥がフランシスコの手の中に羽を休めました(2 Cel167)。鷹が祈りの時間を知らせ(2 Cel168)、雉がフランシスコを慕い(2 Cel170)、コオロギが創造主の賛歌を歌いました(2 Cel171)。クリスマスにはフランシスコは牛やロバに普段より多くの穀物や藁を与えるように望み、道には小鳥たち、特に雲雀のためにトウモロコシや穀物が播かれました。フランシスコの仲間たちは「彼がすべての被造物の中に内面的・外面的に喜ぶ立派な理由を見いだすのを見た。彼は喜んで彼らを愛撫し、観察したので、まるで彼の精神は地上ではなく天国にいるかのようだった」(LP51)。

環境正義

エコロジーについての考察は、自然の単なる保護、保全という段階を明らかに通り過ぎて、新しい段階に入りました。今では環境は、自然環境と人類の文化・社会の両方を含む多様な関係の中で考えられています。全般的に見て、社会的エコロジーは生物であれ無生物であれ、自然なものであれ人工的なものであれ、すべての存在の相互協力が可能であることを強調しています。それは、エコシステム全体のダイナミックなバランスを再び確立するのに必要な基本的諸要素を私たちに提供してくれます。環境正義の問題はエコシステム全体のバランスの追求の中に位置付けられねばなりません。それだけでなく、人権の尊重とは地球の権利をも含んでいるのか、またその逆はどうなのか、ということが問われなければなりません。すなわち、社会正義は環境正義と結びついているのかどうかという問題です。フランシスコの視点から見て、正義と平和への私たちの取り組みは、どのような形で被造物の保全を実現してゆくのでしょうか。

A . フランシスカンの「環境正義」の原則

フランシスカンの人生観は神中心であると同時に地球的なものでもあります。個々の生物・無生物はひとつの主体(単なる物体ではない)の一部をなしており、内的な価値、使命を持っています。一方、生物や無生物は相対的な存在でもあります。それは創造主との、また他の存在との永続的な関係の中にあります。

1 . 世界という秘跡

聖フランシスコの霊性の最も重要な特徴の一つとして、被造物と人類の歴史における神の現存に対する鋭敏な感覚があげられます。すべての存在、すべてのものが神の贈り物なのです。フランシスコは兄弟たちに、何ごとも自分の手柄にしたり、自分のものにしたりせず、私たちのうちで、また宇宙において「神が行われる不思議なわざ」ゆえに神の栄光をいつでもどこでもたたえるようにと強く勧めました。「すべての善をいと高く至高の神なる主に返し、あらゆる善が主のものであることを認め、すべてのことについてあらゆる善の源である神に感謝しなければならない。」(RegNB17 : 17 - 18、『兄弟レオのための神の賛美』 *Praises of God for Brother Leo*)

すべてのものが私たちに神について語りかけ、私たちを神のもとへと送り返します。宇宙はその統一性と多様性において神の秘跡であり、私たちを創造主のもとへ導く「はしご」です(2Cel 165 及び LM9:1 参照)。「世界全体は影であり、道であり、痕跡であって、外界に書かれた本です」とボナヴェントゥラは書いています(*Hexaem.* 12, n. 14)。フランシスコにとっても、ボナヴェントゥラにとっても、神はどこにでもおられると同時にどこにもおられないのです。神はキリストとの一致と忘我の観想への道の終点におられます。しかし、神はまたその道の途中、神を探す人のそばにも、個々の被造物の中にも、特に私たち自身の中にもおられるのです。すべてのもの、すべての出来事の中に神は現存しておられます。「神はご自分の被造物に対して親しく存在しておられる」(ボナヴェントゥラ、*De Scientia Christi*, q.2, ad 11)。地球は聖なるものなのです。

フランシスコが生き物と物体に対して示した驚くべき愛はここから溢れ出し

ています。フランシスコは、生きているすべてのもの、存在するすべてのものとの兄弟的な、敬意にみちた交流を行っています。このきわめてキリスト教的な魂にとって、神の創られたものを愛することと神を愛することは同じことだったのです。

三位一体の愛にまします神によって創造されたものが多様であり、無償で与えられることを考えると、賛美と感謝の賛歌にしばしば表現されている驚きもまた、ここから溢れ出ていることがわかります。「なぜなら」、チェラノのトマスによれば、「世の終わりに、『すべてにおいてすべてであるもの』として現れる善の源であるあの慈しみが、すでに聖人の目には、『すべてにおいてすべてであるものとして』明らかに見えていた」からです(2Cel165)。この美的、宗教的ビジョンは、世界を完全に科学的、唯物論的に捉えようとする考え方とあらゆる形で対立するものです。

2 . 宇宙は統一体である

フランシスコは生命を統一体として見ていました。調和の中に、また調和のために造られた宇宙は多様な構成員が独立しながらも、単一の普遍的な兄弟共同体を形成している大きな家族のようなものです。世界は一つであるというこの考え方は、創造の聖書的なビジョンに深く根ざしています。

一方、救いの歴史は人間の歴史を含んでいますが、それはまた宇宙全体をも聖なる約束に対して開かれた形で含んでいます。「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを私たちは知っています」(Rom .8:22)。他方、人類それ自体は土から造られており、「アダム」(*Adamah*)という名前は人間にその土からの起源を思い起こさせます。そして「生きている者は誰も逃れることのできない姉妹なる肉体の死」を通して、人間はいつか、すべての被造物の生命をつかさどる永遠の法に従って、人間の誕生を見守ってくれた母なる大地に還ります。人類は生きているときと同様に死ぬときも自然と交流しているのです(Gen 1-3 ; 「太陽の賛歌」参照)。

こうした考え方は、超自然的なものを重視して自然的なものを軽視する様々な

哲学的形而上学と宗教的原理主義に対立しています。

したがって、人類は倫理と正義を自然界と地上に住むすべての人々にまで広げるべきです。なぜなら、環境を破壊することによって人々は自分の生活の場をも破壊することになるからです。創造の実りは人類の経済的利益のためだけにあるのではなく、すべての存在の世界的な調和のためにあるのです。「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて善かった」(Gen 1: 31)。「善い」という形容詞はここでは経済的な利益という限定的な意味ではなく、すべてを包括するグローバルな意味で、すなわち、存在論的、道徳的、生命力溢れた、美学的な意味で理解されるべきでしょう。

3. 他者への敬意

フランシスコにとって、すべてのものとすべての人間には本来備わっている価値があり、尊敬され、愛されるべき「個性」を持っていました。石、植物、空の鳥、地の虫、路傍にいるハンセン病者や物乞いをする人々など、すべての神の被造物は存在する権利を有し、私たちの所有物となるものは一つとしてありません。彼らは「異なるもの」、「他者」であり、私たちから離れた存在で、従って、私たちの支配下にはないのです。ボナヴェントゥラとドンス・スコトゥスは、すべてのものの特異性というこの概念を個体化の学説の中でさらに発展させました。師父フランシスコの模範に倣って、彼らはこの世のすべての存在を豊かで内面的な個性として、その「このもの性」*haecceitas*の中で捉えようとしています。それこそが、ある存在を他の何ものでもないそれ自体として捉える態度なのです。すべてのものの中に刻み込まれているこの特異性の究極の理由は、ドンス・スコトゥスによれば、「まさに神のご意志」にあります。被造物が他者であるからこそ、私たちは無限に他者であられる神に立ち返ることができるのです。

フランシスカンの環境に優しい霊性は自分を超越してすべての存在の宇宙的共同体に参加するよう私たちを促しています。宇宙との複雑な関わりを引き受けることによって、自分自身と他者に対する責任感は強められます。そのためには、途上で出会うすべての存在(自然界の存在も含めて)に対し受容的な態度で臨むことが必要であり、それと同時に、その存在の多様性と個々の神秘的な特異性を

受け止めて、感嘆と畏敬に満ちたまなざしで見つめることが必要になります。言い換えれば、所有欲のない受容的な態度、他者に対する深い尊敬の念を含む連帯意識が求められているのです。

すべての生命を一体として捉え、地球の尊厳と宇宙に存在するすべてのものの本質的価値を大事にするフランシスカンの霊性は、自然界と人類を単に開発利用の対象としてしか見ない態度を拒否します。私たちは社会的な影響力を失った無責任な秘跡主義、そしてはや地球とその生命システムが耐え切れなくなっている進歩を無限に推し進める、という考え方の両方から距離を置かなければなりません。

B . 実際的レベルでの環境正義

三つの実際的な選択は、三つの原則にほぼ対応しています。

1 . 生命とその相互依存への選択

- a) 「主よ、私を造られたあなたはほめたたえられますように」(チェラノのトマス、『聖クララの生涯』46)。死を前にしてクララは生命の賜物を与えてくださった神に感謝を捧げ続けました。フランシスコの『太陽の賛歌』もまた、生きる使命を与えられたことに対する宇宙全体の賛美と感謝の協奏曲でした。「主よ、あなたはたたえられますように、すべてのあなたに造られたものと共に」。

すべての生き物は生命の権利を持っています。野生のキジバト、小さな名もない花、貧しく苦しんでいる女性、盲目の老人など、すべては存在するように呼びかけられ、愛の冒険に参加しているのです。フランシスコは被造物の中でも最も小さく質素なものを特に好みました。「彼は道で人々の足に踏まれないように小さな虫けらを拾いあげた」(2Cel165)。人間の作った道には、生命を壊す通行人が必ずいるものです。

地球とそこに棲息する人間と動物には、再生する権利があります。これ

は生命の再生のために必要な休息の時間である安息日の掟に従うものです (Lev25 : 1-7 , 19 : 9-10 参照)。神の創造は人間が誕生した第 6 の日に終わったわけではありません。人間の誕生は創造の終わりではなく、創造は第 7 の日の安息日によって完成したのです。この日に神は安息なさり、観想なさいました (Gen1-2 参照)。すべてのものの原理であり、結末であるのは創造主です。すべてのフランシスカンは生命の預言者です。フランシスカンは生ける神の御名において死の文化を退け、すべての環境基準を守ろうとします。そしてこの世の砂漠の中で、いつでもどこにいても再生と希望のしるしとなるのです。

- b) フランシスカンたちは存在の相互依存にも注意を払います。自分だけで、自分のためにのみ生きている存在はありません。人類の、特に貧しい人々の生存は、地球の生存及び宇宙全体の環境基準の生存にかかっていますし、その逆もまた然りです。フランシスコは人類を養ってくれる大地の贈り物に気づいていました。「私の主よ、あなたはたたえられますように、私たちの姉妹である母なる大地のために。大地は、私たちを養い、治め、さまざまの実と色とりどりの草花を生み出します」(『太陽の賛歌』)。人間の役割としては、大地の世話をし、様々な果実、草花を守ることが求められています。工業化された世界の要求を満たすだけの単一文化は、ひいては大地を無制限に搾取し、大地を死に至らしめると同時に生きるための資源を徹底的に奪われてしまっている貧しい人々をも死に追いやるのです。何千人もの「土地のない」人々が飢えて死に、ブラジルや地球上の他の地域では何千ヘクタールもの森林が破壊されていますが、それは、この一方的な経済体制による破壊的な結末なのです。

2 . なにも持たず (Sine proprio) に生きることへの選択 (RegNB1-1)

フランシスコは簡潔な方法で、兄弟たちに自己献身の精神に基づき、質素で貧しい生活を送るようにと勧めました。「あなたたちのものを何も自分たちのために取っておかぬようにしなさい」(EpOrd29)。彼はまた、日常生活の中ですべての贅沢を拒否し、必要最低限のもので満足するように勧めました。「また、い

つでも必要に迫られた時には、すべての兄弟は、どこにいても、人が食べるあらゆる食物を摂ることができる。・・・同様に、明らかに必要な時には、すべての兄弟は、主が恵みをお与えになるとおりに、自分に必要なものを配慮することができる」(RegNB9 : 2、16-20 ; 参照 RegNB15)。

このフランシスカンの貧しさは個人的なことに留まりません。それはまた社会的でもあり、預言者の性格を持っています。所有物を放棄し、貧しい人々の中で貧しく生きることを選択することによって、フランシスコは当時の経済的、政治的体制を拒絶しました。清貧のうちに生きるという彼の選択を実践に移すと、貧しい人々を優先するということになります。このことは、土地の所有と農民の搾取を中心とする封建的な精神構造とも、新しい社会階級である資本家階級によってもたらされた消費社会ともきわめて対照的です。

あるとき、シエナからの帰り道、フランシスコは一人の貧しい人に出会いました。フランシスコは病気だったため、修道服の上から短いマントを着ていました。彼はその貧しい人のみすぼらしさを見て、自分を抑えることができなくなりました。彼は仲間に向かってこう言いました。「私たちはこのマントをこの貧しい人に返さなければならない。これはこの人のものなのだから」(LM8:5)。なにも持たず(*Sine proprio*) に生きるという選択は隣人愛につながっていなければなりません。愛がなければ貧しくても意味がないのです。フランシスコにとって、私物化は兄弟愛を妨げる障害でした。それは私たちの中に他の人々を支配したいという願いを芽生えさせます。所有することへの欲望に駆り立てられ、他者への尊敬を忘れた修練者の物語は、清貧と兄弟愛の本質的な関係をよく表しています(参照 : LP70、72-73)。世界を支配したいという誘惑は、他者、特に貧しい人々、よるべない人々に対する支配欲に通ずるものです。一部の人々による富の蓄積は、結果として他者を貧しくし、破滅させることすらあります。フランシスコは兄弟たちに、この危険に対して警戒するように警告しています。「兄弟たちは隠遁所やその他のどこにいても、いかなる所も自分のものとしないう、また、それについて、だれとも争わないよう注意しなければならない」(RegNB7 : 12)。

マルクスは『資本論』を書いた時、資本主義の生産体制における労働者の搾取と大地の搾取との関係を取り上げ、こう言っています。「資本主義的農業におけ

る進歩とはすべて、労働者を搾取する技術の進歩であると同時に、農地を略奪する技術の進歩でもある。しばらくの間土壌を豊かにする技術の進歩とはすべて、土壌の豊かさの源を破壊する技術の進歩である。・・・資本主義の生産は技術及び社会的生産のプロセスの配合を発展させるにとどまり、すべての豊かさの源である二つの資源、すなわち大地と労働者を使い果たしている」(K.マルクス『資本論』)。環境正義と社会正義は不可分の関係にあるのです。

3 . 平和の職人であること

すべての存在の生命と他者性を尊重することは、平和に対する責任をも意味します。平穏な(つまり、自分の家の中で平和のうちに暮らす)だけでは不十分で、暴力と不正が横行するこの社会に平和を打ち立てることが求められているのです。権力と栄光の象徴であるアッシジの城壁を離れる時、フランシスコとクララは社会の中で自己中心と不信の悪循環に捕らわれた人々の心を解放したいと願っていました。ふたりは、社会の底辺にいる小さな人々、路傍のハンセン病者や物乞いの人々と共にいるために高いところから降りてきました。彼らは世界と、また宇宙の全体と和解したいと願っていました。兄弟たちの修道院は、神のすべての被造物が自分の住む場所を持っている世界全体であり(参照: SC63) 高い塀はありませんでした。なぜなら、兄弟たちはすべてのものの尊厳と兄弟愛のほかに守るべきものを持たなかったからです。「そして、友人または敵、盗人または強盗など、だれが兄弟たちのもとに来ても暖かく迎えなければならない」(RegNB7: 13) のです。

フランシスコは、人々の中の平和は、人類と地球との間の、またそれらすべてと創造主との間の宇宙的な和解の一つの局面にすぎないことを認識していました。彼は「太陽の賛歌」に、人々の中での赦しの一節を付け加えました。「主よ、あなたはたたえられますように、あなたへの愛ゆえに赦す人々のために」。私たちを圧迫する死の影があっても、それでも愛することは可能なのです。理性によるあらゆる論争が平和をもたらすのに充分でない時、赦しの道以外にたどるべき道はありません。愛にその明快さを取り戻させ、人の尊厳を回復するのは赦しです。武器が平和を再建することはなく、人間の死のみならず激しい環境破壊の原因にもなるということ意識して、兄弟たちは被造物の保全に対するあらゆる攻

撃を糾弾し、非暴力によって神の慈悲を証し、宇宙的な和解のために働きながら世界中を回るので。

Ambrose Van Si, OFM

兄弟の生き方からの模範・・・

地球環境を守るということはこれまで常にフランシスカン霊性の中心にありましたが、近年、環境正義の問題は動植物への配慮という情緒的な概念から、人権と社会正義の促進という、より緊急の関心事へと移行しています。特にラテン・アメリカでは、定住して土地を管理する権利は貧しい人々の権利を守り、社会の抑圧的な構造を克服するためのきわめて重要な最初のステップと考えられています。ラテン・アメリカや世界各地で兄弟たちは貧しい人々と共に住み、環境を守りながら地元の地域社会の自給自足を促すような方法を開発しています。

悲しいことに、この種の仕事に完全に自分を捧げることのできる兄弟を見つけるのは未だに珍しいことなのです。それでも、一人の例外を挙げることができます。環境学博士号を持ち、アマゾン流域のベレム(Belem)という町の近くで環境を維持できる開発方法を推進するために働いたジム・ロックマン(アメリカ合衆国)がその人です。彼の専門は土着の樹木の種類を生物学的に研究することで、樹木の性質を知ることにより長期的な環境保全に貢献しようとしています。ブラジルの北東部にあるこの地域は非常に貧しく、軍によって強制的にこの地域に移住させられた家族が住んでいます。そのために、彼らは自分たちの新しい居住地について何も知らず、また、新しい環境で生活を支えるために政府からの経済的・教育的援助もありません。普通、小さな地域社会がすべての樹木を切り倒し、その地域の土地から取れるものをすべて取り尽くしてしまうのに、わずか5年程度しかかかりません。そうならばまた他の場所へ移動せざるを得なくなります。ロックマンは労働者の共同体と一緒に住み、彼らが環境をより長期的な視点で見られるようになるための手伝いをしています。「これらの人々にとって生活は非常に厳しく、彼らの信頼を得るまでには時間がかかります。けれども、しばらくすると彼らは自分たちが子どもたちのためによりよい未来を作ることができることを理解するようになります」と彼は言っています。

ロックマンは、18世紀の兄弟で今では「ブラジル植物学の父」として尊敬されている Josi Mariano Da Conceicao Veloso によって始められた伝統を引き継いでいます。Veloso はポルトガル人とブラジル人を両親として 1741 年にサンノゼ村 (Vila Sao Jose) に生まれ、1761 年 4 月 11 日にフランシスコ会に入会しました。地元で土着の部族と親しく連携して働きながら、彼はほぼ 10 年を 2000 種以上の植物の種を研究、分類することに費やしました。彼の研究はまた、農業と農村地帯の経済、森林保全、動物学、鉱物学、方言にも及びました。彼の残した業績は、当時から環境正義のために働いてきた無数のブラジルの兄弟たちの励みとなっています。

今日、Rodrigo de Castro Amedee Peret はこの仕事を引き継ぐ新しい方法を開発しています。それによって貧しい農民が自分の権利を守り、その土地特有の植物や作物を守ってゆくことができるような創造的な方法です。彼はブラジルの Minas Gerais 州で最初の種子銀行を設立しました。これは、ボランティアの人たちが地元の様々な樹木や植物から種を集め、栽培し、配布することによって、外国産の雑種の種子に対する農民の依存度を減らし、輸出用のコーヒー、麦、大豆などの換金作物の単一栽培のために広大な土地を使う傾向を逆転させようという試みです。アッシジの聖フランシスコ農業環境育成所 (St. Francis of Assisi Agro - Ecological Nursery) での仕事を通して、ロドリゴと彼のチームは小規模農民たちが自分の家族を扶養できるようにすると同時に、環境の長期的な安定を維持しています。この育成所の優先事項は土壌と水資源の管理に関する研究と土壌浸食の逆転です。ボランティアたちはまた、かつては様々な病気の治療に効果的に使用されていた地元の樹木、果実、自然の薬草の薬学的な特性を注意深く列挙して一覧表にし、その地域の生態系に再導入しています。

同じように、ゲアロイド・フランシスコ・オコネール Gearoid Francisco O Conaire はエル・サルバドルに滞在中、地元の人々に古代のバイオエネルギー技術や病気に対する薬草治療を勧めることに多くの時間と労力を捧げました。なぜでしょうか？それは、人々に天然資源のよりよい活用法を教えることが彼らを襲う病気に対する彼らの理解を深め、したがって、医者や大きな製薬会社への彼らの依存度を下げることができるからです。それはまた、土着の文化を守り、人々に家庭で生産、管理できる安くて簡単に手に入る薬を与えることでもあります。

しかし、環境正義のためのフランシスコの仕事はそこで終わるわけではありません。彼は自分の小教区であるサン・バルトロへの清潔な水の供給を求める運動をエル・サルバドルの議会にまで持っていきました。兄弟たちと地域社会のリーダーたちの合同委員会は、議員たちに請願したり、地元のラジオ局で運動を繰り広げたりしました。それは、サン・サルバドル郊外のスラム街への水の供給が実際に改善されるまで続きました。フランシスコはまた、エル・サルバドル・エコロジーグループ連合(United Ecology Groups of El Salvador, UNES)と協力して、エルエスピノの原生林と環境保護区(『エル・サルバドルの最後の肺』と呼ばれる)の破壊を止めさせるよう働きました。エルエスピノの保護は百万本以上の樹木を救うだけでなく、すべての人、特に都市化プロジェクトが進行すれば立ち退きの脅威にさらされることになる 500 家族に対する明らかな人権侵害を阻止するチャンスでもありました。兄弟たちはしばしば政治に干渉しすぎると批判されてきました。地域の裕福な地主たちの命令で自警団に再編成された元軍隊の暗殺者集団によって殺すと脅されたこともあります。中米の兄弟たちの何人かは環境正義は世界中の貧しい人々に力を与える鍵の一つであると信じて、これを擁護する運動を続けることを決意しています。

SAVE M.E. (母なる地球のためのサマル島自警努力同盟、Samar Alliance of Vigilant Endeavors for Mother Earth)連合の共同創立者として、Josi Calvin Bugho は兄弟パストール・アラタとアルベルト・バルドと共に、フィリピン、北サマル島のティナンパカン(Tinambacan)小教区の人々の側で働くことに生命を賭けました。彼らの闘いの中心は小教区の環境の多様性を維持するのに不可欠な木で覆われた石灰岩の層の切り出しを阻止することでした。フランシスカン家族はフィリピンでの 1996 年 APEC サミットに反対する運動を起こしました。これは、環境汚染をより包括的な社会正義の視点から考える必要があることを示しました。ポーランドの重工業地帯では、フランシスカン共同体は ECOSONG という音楽祭を実施しました。これは、50 年間の非能率的な国家支配の痕跡を残した地域に希望をもたらすのに役立ちました。

クロアチアのマカルスカで、フランシスコ会スプリト管区の Jure Radic (1920-1990)は、クロアチア南部とアドリア海の動植物を何年も科学的に研究した後、1963 年に海洋博物館を設立しました。彼はまた世界中から数多くの貝殻

を集め、見事な植物標本と古生物学コレクションを始めました。典礼学教授、科学者、そしてフランシスコ会兄弟として、彼は神の被造物を守る必要があると深く信じていました。このような問題に対する関心を高めるために、彼はいわゆる山と海の研究所(Mountain and Sea Institute)を設立しました。この研究所は、多くの科学会議を組織し、他の国際的科学団体とも協力して働いています。

メキシコとアメリカ合衆国を隔てる国境で、ジョー・バウアー(Joe Baur)、ルイス・バルドナド(Luis Baldonado)、リズ・クミンズ(Liz Cummins)は他の在世会のリーダーたちと共に、SWEEP(Southwest Environmental Equity Project、南西部環境公正プロジェクト)と呼ばれる計画に参加し、企業に有毒性廃棄物を捨てることを許可する法律の制定を阻止するために働いてきました。これら有毒性廃棄物処理場の多くは、アメリカ・メキシコ国境に位置するアフリカ系およびヒスパニック系アメリカ人の居住地域にあたっています。住民たちはこれに付随する危険について知らされておらず、ほとんどの人は廃棄場の場所の選定に影響を及ぼすような政治的な力を持っていません。これらの地域における癌やその他の病気の発生率は、しばしば全人口の平均を大きく上回っています。SWEEPはフェニックスの教会のリーダーをアリゾナ州ノガレスに派遣し、その家族を視察しています。ノガレスでは、癌や他の病気の罹患率の高さが確認され、記録されています。社会正義の問題をより伝統的な「緑の運動」に結びつけることは、SWEEPのフランシスカンの特質として注目に値する実例です。

アメリカ合衆国ケンタッキー州アパラチアで、Maynard Tetraeaultは環境正義を求めて闘う地元の住民のリーダー的擁護者となってきました。アパラチアの人々は、アパラチア山脈によってアメリカ合衆国の他の部分から隔絶されているために、しばしば大規模な鉱山の権益に対して自力で闘わねばなりません。露天採鉱はアパラチアのかつての原始そのものだったエコシステムを破壊し、地元の人々の大半が地域の石炭業界に依存している事実は社会的・経済的な問題ともなっています。Maynardと他の人々は、もっと環境に優しい産業を地域に提供し、地域の豊富な天然資源を守るために働いています。

アメリカ合衆国カリフォルニア州オークランドの貧しいヒスパニック系地域社会では、キース・ワーナー(Keith Warner)が環境汚染と貧困との世界規模の相

関関係に対する人々の認識を高めようと働いています。キースによれば、「人々は、自分たちの地域の状況との関連に気づかないかぎり、ブラジルやミクロネシアの熱帯雨林のことなど気にもとめないでしょう」。彼はまた、農村の人々は土地の管理についてずっとよく理解していたとも言っています。今日、数多くの人々が農村から都会に移動するにつれ、人々は自然とのつながりをなくしてしまいました。キースはコミュニティー・ガーデンやリサイクル、植樹などの小さなステップを通して自然の贈り物の感覚を都会の人々に植え付けることによって、より実際的で全体的な環境倫理を実現できると信じています。最近、オークランド市は使用済みの自動車オイルを市の下水道に流す(聖エリザベス修道院の居住区ではよく行われている)ことを禁じる運動を始めました。自動車オイルのリサイクルを推進する努力の一環として、キースは聖エリザベス教会の裏に市街地の模型を作りました。そこでは地域の子どもたちがサンフランシスコ湾地区全体への自動車オイル廃棄の影響を目にすることができます。「エル・サルバドル人、メキシコ人、その他多数の不法移民からなるこのような貧しい地域社会においては、市当局は問題に直面するのに必要な敬意、構造、言語能力を持ち合わせていないのです」とキースは述べています。「地域の人々は、政府、特に移民帰化管理局を恐れており、豊かなカリフォルニア北部の人々が熱心に取り組んでいる環境問題に割く時間などほとんどないのです」。

政治的・経済的な問題が環境問題や地域の人々の権利に優先するということは残念ながらしばしば起こります。イスラエルの政治的動乱の中で、かつて聖地のフランススコ会特別分管区長であったジュゼッペ・ナザロ(Giuseppe Nazzaro)は、ベツレヘム周辺の広大な土地を観光客のための贅沢な施設建設のために没収しようとする計画と闘いました。1967年以降、地域の60パーセント以上の土地がイスラエル政府によって没収され、軍の領域であると宣言されました。ベツレヘムは今ではユダヤ人入植地とバイパスによってほとんど囲まれてしまっています。観光バスはベツレヘムの町をすばやく出入りし、現地のキリスト教共同体との接触には非協力的です。既に一触即発の政治的状況の中で、これ以上土地の没収が続けば数千世帯の家族が生活手段を奪われることになり、パレスチナの人々の先祖から受け継いだ土地が破壊され、危うい和平交渉のプロセスに対するさらなる反発を呼ぶことになりかねません。

政変が起こった他の国々では、環境正義に対する認識が育ちつつあります。たとえば、南アフリカでは、過去の人種隔離政策によって、一直線にのびる広大な土地が収益性の高い自然保護区や白人居住区のために取っておかれ、一方、多数派である黒人の部族の故郷やスラム街は完全に放置されていました。生育の早いユーカリの木を植えることで黒人の共同体が森林伐採と闘う手助けをしようというプロジェクトは、今では地域の環境に悪影響を与えたと考えられています。水が少ないことで有名な国で、100本のユーカリの木の茂みは毎日50,000リットルの水を吸収する可能性があり、周辺地域を実質的に砂漠に変えてしまうのです。クリスピン・クローズ (Crispin Close) は近年に亡くなるまで、これらの木を切り倒し、代わりに種から育てられた土着の様々な木を植える努力をした先駆者でした。

地球上の他の国々で兄弟たちは土着の植物と古代農法の保護を推進しています。これは、収益性の高い単一栽培農業のために広大な土地を使いたがる政府に対して小規模農民たちが闘うのに役立つ最良の方法なのです。パプアニューギニアでは、兄弟たちはギネアアブラヤシの大農園がどんどん単一栽培化されてゆくことに抗議しています。ギネアアブラヤシの木は房になった実の果肉と種子から油が取れ、その油が外国の市場で売れるために栽培されています。ここでもまた、環境を破壊するこうした開発によって、地域における環境の多様性と地元住民たちの生活手段が脅威にさらされています。

アトリスコ環境学習プロジェクト (The Atrisco Environmental Learning Project, AELP) は、アメリカ合衆国、ニューメキシコ州アルバカーキ (Albuquerque) の聖家族小教区にある非営利の課外活動および夏季のプログラムです。聖家族教会の主任司祭であるジャック・クラーク・ロビンソンは、周辺のヒスパニック系地域社会では家庭生活や家族構成が急速に変わってゆくの、これに対処するための具体策として AELP の設立に協力しました。子どもたち、ティーンエイジャー、祖父母たちが集まって、日よけのついた庭と温室の建設、維持のために働きます。プロジェクトの指導者として、ベルナデット・オルテガ (Bernadette Ortega) はこう指摘しています。「庭の手入れや世話を一緒にすることで、若者も老人も自然が与えてくれる豊かさを学ぶことができ、工業化される前はアルバカーキのサウスバレーをこのような豊かな土地にしてくれた土

着の伝統を大切に育てゆく必要を知ることができます。AELP は経済的・社会的に不利な立場に置かれた若者が、周辺地域の社会的・文化的諸問題に取り組みながら積極的で自尊心を育てる教育プログラムに深く関わることを可能にします。私たちのプログラムの最終目的は子どもたちを尊敬、心遣い、思いやりといった基本的な精神に触れさせることです。こうした人間としての基本的価値観を育成することによって、子どもたちは自分自身、自分の環境、そしてお互いに対する尊敬の心を持つことを学ぶだろうと信じています。」

会憲

第9条1と4。貞潔の誓願によって兄弟たちは、「天の国のために」、心と体の清さにおける独身の生活をおくる。それは、『分かたれない心で』ひたすら『主のことを考える』ためである。(1)

貞潔の誓願を生きるために、兄弟たちは心の清さを保ち、『すべての被造物を、神の栄光のために造られたものとして意識しながら、謙虚に、かつ敬虔の念をもって見つめる』。(4)

その他の参照箇所：20条1-2、127条3、131条1。

討論のための質問

1. あなたの町が直面している最も大きな環境に対する脅威とは何でしょうか？あなたの国ではどうですか？世界中では？
2. 第1問に対する答えとして、あなたは個人的にどんなことをしてきましたか？あなたの地域社会、または管区全体としては何をしてきましたか？
3. あなたの地域社会は、可能なときはいつでもリサイクルをしていますか？
4. 環境正義の問題は、あなたの使徒職（毎日の仕事、会話、説教など）に反映されていますか？

- 5 . 多くの人々は聖フランシスコを環境正義のすばらしい協力者であると考えています。あなたはこのことを奨励していますか？どのような方法で？
- 6 . 使徒職の中で、あなたは地球上のすべての人々が相互依存の関係にあるという事実を裏付けるためにエコロジーの例を引き合いに出したことがありますか？この事実を裏付けるために「太陽の賛歌」を公的な祈りとして使ったことがありますか？
- 7 . あなた個人とあなたの地域社会は、エコロジー問題について十分な敏感さと知識を持っていると感じますか？エコロジーの領域での行動や運動にフランシスカンが参加するのは適切だと思いますか？
- 8 . あなたとあなたの兄弟共同体の生活の中で、エコロジーに対する敏感さと責任に関して、エネルギーの使いすぎ、リサイクルできる資源の廃棄など、何か批判することがありますか？私たち一人一人も同様に、消費主義やいわゆる「開発」という過ちを犯していると思いませんか？
- 9 . 貧しい人々の優先という視点から見て、エコロジーの領域でより効果的に責任を果たすためにはどのような段階を踏めばよいと思いますか？
- 10 . エコロジーに対する今日の意識から考えると、「太陽の賛歌」を読み直す必要があると思いますか？この章のテーマの視点からのコメントをつけて、兄弟共同体としてこの祈りを一緒に唱えることもできるでしょう。

4 . 生命



小さき兄弟会会憲 第96条(2)

人類の大部分が未だに貧困、不条理、抑圧に苦しんでいるので、兄弟たちは、善意のあるすべての人々と共に、復活したキリストにおいて、正義と解放と平和の社会を築くよう献身し、個々の状況の諸原因を考え合わせながら、慈善と正義と国際的連帯の諸事業に参加する。

フランシスコの生き方から・・・

フランシスコはすべての被造物は神に属するものであると考えていたので(2 Cel 165) この「アッシジの貧者」は根本的に喜びに満ち溢れていました。罪のみが悲しみの原因となりますが、そのような時でさえも、兄弟たちはある人の罪のために怒ったりしてはならないのです(RegB c.7)。精神は善であり、物質は悪であると考えたアルビ派の人々とは反対に、フランシスコはすべての被造物は神の祝福を受けていると考えました。このためフランシスコは人々に、神の愛と恩寵の目に見える印である秘跡を頻繁に受けるようにと勧めました(EpFid)。ポ

ヴェレロは時々フランス語で歌を歌い、2本の棒をバイオリンと弓のようにして使っていたこともありました(2 Cel 127)。

フランシスコは自分の教えをまず自分で実践する人だったので、確信をもって説教することができ、それは悔悛に対して頑なになっていた心を動かし、魂と体に健康を取り戻させたのです(LM 12:8)。チェラノの「聖フランシスコの奇跡の論」(3Cel)は、フランシスコが起こした、または彼の取次ぎによって起こった多くの奇跡のうちのいくつかを記録しているに過ぎません。フランシスコは常にあわれみをもって病人たちの世話をしました。

彼は兄弟たちに「偽善者のように沈んだ暗い顔つきをせず、『主において喜ぶもの』、快活で心底から寛大な者であることを示さねばならない」(RegNB c.7)と勧めています。フランシスコは晩年このように言っています。「兄弟たちよ、神であられる主にお仕えすることを始めましょう。これまでのところほとんど、あるいは全く進歩がなかったのですから・・・」(1 Cel 103)。フランシスコは一部の兄弟たちとの間に問題を抱えている管区長に次のように書き送っています。「どんなに大きい罪であっても、その罪を犯した兄弟が憐れみを願うなら、あなたの目を見た後、憐れみを受けずに立ち去る者がこの世に一人もいないようにしてください。もし憐れみを願わなければ、あなたが彼に憐れみを望むかどうか尋ねてください」(EpMin)。ゆるし、悔い改め、そしてあわれみの行いがフランシスコの生命に対する愛をいつも新鮮なものとしていました。

フランシスカンの視点

イギリスの作家 G.K.チェスタートンは、アッシジのフランシスコの非凡な才能の一つは目の前にいる人に集中するそのやり方に現れていると述べています。フランシスコは一人の人のためにもう一人を無視することは決してなく、ハンセン病患者からスルタン、ジャコバ夫人(Lady Jacoba)から物乞いにいたるまで、一人一人に注意と関心を払いましたが、それは彼の礼儀正しさを示すものです。有名な「太陽の賛歌」の中で、フランシスコは彼の関心と尊敬が人間だけでなく、すべての被造物に向けられていること示しています。フランシスコが他者に対してこのように礼儀正しかった理由は、神が彼らを造られ、彼らを通して神の栄光

をたたえることができたからでした。

フランシスコの詩的直観力と創造的洞察力は、フランシスカンの伝統の中でもう一人の天才によって引き継がれました。ボナヴェントゥラは、彼の思想を哲学的・神学的に醸成するにあたり、その基礎をフランシスコの霊的体験に置いています。ボナヴェントゥラの生涯にわたる創造のイメージは伝道の書 1 : 7 の、小さな泉が川をつくり、その川が大地をながれ、その源へ帰ってゆくという話から取られています。ボナヴェントゥラにとって、生命のすべては一つの神聖な源から発し、実を結ぶために神の手から離れ、また神のもとに還ってゆくものでした。ボナヴェントゥラの考えによると、造られた多くのものは造られざるお方によって存在を与えられ（発出 *emanation*）、被造物たちは彼らの創造主を証しし（範型 *exemplarity*）、創造主のもとへと再び導かれます（帰還 *consummation*）。このようなすべての被造物、特に生命をもつ被造物は価値のある存在と考えられます。なぜなら、すべての被造物は最高の価値を有する神、フランシスコによれば「いと高きお方」「究極の善」である神のものだからです。

ドンス・スコトゥスは方法論と内容においてはボナヴェントゥラと非常に異なっていますが、ボナヴェントゥラと同様にフランシスコからインスピレーションを得ています。良く知られているように、スコトゥスにおいては創造のビジョンを支配しているのは罪ではなく善です。神は自由な方であられるので、創造には神の恵み以外に存在の理由はありません。神の愛は創造の中に、特に受肉においてははっきりと示されています。存在するものはすべて必然的に存在するのではなく、ひとえに神がそれを愛し、存在することを望まれたから存在するのです。したがって、存在するものには重要性和尊厳があり、救いの歴史とは具体的な時間と場所において神が特定の人々と自由に会話を交わされた物語なのです。個々の被造物は歴史上ユニークな存在であり、神の積極的な現存の物語の一部を成しています。もちろん、受肉は創造のクライマックスですが、同時に創造された世界の価値を肯定する一助ともなっています。肉、身体、物質性、歴史的偶然性これらは避けるべきものではなく、神が受け入れておられるように受け入れるべきなのです。スコトゥスがここで強調していることは、*haecceitas* 個性原理、すなわち事物の「このもの性」という言葉で表現されます。*Haecceitas* は、ある事物を似たような性質を持つ他者とは異なる独自のものとし、偶然で独自の現

実の価値を強調します。なぜなら、個々の存在はそれのみが示すことのできる何かを持っているからです。

創造された生命の価値に対する脅威と否定

各被造物に固有の尊厳と価値を強調するフランシスカンの生命観(vision)は、現代世界に見られる他の多くの生命観ときわめて対照的です。これらの生命観の一部がフランシスカンの生命観と際立った相違を示す一方で、正しい理解のもとでは生命に役立つはずの生命観がゆがめられたり誇張されたりする場合もあります。「～観(vision)」たるものはどれも、暗黙のうちに、あるいは明白に、善悪正邪の価値基準をもっています。ところが人間の行動は普通、それぞれの個人あるいは文化が持っている「行動の価値基準」に左右されます。大切なことは、(公言された「論」ではなく)行動に表れる価値観を見極めることです。理論上はキリスト教的価値観、あるいはフランシスカンの価値観さえ支持する人が多いのですが、倫理的実践や文化の中に秘められた実際の価値観は、公言されたものとはかなり異なることがあります。このことは、単に偽善の問題(言っていることと行いが違うということ)や道徳的な弱さ(信念に従って行動しないこと)ではなく、道徳的な盲目状態(十分な自己批判をせず、信念と行動の間に矛盾があることに気が付かないこと)を意味します。改善方法は叱ったり非難したりすることではなく、彼ら自身の生活や社会の中にある、自らの行動に方向と動機を与えてくれるものを人々が見いだす手助けをすることです。次に、現代世界が抱えているビジョンの諸問題についてコメントしてみましょう。

完璧主義

この人生観は成功・人気・自立の障害や妨げがない限り人生の価値を認めるといえるものです。人間の置かれた状況の不完全さに直面すると、この人生観は創造された秩序の根底にある良さと尊厳を受け入れることができなくなります。このため、病弱や病気は人々から尊厳を奪い、彼らの社会的役割を底辺に追いやり、彼らを注目や関心に値しない人にしてしまうものと考えられています。病人、特に死にかけている病人の扱い方にはしばしば、体力の衰えや病気に直面するときを感じる不安感がうかがえます。内科医の介助による自殺や「死ぬ権利」に関す

る法律を求める運動が社会の各地で起こっていますが、これは人生は痛みや苦しみがあっても生きる価値があるのだということを認めることができないことの表れかもしれません。ある人々は、人生は自分の体をコントロールでき、肉体的な限界を体験しない場合にのみ生きる価値があると考えています。

現代の文化においてよく見られることですが、イメージを重視するあまり、肉体的な美を手に入れたり、維持するために法外な費用と努力を払ったりする傾向があります。私たちは、外見が醜く、魅力的でない人々を生活の脇に追いやってしまっているかもしれません。美や魅力の文化的基準を満たしている人々のために働くことの方がずっと簡単かもしれないのです。若い人々はしばしばいつまでも若さと美しさを保つという夢に取り付かれ、他者（特に仲間）を容姿だけで評価しがちです。自然について言えば、環境を「ディズニーランド風にする」誘惑があります。つまり、都会からの旅行者の目から見て調和のとれていない、快適でない、不便なものをすべて排除することによって、自然を「きれい」に見せたいという頑固な欲求です。多くの貧しい国々は、その国の自然環境の中で外部の人にとって魅力的でない要素を除去したり、作り替えたりすることによって、外国からの訪問者たちにアピールしようとしています。昆虫、野生動物、険しい山や丘、変化する海岸線、土着の風習や食べ物はすべて、人工的に均質化されてしまうのです。そのほうが娯楽のために訪れる観光客にとって親しみやすく快適だからです。

道徳的完璧主義は、私たちが依存症患者や、ライフスタイルに問題のある人や悪事を重ねる人を尊敬し愛することを妨げることがあります。行動に対する批判が人間に対する断罪へと変わるの簡単です。このような断罪はそのあと、断罪された人の権利を否定することへと広がりかねません。たとえば、不当な投獄、弾圧、非難、拷問、死刑などです。すべての人々との関わりにおいて、たとえそれが回心を求めている人であっても、私たちは罪を憎んで人を憎まずという格言を忘れてはなりません。

フランス人たちは自分の脆さや弱さを知りながらも、同時に自分が神に愛されていることをも知っているのですから、神の完成の約束が成就していない不完全な形の生命あるものに出会った場合にも彼らを愛する心構えがなくてはな

りません。

手段的合理主義

科学が素晴らしい業績をあげ様々な分野で技術が驚異的に進歩する時代においては、生活のある面に合う考え方を、それが適していない他の面にも応用してしまう危険性があります。自然界の秩序をよりよいものを求めるために使ってもよいとする考え方がありますが、それは妥当と言えるでしょう。しかし、もし私たちが他者を自分の役に立つかどうかという視点でのみ見るなら、人々や事物の中にある豊かさや美しさを見失ってしまうかもしれません。

精神的生活によく見られることなのですが、私たちはつい自分中心に物事を考える危険があります。人間のエゴは生活のいたるところで驚くほど巧妙に様々な形で現れてきます。フランシスカンたちはキリストを中心とする世界観を持っているので、自分中心に物事を捉えようとするエゴの頑固な衝動に、より効果的に抵抗することができるはずですが、つまり、手段的合理主義はすべてのものを自分にとってどれほど役に立つかという有利性の観点から判断しますが、この態度を考え方の基本としてはならないということです。しかし残念ながら、手段的合理主義は個人においても団体においてもよく見られる態度です。

手段的合理主義に支配された生活の中で失う恐れのあるもの、それは真の友情です。今日多くの社会では、成功する人とは他人と上手に「ネットワークを作る」ことのできる人のことです。ビジネスにおいても、公務、芸術、あるいは専門職においても、様々なコンタクトを作り、援助を頼める仲間を作ることが非常に重要視されています。友情は他者が自分の生活の中に存在することを楽しみとし、喜びとします。しかし、手段的合理主義的な考え方は、他者を何かの目的を達するための手段として見ます。もともと友情に伴う相互的な思いやりや喜びに基づいていない他者との関係は、その目的が達成されれば変わってしまいます。手段的合理主義的考え方が単に悪いと言っているのではありません。それが考え方の主流になってしまう時、それは他の土台に基づいて築かれるはずの大切な関係をゆがめてしまう可能性があるということを指摘したいのです。

手段的合理主義は人間を被造物の中の唯一の価値基準とする人間中心的な態度の中に見ることができます。他のすべては人間の役に立つためにあり、人間の利用以外に被造物が持っている固有の価値の問題は考慮されません。管理としての自然保護は人間中心主義によってダメになることもあります。それは、環境が神のものだからではなくて、その天然資源を保護することが将来人間のためになるから管理するという場合です。管理という名のもとに、私たちは長期的な目で自分の利益を考え、将来、公害や石油・木材の不足などの問題が起こらないように、大地のものを用心深く使うようにと促されます。この観点から見ると、環境を人類の利益になるものとしてのみ考えることは可能です。しかし、キリストを中心とした世界観は、私たちに手段的合理主義的な考え方を超えて、被造世界の秩序をそれ本来の価値を持つものとして見るようにと促します。なぜなら、それは神が造られたものであり、神の大いなるご計画の一部であって、管理する人々が好きなように使ってよい単なる原材料ではないからです。

市場原理

自由市場のイデオロギーほど、拡大解釈されているイデオロギーはないでしょう。自由市場は適度に規制されていれば、幸福を推進するような物品やサービスの生産・分配の効果的な手段となり得ます。市場は独創性、起業家精神、多様性、繁栄を促進する可能性があります。適度の規制がなければ、市場はまた、有害な不公正、環境の悪化、破滅的な競争、弱者の搾取につながる可能性もあるのです。

経済生活に対する市場の恩恵とリスクを否定するものではありませんが、市場論理にはフランシスカンが認識すべきもう一つの考え方があります。それは、市場論理の経済以外の領域への広がりです。この結果は、人間を単なる「経済的人間」(*Homo economics*)として捉え、他のいのちあるものを単なる商品価値として捉える態度に表れてきます。ある評論家が言ったとおり、「市場はすべてのものの価格は知っているが、価値を知らない」のです。市場論理には、売買すべきでないものにまで経済的価値を付加してしまう危険があります。たとえば、市民の政治的自由、人間としての尊厳を守るのに必要な社会的・経済的必需品、家族や友人の愛による絆、名誉、人々間の信頼と尊敬、これらは売られてはならないものです。

市場原理は、美そのものを楽しむという審美的感性を消してしまうことがあります。絵画の価値、音楽の楽しみ、水上の日没の光景や詩のリズムを市場ではいくらかで売れるかということに還元してしまうと、事物それ自体が本来備えている固有の価値による評価ができなくなります。観想することによって、市場での利用価値という観点から離れて創造の様々な局面を見る能力が主体の中に育ってきます。これは観想の恵みのひとつです。祈りは市場に左右されることなく、それ自体のなかに価値があります。フランシスカンのビジョン（人生観）の中には、他にも大切にされ尊敬されているものがたくさんありますが、それは金銭的価値があるからではなく、神に栄光を歸し、神が多様で素晴らしいすべての被造物にいのちを与えてくださったことに対する私たちの感謝の念を強めてくれるからなのです。

Ken Himes, OFM

兄弟の生き方からの模範・・・

各個人の生命と尊厳を祝うことは、聖フランシスコの時代からずっとフランシスカンのビジョン（世界観）を構成する不可欠の要素となっています。今日、多くの圧力団体や非政府組織、妊娠中絶反対運動に見られるように、ある意味では個人の人権に対する認識は高まっています。その一方、現代の消費社会は、金銭や美、成功、自己満足を他の何よりも重視する価値体系にますます支配されるようになっていきます。様々な国の最も貧しい地域で「生命の文化」を推進するために働いている兄弟たちの実例を挙げるのは簡単ですが、日常生活の平凡な出来事の中で生きることへの熱意を奨励しようとする兄弟たちの辛抱強い努力を見分けるのは困難です。作家、芸術家、音楽家たちは彼らの作品を通して生命に対する熱意を伝え、才能のある説教師たちはそれを聴衆に伝え、教師たちは若い人々が健全で積極的な人生観を持てるように彼らを指導します。

アイルランド、ダブリンの貧困地帯にある Merchants Quay で、ショーン・カッシン（Sean Cassin）はこの「生命の文化」を HIV やエイズに苦しむ人々の間で推進するために働いています。ショーンが初めて薬物依存症の影響にショ

ックを受けたのは、若い頃、ローマでの学生時代のことでした。夜ローマの路上で眠る薬物依存症者との毎日の出会いは彼の心を悩ませ、勉強についてゆくのが困難になるほどでした。マタイによる福音書 25 章 35 - 36 節の言葉に励まされ、ショーンはローマの「ストリートピープル」に手を差し伸べました。アイルランドに戻ってから、彼は Merchants Quay 周辺の地域に集まるヘロイン依存症の人々のために働きました。ショーンは、伝統的な薬物依存症に対する治療プログラムはアイルランドの若者たちが直面している広域の社会問題を扱っていないため、その成功には限界があるということをいっそう強く確信するようになりました。Merchants Quay のスタッフはこれらの必要に答える新しい方法を検討し始めました。たとえば、依存症者たちに仕事に結びつく技術を提供する職業訓練プログラムがなければ、「仕事のない辛さ」について話し合っても無意味でしたし、麻薬常用者たちの衰えた自尊心にはグループセラピーやカウンセリングによって対応する必要があります。HIV 感染は清潔な針の供給によって食い止めることができるはずですが、この解決法は部外者からはしばしば反対されました。Merchants Quay の長年の友人たちの多くは、センターが社会正義の仕事を貧困者たちにまで拡大していることに驚きを隠し切れません。ショーンにとって、センターの仕事ほど重要な活動はありません。なぜなら、彼はセンターが多くの人々の生活に変化を与えることができたことをその目で見ていたからです。

オランダでもまた、アムステルダムに勉強のためにやってくる多くの若者たちが薬物依存へと引き込まれています。売春はこの習慣を維持するための唯一の方法としばしば考えられています。不潔な針と安全でないセックスの組み合わせは、必然的に HIV 感染とエイズへの道を辿ります。Louis Bothe はアムステルダムの「忘れられた若者たち」の間で働きながら、これらの人々が依存症を克服し、新たな生活に第一歩を踏み出すことができるよう支援し、彼らに実用的なチャンスを与えることができました。

Ken Viegas はパキスタンのカラチ近郊の最も貧しいスラム街で働いていますが、彼が出会った人々はよりよい生活への希望を全く失っていました。彼の小教区の人々のほぼ四分の三は水道水がなく、定期的な収入のある人はごくわずかで、多くの人々は自分自身の価値をほとんど認識していません。病気、失業、高利貸し、薬物乱用などは、そこに住む多くの家族にとっては人生の厳しい現実です。

Viegas にとって、正義と平和の仕事が重要なのはまさにこのためです。「それは単なる趣味ではなく、私が強く感じている本当の情熱なのです。正義のために苦しみ、正義に飢えている時、キリストの受難を一層明確に捉えることができるのです」と彼は言います。彼は最も困っている貧しい家庭を訪問する時、自分たちに固有の価値や才能を再発見するよう人々を励まそうと努力しています。「私は一日に5軒の家を訪問するよう努めています。私は人々に、『私は一緒に飲み食いするために来たのではないから、私のために食べ物を準備しようと走り回ってはいけません』と伝えます。彼らが、『この人はただ話を聞くために来ているのであって、自分たちからどんなものがもらえるかを見るために来るのではない』ということがわかれば、彼らと非常に親しくなることができるのです」。

もう一人の兄弟、ユーン・ウォルター (Younis Walter) は、カラチの精神障害児たちと共に働き、この地域の問題を悪化させている根強い偏見や迷信と闘っています(日本から来たフランシスコ松本貢四郎も1992年からユーンと一緒に活動しています)。多くの家族は障害児が生まれるのは血族結婚のせいだと信じています。このセンターはキリスト教徒にもイスラム教徒にも同じように開かれています。この国ではキリスト教に改宗することは死に値する犯罪であると考えられているのです。キリスト教、イスラム教の信仰を持つ多くの家族と一緒に料理をし、それを食べ、子どもの世話をすることによって、お互いに理解しあうようになります。(<http://www.ofm-j.or.jp/mission/020205.html>参照)

インドの Jesu Irudayam も、子どもたちがよりよい生活を享受するための手助けをしています。彼は特に1991年に設立した様々なプロジェクトを通してマドラスのストリートチルドレンと共に働いています。1991年1月、彼は SEEDS (Street Elfin Education and Development Society、ストリートチルドレン教育発達協会) という名の NGO 組織を設立しましたが、この組織は地元では *Nesakkaram* (タミール語で「友好の手」という意味) という名の方がよく知られています。子どもたちのうち数人は家庭委託プログラムによって援助され、その他の子どもたちは施設に預けられたり、マドラスのローカル線の駅に設置された支援ポストを通して食料品や医療上のアドバイス、その他のサービスを受けたりしています。

ブラジルでは、Mariano Gijzen が弾丸や死の脅迫をものともせず、ベロ・ホリゾンテ(Belo Horizonte)のストリートチルドレンと共に働いています。1989年にリオデジャネイロの路上で働いていた時に、マリアノは少年たちの一人に銃撃され重傷を負いました。この少年は『マリアノを殺せ、さもなければおまえを殺す』という彼の「所有者」の命令によって働いていたのでした。マリアノの活動はストリートチルドレンを売春や麻薬取引に使っているぼん引きや暴力団のボスにとって深刻な脅威と映っていました。1990年に傷が治ってから、マリアノはリオからベロ・ホリゾンテに移り、そこでストリートチルドレンのための活動を続けました。ブラジルには何万人もの見捨てられたり家出をしたりした若者たちがおり、中には子連れの子もいます。彼らは飢えから逃れるために盗みを働いたり、シンナーを吸ったりして生き延びています。何年も辛抱強く働きながら、マリアノは何百人ものストリートチルドレンと友達になり、多くの子どもたちを路上生活から、より生き延びる可能性の高い家での生活に移行するという難しい変化に対応できるよう手助けをしています。どの子どももストリートを離れるようにと圧力をかけられることはなく、一人ひとりが個人として尊敬されています。

韓国からベトナムやギニアビサウに至るまで、世界中の多くの国々で兄弟たちは、フランシスコの足跡に忠実に従いながらハンセン病の人々の世話をしています。米国では、兄弟たちはルイジアナにあるハンセン病療養所で働いていますが、この療養所はハンセン病治療を専門としている国内で唯一の病院です。ベトナムでは、サイゴン（現在のホーチミン市）の郊外で Fidelis Le Trong Nhung がハンセン病患者を親に持つ子どもたちのために献身的に働いています。ベトナムにおける兄弟たちの活動は政府の規制を受けてはいるものの、フランシスコ会は内戦の間も、1975年の共産軍による南ベトナム制圧の際にもベトナムから逃げなかったために、人々から深く尊敬されています。内戦の前にも、兄弟たちは二つのハンセン病療養所をニャトランとメコンデルタで経営していました。この二つの療養所が新政府によって接收されたために、フィデリスは1983年に再び小さな診療所から始めなければならませんでした。彼の活動は次第に発展し、120人の子どもたちのために要理教室や読み書きと裁縫教室を開くまでになりました。兄弟たちには学校経営が公式に認められていませんので、これらの授業は、学校に通うことも病気を恐れている人々との接触も認められていないハンセン病患者とその子どもたちのための「おもいやり教室」(compassion class)と呼ばれて

います。

鍼灸師の免許を持ち、伝統医薬を重んじるディエゴ・キムは、韓国人の兄弟の経営する聖心ハンセン病者の村（Sacred Heart Lepers' Village）で患者たちの支援活動をしていた時、社会の底辺に追いやられた人々のために働くのが自分の使命であることに気が付きました。フランシスコと同じように、ディエゴもハンセン病者と接することによって回心に導かれ、正義の必要性を深く理解するに至りました。フランシスコ会が中央アジアの旧ソビエト連邦に含まれていた国々で働くボランティアを募った時、ディエゴはスロバキア出身のフランシスコ会修道女と一緒にこれに参加し、カザフスタンの田舎で待ち望まれていた診療所を設立しました。そこで彼は鍼灸師としての技術を生かして、西洋医学に代わる治療を施していますが、これはカザフスタンの韓国人社会で大きな人気を呼んでいます。この診療所では、人種・宗教・民族・国籍を問わずに、助けを求めてきた人々すべてを治療しています。小さな在世フランシスコ会共同体もこの地で育ち、ディエゴがフランシスカンの心髄と考えている正義と人間の尊厳のために共に働いています。

アメリカ合衆国ニューメキシコ州 Tohatchi にあるナバホ族の居留地で、ジョン・ミドルスタット(Mohn Middlestadt)とマイク・ハーグ(Mike Haag)は、フランシスカン修道女たち、ナバホ族の助祭、及び一般の人々と共に、土着の人々のための独創的で多方面にわたる司牧活動を始めました。聖ミカエル宣教地（the Mission at St. Michael's）は 3000 平方マイルに及んでおり、そこには 8000 人のナバホ族が住んでいます。センターが力を入れているのは、慢性アルコール依存症に苦しむ多くの人々の貧困と絶望の生活を立て直すことです。中心となる「パワーハウス」には、アルコール依存症や他の依存症を治療中の何百人もの人々が週に一度集まり、自分たちの孤独感や絶望感に立ち向かおうとしています。インディアナ州オールデンバーグ（Oldenburg）から来た近隣のフランシスコ会の修道女たちは、胎児期アルコール症候群（Fetal Alcohol Syndrome）に苦しむナバホ族の人々のために特別なプログラムを用意しています。

Andrija Bilokapic の協力を得て、クロアチアのザダル教区は妊娠中絶を考えている女性のカウンセリングを行う「生命優先」事務所（"pro-vita" office）を設

立しました。女性たちはこの難しい決定をするにあたり、秘密厳守でアドバイスやサポートを受けるだけではありません。もし子どもを産むと決めた場合は、彼女たちは、カリタスカ地元の小教区の女性・青年グループを通じて実際の・経済的援助を受けることができます。この事務所の報告によれば成功率はきわめて高く、このため、この活動はクロアチアの他の都市にも広がり始めています。

ボスニア・ヘルツェゴビナとクロアチアの戦争中、Franjo Grebenar と Zoran Livaneic はノバビラ (Nova Bila) の聖霊教会の建物の中で病院を始めるために共に働きました。1993 年初頭、イスラムの国民軍が地元のクロアチア人たちを攻撃した時、教会は一夜にして病院に早変わりしました。負傷者たちは紛争のため、敵の前線を越えて最寄の病院に行くことができなかったため、ゾランに助けを求めました。数時間のうちに、医療チームが兄弟たちとともに緊急の手術病棟を作り上げました。戦争中、何百人もの命がこのチームによって救われましたが、それでも、ゾランは悲しそうに回想します。「あまりにも葬式が多くて、泣いている暇さえありませんでした」。

アメリカ合衆国のデイヴィッド・シュラッター (David Schlatter) にとって、生命を選択するという事は、確実な死に直面している人々と毎日接触することを意味しています。彼はデラウェア州の受刑者たちの精神的アドバイザーですが、受刑者のうち何人かは死刑の判決を受けています。彼が6年ほど前、この地に赴任してきたとき、州政府の役人たちは死刑制度の復活に取り組んでいました。今では少なくとも1年に1回か2回死刑が執行されています。シュラッターは長年の間、死を考えたり愛する親族や友人を自殺によって失ったりした人々に奉仕してきました。「このような苦しみを抱えた人々と働く私たちのような人のほとんどは、自分自身の傷を通して奉仕することが最良の方法であると気づきます。傷が傷に触れるとき、神の働きは最も完全なものとなるのです」とシュラッターは説明しています。「私たち自身の罪深い性質に対する健全な自意識があるおかげで、フランスコロンは刑務所にいる人々と共に座り、自分と彼らとの間にあまり距離がないということを確認できるのです。フランスコロン自身も投獄され、同室の仲間と仲良くなったという事実は私たちが囚人たちに共感し、そこでキリストを体験することを助けてくれます」。シュラッターは現在、デラウェア州ウィルミントンのセンターで二人の兄弟と共に働いています。彼らはそこで、依存症の

人々の世話や、カウンセリング、様々な12ステップ回復プログラムを実施しています。実際、彼らは人生の目的を求めている人々の助けになることなら何でもやっているのです。

ブラジル全土で、また発展途上国で子どもたちが抱えている共通の問題は下痢です。これはしばしば脱水症状を引き起こし、死につながります。クラウド・フィンカムはブラジル司教協議会及びユニセフ（国連児童基金）と共に、ブラジルの子どもたちのために効果的な水分補給プログラムを作成しました。単純に塩と砂糖を加えた水溶液によって、何千もの幼い命が救われています。この水分補給プログラムは、母親たちを訓練して国中の村々で「医療チーム」として働けるようにしています。「医療チーム」は手遅れになる前に症状を効果的に診断・処置できるように他の人々を教育します。

アメリカ合衆国ニューメキシコ州のギャラップで、メイナード・シャーリー（Maynard Shurley）は、路上生活を送っているアフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系および先住アメリカ人たちに HIV とエイズに対する意識を植え付けようと懸命に働いています。メイナードはナバホ族の薬師の孫で、唯一のナバホ族出身のフランスカンです。彼によれば、「私たち『ナバホ族』にとってすべての生命は聖なるものです。太陽、大地、水、空・・・聖フランスコにとってそうだったように、それらひとつひとつが私たちの家族同様なのです」。アリゾナ州 Chinle に本部を置くナバホ・エイズ・ネットワークの保健教育者として、また、ソーシャルワーカーとして働くメイナードは「霊性が自らを癒す鍵となる」ことを発見しました。聖ミカエル宣教地(St. Michal's Mission)にいる彼の仲間のフランスカンたちは、型破りなしがもししばしば危険を伴う彼の活動を支援してくれました。メイナードはいつも路上にいて、路上生活者の感情的・身体的な必要に喜んで耳を傾けていたので、先住民の間にフランスカンの精神と影響力を広げることができたのです。

イスラムの戒律によって性的な問題を話し合うことがタブーとなっているパキスタンにおいて、効果的なエイズ教育プログラムを作成することは、兄弟たちにとって特別な課題でした。パキスタンの洗者聖ヨハネ管区（St. Johna Baptist Province）のクシ・ライ（Kushi Lai）は、国の各地でエイズに対する意識を高

めるワークショップを開き、政府の規制に対処する独創的な方法を作り上げました。パキスタンでは、ほとんどの床屋は店の中ではなく路上で仕事をし、めったに消毒しない共有のかみそりで髪を切ったり、ひげを剃ったりしています。キリスト教徒とイスラム教徒のボランティアに支えられたクシの HIV 認識プログラムは、まず剃刀や歯医者器具による感染のリスクに人々の注意を向け、それから注意深く性的感染症の話題に移ります。

世界中の多くの兄弟たちは、あらゆる人種・宗教・社会的背景を持つ青年たちとの活動を通して生命に深く関わっています。シシリアからコロンビアにいたるまで、兄弟たちは学校や青年グループや小教区の中で働きながら、「死の文化」であるドラッグに勇気をもって立ち向かうように青年たちを励ましています。米国ニューヨークでは、路上の家出少年たちと働くことがプラシド・ストロイク (Placid Stroik) の個人的な使命となっています。プラシドが責任者を務める「契約の家」(Covenant House) では、十代の若者たちに路上生活から逃れるために必要なシェルターと保護が与えられます。カウンセリングとサポートは、ニューヨークにたどり着いた拳句に売春や薬物依存症にはまってしまった若者たちに対するプラシドの司牧活動のほんの一部にすぎません。彼らの貧困状態は虐待と放置の結果であることが多いのです。彼らの多くにとって、プラシドとその仲間が彼らが心から信頼できる最初の大人なのです。プラシドはまた、「契約の家」のスタッフ(路上生活の経験者であることが多い)のカウンセリングもできる立場にいます。専門のソーシャルワーカーや保健の相談員と共に働きながら、プラシドは「ドラッグ、貧困、ポルノ、および広告やテレビによって絶えず目に入ってくる流行によって文化的に毒されている」アメリカの青少年擁護のために活動しています。

会憲

第 7 条： 3 「兄弟たちは共に、主なる神の御旨のしるしを求めつつ、『聖霊による真の愛を持って進んで互いに仕え合い、従い合う』」。

第 89 条： 1 「兄弟たちが共同体において小さき者として生きるかぎり、自分たちがキリスト者であることを告白することになり」、そうすることによって、共

通の福音宣教を始めることができる。

その他の参照箇所：第 66 条 1-2、67 条、69 条 2、71 条、96 条 1-3、97 条 1-2、98 条 2、132 条。

討論のための質問

1. あなたの街で、すべての段階における生命（受胎から自然死に至るまで）の尊重を推進するのに最も大きな妨げとなるのは何でしょうか？
2. 人々はあなたのことを人間の命を守る人、特にあなたの社会で最も弱い人々の命を守る人と感じているのでしょうか？
3. あなたは病気で入院している兄弟たちを見舞いますか？慢性の病気にかかっている兄弟を見舞いますか？
4. あなたは蔓延する消費主義が生命の尊重を脅かしていると思いますか？もしそうであれば、あなたは使徒職の中でそれに触れることがありますか？
5. あなたの地域社会や管区全体は、生命に対する敬意と熱意をどのように表していますか？
6. あなたの社会では自殺幫助に関する問題意識が育っていますか？あなたは個人としてそれにどう答えますか？地域の兄弟共同体としてはどうですか？管区としては？
7. 私たちは受胎の瞬間から自然な終末までの生命の保護を支持しますか？
8. 私たちは、人間の尊厳にふさわしいレベルに達するよう生活の質を改善することに努力を傾けていますか？
9. あなたが住む地域で最もよく起こる、生命に反対する試みとは何でしょうか？

5 . 人権：個人および集団の人権



小さき兄弟会会憲 第 69 条 1

抑圧された人々の権利を擁護するに当たって、兄弟たちは、暴力的行為を斥け、より弱い者にも使えるその他の手段に訴える。

会憲 第 96 条 3

教会と本会の内部において兄弟たちは、すべての人の権利と人間としての価値が尊ばれ、守られるよう、謙虚に勇気をもって働く。

フランシスコの生き方から・・・

第 1 章(貧しい人々の優先)のこのセクションに挙げた事例は、ここにも当てはまります。社会の底辺に追いやられた最も貧しい人々は、その個人的・集団的人権を無視される最も大きなリスクを抱えているからです。フランシスコが回心

の前にハンセン病者に対してとった行動を思い起こしましょう。フランシスコが道でハンセン病者に会い、馬から下りて彼にいくらかのお金を与えて接吻したとき、すべてが変わったのでした。後日、フランシスコはハンセン病者たちの住むところを訪れて同じことをしました。「このようにしてフランシスコは苦さに満ちたものを甘美なものに変えた」のです（2Cel 9）。

フランシスコは上に立つ兄弟に、兄弟たちの良心や会則に反するようなことを命じてはならないと教えました。兄弟たちは、主人がしもべに対するような態度で長上たちと話し得るようにしなければなりません（RegB c.10）。兄弟たちは、誰かの家の支配権を握る仕事でなければ、すべての正直な仕事に就くことができました（RegNB c.7）。兄弟たちは互いに自分の必要をためらうことなく打ち明けるべきであり（RegB c.6）兄弟たちは誰も目上の職を自分のものとしてはなりません（Adm IV）。ある夜、一人の兄弟が空腹で死にそうだと叫んだとき、フランシスコは起きて叫び声をあげた兄弟と共に食べるために、他の兄弟たちを呼び集めました。フランシスコはその後で、兄弟たちに分別の徳について語り、肉体が必要とするものを奪わないようにと諭しました（2Cel 22）。

民の支配者たちは自分がいつか神によって裁かれることを思い起こし、それゆえに神の掟を守り、配下の民が神を敬う手助けをするべきなのです（EpRect）。兄弟レオは、神である主をお喜ばせし、その御足跡と清貧とに従ってゆくようにと励まされました（EpLeo）。もし一時間前に入会したばかりの修練者がフランシスコの院長と定められたなら、『ポベレッコ』はその修練者に喜んで従うと述べています（LM6:4）。フランシスコは、キリストを信じない人やキリストの福音に真っ向から対立する人々であっても、その一人ひとりを尊敬していました。

考察

1．過去及び現在における人権

現代において人気のある「人権」という言葉は、集団的な意識の表現であり、多くの社会運動やすべての人民の闘争の象徴です。「人権」の法的・政治的な定義は最近のものですが、そのルーツは人類の文明の歴史の中に見ることができま

す。原始時代の人々でさえ、自分たちの生活を生命・家族・名誉・仕事・財産といった価値観に沿って構築し、習慣や基準、宗教的儀式を作り上げました。世界中の宣言、協定、憲法で公式に認められている人権は、実際には多くの水流の合流点のようなもので、そこから世界中の個人や民族の新しい自由や権利、責任が生まれるのです。

法的に確認された人権は解釈に違いはあるものの、すべての国民の幸福、自由、生活、安全、教育状況、健康、仕事を守り、推進するものです。人権は個人と社会との相互関係や国家間の関係を組織し、調整します。人権の枠組みはその原型を 1776 年の北アメリカの独立宣言や、1789 年に発布されたフランス革命の人権宣言に見ることができます。自由・平等・博愛の三原則は昔からこれらの宣言に刻み込まれています。第二次世界大戦の惨事、破壊、何百万もの人々の犠牲を経て初めて、人権は世界的なものとなり、国連によって批准され、ほとんどすべての政府によって署名されました。

有名な「世界人権宣言」はリベラルな精神ですべての人の防衛と保護を引き受け、公正に行使される法の下での平等をもって、あらゆる差別に対して彼らの自由と権利を守るものです。「宣言」には、プライバシーの権利、財産権、民主的参加の権利が盛り込まれています(1948年)。社会主義の強い影響を受け、基本的な集団の権利に関する多くの論争の末、国家間の政治的・経済的・社会的・文化的秩序が定義され、確認されました(1966年)。各国の主権および自決権を尊重するに伴い、参加国は男女の平等、労働の権利、経済的發展、安全で衛生的な労働環境、組合を作る権利、社会保障、特に働く母親と女性のための社会保障、福祉とあらゆるレベルでの教育の向上を保証することを自らに義務付けました。その他の国際協定は、これらの権利を深め、詳述し、被造物のよりよい管理の重要性に関する緊急課題を盛り込んでいます。

2. 南の国々における人権

ラテン・アメリカの側から世界を見た場合、人権について話をしたときに最初に感じるのは「理論と実践」の大きな隔たりに対するショックです。光り輝く理想と何百万もの人々の苦しい生活との落差があまりにも大きいからです。この落

差は人々にギャップを埋めるという責任があることを絶えず思い起こさせます。現実の世界は熱心な小鳥たちによって世話をされ、皆に住居・食べ物・飛ぶ自由が与えられている整然とした鳥の巣とはちがうのです。それどころか、現実には残酷な貧富の格差と不正、連帯と盲目的エゴイズムの社会であり、富と贅沢が貧しく悲惨な大勢の人々と隣り合わせになっている社会、何百万もの人々の自由と生命に対する目覚めと渴望が奴隷状態や不自然な死と共存している社会なのです。何百万人もの子どもたちが現代の労働と消費のシステムの中で犠牲となっています。少数のグループを富ませるために、自然が容赦なく搾取され、貧しい人々は傷つけられ、人類が生き残るために必要な世界の大地、水、空気が汚染されています。

人権はすべての人のためにあるのでなければ、その正当性を失ってしまいます。古代ローマ人たちは、*ius in re* と *ius in spe* すなわち、人々が現実を持っている実際の権利と、希望であり理想ではあるが、まだ実現していない権利の違いを認識していました。実際、現代の何百万もの人々は、こうした理想的な権利を手に入れる希望をほとんど持っていません。グローバル化が社会の中で起こり、世界中に広がるにつれて、著しい不平等や、権力、所有、自由、幸福と生存の条件、教育、安全、健康保険などの著しい階級格差がますます明らかになってゆきます。正義のない平和は何百万もの人々 老若男女 が犠牲となっている不公平な人類の現実をカムフラージュするだけです。

3 . フランシスコ、フランシスカンの伝統と人権

現代の人権という広大な分野において、アッシジのフランシスコが兄弟たちに伝えたインスピレーションは時代遅れとは言わないまでも、どこか奇妙で、おぼろげで、役に立たないものに見えます。7つの世紀と、中世・近代・ポストモダンという異なった世界の橋渡しをするのは複雑な作業です。「人権」は理論ではなく、個人的・集団的な生活のプログラムであり、行動の動機付けとなるものですが、日増しに侵害されており、その侵害を許すことはできません。

初期のキリスト教徒たちは、このような人権のことなど聞いたこともありませんでした。この言葉はイエスの貧者であるフランシスコの語彙の中にもなかった

ものです。しかし、フランシスコは霊廟や聖遺物箱に住んでいる人ではありませんでした。彼が始めた具体的な運動は今日の世界でも力強く脈打っています。教会に忠実なこのキリスト者の活力は、キリスト教の外側にいる人々をも含めて多くの現代人に影響を与え続けています。

キリストの署名でもあるかのようなあの聖痕によって、「アッシジの貧者」は、受肉して私たちの内に住まわれた愛と真実に満ちたみ言葉の霊を今でも放射してくれています。

確かに、フランシスコは彼の時代の歴史的・政治的・教会的背景によって制約を受けてはいましたが、彼は福音書を読み、それを当時の実生活に果敢に取り入れることによってそうした制約を克服したのでした。彼はハンセン病者や君主、指導者や物乞い、エリートや貧乏人と分け隔てなく話をし、深い尊敬の念をもってすべての被造物と接しました。これは当時の人間の体験としては珍しいものでした。フランシスコは基本的人権を持たない人々の信じられないほどの苦しみに立ち向かうよう、新しい世代を促すことができます。基本的人権は明文化され、重要な人々の署名で飾られてはいますが、現実には実行されていないのです。

愚か者と呼ばれたアッシジのフランシスコは、現代社会に流布する社会的・経済的な指標や図表、統計のことなど何も知りませんでした。しかし彼は、彼の時代の現実を深く理解し、それを改革したのです。「愛が愛されていない」という表現は、彼の信仰の明晰さを感傷抜きでよく表しています。彼はその明晰さで、高貴な人と卑しい人、金持ちと貧乏人、権力者と弱者、自由市民と疎外された人々から成る当時の社会を分析評価し、当時の紛争や暴力行為、戦争を判断しました。

さらに、聖福音は彼にとって知識の問題ではなく、ハンセン病者に奉仕したり、古い聖堂を修復したりするために石やセメントを運ぶことから始まる行動の生き方でした。神のご計画により、その結果として大勢の男女の運動が生まれました。彼らは「世界」とは対照的に小さく、貧しく、寄る辺ない兄弟姉妹となり、自由にすべての人に仕え、自分の生活の証しによって世界の果てまで福音をのべ伝える者となったのです。

教皇と皇帝の権力の支配下にあった中世は、どのような人間の権利であれ、その権利を定義するのに適した環境とはいえませんでした。哲学や神学で普及していた言葉は全般的・普遍的なものが多く、具体的なものや偶然のもの、様々な形態のものに対してあまり注意を払うものではなかったのです。この風潮を破る手助けをした二人のフランシスカンがいました。ドンス・スコトゥスは時のしるしを読み取って、キリストの似姿として創られた人と物の個性性を強調しました。神の愛は概念や抽象的なカテゴリーによって働くのではなく、名前と顔を持った個人によって働くのです。自然や我々人間の共通の尊厳について抽象的な会話を超越したいと思うならば、必要、権利、責任に関して個人個人の間にあるギャップを埋めなければなりません。オッカムのウィリアムも同じ目的を継承しました。彼によれば、神は人々と物を単一で多様性のある、完全に自由なものとして創造されました。多様な現実の経験的認識がすべてに優先し、光と影のある倫理的実践の基礎を作るのです。オッカムは権力の集中に異を唱え、「公会議優先教会の父」となって、地上に「キリストの体」を作るにあたり、信徒とその代表者に対して積極的に語りかけたのです。

兄弟たちにとって、フランシスコは主イエスご自身である生きた福音に至る道です。すべての人を救うためにすべての人と連帯すること、これがイエスの生涯の特徴でした。イエスはすべての人に善を行い、神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです(Mk7,3: Hb2,9)。死者のうちから復活した後、イエスはすべての被造物の協力を得て、偉大な服従の業を始められました。すべてが神のおん一人子であるキリストに服従する時、キリストもすべてをご自分に服従させてくださった神に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです(Rm 8,18-25: 1 Cor 15,28)。愛と献身と奉仕のこの広大なパノラマの中に、フランシスカンの活動はその活力と仕事の原因を見いだすのです。他の人々が兄弟会のために働く場合は、兄弟たちは公正に国家法の規定を守らなければならないことは明らかです(GGCC. 80)。また、教会法が信徒や聖職者とその団体の権利を規定していることも明らかです。しかしながら、苦しんでいる人間の世界はフランシスコ会やカトリック教会よりもずっと多いのです。

4 . 人権に関するフランシスカンの使命

キリストの僕であり、神の秘められた計画をゆだねられた管理者である兄弟たちは、天と地にあるすべてのものをキリストを通して神と和解させるために働いています(1Cor 4,1; Eph 1,10; Col 1,20)。道であり、真理であり、命であるキリスト(Jn 14,6)を通して、人間の条件は劇的に変化しました。しかし、抑圧から解放されて新しい自由・平和・真の正義に至るためには、旅する巡礼者を主に従って助ける人々の援助が必要なのです。援助者は特に、最も貧しく、最も困窮し、社会の底辺に追いやられている人々を助けて、彼らが自分の権利を守り、頭を上げて自分の尊厳を手に入れることができるようにするよう促されています。世俗的な文言ではありますが、「人権」には神の正義とキリスト教的希望が盛り込まれており、そこには人権の最も深く超越的な意味、すなわち、今日まで苦しみにうめいている被造物を救うこと(Rm 8)が含まれているのです。

少数の人の手に経済的・政治的権力が集中する状況がグローバル化していることは、一般大衆の生活と福祉に対する人権侵害の絶えざる原因となっており、ますます多くの暴力的な反応を引き起こしています。豊かな国々でさえ、貧しい人々、底辺に追いやられた人々、失業者、薬物依存症者、そして未来のない若者があちこちに見られるようになっていきます。その割合は国や地域によって異なります。ラテン・アメリカの大都市、アフリカの元植民地、イスラム教国または仏教国は、それぞれ独自の人権問題を抱えており、そこでは兄弟たちは主のインスピレーションに基づく特別の生活様式と宣教方法が示されます。

フランスカンの共同体は地域に根ざしたものであるため、国連憲章や世界保健機構の宣言があるだけでは充分とはいえません。それぞれの共同体はその地域の人々の置かれた状況を考え、地域での条件や行動の可能性を研究し、世界的な統計を見て呆然と立ち尽くすことのないようにしなければなりません。したがって、意識の高まりは、兄弟たちが貧しい人々や抑圧された人々、最も弱い人々の中で社会の正義と平和の推進者として生活し、働くところから始まります。すべての恐れから解放され、和解の道具となった兄弟たちは、これまで抑圧された人々に対し拒まれてきた人権を擁護するように促されています。兄弟である太陽から姉妹である蟻にいたるまでのすべての被造物に対するフランスコの深い愛に倣って、兄弟たちは母なる自然が全人類の幸福を保証してくれるように、自然に対する尊敬の念を培うように働くのです(GG.CC.690-71)。

現代では、教会が再び世界との対話を始めるべき時が到来して以来、長い年月を経ています。レオ 13 世、ピオ 11 世、ピオ 12 世の回勅や社会的・政治的メッセージはよく知られています。しかし、教会が人権問題をその他の関連する権利や責任と共に取り上げ、福音と地上でのキリスト教徒の使命とを関連付けたのはヨハネ 23 世が初めてでした（「地上の平和」1963 年）。第二バチカン公会議は二つの重要な文書を発行しました。「現代世界憲章」（GS 1965 年）と「信教の自由に関する宣言」（DH1965 年）です。パウロ 6 世とヨハネ・パウロ 2 世は、今日の世界の新しい問題に対応するために、この姿勢を踏襲しています。たくさんの抵抗にも関わらず、人権は教会の社会教説の重要な一部であると同時に、多くの信徒の実践すべき理念となっています。

今日、「資本主義」、「新自由主義」、「発展」、「グローバル化」といった抽象的な名称が、豊かな国と貧しい国、北と南の知識・権力・物品・財産の広がり行く格差をカムフラージュするために使われています。集団的意識と連帯感は弱まっています。アッシジのフランシスコの兄弟たちは、人権について書かれていることが死文と化し、その犠牲者たちがさらに底辺に追いやられてしまうのを手をこまねいて見ていることはできません。聖フランシスコは、神の僕は他者の不正に狼狽したり腹を立てたりすべきではなく、むしろ弱い人や貧しい人々と連帯して彼らが社会の中で人間的な位置を占めるのを助けるべきであると忠告しました。2000 年の宣教の歴史の間に、この考え方は民衆の間にゆっくりと浸透してゆきました。人権が守られるためには、忍耐とたゆまぬ努力が必要です。アウシュビッツ、広島、ゲーラークで起こったことは、人権の実現への道が広くも平らでもないということを示すしるしとなっています。最後までたゆまず努力する人は救われるでしょう（Mk 13,13 参照）。

フランシスコの模範に従って、兄弟たちは教会組織の内と外で自分自身のためではなく他者のために生きています。この果てしない奉仕の生活の中で、人権は、貧しく苦しむ人々が人間として何を必要としているのかを私たちに教えてくれます。福音に身を捧げている人々にとって、貧しい人々を最優先することは美文ではなく、義務なのです。人間性を最終的に判断する基準は、自分は最も小さき兄弟姉妹である貧しい人々と連帯しているかどうかなのです。あなたが私の最も

小さな兄弟姉妹、小さく、貧しく、病気で、蔑まれ、社会から疎外されている人々にしたのは、私にしてくれたことなのである（Mt 25,31-46 参照）。人権が侵害されているところでは、罪が激しい害毒を伴って現れます。しかしそれでも、神の恩寵は兄弟たちの奉仕によるとりなしによって、より豊かに注がれるでしょう（Rm 7,15; 5,20 参照）。

貧しい人、ひどい扱いを受けている人、社会から除外された人々に代わって人権に関わる方法を学ぶのは容易なことではありません。フランシスカンたちは、住居、仕事、食べ物、サービス、学校、金銭などのない状態に慣れていません。たとえそう望んでいないとしても、私たちは簡単に仕事のための特権や資金を調達することができ、貧しい人の側に立って闘った結果として告訴されたり投獄されたりした場合には、善意の助力や社会的な支持を得ることもできます。司祭の少ない国々では、多くのフランシスカンは小教区という小さな世界で司牧の仕事に忙殺されています。社会の底辺で暮らしている下層階級の人々と連帯するためには、修道院周辺の中産階級の安楽な生活を超越してゆく必要があります。

「悪徳と罪以外に」自分のために何も望んでいない聖フランシスコのメンタリティー（RegNB 1:17）は、世界と教会の日常の仕事に通じるだけでなく、人権、よりよい生活の質、エコロジー、国際政治などの分野での地域の運動や NGO（非政府組織）、国家の公式の公益事業などへも通じています。人類を悩ませている問題は誰のものでもないの、その解決策も誰のものでもありません。カトリックの国々においてさえも、教会は貧しい人々や権力を持たない人々が人間として必要としているものを満たすだけの力を持っていないのです。「見て、判断して、行動する」という三つの段階を踏むためには、兄弟たちは貧しい人々の非人間的な現状を分析し、実現可能な選択肢を考え出し、上から下へと手を差し伸べる父親的な援助のサイクルを打破する計画を遂行しなければなりません。あらゆる行動の第一の主体は基本的人権を侵害されている被害者たちなのです。貧しい人々は「神はたたえられますように」と祈っています。

人類の長い歴史の産物である人権は、理論においても実践においても、一箇所に留まるといえることはありません。抗議運動、デモンストレーション、反乱、政治的プロパガンダ、武装闘争の中で、新しい権利が生まれ、集団的意識の中にし

っかりと植え付けられてゆくはずです。このように新しい権利が絶えず生まれることによって、新しい社会の民やグループ、連合、非政府組織が多くの国々で形成され、それらは認識と成長を通してその正しい在り方を追求しています。労働者、女性、若者、高齢者、恵まれない人々、マイノリティー、その他社会の底辺に追いやられた人々は、自分たちの置かれた状況を改善し、完全な権利を持った人間として尊敬されるために闘っています。社会正義、平和、雇用、安全、新しい経済秩序、民主主義、自然秩序の保護などに関する要求が世界中に生まれ、広がりがつつあります。兄弟たちよ、今こそ始めましょう（2 Cel 6）。

Bernardino Leers, OFM

兄弟の生き方からの模範・・・

今日、ブラジルで人権問題について話しかければ、彼らの口から決まって出てくる名前があります。パウロ・エヴァリスト・アルンス（Paulo Evalisto Arns）枢機卿です。彼は、四半世紀の間、貧しい人々や抑圧された人々の権利に関するラテン・アメリカの最も偉大な擁護者として知られるようになりました。彼は、1985年に終焉を迎えた21年間に及ぶ軍事政権の暴虐に対して勇敢に立ち上がったのです。

弾圧と恐怖のこの20年間、海外からの低金利の融資によってブラジルの経済は発展し、何百万人もの人々が希望に胸を膨らませてサンパウロのような都市に仕事を求めて移住してきました。しかし、経済成長は少数のエリートに利益をもたらしたのみで、大多数の人々の生活状況は悪化するばかりでした。1976年、アルンスによって始められたサンパウロの正義と平和委員会は、一冊の本を発行し、その中で、ブラジルの経済成長が制度化された暴力や人々の貧困の上に成り立っていることを明らかにしたのです。しかし、それよりもずっと前に、アルンスはすでに修道者と訓練された信徒を激励して、福音を比較的裕福な都市の中心部にある小教区から都市の周辺に生まれつつあった貧しいスラム街に広げることにより、その大司教区で影響力をもつ存在になっていました。1960年代のこの民衆的なアプローチが後にブラジルとラテン・アメリカの教会の新しい顔となる基礎共同体の土台を築いたのです。

サンパウロ北部の補佐司教として働いていた最初の頃から、アルンスは貧しい人々の人権擁護のために身を捧げることを表明していました。彼はまもなく「バスに乗る司教」として知られるようになりました。司教区全体を巡回し、目も当てられないような貧困と汚さの中に暮らしている家族が増えていることをその目で確かめ、彼らの状況を改善するためには何が必要かをじかに見ていたからです。彼は1970年に市の大司教の役目を引き継ぐと、司教館とそれを取り巻く公園を売却し、その収入を貧困地域のコミュニティーセンターの建設に充てて多くの人を驚かせました。アルンスの使命感と熱意は第二バチカン公会議の業績と司祭になったばかりの頃のリオデジャネイロ郊外のファベラスでの体験からインスピレーションを得ていました。アルンス自身は（ドン・パウロ自身は）自分の人権問題への関心は第二次世界大戦直後のパリ留学時代から始まったと考えています。彼はパリでナチス支配下のドイツで拷問を受けたことのある元戦争捕虜たちに会いました。彼は後に自国の軍事独裁政権下の最悪の時期にこの人々と同じ体験をすることになります。1970年代になって政治的反对者に対する弾圧が強まるにつれ、アルンスは権力の乱用を声高に糾弾することによってその名を世界に知られるようになりました。彼は政治犯を定期的に訪問し、拷問の犠牲者や政府の暗殺者集団によって殺された人々の家族に支援の手を差し伸べました。ブラジルの人権運動において彼が成し遂げた最も重要な貢献の一つは、2000件近くに及ぶ軍による拷問の実態を詳細に記録した秘密データの収集です。少数の弁護士からなるチームが軍事法廷の記録をコピーして、拷問の犠牲者と拷問者に関する正確な記録を作成するのを手伝いました。この記録はやがて密かにブラジルから持ち出され、国外で *Brazil Nunca Mais!* (ブラジルの拷問) というタイトルで1985年に出版されました。ブラジルが文民政権に戻ってからも、アルンスは貧しい人々と弱者のために革命的な人権運動を続けました。彼は、ブラジルの先住民を尊敬するように訴え、教会内で自分たちの文化を認識してもらいたいと願っているアフリカ系ブラジル人を支援しました。彼はまた、エイズ患者とその家族を助けるプロジェクトを立ち上げ、ブラジルの環境運動と土地を持たない人々の運動への支援を表明しました。彼は司教教育キャンペーンにも積極的に関わりました。このキャンペーンは、社会正義を実現するための政治的な組織作りを人々に奨励するものです。レオナルド・ボッフ (Leonardo Boff) が解放の神学に関する仕事のためにバチカンに召還されたとき、アルンスと仲間のフラン

シスカンであるアロイス・ロルシェーダー (Alois Lorscheider) 枢機卿はレオナルド・ボッフを弁護するためにローマに行きました。叙階以来 50 年間、アルンスは教会の内と外で正義と人権の尊重という自らの主義主張を貫き通しました。彼は公式には退職していますが、今日のラテン・アメリカの声なき人々の声の強力な代弁者となっています。

南アフリカでは、かつてのアパルトヘイト (人種隔離政策) 体制の崩壊とともに新たに生まれた「虹色」の国家憲法の中で正義・尊厳・人権の概念が大切にされています。「平等」という言葉が皆の口にのぼり、数年のうちには 40 年以上にわたって大多数の人々が苦しんできた広範囲に及ぶ不正と差別は忘れられてゆくのかかもしれません。この 40 年の間、白人・黒人、南アフリカ人・外国人双方の多くの献身的キリスト教徒たちが黒人と有色人種全員の人権を守るために懸命に働いて来ました。シーマス・ブレナン (Seamus Brennan) もその一人で、彼は 1960 年代に設立した小教区センターを訪れた何千人もの人々の間で親しみを込めてスタン神父と呼ばれています。

スタンはアイルランド北部のロスコモン県出身で、1965 年に初めて、ヨハネスブルグ郊外の Reiger Park として知られる荒廃した地域の「有色人種のための司祭」として南アフリカにやって来ました。「この新しい司祭」はある日、大量にお酒を飲んでいて男性と話をしていて、南アの大多数の非白人の生活ぶりを始めて知ったのでした。その男性は自分の不満をぶちまけながら、学校の試験に落第したことや勉学を続けるのに必要な本を買うお金がなかったことなどを話しました。「あなたたち白人はいい。図書館にも行けるし、そこで必要な手助けもしてもらえる。でも、私たちは誰からも何もしてもらえないんだ」。この出会いがきっかけとなって 1966 年に小さな図書館が生まれ、さらにあらゆる人種の人々のための成人教育クラスが開かれるに至りました。これは人種を厳しく分離した南アフリカでは革命的な一歩でした。聖アントニオ教育センターに集まる学生の数は年々増えつづけ、数百人から数千人に膨れ上がりました。このため、新しい教室や、科学実験室、語学教室、コンピュータールームなどが次々と増設されました。スタンのセンターの人気が高まるにつれ、地元の政府の役人による反対の声も高まってゆきました。彼らはスタンが「カラードのみ」と規定された地域に黒人の生徒を入れていることは法律違反であると言いました。スタンが学校の閉鎖や国外追放、あるいはそれ以上の最悪の事態を避けることができたのは、

彼が地方政府の官僚社会を熟知し、独創性と人脈を駆使したからでした。聖アントニオ・センターは1976年6月のソウェト暴動の間、地域で唯一閉鎖されなかった黒人学校でした。この学校の成人学生たちは、自分たちが勉強することが平等のための闘いの必要不可欠な要素であることを理解するようになりました。このセンターは、教育を受けなければ暗い未来しかない人々に教育施設を提供しただけではありません。センターはまた、地元企業の援助を受けて、スポーツ活動、社会活動、青年クラブ、高齢者センター、医療サービス、男性と女性のための技術訓練プログラム、そしてレストランを擁するまでに発展したのです。これらはすべて、非人種差別的なシステムで運営されました。最近出来た施設としては、アルコール依存症者や薬物依存症者を、もし安い料金でも払えなければ無料で収容する治療センター「慈悲の家」や、末期患者のための「聖フランシスコ・ケアセンター」などがあります。スタンは多くのエイズ患者が家族や友人、地域社会から拒絶されて、孤独に苦しみながら死んでゆくを見て、このようなホスピスの必要性を痛感したのです。一人一人の人権と人間の尊厳に対する彼の信念とその擁護は、アパルトヘイト時代の悲惨な後遺症を乗り越えようとする他の学校や小教区センターの手本となっています。1991年、日本から南アに渡ったニコラス根本は養成の仕事を経て、現在では「聖フランシスコ・ケアセンター」で働いている。(<http://www.ofm-j.or.jp/mission/030205.html> 参照)

1960年代初頭、オズワルド・ジル (Oswald Gill) は、アイルランドの神学生たちにギリシャ語とラテン語を教える仕事に満足していましたが、同時にラテン・アメリカで働きたいという密かな願いも持っていました。司教区レベルで全く新しい要理教育の試みが始められていたチリのサンチャゴにある35,000人規模の小教区共同体で働く可能性を提示された時、彼はそのチャンスに飛びつきました。それは、「北」と「南」との違い、いわゆる「第三世界」の大部分の生活状況とそうした貧困を生み出す原因を発見する個人的な旅路の始まりでした。オズワルドは土地や天然資源、教育に手の届かない人々が個人的・経済的な可能性を伸ばすことができずにいるのを目の当たりにしました。特に二つの出来事はオズワルドの心にいつまでも残る印象を与えました。一つはチリの民主的に選出された大統領であるサルバドル・アレンデ (Salvador Allende) を倒した暴力的なクーデターの時の体験であり、もう一つは、メデリンとプエブラで開かれたラテン・アメリカ司教協議会 (Latin American Bishops' Council) (CELAM) で

した。これらの体験は彼にとって貧困を小教区の人々の視点で理解する助けとなりました。その視点とは、「不安」であり、「家を持ち、家族を養い、子どもを教育することができないという無力感」でした。オズワルドはカリフォルニアで農業に従事する移民たちと働いている時、再びこの「不安」に直面することになりました。彼の小教区のメキシコ系・フィリピン系アメリカ人たちは、世界で最も肥沃な農業地帯のまん中で働いているにもかかわらず、貧しい二流市民としての生活をしていました。果物や野菜を育てる裕福な農民たちは、栽培期間中移民たちの重労働を利用し、彼らが最も基本的な社会的サービスを受けるために団結しようとするのを阻止し、彼らに合衆国市民権を与えまいとしていました。こうした貧しい労働者の間でのオズワルドの使命は、彼らの市民権や法的権利を擁護することによって彼らの人間としての尊厳を取り戻すという点に次第に集約されていきました。自分の仕事を振り返り、オズワルドはパウロ6世の言葉を借りてこう言っています。「正義のために働く覚悟ができていないなら、どうぞお願いですから平和について語るのをやめてください」。

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタバーバラ管区が一年間の管区全体の調査段階を経て、1985年に中央アメリカの難民たちの「避難所」を宣言した時、すべての兄弟はこれに応えて何かするように要請されました。毛布を集めたり、州の議員に手紙を書いたりする兄弟もいれば、不法移民に仕事や寝る場所を提供したりするなど、よりリスクの高い行動を起こす兄弟もいました。ワシントン州スポーカンにある労働者階級が多数を占める聖アン小教区は、エル・サルバドルで家族が口に出せないほど恐ろしい扱いを受けるのを目撃した女性難民とその9人の子どもたちの話に感動し、彼らを自分たちの教会の地下に住むようにと招きました。数ヶ月の後、移民・帰化局はこの家族の隠れ家を突き止め、エル・サルバドルに強制送還するつもりであると発表しました。聖アン小教区はこれに対して公的な記者会見を開き、小教区の代表者は合衆国政府が「私たちのエル・サルバドル人の家族」に手を触れようとするれば、その前に私たちを国外に追放しなければならないだろうと宣言したのです。エド・ダン(Ed Dunn)によれば、「小教区の信徒たちは、彼らの信仰の世界的なつながりを理解し始めました。エル・サルバドルの難民たちは、日曜日に教会で隣に座る信徒と同様の思いやりを受けてしかるべきなのだ。これは素晴らしい一歩でした」。「人々は自分の幸福を脅かされるリスクを冒して政府に立ち向かったのです。一時はアメリカ西部の

約 50 の教会を巻き込んだこの避難所運動の最も劇的な結果はおそらく、一般市民の行った選択が合衆国全体のキリスト教徒の良心に変化をもたらしたという点でしょう。「他者の人間としての尊厳を信じると口でいうだけでは充分ではなくなったのです」とエドは付け加えます。「カトリック信者として、他者の基本的人権を守るために自分の生活を危険にさらす心構えが必要とされるようになったのです」。

スペインのインターフランシスカン JPIC 委員会は、移民と不法滞在者のために働くことは人権問題を気遣うこの委員会の重要な役割の一部であると長いこと考えてきました。統計によれば、現在スペインには 60 万人の合法移民と 8 万人の不法滞在外国人がおり、これは全人口の 2 パーセントにあたります。ヨーロッパ諸国の通貨統合の「最初の一行」に並びたいという願いから、スペイン政府はすべての移民に対してますます差別的な対応をするようになっていきます。スペインのフランシスカンたちは、一人ひとりの移民の基本的尊厳を重視する様々なプログラムを実践することによってこの問題に対処しています。兄弟たちは志を同じくする他のグループと共に、フランシスコ会の小教区や学校でこれらの問題に対する社会的関心を高めるために働いています。特別の雇用計画が考案され、移民擁護の活動が新しい文化に適応しようと努力している人々の必要に合わせて組織されました。その他の注目すべき反応としては、多文化教育の推進、宗教間の対話、移民の人権がスペインの法の下で守られるようにする努力などが挙げられます。ヴィセンテ・フェリペ (Vicente Felipe) は彼のいた修道院が「グアテマラからの難民 4 家族を友情、専門家によるカウンセリング、物質的援助」によって助けたことを思い出しています。

アメリカ南西部では、組織化されたフランシスカンの宣教活動は 1898 年、アリゾナ州北東部の聖ミカエル宣教地 (St. Michael's Mission) の創設に始まりませんが、この地域で最初のフランシスカンの存在の記録は 1539 年にまで遡ります。特にアンセルム・ウェバー (Anselm Weber) という兄弟は、ナバホ族の言葉を習得し、部族の長老を一人ひとり訪ねるために馬に乗って何百マイルもの旅をして、ナバホ族の尊敬を勝ち得ました。このドイツ系アメリカ人の兄弟にとってナバホ族に関する最大の問題は、アメリカ政府によるナバホ族の聖地の侵害でした。彼はナバホ族の姿勢はフランシスカンの「土地の管理者」としての姿勢に通

じるものがあると感じ、彼らのために積極的に働きました。彼は合衆国政府と地元の人々との間の紛争を解決するためにしばしば呼び出されました。彼は近代的な測量の新しい技術を使って、多くの家族のために自作農場の要求を書類にし政府に提出するのを助け、また毎年ナバホ族の代表としてワシントンに出向いてインディアン事務局 (Bureau of Indian Affairs) の長官に会い、これらの数え切れないほどの要求を処理するのを手伝いました。彼が亡くなった 1921 年頃には、彼はナバホ民族の土地を 150 万エーカーも増やしていました。同じ年に、兄弟たちはナバホ民族協議会 (Navajo Tribal Council) の設立を助けました。この協議会は 20 世紀の残りの期間、部族を統率してゆくのに不可欠の組織となっていました。

1902 年に、もう一人のフランシスコ会の兄弟、人類学者ベラード・ヘイル (Berard Haile) がミッション・スクールのチャプレンとして働くために聖ミカエル宣教地にやってきました。彼のナバホ語に対する情熱的な関心は、地元の人々の生活にも強烈な影響を与えました。マーセラス・トロースター (Marcellus Troester) やその他の兄弟たちと共に、ベラードは特殊なタイプライターで、ギリシャ語の記号を使ってナバホ語の発音を表す最初のアルファベットを考案しました。同時にマーセラスは、「小教区人口調査」を辛抱強く行い、ナバホ文化、家族構成、同族関係、出生と死亡、社会的・宗教的な習慣などをわかりやすい資料にして提供しました。彼の業績がなければ、これらの情報は永久に失われていたかもしれないのです。アンセルム・ウェーバーのように、ベラードは遠くのナバホ族の共同体まで何日もかけて馬で向かい、そこで儀式や創生神話に関する記録を作成することができました。ベラードをからかう兄弟たちもいましたが、そんな時ベラードは「彼らに宗教的なアプローチを試みる前に、彼らの習慣や人生観、宇宙観、人類・植物・動物の起源に関する考え方を知っておく必要があると思えたのです」と答えています。

最近、フランシスカンたちは最初個人レベルの人権擁護活動だったものを、より効果的な国際レベルの人権擁護運動にまで発展させました。1993 年 6 月にウィーンで開かれた人権会議以来、小さき兄弟会はフランシスカンズ・インターナショナルと共に国連とその関連機関で一層積極的な役割を演じることになりました。イグナシオ・ハーディング (Ignacio Harding) とマイケル・スルフカ

(Michael Surufka) は特に OFM の国連会議やサミットへの参加を推進してきました。フランシスカンズ・インターナショナルの OFM アニメーターとしての 2 年間の仕事を振り返って、マイケルはこう言っています。「国連にも確かに限界はありますが、それは国際共同体が集まる一つの場所です。国連はグローバルな会話が交わされている場所なのです。国連は私たちがいてもいなくても続いてゆくでしょうが、私たちはそれに参加するように招かれました。そしてフランシスカンとして、私たちには言うべきことと聞くべきことがあります。」

イスタンブールで開かれた国連人間居住会議(ハビタット)に参加したフランシスカンズ・インターナショナル(FI)のチームメンバーであるアゴスティホ・ディークマン(Agostinho Diekmann)は、この比較的新しい運動について次のように説明しています。「他の文化・言語・見解に直面したことにより、また、社会的・政治的・経済的問題についてより深く研究することによって、私の視野は大きく広がりました。FI 代表団の仲間と共に、私は聖フランシスコの『共に世界中を回る』『我々の修道院は世界だ』という言葉の意味を発見しました。私たちは正義と平和、そしてすべての被造物の融和の擁護者として、貧しい人々のために働かねばなりません。フランシスコの模範に倣い、私たちは自分の草の根レベルの体験を思い起こし、不正や抑圧によって沈黙を余儀なくされてきた人々に声を与えるために、貧しい人々の必要を携えて国々の支配者たちに訴えてきたのです。」

会憲

第 69 条 1-2 「抑圧された人々の権利を擁護するに当たって、兄弟たちは、暴力的行為を斥け、より弱い者にも使えるその他の手段に訴える(1)。人類を脅かす大きな危険をも認識して、兄弟たちは、あらゆる形での戦争行為および軍備競争が、世界にとって最悪の災難であり、貧しい人々に最大の傷手を負わすものとして、強く非難する。そして労苦をいとわず、平和な神の国を築くために働く(2)。」

その他の参照箇所：第 32 条 3、92 条 2、96 条 1 3、97 条 2、109 条 1、129 条 1、185 条 1。

討論のための質問

1. あなたは、国内または国際的な人権グループに属していますか？あなたは使徒職の中で、このようなグループについて肯定的に言及していますか？
2. あなたは個人的な祈りの中に、人権侵害の問題を含めていますか？あなたの地域の兄弟共同体の祈りの中ではどうですか？管区の会議や集まりの中では？
3. あなたの社会では、どのグループが最も権利を無視される危険が高いですか？
4. あなたは基本的人権を侵害されるような体験を個人的にしたことがありますか？もしなければ、そのような体験をした人を誰か知っていますか？そのような体験はあなたまたはその人にどのような影響を与えましたか？
5. あなたの国は移民問題にどのように対処していますか？あなたはこの問題に関する国の立場に対して公的に支持を表明したり、反対を表明したりしたことがありますか？
6. あなたの管区はあなたの国が直面している最も重要な人権問題にどれほど効果的に取り組んでいるのでしょうか？宣言を通して？行動を通して？その両方で？
7. あなたの国で、また国際レベルで侵害されている人権とは何でしょうか？
8. それらの人権侵害の原因は何でしょうか？経済的な原因？政治的？心理的？
9. 私たち一人ひとりがある種の人権侵害には敏感なのに、他の種類の人権侵害にはあまり敏感でないのはなぜでしょうか？

10. 人権に関する教会の意識の高まりとそのための行動は「時代のしるし」と考えることができるでしょうか？
11. 福音宣教と人権との関係とは何でしょうか？キリスト者の共同体が人権のための独自の組織を持つのと、キリスト者が他の善意の人々と共に社会的組織に参加するのと、どちらがより適切だと思いますか？
12. どんな種類の行動が人権を擁護するためにフランシスカンのとる最も適切な行動だと思いますか？

地域における今後の人権キャンペーンのためのチェックリスト

もしあなたが人権侵害に対応してキャンペーンを始めたいと思ったら：

- ・ 今までに起こった出来事を明確に、簡潔に要約できますか？
- ・ フランシスカン共同体がどのように関わっているか説明できますか？
- ・ 地元の（フランシスコ会の）JPIC 委員会からの文書による承認を得ていますか地元のフランシスコ会の長上や司教は支持を表明していますか？
- ・ フランシスコ会の長上や司教からの文書による承認を得ていますか？
- ・ 接触すべき人たち（裁判官、政治家など）の名前と電話番号を知っていますか？
- ・ あなたが援助したいと思っている人たちの写真を持っていますか？
- ・ ファックスまたは E メール（または両方）にアクセスする能力とノウハウを持っていますか？
- ・ キャンペーンに関するすべての質問に答えるキャンペーンのコーディネーター（一人または複数）を任命しましたか？
- ・ あなたの訴えを指示する意思のある人々と組織の報道リストを持っていますか？
- ・ 明確な情報、定まった方向性、「連絡先電話番号」、あなたのキャンペーンコーディネーターの名前を刷り込んだニュースリリースを作成しましたか？

6 . 女性およびフランシスコとクララのカリスマ



小さき兄弟会会憲 第4条、1

兄弟たちは、神の民の一員として、時代の新しいしるしに注意を払い、移り行く世界の情勢に対応しつつ、常に教会と心を一つにし、教会が提起する課題と目標を自分のものとして、力を尽くしてそれを推進する。

第56条、2

第二会および第三会の隠世修道女たちとの霊的な一致を維持し、保護し、かつ彼女たちの連合を推し進めるのは、第一会の務めである。しかし彼女たちの生活上の自治、とりわけ統治に関するものは、常に十全に保たれる。

フランシスコの生き方から・・・

フランシスコは当時の社会常識、特に女性に関する社会常識の多くを覆すような行動を、礼儀正しく、しかし決然と取っています。彼は、クララが支度金による

収入の保証なしに、女性が修道生活を始めるのは正しいことだと考えていました。教皇が聖クララの会則にはっきりと書かれた「清貧の特権」を完全に承認するまでに 40 年かかりました。しかもそれは、サン・ダミアノのクララ会の姉妹たちにしか適用されませんでした。

学者である兄弟イグナチオ・ブレイディー (Ignatius Brady) は、第四ラテラノ公会議の前に、クララとその姉妹たちはフランシスコとその兄弟たちがハンセン病者の世話をするのを手伝っていたかもしれないと述べています。フランシスコは兄弟たちが使っていた新約聖書を、施しを求めてやって来た会の 2 人の兄弟の母親に与えました (2Cel 91)。また別の折には、彼は貧しい女性にマントを与えています (2Cel 92)。女性のために多くの奇跡が行われました (3Cel)。

フランシスコは兄弟たちが女性と「疑わしい交際」をすることを禁じてはいましたが (RegB c.11)、彼自身がクララやヤコバ夫人との関係によって示した模範は、すべての関係が「疑わしい」わけではないことを示しています。フランシスコ自身、未婚・既婚の女性を兄弟たちが「まことの信仰と悔い改めのうちに堅忍するよう」呼びかけるべき人々のグループに含めています (RegNB c.23)。

フランシスコは自分自身や兄弟たちを表すのに女性的なイメージを用いるのをためらうことはありませんでした。彼は自分の兄弟たちの共同体を描写するのに、ある女性についてのたとえ話を教皇にしたことがあります。その女性は王との間にたくさんの子どもを作り、最終的には正当な財産相続を要求するように子どもたちを送り出したのでした (LM 3:10)。「隠遁所のために与えられた規則」では、兄弟たちはマルタとマリアのグループに分かれ、話し合っただけで決められた期間ごとに役割を交替することになっていました (RegEr)。「まことに、母がその肉親の子を養い愛するとすれば、兄弟たちは、どれほど心をこめてその霊的兄弟を愛し、養わなければならないであろうか」(RegB c.6)。「兄弟ヤコバ夫人」が死の床にあるフランシスコを訪れたとき、修道院の規則は適用されませんでした (LP 101)。

考察

1. 異なるコンテキスト

アッシジのフランシスコの非凡な霊的才能をたたえるとき私たちは情熱的になり、その情熱によって私たちは彼の人生と仕事において無数の希望と大志を支えたものが何であったのかを知ることができます。しかしこの情熱は、同時に、フランシスコ(あるいはクララ)が今日の我々の抱えているあらゆる問題に対して模範を与えることができるかのような幻想にもつながりかねません。女性(家族の中の女性、街で出会う女性、一緒に活動する女性)との関係の中でフランシスコを語るとき、この危険は特に顕著になります。フランシスコの女性との関係が実際にどのようなものであったのかを最初の源泉資料とそれらの資料の幾層にもわたる解釈から正確に知ることは困難です。また、私たちの抱えている疑問のどの部分が、現代の哲学と科学に基づく世界観の特性なのかを知ることも同様に困難です。私たちの世界観は、現代にフランシスコの理想を蘇らせるための努力を支えるものですが、フランシスコを不思議がらせたり、幻滅させたりしかねない多くの要素をも含んでいるのです。

こうした疑問を抱えるフランシスカンたちは今日、女性による女性のための問題とそれへの関わりが収斂されている世界で働き、生活し、呼吸しています。世界レベルでは、1995年北京で開かれた国連女性会議がこのことを証明しています。参加者たちは、出席した何千人もの女性たちが体験し褒めたたたえた多様性の一致という魅惑的な物語を携えて自分の国に戻ってゆきました。教会の中では、女性の問題に取り組むヨハネ・パウロ2世の努力が見られます。「女性への手紙」(*Letter to Women*)(1995年)と「女性の尊厳と使命」(1988年に出版された回勅)はその表れです。これに加えて、地域の司教協議会、修道会の長上会、信徒の組織は女性に対する不正やそれを様々な文化的視点から是正してゆく必要について書類を作成したり、研究を行ったりしています。この書物のような出版物においては、問題の調査は様々な異なる文化的背景の中で批判的に行われるべきであるということを理解しておくことが重要です。父権的な制度に支配されている地域で働いている兄弟たちは、母権的な基盤が信念や行動に影響を与えている文化の中で宣教している兄弟たちとは異なったメンタリティーや現実に直面するでしょう。このような点に注意しつつフランシスコの物語を読み、彼がイエスの足跡に従おうとしながらどのように女性たちと出会ったのかを考えましょう。

2. フランシスコの文化的コンテクスト

フランシスコが育った教会の世界は人間の本質を低く見ていました。人間というものは弱さと墮落に満ちており、救いは生命の弱さの中にかろうじて得られ、保たれるとするかすかな希望を抱いて破滅に向かって突き進んでいると考えられていました。聖職者の独身制に関する教会の懸念を支持しようとした修道士たちは、女性を罪と裏切りの母であるイヴの生まれ変わりと論証する中傷的な小論文を書きました。昔のローマ法は女性の市民生活における積極的な役割を認めず、秘められた美德や父親・夫・子どもたちに対する忠誠を称揚しました。このため、ローマ法の支配下にあった地域では、女性の自由は非常に軽んじられ、女性は家族や一族の長である男性の野望に都合のよいように扱われることがしばしばでした。しかし同時に教会は、強制結婚から女性を保護し、宗教的献身という選択肢を与えることもしていました。中世ヨーロッパで新しく生まれつつあった吟遊詩人の文化は、少なくとも理論的には女性の社会的地位を向上させるだけの趣味のよさと感受性を持ち合わせていました。フランシスコは女性をたたえるかと思えば魔女扱いにするような一貫性のない環境の中で育ったのです。

フランシスコの伝記を研究すると、「いったい何人くらいの女性がフランシスコの生涯で重要な役割を演じたのだろうか？」という疑問がわいてきます。まず思い浮かぶのは三人の名前、すなわち、母親のピカ、クララ、そしてヤコバ夫人です。しかしながら、研究を続けると、さらに多くの女性が彼の物語の登場人物となっていることがわかるのですが、彼女たちはしばしば名前も告げず、言葉も発せず彼の人生の舞台を通り過ぎてゆきます。たとえば、彼が尊敬していたと言われるグレッチオの女性たちや、ローマのプラクシード(Praxedes)にあるサン・セヴェリノの修道女たち、彼がクララの修道会に推薦した5人の志願者たちのことを考えてみてください。また、フランシスコを敬愛し、後には彼の時たまの訪問と説教を心待ちにしていたサン・ダミアノの共同体のことを考えてみてください。さらに研究を進めると、女性がしばしば「奇跡についての小冊子」(*Tract on Miracles*)の中心となっていることに気づかされます。アッシジやその他の村でフランシスコが物乞いをした時、何人の女性が彼のノックに答えたでしょうか？何人の女性が大聖堂や広場で彼の前に立ったでしょうか？フランシスコは

彼女たちに話し掛けなかったのでしょうか？初期の「悔い改めの姉妹たち」(Sisters of Penance)になった何百人もの女性たちとに間に会話は交わされなかったのでしょうか？

3. フランシスコにとってのクララとヤコバの重要性

女性たちのこの広い世界について私たちが何を推測するにせよ、私たちは二人の女性、すなわちクララとヤコバがフランシスコとの関係と友情の中心的な役割を果たしていたことを知っています。この明らかに一生の間続いた絆から、私たちは何を学べるのでしょうか？おそらく、クララとの関係に関する最も重要な証言は「聖女クララに与えられた生活様式」(*Form of Life*)と「聖女クララに書き送った最後の望み」(*Last Will*)に記録されています。この二つの短い文章の中で、フランシスコはクララを召命と献身において対等の存在として考えていることを断言しています。彼はクララとその姉妹たちを平等に遇するように命じ、彼女たちに対し、兄弟たちに対するのと同様の配慮を示しました。クララはその相互関係と約束の持つ大きな力を十分に意識しており、そのため彼女は自分の会則の中でそれを注意深く大切にしました(第6章)。

イエスはフランシスコの全人生の模範でした。では、イエスは女性との出会いにおいて律法を超えておられましたか、フランシスコもそのような出会いの中に慰めを見いだしていたのでしょうか？イエスに従い、仕えた女性たちについての聖書の個所にやはり教えを見いだしていたのでしょうか？イエスが宣教の中で女性と関わることによって非難を受けるリスクを犯したという記述は、フランシスコにもイエスのように信じて行動する自由を与えたのでしょうか？

フランシスコの女性との関係 ポジティブな側面と困難な側面

フランシスコの伝記を読んでも、フランシスコの女性との関係がいつも平静で、慰めに満ち、穏やかなものであったわけではないことがわかります。私たちに残されたいくつかの物語は、心温まる、思いやりに満ちた出会いを描いています。「ペルーシアの伝記」はフランシスコが目の治療のためにサン・ダミアノに滞在し、そこで『太陽の賛歌』を作詞し、愛情を込めて賛歌の使い方を説明し

たことを伝えています (LP 42, 43)。「小さき花」(*Fioretti*)はポルチウクラでフランシスコがクララたちと夕食をともにしたときの、素晴らしいたとえ話のような物語を今に伝えています (Fior. 15)。フランシスコが死の床でヤコバ夫人に頼んだことからわかるように、私たちは彼がローマにヤコバ夫人を訪ねたことを知っています。彼女との関係が強固で素晴らしいものであったことは、彼女の遺体がフランシスコのバジリカの地下聖堂でフランシスコの遺体の真向かいに安置されていることによってもはっきりとわかります。

しかしながら、私たちはフランシスコの別のイメージ、すなわち女性の友人に対して頑なに冷淡に見えるフランシスコを描いた物語を無視するわけにはいきません。私たちは彼がサン・ダミアノで灰をかぶり、「神よ、私を憐れみたまえ」という詩篇を唱えて沈黙のうちに立ち去り、姉妹たちに彼女たちが期待していた慰めを拒絶したかのような説教をしたことを思い起こします (2 Cel 207)。彼が書いたものとされる女性に関する否定的な声明も存在し、これらは当時の聖職者の文書に見られる女嫌いの傾向を明らかに反映しています (2Cel 112)。また、貞潔を守ることはフランシスコにとっては戦いであり、彼の情熱的な性格に対する心理的な葛藤とそれが持つ過ちの可能性が彼の心を大きく占めていたということも私たちは知っています。この内面的な戦いはフランシスコにとって女性との関係に対する楽観的な見方を不可能にしたのでしょう。それにもかかわらず、フランシスコが女性との間に革命的な平等と愛情に満ちた尊敬の関係を打ち立てることができたということは、それ自体福音の恵みによる奇跡だったのです。

したがって、フランシスコは驚嘆すべき人物ではありましたが、当時の教会の反女性的プロパガンダやアウグスティヌスの時代から中世に至るまで広く普及したキリスト教の教えと偏見の全般的にネガティブな人間観(特に性的な側面において)から完全に自由であったとはいえないとすることができます。フランシスコは修道院の禁域の保護によらない独身生活の形態を作り出しました。彼自身ほど恵まれておらず、また献身についてもそれほど気持ちがはっきりしていない兄弟の行いに関するフランシスコのつねの心配は会則や伝記の中に表れています。宮廷文学や吟遊詩人の音楽の新しい影響力は騎士を夢見る人々の心をそそりました。彼が使う言葉やイメージは高邁な目的のために繊細な絆によって結ばれる男女の理想像の持つ洗練さとロマンスを借用したものです。フランシスコが人

生において出会った一部の女性たちの力強さや福音への忠実さは彼に尊敬の念と献身的な友情の気持ちを起こさせ、それははっきりと公のものとなっています。彼は福音をすべての人間の努力の基準にしようとする彼の運動の輪の中にたくさんの女性を引き入れています。彼はこれらの女性たちを男性と同じように歓迎し、その養成計画の中にはっきりと加えています（全キリスト者への手紙）。

このように、フランシスコは次のような点において私たちにとって大きな助けとなります：

- 1．彼はすべての存在の相互関係について、男性的・女性的な用語で深い霊的な洞察力を与えてくれます（『太陽の賛歌』）。
- 2．彼は福音の真理のために、文化的な障壁を超える能力を示してくれます。
- 3．彼はクララとヤコバ夫人との深い友情の記録を残してくれているので、私たちの研究の大きな励みになります。

一方、私たちはフランシスコが私たちのジレンマのいくつかについては答えてくれないことを注意深く理解しなければなりません：

- 1．工業化された西洋世界における女性の役割の発展、最も原始的なものを除くすべての文化における女性の新しい意識の芽生え、そしてポストモダン、ポストマルクス主義の社会における未知の領域は私たちが解決しなければならない問題です。フランシスコは私たちが今歩まねばならないところを歩いていたわけではありません。人間の生活の性的な側面に対する意識の顕現とそれがあらゆる形のマスコミから受ける注目は、私たちに突きつけられた前例のない課題です。
- 2．父権的で性差別的な偏見がしばしば女性の人格を貶め、女性の参加を制限してきた教会において女性が直面する困難は、いくつかの地域で深刻な亀裂を生んでいます。女性のために和解と正義の源となれというフランシスコの兄弟たちへの呼びかけは、今日の教会共同体の中で緊急の呼びかけとなっています。

ます。

最後に、現代におけるフランシスカン・ファミリーの創造的な誠実さの一つのしるしとして、フランシスコ会の兄弟・姉妹が共に手を携えて宣教する組織や機会が増えていることが挙げられると思います。今日、修道会の中で、また国際的・大陸的レベルで、多くの合同のプロジェクトが行われています。これは、世界という共同体において私たちが使命を果たし、私たちの影響力を育てようとする試みにおいて私たちが互いに向き合わせようとするものです。フランシスコが私たちにパターンやインスピレーションを提供してくれることに対して感謝しましょう。そして、かつてフランシスコとクララがポルチウンクラの燃え上がるような庭を歩いたように歩くためには、どのような福音的エネルギーが必要かを見分けるという自分自身の責務に関して責任を持ちましょう。

Margaret Carney, OSF

兄弟たちの生き方からの模範・・・

もし聖フランシスコが今日の世界に戻ってきて、教会や社会における女性の役割に関して最近開かれている多くのセミナーや国際会議に出席したとしたら、おそらく彼はそれらをみな理解しがたいと感じることでしょう。聖フランシスコと聖クララが修道会を設立して以来数世紀の間に、この「女性の権利」の問題ほど文化の要因が変化した問題はありません。

アジアの兄弟たちは率先してこうした変化に対処してきました。フランシスコ会アジア・オセアニア管区協議会（FCAO）は、2年の間アジア・オセアニアにおける女性の状況を調査し、その結果をレポートとして出版することを決議しました。レポートの元となったこの2年間の調査プロセスは、女性の権利の分野における理解と行動を推進するために協議会レベルでとられた最も賢明で建設的なステップと考えられています。この地域にある13の管区の兄弟たちは、それぞれの国の女性たちの地位と社会的状況に関する情報を集めるために、詳しいアンケート調査を行いました。これらのレポートはそれぞれ、その地域の3名の女性が細かくチェックしています。この結果はオーストラリア、シドニーで開かれたセミナーの基盤となりました。このセミナーには、13人のFCAOの管区長た

ちと、他の国々からのゲストが参加しました。異なるアジアの国々からそれぞれ5人の女性と2人のオーストラリア人が兄弟たちと共に討論に参加しました。会議の後半はフランシスコとクララのフランシスカン運動の発生に対する貢献とフランシスカンの生き方の未来に対する女性の貢献について主に話し合われました。FCAO 参加国の文化がそれぞれに異なるために、全地域の女性や兄弟たちが明らかにした問題には共通のものも異なるものもありました。経済的不正、二流市民、尊敬の欠如や認識不足などの問題がほとんどすべてのレポートで言及されていました。レポートに回答を寄せた女性たちや会議に出席した女性たちの感想は、管区レポート全体に表れている視点や苦しみを非常に個人的な形で説得力あるものにし、兄弟たちに独創的な方法で応えるようにと促すものでした。提案は託児所や健康・技術訓練プログラムの開設など非常に実際的なものから、何世紀もの間女性の尊厳の抑圧を支持してきた伝統的で抑圧的な聖書解釈を完全に改めることまで多岐にわたりました。レポートは、貧困や売春、抑圧的な関係に苦しむ女性の窮状を哀れむだけでは不十分であると指摘しています。兄弟たちは、日常生活の中で関わる女性たちへの自分の態度を徹底的に再点検することによって、真に女性に力を与え、協力する道を歩まねばなりません。

レポートの終わりに、タイのラムザイ (Lamsai) で末期患者のための聖クララ・ホスピスで働いていたアントニオ・エギグレン (Antonio Eiguren) からの二つのエピソードが紹介されています。一つは、バンコクでトラック運転手の夫から麻薬と売春を強要されたあるイスラム教徒の女性の話です。彼女は家族にも見捨てられ、ラムザイでエイズのために孤独に死んでいこうとしています。もう一つは、やはりバンコクでトラック運転手と結婚した中国出身の若い女性の話で、彼女は夫が薬物依存症であることも浮気を重ねていることも知りませんでした。彼女は1年の間に一人息子をエイズで失い、夫も31才で亡くなりました。彼女自身もすでに余命わずかとなっています。彼女は夫への態度について質問されると、こう答えました。「私は幼い頃から母親に男というものはみな浮気者で自分の性的欲求を抑えることができないのだから我慢しなさいと教えられて育ちました。私はその教えに忠実に生きてきました。だから夫が他の女性とつきあうのを好んでいたと知っても、傷つくことはありません。」

在世会員も修道者も含めた男女のフランシスカンたちは、このような態度を変

える鍵は教育　それもしばしば主要な宗教的・文化的伝統に反するよう見える教育　にあると気づくようになってきました。聖クララのフランシスカン・カリスマに対する貢献は、あまりにも長いこと聖フランシスコの陰に隠されてきましたが、この事実は最近、聖クララ生誕 800 年祭を祝う中で初めて明るみに出始めたものです。この事実が認められないかぎり、女性は教会生活の中で彼女たちが求めている対等の認識と責任を手に入れることはないでしょう。フランシスカンのシスターであるマリア・エレナ・マルティネスは、教会の女性に対する態度が変化したことによって恩恵を受けた一人です。現在、アメリカ合衆国カリフォルニア州にある「回心の聖フランシスコとキリスト教愛徳修道会」(Sisters of St. Francis of Penance and Christian Charity)の修練長であるマリア・エレナは、メキシコ系アメリカ人の両親のもとに生まれました。20 代前半、彼女はフランシスカンの共同体に加わり、靈的指導者としての訓練を受け、そこで多文化の問題について多くを学びました。後にロサンゼルスで教えていたマリア・エレナは、地元の志願院の靈的指導者として働いてほしいと要請されました。その共同体では靈的指導者にふさわしい兄弟がいなかったからです。マリア・エレナはこれを受け入れ、兄弟たちと一緒に住まなかったものの、毎日一緒に夕食を取り、靈的指導者として働き、教鞭を取りました。この時期、エル・サルバドルやメキシコ出身のヒスパニックの男性が大勢修練院にはいってきて、マリア・エレナは 12 年間管区の「養成チーム」の一員として働き続けました。マリア・エレナによれば、ヒスパニックの男性と働いたことは特に実りある体験でした。「それは、彼らの日常生活における母親や女性との関わり方によるものです。彼らは信頼できる女性の前では一層オープンで素直になりますが、これは多くのアングロサクソン系アメリカ人男性にとってはもっと難しいことなのです。彼らを導き、彼らの話に耳を傾けるプロセスの中で、私はアングロサクソンとヒスパニックの文化的衝突を調停することができました。やがて、マリア・エレナは管区の「グアテマラ体験」のオリエンテーションプログラムを企画することになりました。修練期間を終えると、兄弟たちはグアテマラ・シティーの郊外に移り、中央アメリカ管区の運営する貧しい小教区で働き、文字通りゴミ捨て場の上に建てられた粗末な家に住みます。兄弟たちが実際にこの体験を始める前に、マリア・エレナは少人数の兄弟たちと共に働き、怒り・孤独・性といった外国に住んでいたら必ずや直面する問題に取り組みます。兄弟たちがグアテマラで数ヶ月を過ごした後、マリア・エレナは彼らの一人ひとりと個人的に会います。彼女の率

直なアプローチは、自分の疑問や心配をオープンに表現できる彼らの多くにとって大きな恵みとなっています。彼らがアメリカに帰国すると、マリア・エレナは、グアテマラでの体験を自分の共同体で正義と平和とエコロジーに関する新しい取り組みに生かそうとする兄弟たちの霊的指導者として働き続けます。一部の兄弟たちは、後に管区の中で快適な地位につくようになると女性との対話という問題についてあまり心を開かなくなるのですが、マリア・エレナは彼らに挑戦し続けることが重要であると感じています。ちょうどクララがすべての男性と女性が互いに尊敬しあって生きるという態度と能力についてフランシスコに挑戦したように。

「女性に力を与える必要について、一部の男性は大いに関心を持っていますが、他の人々はこれを認めようとしません。彼らは、特に一部の伝統と文化において言えることですが、自分の権力を手放すことを恐れているのです。」これがマリアの宣教者フランシスコ会の正義と平和のコーディネーターであるローズ・フェルナンドが体験したことでした。1950年代に女性首相を選出した最初の国であるスリランカ出身の彼女は、正義と平和問題のワークショップを指導して世界中を回ることに多くの時間を費やしています。膝丈の灰色の修道服とベールを身にまとい、両手を慎み深く膝のうえに置いているローズは、女性司祭の叙階を要求する急進的な教会の女権拡張論者特有のイメージからは程遠く見えます。しかし女性の地位向上について質問されると、彼女の言葉と熱意に満ちた表情は第一印象とはかなり異なる印象を与えます。「どこに行っても、私は自分たちの状況に対する女性の意識が向上し、女性が勇気をもって発言しているのを目にします」と彼女は言っています。「今まで女性が沈黙を守ってきたような文化においてさえそうなのです。たとえば、アジアでは世界中の様々な宗教が伝統的に共謀して女性を抑圧してきました。私はどこに行っても、男性と女性と一緒に教育することを強く主張してきました。それこそが本当に変革への鍵であると思います。」そして、ローズによれば、状態は教会の中でさえ、ゆっくりとではありますが、着実によい方向に変化していっています。彼女は例として、オーストラリアにいる知り合いの91才のシスターが最近、日常の詩篇や祈りの中で性差別を避けた表現を使い始めたことを挙げています。

国際レベルでの兄弟、姉妹、在世フランシスカンの協力に関する彼女自身の体

験についてローズに尋ねたところ、彼女はこう答えました。「私は北京で開かれた国連女性会議に NGO フランシスカンズ・インターナショナルの一員として参加しましたが、私たちの言わんとすることを一体どれだけの男性が本当に理解してくれているかはわかりません。私たちが望んでいるのは社会や教会の中でのパートナーシップなのですが」。国際レベルでの彼女の個人的なロビー活動の体験は、1995年の北京でも、また1996年にローマで開かれた国連食料農業機関のサミットでも、非常に積極的なものでした。フランシスカンズ・インターナショナルは共通の問題に共に取り組むための新しい具体的な現実参加の形態です。

デンマークではこのような協力が国内レベルでも起こっている、と在セフランシスコ会(SFO)国際協議会の正義と平和コーディネーターであるマリアンヌ・パウエルは述べています。マリアンヌはかつては大学教授として英語を教えていましたが、今はコペンハーゲン司教区(デンマークで唯一のカトリック司教区)で教育に取り組んでいます。彼女の見方によれば、カトリック人口の少なさと司祭不足が、信徒の男女がこの地域で一緒に働くことが非常にうまくいくようになった原因の一つとなっています。彼女自身、1980年代初頭にデンマークの在セフランシスコ会の設立に関わっていました。それから15年の間に、50人以上の会員を擁する7つほどの在セ会の兄弟共同体が生まれましたが、数が少ないために効果的に働こうとすれば修道者との協力が不可欠となりました。国際レベルでは、彼女は世界の他の地域における在セ会についての調査報告書の作成を手伝いました。「結果は様々でした。ある国々では信徒がフランシスコ会の兄弟・姉妹とよく組織されていました。また他の国々では、公式の組織はないものの、フランシスカンたちが司教区の正義と平和委員会のもとで力を合わせて働いていました。私の役割は、これらのグループの中に自分はどのような問題なら協力できるのかということに対する認識を育て、深めることです」。正義と平和の領域においては、協力こそ共に働くための自然な方法であると彼女は信じていますが、「この考え方は発展途上国の多くの男性と女性にはまだ受け入れられていない」ということも認めています。

日本では、元会員である小林賢吾が女性の権利、特に日本で最も困窮している移民女性の権利の支持者として知られていました。毎年多くのフィリピン女性が、故国の貧しい家族を養うために仕事を求めて日本にやってきました。娯楽産業に引

き込まれる者、裕福な日本人男性に花嫁として買われる者、家政婦として働く者などがありますが、全員が非良心的な雇い主や「所有者」によって搾取されるリスクを負っています。移住者のための横浜連帯センター（Yokohama Solidarity Center for Migrants）の責任者として、賢吾がこれらの女性たちのために道でデモンストレーションをしている姿を見かけることがあります。彼女たちが組織を作り、力を手に入れるために、彼は日本の法律の下での彼らの権利や困ったときに助けを求めることのできる団体について詳述した総合的なマニュアルを作りました。1996年に出版されたこの本は、入国・在留許可から労働や健康の問題まですべてを扱っています。特に女性の出産に関する健康や結婚・離婚・子どもの教育に関する法律などが扱われています。賢吾にとって、これらの貧しい女性たちと働くことは予想もできなかった回心をもたらしました。それは、貧しい女性の目から世界を見ること、彼女たちを導くのではなく彼女たちと共に歩むことです。

会憲

第 56 条：1 兄弟たちは、同じカリスマと相互の親近な関係を十分に認めて、聖フランシスコの第二会と第三会の隠世修道女たちに対し、いつも細やかな配慮と特別な世話をします。

その他の参照箇所：第 51 条、58 条

討論のための質問

- 1 . フランシスコ会の修道女たちが、あなたのフランシスカンとしての召命に対する理解を広げてくれたことがありますか。在世フランシスコ会の女性たちについてはどうですか？
- 2 . 女性のフランシスカン（修道女、在世会）たちがあなたのフランシスカンとしてのビジョンの盲点を突いてきたことがありますか？もしあれば、あなたは彼女（たち）にどのように答えましたか？
- 3 . フランシスカンの女性の中にあなたの仲間はいますか？それは、地域の兄弟

共同体の中であなたの使徒職や日常の会話や生活に影響を与えますか？

- 4 . あなたの地域社会は、近くの女性フランシスカンのグループと協力していますか？あなたの管区全体としてはどうでしょうか？
- 5 . あなたの管区では、最近管区レベルでの集会で話をしたり、管区主催の黙想会を指導するために女性フランシスカンを招いたことがありますか？
- 6 . あなたかあなたの仲間の兄弟で、女性フランシスカンを霊的指導者としている人はいますか？それはあなた（彼ら）がフランシスカンとしての召命を果たすのにどのような影響を与えていますか？
- 7 . クララは、あなたがフランシスカンとしての召命を理解し、実行するためにどのような貢献をしていますか？
- 8 . 今日、キリスト者共同体の信仰に女性はどのような貢献をしているのでしょうか？
- 9 . 今日の修道生活において、女性は教会にどのような貢献をしているのでしょうか？
- 10 . 神と教会の考え方に対する女性の貢献にはどんなものがあるのでしょうか？私たちが貧しい人々の世界に入ってゆくにあって、女性はどのような特別な貢献をすることができるのでしょうか？
- 11 . キリストに倣う様々な様式を豊かにしてくれる女性的な価値があるのでしょうか？
- 12 . 教会における女性の状況は、女性が福音的な生活を理解し、またそのように生活するために役立っているのでしょうか？
- 13 . 愛と感受性をもって宣教するために、女性は重要な役割を果たすことができるのでしょうか？教会の刷新のためにキリスト教徒の女性ができるユニークな貢献とはなんのでしょうか？

7. エキュメニカルな対話、宗教間の対話、異文化間の対話



会憲 第95条1 - 2

1. どこにおいても信仰一致の精神を推し進め、教会法第755条の規定を踏まえて事情が許すかぎり、その方法や手段を他のすべてのキリスト者と協力して追及する。
2. 兄弟たちは他宗教の信仰者たちの間に好意と尊敬をもって生活し、神が兄弟たちに与えられた人々を教え導くために彼らと共に働く。

フランシスコの生き方から・・・

1986年10月27日に教皇ヨハネ・パウロ2世は世界平和を祈るために世界の宗教的指導者をアッシジに招きましたが、このときの彼らのきわめて積極的な応答は、対話の人としてのフランシスコの模範をおそらく最もよく表しているでしょう。フランシスコが一人ひとりに示した謙遜と誠実さは、社会的、政治的、宗

教的なあらゆる対話の鍵となるものです。

フランシスコが最初の兄弟たちに、まもなくフランス人、スペイン人、ドイツ人、イギリス人が兄弟として加わるようになると告げた時（1Cel 27）、彼は兄弟たちに対話の必要に応じる準備をさせていたのです。兄弟たちは派遣先から戻って集まった時、神が自分たちを通してどのようなことを既にしてくださり、またこれから自分たちにどのようなことを望んでおられるかについて話し合いました。こうして、兄弟たちは2度にわたってドイツに出発しました（*Chronicle of Jordan of Giano*, #5 and 17）。現地の言葉を学ぶことは効果的に対話を進めるための必須条件だったのです。

ある個所で、チェラノは兄弟たち間の魂の一致と行動の調和をたたえています（1Cel 46）。フランシスコはスルタン、メレク・エル・カメルを訪ねた時、対話の精神を示しました（1Cel 57）。異教徒のもとに行く人には二つの選択肢があります。一つの方法は、口論や争いをせず、神のためにすべての人に従うことであり、もう一つの方法は、公然と神のみ言葉を伝えることです（RegNB c.16）。口論を避け、礼儀正しく振舞う者には（RegB c.3）対話のチャンスが与えられます。フランシスコの謙遜さによって、大きな木〔教皇イノケンティウス3世〕はその身をかがめて小さな木〔兄弟たちの生活様式の認可を教皇に求めたフランシスコ〕を助け起こすことになったのです（L3S 53）。フランシスコは説教する時、「偉大な人々にも、小さい人々にも同じ確信をもって語りました」（LM12:8）。「老若男女をとわず、あらゆる人々が、天からこの世につかわされたこの新しい人を見、その話を聞こうとして急いで集まってきました」（LM12:8）。フランシスコは兄弟たちに、よい模範を示す限り人々は彼らの必要に答えてくれるだろう、しかしもしよい模範を示さないなら、取り決めは破られるだろうと言いました（2Cel 70）。「命の対話」は続くのです。

考察

はじめに

1994年に中東、東欧、その他地球上の多くの地域で起こったことを目にして、宗教間の対話を信じることができるのでしょうか？しかしながら、各宗教の公式の

代表者たちの間には、すでに、慎重で忍耐強く、自信に満ちた対話が存在しています。二つの共通点が彼らを結び付けています。それは、思いやりのある好奇心と改宗を強要しないという聖なる約束です。

非キリスト教系の宗教は、この対話の重要性をあまり理解していませんでした。それぞれの宗教が現地の文化に根ざした「真の」神を持っていると考えているからです。他者から何を学び、何を教えられるのでしょうか？平和的な共存で充分です。これらの会合でイニシアチブを取っているキリスト教徒を悩ませている問題が二つあります。一つは「すべての民族に教えを説き、洗礼を受けなさい」という主のみ言葉に忠実であることであり、二つ目は、キリストこそ人類の唯一の救い主であるということをもどのように宣言したらよいかという問題です。

キリスト教徒たちは、これら二つの問題に答えるためには他の宗教が必要であると考えています。お互いを尊敬しあいながら対話はしばらくの間続きます。このことは以下の4つのレベルで深く検討されます。

- ・共に生きているという事実に基づく基本的な対話。
- ・人間的、人道主義的な価値観の保護と発展に関する基本的な対話。
- ・霊的、つまり神秘的な体験の分かち合い。
- ・神学的な意見交換と神についての言語上の対決。

第二バチカン公会議は他の宗教を「み言葉の種」と宣言しました。ヨハネ・パウロ2世は預言的な表現を用いて、このように宣言しています。「人が祈るとき、その人を祈らせているのは聖霊である」。

何人かの人々は、神への忠実さと人類への信頼を証しすることによって、教会の歴史に強い影響を残しました。これらの証しの中で、アッシジのフランシスコは昔も今も、世界中の何万人もの彼を尊敬する人々にとって、平和と和解と兄弟愛のシンボルです。

A) アッシジのフランシスコの人生における対話

アッシジのフランシスコは、その全生涯を通じて祈りの人であったばかりでなく、対話の人でもありました。神、男性、女性、兄弟姉妹、そして被造物全体との関係に入ってゆくために彼が特別に大切にしたのは、世界におけるこのような対話の姿勢でした。

彼の人生の中で対話が中心的な役割を果たした瞬間、すなわち当事者が和解と平和と兄弟愛に導かれた瞬間を数え上げるのは簡単なことです。詳しく述べようとすればあまりにも広範囲にわたってしまうため、ここでは詳細な記録は述べませんが、様々な対話の形態に関していくつかの点を上げておきたいと思います。

- ・ 回心へと導く対話：主よ、私に何をお望みですか？（LM 1,3）
- ・ 解放へと導く対話：聖フランシスコはどのようにしてハンセン病者の体と心をいやしたのか（Flor 25）。
- ・ 平和をもたらす対話：どのようにして聖フランシスコは、神聖な力で凶暴な狼を馴らしたのか（Flor 21）。
- ・ 人の心を開く対話：聖フランシスコはどのようにして、兄弟レオに完全な歓びがどこにあるかを教えたのか（VPLaet VIII, Flor 8）。
- ・ 実践に基づく対話：彼の聖書に対する知識。彼の預言の霊（LM 11,1 参照）。
- ・ 異邦人に対して開かれた精神：スルタンとの会見（LM 11,1 参照）。
- ・ 癒しをもたらす対話：ハンセン病者。口が利けず耳が聴こえない人（1C 147, 148 参照）。
- ・ 変化をもたらす対話：聖フランシスコはどのように三人の強盗を回心させたか（Flor 26）。

B) 対話による福音宣教

OFM 総本部の中に設けられた対話のための新しい奉仕活動。

ガイドライン

動機付け

- 1 . 福音宣教はフランシスコにおいては「対話」という特徴を持っていましたが、これは、フランシスコ会の召命に必要不可欠の要素です。従って、総理事会は 1991 年と 1997 年の総会の要請に基づき、小さき兄弟たちが様々な文化の価値を認め、尊敬しながら福音を告げ知らせるために、すべての人々と宗教的・文化的な障害なしに積極的で兄弟愛に満ちた関係に入ることを助けるような組織を作ることによって、福音宣教に対する修道会のコミットメントを深め、支持し、促進することが緊急の課題であると考えています。
- 2 . この要請によって励まされ、会憲の第 5 章を具体的に表現したいと願って、総理事会はこれまでの協議や決定の結果を集め、統一的なビジョンの下にフランシスカンの召命の観想的側面と福音宣教的側面を一つにまとめようとしています。同時に、フランシスカンの福音宣教の共同体的、兄弟的で開かれた特徴を強調し、また、養成と行動、証しすることと告げ知らせることの不可分性も強調しています。
- 3 . 総理事会はこれまでに達成された活動の成果を集め、「全世界をキリストの福音であまねく満たすために(1 Cel 97)」(ヘルマン・シャルック 1996 年)という文書にまとめると同時に、発展し続ける世界情勢の広い視野で自分の召命を考えるよう兄弟たちを促しています。
- 4 . 第三千年紀の始まりにあたっての人間関係の状況や最近の教会の公文書は、人類の平和と福祉を求める人々に対し、対話の大切さに注意と関心を向けるようにと呼びかけています。
- 5 . また、教皇や諸教会・諸宗教の公式の代表者たちがわたしたちの師父フランシスコを和解と対話と平和の推進者と呼んで、兄弟たちにフランシスコの使命を果たすように繰り返し促していますが、このことから、対話を重視することがフランシスカンのカリスマの最優先事項に変わったことがわかります。実際、和解と平和の推進に携わる人々の数は増えつづけており、彼らによって聖フランシスコの人間として、またキリスト者としての体験を裏付ける精神が現されています。

- 6 . 聖フランシスコは昔も今も言葉の厳密な意味において対話の人です。彼は、きわめて強烈で完全なキリスト教的体験を通して、神・自分自身・すべての人々・すべての被造物と和解した普遍的な人です。彼は福音の教えをすべての人に謙遜と愛をもってのべ伝えます。
- 7 . しかし、フランシスコの精神が今日の人々にとって意味を持つためには、彼の精神がすべてのフランシスカンの精神となり、彼らの宣教活動を励まし、特徴付けるものでなくてはなりません。
- 8 . 実際、フランシスカンの文化とヒューマニズムは、様々な文化の中で表れてくる問題に対する確かな答えとこれらの問題を解くことができるという根拠のある希望を与えてくれます。人間と被造物との関係、および人間同士の相互関係における不協和音によって特徴づけられる今日の世界において、フランシスカンの福音宣教は固有の霊性、神の現存についてのフランシスカンのビジョン、キリストの人間性、そして賢明な人の持つビジョンにしっかりと根付いているので、近接の文化、エコロジカルで宇宙的な文化である対話の文化を提案することにより、希望に満ちた答えを与えることができます。それは現代人の心の中で、福音をそれぞれの文化に解け込ませることを可能にする方法です(フランシスコ会に希望の宣教者であるように命じた、アントニオ神学大学でのヨハネ・パウロ2世の演説を参照のこと)。テクノロジーと科学の発展、コミュニケーション手段の増加と普及、様々な文化の相互的な影響、情報の速さ、そしてコンピューターの普及した新しい社会は新しい状況を作り出しました。我々小さき兄弟たちは、もし自分の召命に忠実であろうとするならば、その新しい状況に応えなければなりません。そして、このような人類への新しい挑戦に応えるのは、生きた福音をすべての人に伝えたいと願ったフランシスコに倣って対話の態度を持つ私たちの生き方であればなりません。
- 9 . フランシスコの宗教的体験の普遍性とイスラム権力者たちに対する彼の態度は、他宗教のメンバーとの対話の際にあらゆる宗教の代表者たちを納得のうで参加させてくれる一つの模範を提供しています。

10 . 和解の体験、神のみ言葉の実現、被造物との関係、および教会の生活様式のモデルとしてのフランシスカン共同体により、フランシスカンの実生活はエキュメニカルな対話の接点となります。

11 . こうしたすべての要素から、兄弟たちをエキュメニズムと対話に携わる教会一致の召命が生まれます。総長がフランシスコ会を新しい刺激と新しい形態で福音宣教する方向に向かわせたいと願っているのは、まさにこのためです。総理事会は総長の指令が机上の空論にならないために、積極的な意思のしるし・援助の機会となることを望み、しかも実際に養成と福音宣教において使われているすべての力を包含することを目的にこの(対話のためのサービス)機関を創設して新しいこの取り組みを支持します。

構成

12 . 対話のためのサービス (Service for Dialogue, SD) は次の三つの分野から構成されています。

- ・エキュメニカルな対話
- ・宗教間の対話
- ・異文化との対話

エキュメニカルな対話のための委員会 (Commission for Ecumenical Dialogue, CED)

動機付け

1 .カトリック教会と個々のキリスト教徒をエキュメニズムと対話の方向に駆り立てたのは第二

バチカン公会議だけではありません。(特に「エキュメニズムに関する教令」と「キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言」を参照のこと)。現教皇は最近3つの重要な文書で、すべての人々が一致するためにキリスト教徒が一致する必要がある、それは急務であることを強調しています。(教皇書簡「紀元2000年の到来」と *Orientalis Lumen* (東方諸教会について)、および回勅「キリスト者の一致」を参照のこと)。

- 2 .小さき兄弟会はこの新しい意識やこれらの新しい方向に背を向けることはできません。実際、独立国家共同体（CIS=旧ソ連）の国々にフランシスコ会を設置するにあたり、会の指導者たちは最初の一步を踏み出す時から、カトリック教会の宣言した対話と協力の原則に従いました。その結果、正教会の長老たちと良好な関係を結ぶことができましたが、それはひとえに謙虚に確信をもって対話に臨んだおかげです。
- 3 . 第三の千年紀の始まりにあたって起こりつつある新しい状況は、これまで知られていなかった要求に特徴付けられています。この要求に応えるためには、すべての兄弟たちにエキュメニカルな知識と養成の機会を提供するために、本会のエキュメニカルな姿勢を堅実に継続的に維持することが必要です。

宗教間の対話のための委員会（Commission for Interreligious Dialogue, CID）

動機付け

- 1 . 教会は他の宗教の信者との関係を注意深く見守っています。教会は大きな共同体を共に形成するための努力を一つに集めるため、共通点となるものを探しています（*Nostra Aetate* 1）。事実、すべての民族は一つの共同体であり、唯一の起源を持っています。神が全人類を地のおもてに住ませたからです（*Acts* 17,26）。
- 2 . カトリック教会はこれら諸宗教の中に見いだされる真実で尊いものを何も排斥しません。これらの諸宗教の行動と生活の様式、戒律と教義を、まじめな尊敬の念をもって考察します。教会は自分の子らに対して、キリスト教の信仰と生活を証明しながら、賢慮と愛をもって、他の諸宗教の信奉者との話し合いと協力を通して、彼らのもとに見いだされる精神的、道徳的富および社会的、文化的価値を認め、保存し、さらに促進するよう勧告します（*NA* 2）。
- 3 . 何世紀にもわたる時代の流れにおいて、キリスト教徒とイスラム教徒の間に少なからざる不和と敵意が生じたが、聖なる教会会議はすべての人に過ぎ去

ったことを忘れ、互いに理解し合うようまじめに努力し、また社会正義、道徳的善、さらに平和と自由をすべての人のために共同で守り、促進するよう勧告します (NA3)。

- 4 . 小なき兄弟たちの歴史は、他宗教、特に歴史的と呼ばれる宗教、すなわちユダヤ教、イスラム教、ヒンズー教、仏教のメンバーたちとの出会いにあふれています。ユダヤ教とは特別な関係があります。教会は、すべてのキリスト信者は太祖アブラハムが受けた召命の中に包含されていると宣言しています。教会は神が古い契約を交わしたユダヤの人々を通して旧約の啓示を受けたことを忘れていません。このため、私たちはお互いに理解しあい、価値を認め合って、兄弟的な対話に努めることを奨励したいと思っています (NA4)。
- 5 . イスラム教については、イスラム教国にフランシスカンの存在を継続し、そこで働く兄弟姉妹を援助するために多大な努力が払われています。1982 年から、総理事会は「イスラム教国との関係に関する国際 OFM 委員会」(International Commission OFM for Relations with Muslims) を通じて、この面での宗教間の対話を支援しています。「聖フランシスコと本会初期の宣教師たちに倣う者として、兄弟たちはイスラム教の民の中に謙虚さをもって赴き、敬虔に生活するよう、大いに心がける。彼らにとっても私たちと同じく、神のほかには全能者はいないのである」(GG.CC.95,3)。
- 6 . 「兄弟たちは他宗教の信仰者たちの間に好意と尊敬をもって生活し、神が兄弟たちに与えられた人々を教え導くために彼らと共に働く」(GG.CC.95,2)。故に、総理事会は「宗教間の対話のための委員会」(Commission for Inter-religius Dialogue)を創設することによって宗教にとらわれない兄弟の養成を促したいと願い、委員会の構成と活動に関しては次のような尺度を用いています。

諸文化との対話のための委員会 (Commission for Dialogue with Cultures, CDC)

動機付け

- 1 . 福音宣教は小さき兄弟たちの生活に必要な不可欠の部分です。私たちが宣教するのは、人間が心配事に対する答えを見つける方法を見いだす手助けをする必要があるからです。福音宣教の第一の目的は人間であって、信徒の数を増やすことではありません。また、イエス・キリストの人間に対する愛は、教会と修道会がその福音宣教という使命を継続する原動力となっています。

- 2 . 福音宣教は、もしそれが根ざす地域文化の最も奥深くに届かなければ、人間の心の奥底まで浸透することはありません。¹ それ自体が文化となれないような信仰は完全に受け入れられることはなく、よく考えぬかれたり忠実に実践されたりすることもあります。²

- 3 . 文化の福音宣教はその結果として、福音が地域文化に根ざすことを意味します。文化と信仰の統合は文化のためにも、信仰のためにも必要なものです。統合されたものはどの文化とも結びつくことはなく、すべての文化から独立していますが、同時にすべての文化にインスピレーションを与え、それらを豊かにするものでもあります。

- 4 . 信仰が地域文化に深く根ざしたところでは、キリスト教全体の要約である神の愛と隣人愛に基盤を置くキリスト教的価値観が生まれます。この見地から、CDC は兄弟たちが「地域文化への開化を進める手助けができるように」（GG.CC. 92,2 参照）対話のためのサービス（Service for Dialogue, SD）

¹ 私たちは現代世界憲章 53 の中の次のような言葉を「文化」の定義とします。「『文化』は、広義においては、人間が精神と肉体との多様な能力を鍛錬し、発展させるために用いるあらゆる事がらをさす。人間は知識と労働とをもって全世界を支配しようと努力し、家庭とあらゆる市民社会における社会生活を慣習と制度の進歩によってますます人間らしいものとし、時の流れを通して多くの人、むしろ全人類の発展に役立たせるために、偉大な精神的体験と期待をその作品の中に現し、伝え、保つ。文化とは、これらすべてを意味するものである。」

² ヨハネ・パウロ二世、文化活動の教会運動の国内大会の参加者に対する演説（Discourse to the Participants in the National Congress of the Church Movement of Cultural Work）、1982年1月10日、no. 2。小さき兄弟たちがその使命のために関わっている人々・人種・宗教・文化の多様性は、より実り多い活動を促進するために特別な準備を必要とします。

の中で働くこととなります。地域文化への融合はすべての兄弟たちの司牧活動を豊かにするために奨励されます。

- 5 . 諸民族の文化的要素の多くは「み言葉の種子」(GG.CC. 92,2 参照) の表れです。しかし、この「み言葉の種」があるからといって、その文化がすでに福音化されているというわけではありません。小さき兄弟会はその長年の伝統の中で、すべての時代、すべての環境、すべての文化に福音のメッセージを告げ知らせることの緊急性を再確認してきました。諸文化に対して敬意を払う小さき兄弟たちの存在は、わたしたちの修道会の歴史的な出来事です。小さき兄弟たちがその召命を通して関わっている民族・人種・宗教・文化は多種多様なので、彼らがより簡単に実り多い活動を行ってゆくためには特別な準備が必要です。

- 6 . 小さき兄弟たちはその召命によって、それぞれの世代の中で「私の教会を建て直す」ように招かれています。これは福音宣教によってのみ実現します。誠実な福音宣教活動こそは、当委員会 (CDC) の活動を意味あるものにします。当委員会は、総長と総理事会が主から与えられた召命の一部である上記の取り組みを助けるものです。

- 7 . 徹底的な福音生活から生まれる自分たちのアイデンティティーを確認しておけば、小さき兄弟たちは本物の文化の価値を見極め、すべての混合主義を避けて、偽の文化や反文化 (anti-culture) が様々な民族にもたらそうとしている反価値 (anti-value) を拒否することができるでしょう。同時に、福音が地域文化に根ざすためには、宣教している人の文化が表す特異な形態に敬意を払う必要があります。小さき兄弟が福音をもたらす時、その地域の文化は彼を豊かにし、彼とその修道会を成長させるのです。フランシスコ会の姿は兄弟たちの多様性の中にはっきりと表れます。兄弟たちはそれぞれ独特の文化から来ており、その多様性によって、与えられたカリスマに忠実であることが可能になるのです。

聖フランシスコの足跡に従い、前総長のヘルマン・シャルックは、全世界の宗教的指導者に会うために世界各地を旅して回りましたが、そのときいつも念頭に

置いていたのは対話の必要性ということでした。特にこのような宗教や民族の違いが緊張や紛争、戦争の原因となっているような状況、たとえば、アフリカの大湖水地帯（the Great Lakes District）や旧ユーゴスラビアなどにおいて、他の宗教の信奉者や民族グループとの建設的な対話に身を挺していた兄弟たちは、この実践的な模範を重視しました。

OFM 宗教間の対話のための委員会
(OFM Commissions for inter-religious dialogue)

兄弟たちの生き方からの模範・・・

今日のように文化が多様な時代においては、異なる信仰を持つ人々の間の対話が平和への重要な鍵となります。フランシスコ会イスラム委員会の前の責任者であるフランソワ・パケットほどこのことをよく理解している人はあまりいないでしょう。カナダのモントリオールで神経心理学者としての訓練を受けた彼は、1987年にフランシスコ会に入会しましたが、その前に働いていたヘルス・センターでスリランカやインド、中国、ベトナム出身の患者を相手にすることが多くなりました。彼は、急速に自分の出身地の一部と化した様々な文化や宗教に魅了されるようになりました。この好奇心がきっかけとなって、彼は地元のインターカルチュラル・センターでボランティアとして手伝うこととなります。

しかし、パケットがこのような異宗教間の活動の力を本当に知るようになるのは、彼が修練院に入ってからのことです。兄弟たちの一人は、1986年にアッシジで開かれた平和会議の精神を反映するような地域会議を計画しており、パケットも手伝いに加わりました。彼はそのときのことを思い出しながら笑顔でこう言っています。「私にとって、それは一種の奇跡でした。モントリオールのあらゆる宗教の指導者たちが論争しあうのではなく、平和のために共に祈っているのを見て、私は衝撃を受けました。自分が参加する度に年々進取の精神が旺盛になってゆく様子を説明するときの彼の目は輝いています。「100人も異なる先住民の代表者やバハイ教徒、スリランカのヒンズー教徒、ベトナムの仏教徒、チベットの仏教徒、ラオスの仏教徒、ユダヤ教の二つのグループ、シーア派・スン

二派のイスラム教徒、シーク教徒、それに16のキリスト教の異なる宗派など、全部でおおよそ千人の人々がモントリオールの私たちの修道院に集まって平和のために祈るのです。舞台装置はとても簡単なもので、何もついていない十字架に参加者の宗教の旗をつけたものと平和のシンボルである鳩の大きな絵だけです。私たちは皆にリラックスしてほしいと願っていますし、全員が後で肉食主義の食事に招かれています。テレビ・ラジオで生中継されるこの毎年恒例の集まりは、おそらくモントリオールでのフランシスカンの活動の最も目立つ部分でしょう。これ以外にも一年中、パケットと彼の兄弟たちは、モントリオールの街のなかにある他の多くの宗教の信者たちを支援するために、あらゆる具体的な活動に参加しています。そうした活動の中には、ベトナム人のためのパゴダを建設するために土地の請願をすること、ユダヤ教の墓に落書きをしたスキンヘッドのグループに抗議すること、イスラム教とキリスト教の合同葬儀を行うこと、地元の中学校でのシーク教徒とイスラム教徒との暴力沙汰を引き分けるために介入することなども含まれます。パケットはこう言っています。「この最後の例は、私たちがどのようにして自分たちの社会の将来に影響を与えることができるかということを実によく示していると思います。シーク教の指導者とイマーム（訳注：イスラム教の導師）と共に働くことによって、私たちは子どもたちに彼らも他の宗教の信者たちと共通の文化的側面をたくさん持っているということを示すことができました。子どもたちがお互いを型にはまったグループとして捉えるのではなく、本物の人間としてみるようになった時、彼らは自分たちが継承した偏見を捨て去り、自分たちの両親の態度に挑戦してみることでできるようになります。」

教育プログラムを通して、また異なる民族グループの家族に毎日お互いとの接触の機会を与えるという単純な仕事を通して、若者たちの間に対話と平和を推進しているフランシスカンの例は他にもたくさんあります。ボスニアにある多宗教の幼稚園やレバノン南部のイスラム教徒とキリスト教徒のための学校は、これらの問題を抱えた地域の子どもたちが他宗教の人々の習慣や伝統に対してより大きな尊敬の念をもって育つことができるよう手助けをしています。カイロで毎年行われる多宗教メディア・映画フェスティバルは、何千人もの若者たちに影響を与え、彼らが過去の偏見を乗り越えるのを助けています。フランシスカンの目的はイベントや活動の「組織者」として見られることでは決してなく、むしろこの

「日常生活の対話」の促進者となることなのです。

人口のほとんどがイスラム教徒であるモロッコでは、兄弟たちは継続的な存在による証しというものを強く意識しています。ベルトラン・クチュリエ (Bertrand Couturier) はその生涯の半分をモロッコの人々の間で過ごし、多くのイスラム教徒の若者たちが成長してフランススカンの提供するいくつかの講習会に出席した後に就職するのを見てきました。アルジェリアのトラピスト会修道者の悲劇でよく知られているアトラス山脈の上で、少数の兄弟たちとマリアの宣教者フランスコ会のシスターたちは、地元の少年たちに基本的な木工作業を、そして少女たちには社会で生産的なメンバーになるのに役立つ刺繍やその他の技術をそれぞれ教えています。シスターたちはまた、若い女性たちのために出産の場所を提供すると同時に、健康や教育について学ぶ場所を提供していますが、これは彼女たちが人間としての尊厳を認識するのに役立っています。

モロッコの都市メクネスでは、別の三人の兄弟が図書館とカルチャーセンターをかねたサン・アントワーヌ・センター (St. Antoine Center) を経営し、そこで地元の約 600 人の学生たちにイスラム文化・文学の授業と語学教室やスポーツ活動を提供しています。兄弟たちを支えているのはセンターを卒業して兄弟たちの仕事を手伝いたいと思っている 12 人のボランティアのチームです。兄弟ギュスタヴォ・サンチェス (Gustavo Sanchez) は、2 年間でアトラス山脈で過ごし、その後 4 年間でサン・アントワーヌ・センターで学生たちと生活し、働いて過ごした若いメキシコ人です。彼はローマでの勉学を終えたら、再び仕事を続けるためにモロッコに戻るつもりです。「それは学生たち自身によって運営されるプロジェクトです」と彼は説明します。「私たちは毎月集まって、何をやりたいか、どのように働きたいか、そして学生たちが自分の住む文化をよりよく理解し、評価することができるようになるためにどんな手助けができるかを決めます。たとえば、ラマダンの月の間は、私たちは授業の時間割を変更して、昼食のための休憩なしに働きます。こうすることによって私たちは、イスラム教徒と一緒に断食することができますし、彼らは彼らで、家族と一緒に特別な料理を準備する時間が取れるようになるのです」。

旧ユーゴスラビアのクロアチア人、イスラム教徒、セルビア人の間に続く緊張

関係にもかかわらず、1986年にアッシジで開かれた世界平和のための祈りの日（World Day of Prayer for Peace）の10周年記念日は、サラエボ、モスタル、スプリトで宗教間の対話を推進するために様々な努力をする機会を与えてくれました。サラエボでは、恒久平和の前提条件としての難民の帰還をテーマとしたパネルディスカッションがボスニア・ヘルツェゴビナ科学芸術アカデミーで開かれ、これには国際移民機関（International Organization for Migration）や国連高等弁務官、およびボスニア、クロアチア両政府の役人も参加しました。また、多宗教の祈りの集いがサラエボの墓地で開かれ、アッシジからフランシスコ会の兄弟姉妹の代表も参加し、平和の印としてサラエボの地に植えられるよう、オリーブの木を贈りました。マルコ・オルソリック（Marco Orsolich）もまた、1996年12月に多文化センターと図書館をサラエボに開く手伝いをするによって、非常に具体的な方法でこうした新しい試みに取り組みました。

イラン、イラク、トルコ、シリアのクルド人たちは、何世紀もの間抑圧的な統治者に支配されてきましたが、その後、長いこと統一された故郷を探し求めてきました。亡命してドイツに暮らすクルド人の共同体が成長するにつれ、友情と協力の新しい機会が生まれました。ドイツの兄弟たちのJPIC委員会のメンバーとして、Jurgen Neitzert と他の兄弟たちは7つのキリスト教平和団体とともにドイツの「武器取引反対キャンペーン」で働いてきました。このキャンペーンの他のメンバーたちと共に、彼らはドイツ兵器の輸出がイラクやトルコにいるクルド人の苦境と重要な関係があることを人々に認識させようとしてきました。Jurgen Neitzert は何度もクルド人の友人たちとトルコを訪れ、アンカラやディヤルバクル、イスタンブールなどの都市のスラム街で間に合わせのシェルターに住んでいる人々に救援物資とわずかな平和をもたらしました。3000以上の村がクルド民族に対するトルコ軍の過酷な扱いにより強制退去させられて今ではゴーストタウンと化し、地方に点在しています。ディヤルバクルの街だけを見ても、1980年代初頭から人口は4倍に膨れ上がっています。歴史的に自給自足を保ってきたクルド人のスラム住民は、しばしば食料を求めてゴミ捨て場をあさることを余儀なくされています。また、多くの人々が厳しい冬の間伝染性の気管支炎に苦しんでいます。Jurgen と彼の仲間たちはドイツに住むクルド人とトルコ人の共同体同士の集まりを奨励し、ドイツの政治的指導者たちに対して武器の輸出を停止するよう働きかけています。フランシスコ人として、Jurgen は非暴力的な解決と

キリスト教徒とイスラム教徒との協力を奨励するために特別な立場に置かれていると感じています。

正義と平和のために共に働く中で、異なったキリスト教の伝統を持つ人々は、他者への個人的な深い関わりが信仰の重要な一面であるという共通点に気が付きます。約7年前、アイルランドのフランシスカンたちは、アイルランドのロスノウラフ(Rossnowlagh)という街でカトリックとプロテスタントの人々の間に平和と和解を築く仕事を始めました。ロスノウラフはアイルランド人の兄弟によって組織された3つの「特別な活動のために指定された家」の一つです。他の二つはキラニーにある祈りのための兄弟共同体とダブリンにあるマーチャンツ・クウェイ(Merchants Quay)団地です。特にロスノウラフのセンターはアイルランド共和国と北アイルランドを分ける国境の近くのドニゴールという格好の場所にあります。センターは約30人の人々の世話をし、カトリックとプロテスタントがアイルランド全土からやってきて共に出会い、祈り、和解について考える場となっています。センターの普段の活動に加えて、ゲストスピーカーを迎えた会議も定期的に行われます。センターのディレクターであるジョン・オキーフ(John O'Keefe)は、ロスノウラフと非公式に提携している祈りと和解の「エキスパート」たちのネットワーク作りに協力しました。現在、センターは黙想の家に隣接した図書館を建設中です。この図書館には宗教間の対話と平和作りに関する書物のスペシャルコレクションが収められる予定です。

アメリカ合衆国ニューヨークのブルックリンで、10年以上、聖母の愛徳教会の主任司祭を務めてきたRobert Seayは死刑反対論者としても有名ですが、人種的・民族的対立を伴う困難な状況に平和的な解決策をもたらそうと努力していました。「ハワード・ビーチ事件」で、白人の若いギャングに殺されたアフリカ系アメリカ人の若者はロバートの小教区民の息子でした。この殺人事件はニューヨークの街に大きな人種的騒乱を引き起こしました。ロバートは様々な方法で政治的・宗教的指導者たちと働き、平和を達成する努力の一環として、殺された若者の家族の相談相手として奉仕しました。ロバートが組織した葬儀は簡素であると同時に厳粛なもので、人種的な緊張関係が爆発するのを抑えるのに重要な役割を果たしました。

「クラウン・ハイツ暴動」と呼ばれるもう一つの事件では、アフリカ系アメリカ人によって敬虔派ユダヤ教徒(Hasidic Jew)が殺されました。ロバートともう一人の聖職者が事態の収拾をはかるために警察管区に呼ばれました。ロバートはその時ニューヨーク市長のデイビッド・ディンキンズ(David Dinkins)と共に働き、正義と人種間の調和を確実なものにしようとする市長の努力を応援しました。クラウン・ハイツ暴動の結果、ニューヨーク市内の多様な民族・文化グループの間に有意義な対話を推進するために連立組織が作られました。

平和の牧者プログラムは、大量の生活必需品や建設資材をエル・サルバドルとニカラグアの人々に送る手助けをしてきましたが、この組織もまたエキュメニカルな協力の上に成り立っています。約 20 年間共同体を組織してきたエド・ダン(Ed Dunn)は、その間にキリスト教徒の間の協力が平和と社会正義の活動に欠かせないものであることに思い至りました。最近、エドは長老教会の牧師であるクリス・ハートマイヤー(Chris Hartmire)と地域のプロジェクト・コーディネーターであるエレン・ロジャース(Ellen Rogers)と共に、カリフォルニア州サクラメントで姉妹都市の祝典を計画しました。「希望を祝おう」と題されたこの集まりは、サクラメントとエル・サルバドルの「新しい都市」サン・バルトロの人々の約 10 年にわたる協力関係のハイライトでした。エドはサン・バルトロ姉妹都市プロジェクトを支援し、現在も継続している中央アメリカ巡礼(Central American Pilgrimage)を組織することによって、何百人ものフランシスカンとその小教区民たちを中央アメリカの殉教者の生涯とその永続的な証しについてよりよく知ることができるように導きました。エドにとって、このような正義のための協力的な努力は、信仰を同じくする共同体の一部として行われる時もっとも効果を発揮します。

フィリップ・シリングス(Philippe Schillings)は、フランシスカンには世界中の移民のための仕事に使うべき特別の才能が備わっていると確信するようになりました。彼は 20 年間ブラジルで宣教師として働いた後、1985 年にポルトガル人移民と共に働くために故国のベルギーに戻ってきたのです。ブリュッセルにある国際カトリック移民ヨーロッパ事務局(European Office of International Catholic Migration)の局長になったフィリップに、一人のクルド人移民がこう語りかけてきました。「私たちの組合にはチャプレンが必要です。あなたにその

仕事を引き受けていただきたいのです。』フィリップは答えました。「どうして私なのですか？私はカトリックであなた方はイスラム教徒ではありませんか。』クルド人の男は答えました。「でも、あなたはフランスカンでしょう。フランスカンはイスラム教とカトリックをつなぐ架け橋です。』フィリップはこの「橋をかける人」としての役割を果たすためには、靈性を発達させる必要があると感じました。数十年もの間、中央集権的な共産主義政権の支配下にあった東ヨーロッパの国々が今その経済体制や社会体制を立て直そうと努力していますが、その一方で何千人もの人々が政治亡命や単によりよい生活を求めて西ヨーロッパ諸国のドアを叩いています。移民の問題点やネガティブな影響力だけに注目するよりも、「私たちは自分たちの中に新しい人々が入ってくることのポジティブな側面を強調すべきです。フランスカンたちは難民や移民たちに衣食住などの緊急必需品の援助をする方がより安心だと感じる人が多いのですが、私たちは彼らの状況について長期的な視点で考え、彼らを擁護する役割を果たさなければなりません。すべての人が自分の故郷でまともな生活を営むという基本的権利を享受するためには、移民問題の根本的な原因に国際的な注目を集めることが絶対に必要です」とフィリップは付け加えています。

地元のヒンズー教徒たちの日常生活をもっと深く味わいたいという願いから、スカリア・バラナス（Scaria Varanath）とスワミ・ダヤナンド（Swami Dayanand）はインドにある伝統的なフランススコ会修道院を離れ、バンガロールの約 300 キロ北にヒンズー教の修行共同体を作りました。地元の人が運んでくる寄付に全面的に頼って、この二人は祈りと観想の非常に質素な生活を送りました。彼らが住んでいる家は地域の司教から与えられたもので、そこに来て 2 人の兄弟と話し、学び、黙想し、あるいは単に一緒に食事をしたいと思うどんな人に対しても開かれていました。「多くの普通の人々が私たちと共に過ごすために私たちのアシュラムにやってきて数日間滞在していきます」とスカリアは述べています。「また、人生に光と意義を見いだしたいと考える裕福な人々もやってきます」。スカリアは、第二バチカン公会議前の非常に伝統的なカトリックの家庭で育った頃、他の宗教を怖れるように教えられたことを思い出しながら、こう言っています。「私は両親や教会の偉い人たちから他の宗教の信奉者とは話さないように、また、ヒンズー教の寺院や神々の像を見てもいけないと教えられたのです。彼は今、ヒンズー教の経典や文学を研究したことによって、自分自身の

フランシスカン的世界観に対する洞察力をさらに深めることができたと言っています。「ヒンズー教は、現実はすべてが一つであるという深い霊的な見方に基づいています。それによると、川や海やすべての生き物は神聖なものの表れであり、それゆえに敬意をもって扱うべきなのです」。

聖フランシスコの精神を異なった文化や宗教を持つ人々の生活に取り入れようとの考えから、1985年にタイのバンコク近くに黙想センターが設立されました。今日このセンターは、黙想と祈りの場所を提供すると同時に、エイズ患者のためのホスピスにもなっています。患者のほとんどは仏教徒で、他のどこにも行く当てがなく平和のうちに死んでゆく場所のない人々です。これは、世界中で実践されている知的理念よりも実際の行動を通して行われる対話の多くの例の一つです。バンコクのセンターで働いている兄弟たちの一人、アントニオ・エギグレン（Antonio Egiguren）は、地元のほとんどの人々がいかに聖フランシスコと聖アントニオを混同していたかを思い出しています。「聖フランシスコも聖アントニオも単にカトリック教会で見られる二つの彫像に過ぎなかったのです。私たちは自分の質素な生活様式ともっとも困窮している人々への奉仕を通して、聖フランシスコの顔を人々に見せたいと思いました」。ホスピスは10人の患者を収容することができ、エイズで死んでゆく人々の世話をするのに伴う恐怖や偏見と闘うために多くの働きをしてきました。兄弟たちは患者たちにキリスト教を押し付けることには何の関心もありませんが、夫をエイズでなくした後にホスピスにやってきた二人の子どもを持つ若い母親の感動的な話をしてくれました。彼女もまもなくエイズで亡くなったのですが、亡くなる直前に兄弟の一人に、マリア様が夜の間彼女を訪れ慰めてくれたと話しました。「でもあなたは仏教徒でしょう」とその兄弟が言うと、彼女は「ええ、でもマリア様は苦しむ母親であるということがどういうことか分かっている方ですから」と答えたのでした。

会憲

第70条

「人々の間に相互の受容と好意を押し広めつつ、兄弟たちは、イエス・キリストの十字架によってもたらされた和解の道具となる」

その他の参照箇所：第68条1-2、93条1、94条、95条1-3、96条1-3、127

条 3。

討論のための質問

- 1 . あなたの国で(ローマカトリック以外の)最大のキリスト教グループは何ですか?あなたは彼らと一緒に祈ることがありますか?公式に対話をする必要がありますか?慈善活動を一緒にすることができますか?
- 2 . あなたの国で最大の非キリスト教グループは何ですか?あなたは世界平和のためにあるいは他の意向のために、彼らと一緒に祈ったことがありますか?公式に対話をしたことは?慈善活動を行ったことはありますか?
- 3 . あなたの国では、聖フランシスコはキリスト教徒や非キリスト教徒からどのように考えられていますか?もし肯定的に考えられているとすれば、あなたはこれを対話の実行可能な出発点として利用したことがありますか?
- 4 . 1986 年 10 月にアッシジで行われた世界の宗教指導者たちによる世界平和のための祈りの集いの精神に基づいて、あなたの地域社会や管区はエキュメニカルな、または他宗教との対話に参加していますか?フランシスコのスルタンとの会見のエピソードは、あなたが他宗教との対話に参加する励みとなっていますか?どのような態度で臨もうと思っていますか?
- 5 . あなたは対話をどのような形で妨げている可能性があると思いますか?あなたの地域社会は?あなたの管区はどのような妨げを体験していると思いますか?
- 6 . あなたはこれまでに提案されたもの以外で、聖フランシスコの生涯における対話の形を挙げることができますか?
- 7 . アッシジのフランシスコが対話を始める時繰り返し見られるしるしとはどのようなものでしょうか?対話を推進するにあたって、彼の主な強みとは何でしょうか?

- 8 . どのようなタイプの対話に最も興味をそそられますか？
- 9 . 私の日常生活の中で対話を推進できる機会があるとすれば、それはどのような時ですか？
- 10 . 私を対話に向かわせてくれる要因とは何でしょうか？
- 11 . 私が対話に引き込むことのできる人や状況にはどのようなものがあるでしょうか？
- 12 . どこで、どんな状況で、どのように？
- 13 . 私が感じている恐れや挑戦とは何でしょうか？
- 14 . 私の長所とは何でしょうか？また、私が対話を始めるのに助けとなるものとは何ですか？
- 15 . あなたの兄弟共同体では、カトリック以外のキリスト教徒やその他の宗教の信奉者とのミーティングをすることがありますか？これらのミーティングの目的は何ですか？祈り、対話、それとも考察・反省ですか？これらのミーティングであなたはどのようなことを体験しますか？
- 16 . あなたは貧しい人のため、あるいは正義や環境保護のためのキャンペーンや行動に協力していますか？

第三部

実践： ” HOW TO DO ” セクション

この第三部は二つのセクションから構成されています。最初のセクションでは、正義・平和・被造物の保全に関するフランシスコ会の組織を説明します。二番目のセクションでは、JPIC がどのような態度で様々な活動に対応し得るのかということに関する考え方や取り組み方を提案します。この第二のセクションのはじめに現状分析の章が設けられていますが、それは、私たちの仕事や活動がどのようなものであるにせよ、神が私たちに求めておられることをより深く理解するためには、まず現状の分析が必要だからです。

テーマ：

- 1．第二バチカン公会議後の流れの中にみるフランシスコ会の正義と平和運動：総会と総評議会
- 2．フランシスコ会内の正義・平和・被造物の保全の組織
- 3．JPIC の活動におけるフランシスコ人家族内の協力
- 4．社会分析
- 5．JPIC の具体的な活動現場：
 - ・日常生活
 - ・「諸国民」(ad Gentes) への宣教
 - ・小教区の活動
 - ・み言葉の奉仕職
 - ・教育の役務
 - ・養成の役務

第二バチカン公会議後の流れの中にみる フランシスコ会の正義と平和運動：総会と総評議会

1. 第二バチカン公会議の精神によりもたらされた変化

第二バチカン公会議以前には、霊性とは内面に向かうもので自己中心的なものであったと言っても過言ではないでしょう。当時の霊性は次のような特徴を示していました。

- 救いとは個人的なもの、魂のためのもの、来世のものである。キリスト教徒としての行いは救いを得るためのものである。
- 世の中は疑わしいものである（魂の敵である）から、完全を目ざすなら「この世から逃れること」を勧める。
- 聖化とは、宗教的・禁欲的・道徳的実践と慈善活動の生活とによる浄化と内的完成から成るものである。

これを要約すると、当時の神・キリスト教的救済・教会の使命に対する概念は、人々を社会問題に対する心配や社会変革への関与から引き離すようなものであったということになります。このような霊性は、神が世界の悪を正すためにしかるべき時に介入してくださると望む傾向がありました。このため、人々に求められていたのは、神の介入のために祈ることだけだったのです。

第二バチカン公会議以前でさえも、特にレーラム・ノヴァールム（レオ 13 世）以降、この種の霊性に目立った変化が起こりつつあり、教会は社会的・政治的諸問題の解決により一層関わるようになっていったのは確かです。しかし、教会の社会・政治的行動への関与がキリストから与えられた使命と直接の関わりを持っていることが明らかになったのは、何よりも現代世界憲章においてでした。「キリストがその教会に託した固有の使命は、政治、経済、社会の分野に属するものではない。キリストが教会に指定した目的は宗教の領域に属する。ところで、実にこの宗教的使命そのものから、神定法に基づいて建設し確立すべき人間共同体のために役立つ任務、光、力が出てくる。」（GS 42）

公会議の教会に対する数多くの貢献の中で、最も重要でしかもすでに他の多くの人々に影響を与えているのは、世界・歴史・社会問題に対する態度です。公会議は教会の関心を世界と歴史に向かわせることに成功しました。現代世界憲章の中では、神によって創造され、キリストによって救われ、完全さへと招かれているものとしての世界の肯定的評価と、神がこの世で人々の救い主としてご自身を現されたことによる歴史的現実の評価とが見られます。公会議は教会全体とすべてのキリスト教徒を神の国の建設のために世界に奉仕するよう導いています。この方向性は現代世界憲章の有名な冒頭の部分に表れています。「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に貧しい人々とすべての苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある」(GS 1)。受肉を通して、神の国は歴史の変容として捉えられます。聖霊によって導かれた歴史の中でこそ、神の国は、教会の奉仕によって成長し続けるのです。このようにして、次のような方向に向かって道が開かれました。世界に耳を傾けること、世界の中にあって時のしるしを読み取ること、世界の喜びや心配に参加すること。このような方法によって、教会は社会の底辺に追いやられた人々の側に立つのです。自由、平等、参加、多様性、民主主義、正義への熱意といった世界の願望、価値観、叫び、成功を受け入れ、生きた証し、奉仕、協力、連帯を基盤とした福音書の教えを実践しながら。

公会議の教えからたくさんの神学的発展が見られました。たとえば、福音の必要不可欠な一部としての正義の追求(1971年シノドス)や福音宣教と人間の発展との間に存在する強力な福音的・神学的関係(EN)の分野における発展です。「福音宣教の仕事が、世界中の正義・解放・発展・平和に関して今日大いに議論されている非常に深刻な問題を無視することができるか、無視するべきかという考え方を受け入れることはできません。そのような考え方を受け入れるならば、苦しんでいたり困窮している隣人への愛についての福音の教えを無視することになるでしょう」(EN,31)。シノドス、社会的回勅、司教たちの声明文、政治的な解放の神学を思い起こしてみましょ。これらのどの文書においても、ヨハネ・パウロ2世がその教皇としての任期の初めから何度も繰り返してきた方向性に真剣な注意が向けられています。すなわち、「その存在が、個人としても、共同体としても、社会的にも完全である人間・・・このような人間こそ教会がその使命を果たすに当たって取らなければならない第一の道です」(RH,14)。

教会は世界に対して熱意ある関心を示すようにと公会議が奨励した結果、1967年にパウロ6世は「正義と平和」の司教委員会を設立しました。その趣旨は現代世界憲章90に述べられている通りです。すなわち、「公会議は、人類の大部分を今もなお苦しめている多くの社会悪を考え、また貧しい人々に対してキリストの正義と愛をいたるところで奨励するために、全教会の一つの機関を設立することが最も時宜を得たことである」と考える。この機関の任務は貧しい地域の開発と諸国家の間における社会正義を推進するようカトリック共同体を激励することである。」

2. 修道生活についての新しい神学における正義と平和のための仕事の重要性

修道生活が社会から切り離され、重要な預言的力を失い、時代遅れの型にはまっているという状況に直面して、第二バチカン公会議は適切な刷新を試みました。すなわち、「キリスト教的生活の源泉（福音書に基づいてキリストに従うこと）とそれぞれの会の創立当初の精神とに絶えず帰ることと、会の生活および規律を異なった時代の状況に順応させることです」。そのためには、「各会は、人々および時代の状況について、また教会の必要について、適切な認識を会員が持つようにはからわなければならない。このようにして会員たちは、現代世界の情勢を信仰の光の中にけんめいに判断し、使徒的熱意に燃え、人々をより効果的に助けることができるようになる」(PC2)のです。

各修道会および各会は公会議の呼びかけに従いました。総会、総評議会および会憲の文書によって、私たちは公会議の文書および公教会のその他の文書、特にエヴァンジェリイ・ヌンチアンディ（福音宣教）と社会的回勅が修道生活の新しい様式に大きな影響を与えたことが分かります。この新しい修道生活では、福音宣教と預言的特徴が教会全体と同様にその基盤となっています。公会議直後から、修道生活に以下のような基本的で一般的な傾向が現れて来ました。

まず、各会および共同体の中の貧しい人々や現実的な貧しさへの選択が真剣に受け止められるようになりました。各修道会では、正義の追求と人権擁護への関わりが彼らの使命の重要な一部として捉えられるようになりました。そうした関

わりを現実のものとするために、貧しい区域の中に小規模の共同体をつくって、そこで貧しい人々と生活状態を共有し、彼らの困難と苦しみに参与することを目ざす運動が生まれたのです。多くの宗教的組織が教育施設や健康施設、孤児院などで採用していた伝統的な機構は疑問視され始めました。脱制度化に賛成し、修道者は男女とも自分の属する修道会とは異なる組織（教会の、あるいは在世や市立の）を通して奉仕するべきであるという傾向が生まれました。

これらの傾向は、1980年に修道者聖省（Sacred Congregation for Religious and Secular Institute）の文書「修道者と人間の発展」（*Religious and Human Promotion*）の中で確認されています。この文書は、人間の全体的な発展に対し修道者が適切に参加する重要性と緊急性についての判断基準を定めています。シノドス後の奉献生活に関する使徒的勧告「奉献生活」（*Consecrated Life, 1996*）特にその第3章にも同様の判断基準を見ることができます。

3．公会議後のフランシスコ会の発展：総会、総評議会、会憲

公会議と1967年の会憲以降、小さき兄弟たちは現代世界における我々の召命を理解しようと大変な努力をしてきました。それ以来、会憲が1987年に改定されるまで様々な発展があったのです。1987年の会憲では、正義と平和を選択する姿勢がかなりはっきりと表れています。改定までのプロセスにいくつかの鍵となる時期がありますので、それを見てみましょう。

最初の重要な時期は1971年のメデリン総会です。この総会の文書「小さき兄弟たちの養成」には、刷新の大部分は兄弟たちの養成にかかっていると記されています。第7番は、フランシスコの考え方は現代の要求と願望にかなっていると述べています。第8番では、「私たちは貧しい人々と共に貧しくなり、小さき人々と共に小さく（謙虚に）ならなければならない」とあり、第10番は、私たちが今日の社会の中に入ってゆき、その大義のために自分自身を捧げることの必要性を説いています（オクトジェジマ・アドヴェニエンス, nn.5 参照）。そして、第11番では、「私たちはあるべき姿となっているか？ 私たちは世界の必要に答えるように招かれていると心から感じているか？」と問いかけ、「これは個人として、また共同で、絶えず回心し続けることへの誘いである」と結んでいます。第

26 番では、「小ささは兄弟各人と兄弟共同体全体を平和の道具にする」と述べて、小ささがフランシスカンの生活の特徴であることを表明しています。

第 5 章「養成の重要性」の第 4 セクション「世界とのコミュニケーションのための養成」の中の第 52 番では、「世の中に存在すること」の重要性を説いています。なぜなら、フランシスカンの生活とは世の中からの逃避ではなく、受肉したみ言葉の模範に倣って、超越的な現実の確かさを証しし、神がその中に置かれた善いものを発見するためにこの世に生活することだからです。第 53 番は、その結果として、私たちは「社会の現実に関心を払わなければならない」と述べています。

これらの引用に加えて、メデリン総会は私たちが現代社会に身を置き、世の中の必要に応えることの大切さを語り始めました。しかしこの総会はまだまだ多くを語ってはいませんでしたし、いくつかの曖昧さと怖れがあったために、回答を出すべき問題を明らかにしていませんでした。総会のもう一つの文書「フランシスコ会の使命」の第 5 章(「私たちは平和の人」)には次のように記されています。「平和への召命に忠実に生きようとする私たちは基本的に平和の人ですが、私たちは誓約はしていません。なぜなら、私たちの目指す平和は正義と愛の産物だからです」。ここには証しのみを選択する姿勢がみられます。

二番目に重要な時期はマドリッド総会の文書「現代におけるフランシスコ会の召命」(1973 年)です。ここでは力点は「現代」に置かれています。なぜなら、フランシスコの生活と会則、つまり、会の召命が既知数であり、そこから私たちのアイデンティティーが明らかになるとしても、はっきりさせねばならないことは、その召命の具体的な形が「今」「ここに」あることだからです。この具体化の法則はすべてのキリスト教の基本となるものです。これなしでは、つまり人間と世間に現実的に関わることなくしては、救いの秘跡はありえないのです。

第 7 章は「社会における平和の使者」と題され、以下がその内容です。

31 番：私たちの本質的使命は私たちの生活目標を具体的に実行することです。私たちが人間社会の中で信仰を体験的に生き抜くように努力し、すべての人を迎

え入れることのできる愛と奉仕の共同体を作り、貧しい人々と希望を共にしながら清貧と勤労のうちに生きるならば、聖霊の力によって復活されたキリストの周囲に集められる新しい人間集団の草分けになることができると思います。教会と人間らしい社会の建設のために私たちにできる貢献は、何よりも以上のような事柄の実行にあります。私たちはまず、生活によって証しするのですから。

33 番：「都市のまっただ中に兄弟的な共同体を私たちが築き上げようとするならば、必ず政治的・社会的反響を呼び起こさずにはいないのです」。私たちは特定の政治思想や傾向を警戒し、真福八端を完全に生きようと注意を促されています。

34 番：そこから出発し、また私たちの平和の使命を常に自覚しているならば、現代の社会的・政治的な諸問題や闘争に、ほんとうの意味で参加できます。それには、事実に即した客観的な状況判断のできる確実な情報が必要です。そして私たちの声を抑圧された人々の声と一つにし、貧しい人々や社会の底辺に追いやられた人々と共に働かねばなりません。私たちは彼らの風習や生活様式の中に自分の生活を置かなくてはならないのです。

1979 年の総会。特にこの総会以降、フランシスコ会は正義と平和のために真剣に働くことを優先的に選択しました。総会がその後 6 年間にわたってフランシスコ会のために設定した 7 つの優先課題の中で、5 番目の優先課題は、小さき兄弟たちが世界の問題に関与しながら、しかもその中に多様な形でしかも徹底的に参加することによって世界を建設することに協力するよう要請しています。6 番目はこう言っています。「平和と正義の推進者としての立場を認識しながら、迫害と様々な搾取に苦しむ人々の側に立ちましょう。そして私たちの生活自体が平和と正義を推進するような生き方をしましょう」。

この総会の終わりに、一つの文書が作成され、承認されました。この文書の中では多くの切迫した問題、たとえば、飢餓、貧困、路上生活者、失業、不正、子どもと高齢者の問題、人権侵害、核兵器の脅威、大気汚染、そして世界各国における当時の具体的な諸問題（ニカラグア、ベトナム難民、ブラジル、ローデシア）についての言及が明確になされています。

この総会に応え、1979年9月10日付けの総理事会から本会に宛てた書状が届きました。その内容は難民、特に東南アジアにおける難民の悲惨な状況に関するものでした。書状の中で総理事会は、総会によって設定された優先課題に基づいてこれらの問題に「フランシスカンの関与」する正義と平和委員会を会の中に設立することを表明しています。また、総理事会はその運営プログラムの中で、各管区会議は正義と平和委員会を任命するか、少なくともすでにその地域に設立されている同様の委員会に協力するように促しています。

バヒア総評議会（1983年）、1980年代の初頭から、フランシスコ会の中には私たちの使命とは自分たちが生きることを運命付けられた世界の中で福音をのべ伝えることであり、世界の諸問題や必要に対して答えを提供したいと思っているかどうかをはっきりと認識すべきであるという明確な意識が芽生えていました。福音宣教というテーマそれ自体が重要であるために、また、フランシスカンがどのように「福音的（フランシスカンの）価値観と現代文化や社会との橋渡しを務め得る」かを見究めるためには修道会としてこのテーマを深く掘り下げる必要があるために、福音宣教は1983年にブラジルのバヒアで開かれた総評議会のテーマとなりました。ここで、示唆に富む興味深い文書「私たちに挑戦する福音」が採択されました。メデリン、マドリッド両総会の文書と共に、この文書は1987年の会憲に最も大きな影響を与えました。このことは、会憲のこのテーマに関連する条項の注釈部分が絶え間なくこれら3つの文書に言及していることを見れば明らかです。実際、現行の会憲が伝えようとしているメッセージを理解するためには、会憲をこれら3つの文書に照らして読むことが必要です。

バヒア文書では、私たちは教会の中で福音宣教に貢献する義務があること（第1章）そして世界に正義と平和を建設する義務があること（第4章）に気づかされます。また、私たちは小さき兄弟であり、「兄弟として送られる」（第2章）「貧しい人々の中の小さき者」であるが故に、フランシスカンの・福音的な慣習の中で生きなければならないことにも気づかされます（第3章）。

第4章（「正義と平和の道具」）の中で、これまでの文書に関わる最も独創的な部分は38番です。ここには兄弟たちが率先して行うべき具体的な行動が提示さ

れています。私たちはこれらを、1985年の総会の「今後6年間における生活と行動に関する提案」と一緒に列挙してみたいと思います。この提案は、似たような調子でその他の文書の主張を繰り返し、理論よりも行動について言及していません。事実、総長ジョン・ヴォーンは、1983年の総評議会の開会宣言の中で次のように述べています。「私たちには情報があり、資料があります。また、私たちの先達である多くの使徒的兄弟からのインスピレーションもあります。そんな私たちに今欠けていると思われるのは、主・教会・世界が私たちに突きつけるリスクと挑戦に立ち向かうための想像力と刺激です」。

- a) 私たちが神と人類に対して平和の人となれるよう祈ること。祈りと断食を平和への努力の一部とすること。
- b) 社会の中で平和を求める運動に個人的に参加することによってそれを支持すること。
- c) 良心に従って戦争（特に核戦争）、軍備競争、兵器取引に反対する人々を支援したり、正義と平和の名のものと信念と努力のために投獄されている人々を支援することにより、平和を支える非暴力の運動を支持すること。
- d) 特に神学校や学校の若者たちのために平和教育を施すこと。
- e) 私たちの間に見られる不正を根絶する方法を探ること。このテーマはキリストの平和の確かな証人となるために、地域総会で一年かけて十分に討議されるべきであると1985年の総会は述べている。
- f) 各管区は正義と平和委員会を持つべきである。そして、可能なところでは、すでに正義と平和委員会に参加している兄弟を支えながら、フルタイムで正義と平和のために働く兄弟がいるべきである。管区の代表は管区協議会の中に正義と平和のための集会を形成すべきである。

これが、公会議から現在の会憲に到達するまでの間、フランシスコ会が歩んできた道です。現行の会憲は1985年の総会で承認され、その中で、特に第4章から5章にかけて、正義と平和のテーマがはっきりと見て取れます。

1985年の総会：1985年の総会は、会憲の本文を承認すると同時に6年計画

(1985-1991年)を「福音宣教への呼びかけ・行動の提案」(*Our Call to Evangelization Proposals for Action*)と題する短いメッセージの形で発行しました。総会は、会憲とその他の最近のフランシスカンの文書には繰り返し目に付く3つのテーマがあることを理解していました。すなわち、私たちの生活の観想的側面、貧しい人々・正義と平和への選択、そして宣教者精神・福音宣教における養成の3つです。これらは「3つの優先課題」として会全体に急速に知られるようになりました。この文書の題23番は、正義と平和に関する9つの具体的な提案を列挙しており、そのうちのいくつかは既にご紹介しました。これらの提案、特に総会(総会、管区総会、地域総会)で出された提案を考察すると、今日の私たちに伝わる重要な要素を考察するのに役立つ資料を見つけたり、私たちの良心を糾明したりすることができますし、提案を実行に移す刺激にもなると思います。

1985年の総会の3年後、フランシスコ会の総評議会がインドのバンガロールで開催されました。この総評議会は、「み言葉の奉仕者、すべてのもののしもべ」と題する文書を発行しました。総評議会は、この中で「この前の総会の3つの優先課題に対する本物の熱意」が会全体にみられると満足げにコメントしています(14番)。総評議会はまた、第二の優先課題である正義と平和の問題を33番から44番にかけて扱っています。総評議会はこれらのテーマに対する兄弟たちの関心が「正しい方向に向かっているようだ」と満足しています(34番)。「ますます多くのフランシスカンにとって、貧しい人々は単なる兄弟ではなく、望ましい兄弟となっています」(36番)。清貧は単なる請願ではなく、貧しい人々の完全な解放を目的とした、貧しい人々との連帯でもあるのです(36番参照)。ますます多くの管区が貧しい地域や社会の最下層の人々の間に少なくとも一つの兄弟共同体を設置しています。いくつかの共同体は、修道院の建物をアルコール依存症者や薬物依存症者などの治療センターとして提供しています(37番参照)。総評議会は、兄弟たちが世界の至る所で正義と平和のための平和的なキャンペーンに参加していること、そしてますます多くの兄弟たちがエコロジーに関心を持つようになったことを評価しています(39番参照)。評議会は多くの管区や協議会の中に正義と平和委員会が創設されたことを記録すると同時に、総本部の正義と平和担当室が、修道会やフランシスカン・ファミリー、そして教会の他のセクターに「この方面の実例やプロジェクトを紹介しながら、常に計画を奨励し調整する役割を果たしている」ことに満足しています(40番参照)。

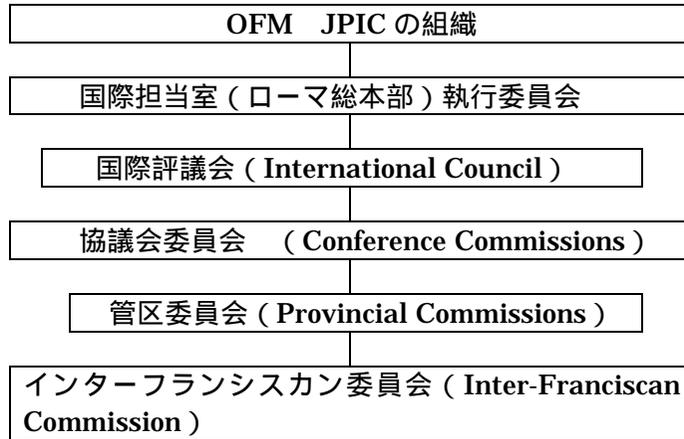
1991年の総会は1985年の総会の6年計画の3つの優先課題を会憲の文脈の中に位置付け、詳細に取り扱うことを決定しました。総会は2つ目の優先課題(正義と平和)に「そして被造物の保全」という言葉を付け加えました。総会は「修道会の各共同体が貧しい人々の優先、正義と平和の社会および被造物の保全に関わりながら歩んできた、もしくはこれから歩むべき具体的な段階について吟味するように」要請しています(「本会と現代の福音宣教」27番)が、これは特に私たちの総会の中で良心を糾明するにあたって適切な意見です。

1996年、総長ヘルマン・シャルックは「全世界をキリストの福音であまねく満たすために」という福音宣教に関する文書を発行しました。この文書の中で彼は、小さき兄弟たちの福音宣教活動における生命の保護への取り組みを肯定し(第3章1c)、優先課題のリストの中で、正義と平和・被造物の保全(第3章2d)の中の貧しい者の優先(第3章1c)と、エキュメニカルな宗教間の対話(第3章2c)を強調しています。(<http://www.ofm-j.or.jp/doc/index.html>参照)

聖書や源泉資料、この6年間の出来事、多くの人々の表情、そして「時のしるし」という現実の中に神のご意志を求めて、1997年の総会は3つの委員会に組織された対話のための奉仕を承認することを決定しました。この3つの委員会とは、エキュメニカルな対話、宗教間の対話、そして諸文化との対話の委員会のことです。また、各協議会もこのようなイニシアチブを推進することが可能かどうかを見究めるように促されました(「伝統から預言へ」7番、1-2)。総会は貧しい者の優先的な選択を承認したのです(8番：2)。総会は「協議会レベルでの認識と、全フランスカン家族と一致してJPICに具体的に関与してゆくことを奨励しています。これは私たちの霊性から生まれ、新しいミレニアムの祝典に対するフランススコ会の貢献を促すものです」(8番、3)。総会はまた、「正義と平和とエコロジー担当室を通して、すべての協議会と管区との協力の下に、難民たちの苦境に介入するための人材と資源のネットワークを構築することを総理事会に要請しました」(8番、4)。

パット・マクロスキー OFM(Pat McCloskey OFM)

2. フランシスコ会内の正義・平和・被造物の保全の組織



- 1) 管区レベル
- 2) 協議会レベル
- 3) 国際レベル

本会は「できるなら、兄弟たちが正義と平和のためにフルタイムに関わりを持って行くことを、そして、すでに会または管区の正義と平和担当室でこの仕事に携わっている兄弟たちを援助することを」望んでいます（「私たちに挑戦する福音」1983年バヒア総評議会、#38:5）。JPICの業務内容は各管区や文化により異なりますが、会の管区レベルおよび協議会レベルでのJPICの構造に関して一般的な勧告をこれからご紹介しましょう。きっと役に立つと思います。

1) 管区レベル

いくつかの管区では、それぞれの地域の兄弟共同体にJPICのアニメーターやチームを置いています。多くの管区には、（他にもフルタイムやパートタイムの責任を持っている）兄弟たちによるJPIC問題のための委員会が置かれています。一人の兄弟がフルタイムで働いているJPIC担当室を持つ管区もあり、この場合、兄弟は一般のスタッフの協力を得ていることがあります。

管区の担当者（コーディネーター）の主な仕事は、その管区の兄弟たちの関心を正義と平和とエコロジーの問題に向けさせることです。担当者は、情報を流すことにより管区内の社会分析のプロセスに参加し、社会正義の問題に取り組む行動計画に参加します。また、担当者は彼の協議会の JPIC 会議や委員会に参加します。

1983 年のバヒア総評議会はできればフルタイムの兄弟をスタッフとして置くことを奨励しています。1993 年、1995 年および 1997 年の JPIC 国際会議の集まりでも、フルタイムが望ましいということを確認しました。

管区内の JPIC の役務に携わる兄弟たちは、以下のような明確な職務内容目録が必要です。

- 1．管区内の JPIC の使命宣言。
- 2．管区統治者、初期の養成プログラム、生涯養成プログラム、広報部などとの職権上・責任上のつながりの明確な記述。
- 3．JPIC 問題に関して公的な発言を行うための担当の兄弟・委員会・担当室の権限に関する指針。
- 4．管区の JPIC 委員会または担当室の構成と運営に関する説明。
- 5．鼓舞活動および擁護運動のプロジェクトに関する明確な要望。
- 6．フランススカン家族内の協力に関しては、要望されるプログラムの型の概略。
- 7．十分な資金。
- 8．その他の社会活動機関や教会機関（たとえば、多宗教間の JPIC グループ、教区の JPIC 委員会、人権団体、カリタス、グリーンピース、アムネスティ・インターナショナルなど）との連携についての要望。

関係する兄弟（たち）は以下のものを持っていることが望ましい。

- 1．JPIC 問題に対する関心。
- 2．貧しい人々と接した体験。
- 3．管区内での信用。
- 4．職務を効果的に行うための時間と管区のサポート。
- 5．管区の他の兄弟や管区本部へのアクセス。

- 6 . コミュニケーション能力。
- 7 . 健康。
- 8 . 各修道院に地域の JPIC の代表者がいること。
- 9 . フランシスカン家族の中での、JPIC とのつながり。

修道会全般での経験から、フランシスカン家族の協力があってもそれだけでは管区・協議会レベルの OFM JPIC 委員会や担当室に代わることはできないことがわかりました。

2) 協議会レベル

協議会レベルでの JPIC 評議会や委員会は会憲 114 条と総則 164 条の延長線上にあるものです。養成や福音宣教の分野にも同様の組織があります。協議会レベルの JPIC 評議会/委員会は各管区の JPIC 担当者から構成されます。

a. 協議会の JPIC 評議会/委員会の議長、会長、担当者
管区レベルで働くための時間のほかに、協議会レベルで JPIC の活動を担当し、協議会間の協力によるプロジェクトを展開する時間も与えられていなければならない。

b. 評議会/委員会
評議会の構成メンバー、任務、予算、および評議会と管区長協議会との間の職権上のつながりを明確に述べている規定を必要とします。次に挙げるのは英語圏の協議会（カナダ、アメリカ合衆国、イギリス、アイルランド、マルタ）の規定の例です。

英語圏協議会 JPIC 評議会 (JPIC Council of the English-speaking Conference) 規定

定款 (Constitution)

正義と平和と被造物の保全評議会 (以下「評議会」) は小さき兄弟会の英語圏

協議会の恒久的な会議であり、管区、準管区および分管区の正義と平和と被造物の保全（以下「JPIC」）の代表から構成される。

評議会は以下の3つの目的のために定期的開催される。

1. 協議会がJPICの議題に対する認識とその実行のためのプロジェクトに取り組みこれを発展させるのを助け、協議会の援助団体として機能すること。

「人類の大部分が未だに貧困、不条理、抑圧に苦しんでいるので、兄弟たちは、善意あるすべての人と共に、復活したキリストにおいて、正義と解放と平和の社会を築くよう献身し、個々の状況の諸原因を考え合わせながら、慈善と正義と国際連帯の諸事業に参加する。」（「小さき兄弟会（以下 OFM）」の会憲、第 96 条 2）

2. 専門知識の発達、情報・資源の分かち合い、JPIC の役務に参加する兄弟やその他の人々との相互協力の機会を提供すること。

「社会問題の重要さと深刻さを充分認識して、兄弟たちは社会制度、家族及び人間に関する教会の教えを熱心に学び、かつ教える。また、文化の他の要素についても、キリスト者の応答としての対話を着手するに適したものとして批判的に研究する。」（OFM 会憲、第 96 条、1）

3. 社会的認識に関する共通の体験を分かち合い、考察し、時には預言的行動をとること。「・・・神の国の到来を告げ知らせることは、正義のための行動や世界の変革への参加と切り離して考えることはできない」（1971 年 シノドス）

「人類を脅かす大きな危険をも認識して、兄弟たちは、あらゆる形での戦争行為および軍備競争が、世界にとって最悪の災難であり、貧しい人々に最大の傷手を負わすものとして、強く非難する。そして労苦をいとわず、平和な神の国を築くために働く。」（OFM 会憲、第 69 条 2）

規定と細則 (Statutes and By-Laws)

1. 正義と平和と被造物の保全評議会(以下「評議会」)は小さき兄弟会の英語圏協議会(以下「協議会」)の常設委員会である。
 - a) 評議会は協議会の援助機関として機能する。
 - b) 正義と平和と被造物の保全(JPIC)に対する社会的認識とその発展は、評議会の協議会に対する通常の貢献の範囲である。
 - c) 協議会の代表に任命された者は、評議会と協議会の連絡役を務める。
 - d) 評議会の活動に関する年次報告書は10月の定例会において協議会に提出される。
 - e) 評議会はローマの小さき兄弟会JPIC担当室の援助機関であり、OFMの国際JPIC会議に参加する。
 - f) 評議会は毎年、その精神において福音を生きた人(たち)にマーティン・J・ウルフ賞を授与する。
 - g) 評議会はフランシスカン家族間の協力の場である。

II. メンバーシップ

A. 会員

協議会の各機関は評議会のメンバーとして一人または複数のJPIC代表を任命する。協議会の連絡係もメンバーの一人とする。

B. 準会員

フランシスカン家族(カプチン会、コンヴェンツアル会、TOR、アトムメント会、フランシスカン連合、在世フランシスコ会、クララ会、など)の各会員は、評議会の準会員となる代表を任命するよう招かれている。諸管区間の海外宣教事務局(Interprovincial for Missionary Evangelization)や諸管区間の養成評議会(Interprovincial Formation Council)やフランシスカンズ・インターナショナル、フランシスカン・ミッション・サービスも同様に準会員を任命するよう招かれている。

C. その他の参加者

適切と思われる時には、その他の人々を評議会の会議に参加者として招待することもできる。福音をより効果的に宣べ伝えることができるために、フランスカン家族のすべての会員の間、兄弟たちは一致と協力を推し進める（OFM 会憲第 88 条）。

III. 構成

A. 議長

議長は評議会によって選出され、3 年の任期を務める。議長は再選されれば、次の 3 年の任期を務めることができる。評議会は任期の数を 2 つ以上に増やすことができる。議長の職務内容は評議会によって決定される。議長が職務を果たせない場合、執行委員会は協議会連絡係と相談の上で、次期評議会会議までの間の臨時議長を選出する。

B. 協議会連絡係

協議会連絡係は協議会によって任命された評議会の正会員であり、評議会の会議で協議会の代表を務めると同時に評議会の代表として協議会に連絡する。

C. 書記

議長は評議会会議の議事録を記録するために書記を任命する。書記は必ずしも評議会の会員でなくてもよい。

D. 会計係

評議会はその財務記録を管理する会計係を一名選出することができる。会計係は、年次報告書を評議会および協議会に提出する義務を負う。会計係の選出は議長の選出と同時に行われる。会計係が選出されない場合は、議長が会計係りを兼任する。

E. 委員会

1. 執行委員会

評議会は 2 人またはそれ以上の会員から成る執行委員会を選出する。そのうち一人は議長とし、議長が委員長を務めるものとする。執行委員会の職務内容は評議会が定める。

2. その他の委員会

委員会は必要に応じて評議会がこれを設置する。会員・準会員のいずれも、委員会で働くことができる。準会員は委員会の職務と審議において積極的な発言権を有する。各委員会は議長を選出し、評議会に報告する。

IV. 会議

A. 頻度

評議会は通常年に 2 回会議を開く。

B. 目的

各会議は以下の点を尊重し、取り入れる：

1. 協議会とその構成機関のために JPIC の議題を扱い、発展させ、勧告すること。
2. 会員・準会員・その他の参加者の相互支援と教育。
3. JPIC 問題に関する決議と預言的行動。

C. 投票

1. 評議会は通常、会員の総意を得て運営される。
2. 必要に応じて、提案の可否を投票によって採決することができる。その場合、各会員は一票の投票権を持つ。案が可決するには過半数の得票が必要である。
3. どのような時でも、出席者全員が協議のための投票を行うことができる。

V. 資金

各機関は評議会の通常業務の資金調達のため、毎年行われる協議会の兄弟たちの調

査結果に基づき、それぞれの JPIC 組織を通じて 1 ドルの献金 (*contribute a dollar amount*) を求めらる。

VII. 修正

A .規定と細則は評議会の責任である。修正案はまず会議に提出し、その決定はその次の会議でなされるものとする。

B .修正は上記 VI.C のプロセスに従って行われるが、例外として、もしも可否投票が行われる場合、その案が可決されるためには出席者(会員)の三分の二以上の得票が必要である。しかる後に、修正案は協議会によって承認されるものとする。

定款と細則は 1997 年 10 月、英語圏協議会の管区長会議において承認された。

3) 国際レベル

a) ローマ、JPIC 担当室

国際 JPIC 担当室(ローマ)は 1981 年に設立されました。その目的は正義・平和・被造物の保全に関する問題について総長と総理事会を助け、会憲と総則(Statutes)の精神に則って総会および総評議会の決定に従うことです。担当室のスタッフは総理事会によって任命されます。当初、担当室は「正義と平和委員会」と呼ばれていました。1985 年までに、担当室という名称が本会の総則(General Statutes)の中で使われるようになりました(第 120 条、1)。

歴代担当室長は、以下の通りです。マルコ・マラゴラ(イタリア、トリノ管区、1981-83)、ケン・ヴィエガス(パキスタン管区、1983-85)、Gerard Heesterbeek(オランダ管区、1985-88)、ジョン・クィグリー(米国、洗礼者聖ヨハネ管区、1988-1997)。1997 年 7 月に中央西ヨーロッパの総理事であったピーター・ショ

ール (Peter Schorr) が担当室長に任命され、1997年9月に、ゲアロイド・フランシスコ・オコネール (Gearoid Francisco O'Conaire) (中央アメリカ) が室長代理に任命されました。

室長/室長代理は会議に出席したり、管区グループで講演を行ったり、協議会の中を回ったりします。会の本部や協議会、管区間のコミュニケーションをはかるために、国際担当室のスタッフは ICJPC のメンバーと郵便やEメールなどによる通信で連絡を取り合い、会議を準備し、資料や情報を文書にまとめて発行し、担当室からの様々なメールのデータバンクを維持管理しています。担当室はまた、会の養成プログラムの中に JPIC の意識と方法論を組み入れるべく努力しています。

JPIC 担当室は、正義と平和とエコロジーのための信仰・信念・活動が原因で苦しんでいる兄弟姉妹を率先して支援し、励ましてきました。こうした支援行動の中には、次のようなものが含まれます：旧チェコスロバキアで投獄されていた兄弟たちの支援 (1986年)、ボスニアの兄弟姉妹たちの支援 (1992年)、ルワンダのフランシスカンの支援 (1994年)、ベツレヘムのパレスチナ人キリスト教徒の土地の没収に関する支援 (1994年)、ブラジルで土地を持たない人々と共に働く兄弟たちの支援 (1996年)、コロンビアで人権運動をしている兄弟たちの支援 (1997年)。担当室はまた、政府や非政府組織に手紙を書いたり話をし、手紙によるキャンペーンを組織し、国連人権委員会 (ジュネーブ) に働きかけ、クロアチアとコロンビアでフランシスカン・ピース・ミッションを始めたりもしています。

b) JPIC 国際評議会 (ICJPIC)

「小さき兄弟会 JPIC 国際評議会 (ICJPIC) は総理事会によって設立された諮問グループであり、その目的は、正義と平和と被造物の保全の分野における養成、意識化、活性化など本会が関与する重要なことにおいて JPIC 担当室長、総理事会、協議会を助けることである」(ICJPIC 規定、1989年7月に承認、1994年11月に改正、1999年3月に総理事会により再承認)。ICJPIC の集まりは2年に一度、JPIC 担当室長によって召集されます。臨時会議は、総理事会の

事前の承認があれば開くことができます。

国際評議会の構成と責務は評議会の規定の第 2 条及び第 3 条(下記)に記されています。「ICJPIC のメンバーとは、管区長協議会の代表で、15 の協議会から一人ずつ各協議会の規定と ICJPIC の基準 (Norms) に基づいて選出された者、執行委員会のメンバー、および総長によって指名されたその他の者である」。

JPIC の代表者としての資格を得るには、協議会または管区の中で正義と平和の推進者であること、もしくは少なくともこの分野において専門の知識を持っていることが必要です。

ICJPIC はこれまでに 5 回会合を開きました。

- 1987 年、イタリア、ローマ。議題は「正義と平和と養成」。フィリピン管区のマニラの貧しい人々の間で行われた養成プログラムに焦点が当てられた。
- 1991 年、イスラエル、エルサレム。議題は「非暴力」で、聖地の兄弟たちとの交流やユダヤ人とパレスチナ人共同体の行政当局との交流。イスラエル・パレスチナ問題の研究。
- 1993 年、ニューヨークおよびワシントン。ニューヨークでの議題：国連でフランシスカンズ・インターナショナルに参加すること、国際評議会のアイデンティティー。ワシントンでの議題：アメリカのカトリック教会(ワシントンにおけるアメリカ合衆国カトリック協議会)との接触体験。本会のための国際 JPIC プロジェクトが総理事会にいくつか提案され、承認された。(たとえば、クロアチア・プロジェクト、エコロジーへの関心、フランシスカンズ・インターナショナルの支援、フランシスカンズ・インターナショナルに兄弟たちが参加するために OFM の兄弟を一人 (Michael Surufka) 任命すること、ローマの担当室による *Pax et Bonum* と *Contact* の発行など)。会議の終わりに当たって、ICJPIC は次のように宣言した。

ICJPIC は「私たちと私たちの社会が正義と平和とエコロジーの分野に専任するフルタイムの訓練された兄弟を必要とする時が近づいていると確信する。本評議会は、正義と平和とエコロジーの分野でフルタイムで働く兄弟たちの国際的なチームが形成されることを強く奨励する。これらの兄弟たち一人ひとりには特定の専門分野、たとえば、人権、エコロジー、難民などの分野のために選ばれ、訓練を受ける。これらの兄弟たちは、必ずしもローマにいる必要はない。実際、彼らは世界中に配置され、ローマ本部の担当室と緊密に連携して働くのが望ましい。」

- 1995 年、韓国、ソウル。この会議では様々なプロジェクトが生まれ、総理事会に承認を求めて提案された。これらのほとんどは、1993年にICJPICが開始したプロジェクトを発展させたものである。たとえば、内戦中にクロアチア・プロジェクトに兄弟たちが成功裏に関わったことにより、「フランシスカン・ピース・ミッション」の構想が生まれ、このピース・ミッションに、内戦の間国際的な支援や注目を必要とする他国の兄弟たちを参加させることができた。本評議会はソウルで JPIC 資料集の執筆を要請し、エコロジーを「環境正義」と呼ぶことによって私たちのエコロジー活動をより明確にアピールした。本評議会はまた、国際的な体験において兄弟たちを絶えず養成してゆく機会を推進することに支持を表明した。
- 1997 年、イタリア、ローマ。ICJPIC は総理事会に対し、11の勧告を行った。そのうちの多くは前の ICJPIC 会議で提案されたプロジェクトを継続し、強化することを求めている。たとえば、コロンビアにおけるフランシスカン・ピース・ミッションの受け入れや、資料集の完成、「ジュビリー2000」プロジェクトなど。

正義・平和・被造物の保全国際評議会（ICJPIC）規定

第 1 条

小さき兄弟会 JPIC 国際評議会 (ICJPIC) は総理事会によって設立された諮問グループであり、その目的は、正義と平和と被造物の保全の分野における養成、意識化、活性化など本会が関与する重要なことにおいて JPIC 担当室長、総理事会、協議会を助けることである。

第 2 条

§ 1 ICJPIC のメンバーシップとは、協議会の代表 (代表は各協議会につき 1 名とし、かかる協議会の規定および ICJPC の規定に従って協議会により選出される) 執行委員会および総長によって任命されたその他のメンバーによって構成される。

§ 2 JPIC 担当者 (coordinators) は協議会の中で JPIC 推進活動に携わっているか、もしくはその分野で何らかの専門的な能力を備えている場合、ICJPIC の代表となることができる。

第 3 条 ICJPIC の任務は次の通りである。

§ 1 JPIC に関する教会およびフランシスコ会の文書についての知識を広め、その実践を奨励すること。

§ 2 初期養成および生涯養成における JPIC およびフランシスカンの霊性に関して、養成・研究事務局、海外宣教事務局および総本部のその他の担当室と協力すること。

§ 3 伝統的なフランシスカンのカリスマと現代世界におけるその応用の中で、JPIC の諸局面を分析すること。

§ 4 JPIC に関する資料や情報、特に小さき兄弟たちの活動に関するものを収集し、伝達すること。

§ 5 JPIC の分野における本会の活性化のために、提言や提案、プロジェクト

を総長と総理事会に提示すること。

§ 6 提言、提案、プロジェクトを協議会および管区に提示すること。

§ 7 担当者(coordinators)たちの活動を助け、奨励すること。

§ 8 ICJPIC 集会の活動の限界と優先順位を考察し、兄弟たちの生活と活動に応用するために適切な評価を行うこと。

§ 9 ICJPIC の特定の規定に関する修正案を、承認を得るために総理事会に提出すること。

§ 10 執行委員会の会員候補者のリストを提示すること。

第 4 条

§ 1 担当室長は JPIC のための ICJPIC 集会を 2 年に一度召集する。臨時集会は、事前に総理事会の承認があれば開くことができる。

§ 2 集会は集会の最初に執行委員会より提案され、承認された議題と作業プログラムに従って運営される。

第 5 条

§ 1 担当室長は、ICJPIC と相談の上、執行委員会を総長と総理事会に提案し、承認を得る。この委員会は JPIC 担当室長、室長代理、および他の最低 4 名の人物から構成される。

§ 2 執行委員会はその活動に関して ICJPIC に報告するものとする。

§ 3 執行委員会の任期は 4 年とし、委員の半数は 2 年ごとに指名を受ける。

§ 4 執行委員会は、少なくとも年に2回は会合を開く。

第6条 執行委員会の任務は次の通りである。

§ 1 JPIC 担当室長が ICJPIC 集会で発案され総理事会で承認されたプロジェクトや提案を実行するのを助けること。

§ 2 承認のために総理事会に提出する議題や作業プログラムを作成すること。

§ 3 JPIC の分野における新しい事業やプロジェクトを提案すること。

§ 4 JPIC 担当室長と協力して本会内の JPIC 活動に関する年次報告書を作成し、すべての管区に提供すること。

C) 国際 JPIC 評議会の執行委員会

「執行委員会は、担当室長が総理事会と相談の上総長により任命される。この委員会は JPIC 担当室長、室長代理、および他の最低 4 名の人物から構成される」
(ICJPIC 規定第 5 条 1)

執行委員会の任務の中で最も重要なものは以下の通りである。すなわち、ICJPIC 集会で発案され、総理事会で承認されたプロジェクトや提案を実行するに当たって、JPIC 担当室長を助けること。ICJPIC 集会の議題や作業プログラムを準備し、総理事会の承認を得ること。そして、正義と平和の分野における新しい事業を提案し奨励することである。(ICJPIC 規定第 6 条)

ローマ、JPIC 担当室

3 . JPIC の活動におけるフランシスカン家族内の協力

1 . フランシスカン家族内の協力の原則と現実

3つのフランシスコ会修道会の会憲はいずれも、フランシスカン家族全体との関係に一章を割いています。私たちの会憲では、題3章第2節でこの点について述べています。

第55条(2)はこう述べています。「兄弟たちは、このフランシスカン・カリスマが聖フランシスコの精神に潤されたすべての人々の間で十分に成長発展するように全力を尽くす。また共同体の企画によって助けを与えるために、一緒に集う機会を利用する。」

これは、第二バチカン公会議以降多数のフランシスカン家族の間に一致と相互理解、相互評価と協力の動きが起こってきたことを明確に示すものです。この中には、第一会、クララ会、その他の女子観想会、在世フランシスコ会およびTORの多くのグループが含まれます。

この同じ家族の一員であるという気持ちは、より普遍的でエキュメニカルな新しい文化的・教会的意識の成果であり、聖フランシスコと聖クララの書き残した文書をすべての人がよく読むようになったおかげです。律修第三会・在世フランシスコ会の会則および第一会・第二会の会憲は、フランシスコ会とクララ会の会則の永久的な価値を現在の状況に当てはめるもので、フランシスカンの生活の根本的な価値観を示すのに成功しました。私たち全員が共有するフランシスカンの生活の根本的な価値観とは、私たちに一つの召命、一つのカリスマを共有させ、一つの同じ家族の一員であると感じさせてくれるものです。

草の根レベルで交流の動きがあった、つまり、私たちの間にある種の家族意識が広がったからこそ、また高次の責任者レベルで様々なフランシスカン・グループの交流があったからこそ、様々な機会に共同で文書を発行することができ、1996年には、OFS、OFM、コンヴェンツアル会、カプチン会、CFI-TOR (TOR 国際フランシスカン協議会)およびTORの兄弟たちから成るフランシスカン家族協議

会（CFF）を正式に立ち上げることができたのでした。

この交流の動きは、まだかなり制約があるものの、初期養成や生涯養成における協力を通して、また、歴史的・霊的調査や、司牧活動、宣教活動、正義・平和・被造物の保全への真剣な関わりなどにおける協力を通して、現実のものとなっています。

2 . JPIC の活動におけるフランシスカン家族内の協力

a) JPIC のためのインターフランシスカン委員会

フランシスカン家族内の協力が、まだごく限られた範囲ではありますが、おそらく最も徹底的な形で実現されているのは正義と平和と自然保護の分野でしょう。その原因は様々です。たとえば：

- 私たちがこれらの価値を私たちのカリスマの中心的なものと考えていること。
- それらが時代のしるしの一部であること。
- それらは協力のための具体的な可能性を提供してくれること。
- これらの価値に非常に敏感な兄弟姉妹は、ふつう自分自身の考えに固執することが少なく、すべての人、特に同じ目標に向かっている人々との協力をオープンであること。
- これらの分野で活動する各支部のフランシスカンはまだ少数派であるため、これらの中でより大きな力・可能性・影響力を持つためには一致団結する必要があると感じているらしいこと。実際、ここ何年かの間、これらの分野ではインターフランシスカンの活動がみられる。事実、いくつかの国々では JPIC のためのフランシスカン運動は最初から「インターフランシスカン」として生まれたのであった。

このインターフランシスカンの活動は、特に社会における私たちの存在に目を向けるという点で建設的なものですが、こうした価値観に基づいて各支部の兄弟たちを貧しい人々の優先、平和と環境保護に向けて鼓舞してゆく必要があること

を忘れてはなりません。ある小規模グループでは、フランシスカン家族内の相互協力は活発だったのに、肝心の自分の属する支部や管区をこの方面で鼓舞する必要を忘れていたというケースもみられました。

b) JPIC インターフランシスカン委員会(Inter-Franciscan Commission for JPIC) 在ローマ

1981年に、正義と平和のためのインターフランシスカン委員会(IFCJP)がローマに設立されました。この委員会はフランシスカン家族協議会(CFF)すなわち、在世フランシスコ会、OFM、コンヴェンツアル会、カプチン会、TOR 国際フランシスカン協議会(CFI-TOR)、TOR の兄弟たちの各代表6名から構成されています。この委員会は通常、年に3回会合を開きます。委員会のメンバーは各グループの活動にどのように協力し、これを支援するかを調べます。彼らはまた、世界中の兄弟姉妹から送られてくる質問や請願に答えます。過去5年間に、IFCJPは「フランシスカンの正義と平和とエコロジーの活動の特徴」という共同宣言を起草しました。1995年、彼らはフランシスカンズ・インターナショナル(FI)の再建のための提案を起草し、この提案はCFFおよびFIの国際執行委員会に提出されました。

3 . フランシスカンズ・インターナショナル

これまでのところ、フランシスカンズ・インターナショナルはフランシスカン家族の福音宣教に関する唯一の国際共通プロジェクトです。それは、1983年にインターフランシスカンのプロジェクトとしてアメリカで始められました。会員構成は個人的・自発的なもので、少額の年会費を支払うというものでした。スタッフのいる事務所がニューヨークに設置されました。1989年2月3日、フランシスカンズ・インターナショナルは非政府組織(NGO)として国連の広報部(Department for Public Information, DPI)に登録され、その諸原則の宣言の中で、貧しい人々と平和と被造物の保全のために国連とその他のNGOと協力して働くことを提案しています。

90年代初頭、国際執行委員会が創設されました。この委員会は、国連の経済社会評議会(ECOSOC: Economic and Social Council)の諮問機関となることを求

め、1994年8月4日に承認されました。そのおかげで、私たちは議題として質問を提出し、国際生活の問題に関する情報を伝達し、切迫した社会問題に関する私たちの心配と解決法を提示するための、積極的かつ直接的な発言権を手に入れることができるようになりました。

その数年間、各大陸の様々な国で、フランシスカンズ・インターナショナルは個人会員制という形で組織されるようになりました。フランシスカンズ・インターナショナルは国連の大きな集会にも参加しました。たとえば、環境と発展サミット（1992年、リオデジャネイロ）、世界人権会議（1993年、ウィーン）、人口と発展世界会議（1994年、カイロ）、社会発展世界サミット（1995年、コペンハーゲン）、第4回世界女性会議（1995年、北京）、第2回国連人間定住会議（1996年、イスタンブール）、世界食料サミット（1996年、ローマ）などです。

1995年、CIFJPは国際執行委員会に一つの提案を行いました。この提案は総長とフランシスカン家族の長上たちの支持を受けたものでした。この提案の骨子は次のようなものです。

1. フランシスカンズ・インターナショナルは世界中のフランシスカンの名において発言しているので、フランシスカン家族の長上たちに何らかの形で責任を負うべきである
2. 個人会員制を再検討する必要がある。なぜなら、多くのフランシスカンたちは自分がすでに所属している会の名において発言する組織の会員になる必要を感じていないからである。
3. フランシスカンズ・インターナショナルに国連の一部門としての地位を与えることによって、国際共同体はフランシスカンたちに何らかの活動を期待しているということを表明している。我々は国連とその様々な機関（ユネスコや国連難民高等弁務官事務所、国連人権委員会、国連食料農業機関など）と共に働くために、より一層努力しなければならない。そのような活動は、フランシスカン家族全体の関与と積極的な参加を必要とする。

1996年10月、フランシスカン家族協議会は公式結成にあたって、フランシスカンズ・インターナショナルに対する責任を引き受け、FIの新しい規定につい

て協議・提案し、FI の将来の計画を立てるための「作業グループ」を任命しました。この作業グループがファシリテーターを務めるフランシスカンズ・インターナショナルとフランシスカン家族協議会との間の話し合いで、FI の今後の方向性と FI がフランシスカン家族や国連の枠組みの中で誰に責任を負うべきかが明らかになるでしょう。

4 . ジュネーブのドミニカンたちと共に

この数年間、フランシスカンズ・インターナショナル (FI) はジュネーブに拠点を求めてきました。ジュネーブは人権や労働組合、難民問題に直接に影響を及ぼす多くの政策が協議され、承認される場所だからです。FI の国際執行委員会が FI の事務所をジュネーブの国連に設置するための具体的な方法を研究するようヨーロッパの執行委員会に依頼してから 5 年間、事務所設置の可能性に関する議論は高まってきました。1996 年、この問題はヨーロッパの執行委員会で討議され、承認されました。同時に、ドミニコ会総長 (Master General) のティモシー・ラドクリフ OP と JPIC のドミニコ会代表は OFM の兄弟たちに、ジュネーブで人権のための共同事務所で一緒に働いてくれることは可能かと尋ねてきました。もちろん、私たちはこの提携の要請に対して大きな関心を抱いているという返答をし、フランシスカンズ・インターナショナルの環境の中で働きたいという願いも伝えました。1997 年 2 月、FI のヨーロッパ執行委員会はジュネーブの新しい事務所で FI とドミニカンが協力するとの提案を承認しました。私たちは人権委員会の会合 (1997 年 3-4 月) において、一緒に働きました。聖地、コロンビア、その他の問題に関わってきた世界中からの OFM の 4 人の兄弟も参加しました。この少し後、1997 年 5 月に、この分野において準備をしてきた若い女性が私たちの責任者として働き始めました。

5 . 最終評価

過去 6 年間の経験から、フランシスカン家族内の協力には多くの利点と困難が伴うということが分かりました。CFIJP は一連のプロジェクトにおいて協力を試み、ある程度成功しました。過去 700 年もの間相互の違いを自らのアイデンティティーとしてきたために、道は平坦ではなく複雑なものになっています。特定の

プロジェクトにおいて(たとえば聖フランシスコとクララの 800 年祭)協力するのは比較的簡単なことです。しかし、共通の研究所や国際養成プログラム、海外宣教事務局のような人材と資金を必要とする恒久的なプロジェクトにおいて協力するのは非常に意味のある挑戦です。フランシスカンズ・インターナショナルと一緒に働こうと努めることがどれほど有利で、かつ困難を伴うかを示す一つの例です。一般社会の人々はフランシスカンといっても実は様々に分かれているのだということを理解していません。ですから、彼らは「フランシスカン」が平和のプロジェクト、貧しい人々との一体感、そして被造物に対する関心事において気軽に貢献してくれるものと期待しているのです。

ローマ、JPIC 担当室

4．社会分析

(正義と平和の推進者たちのためのマニュアルより、
総長連合 JPIC 担当室 (JPIC Office of the Union of Superior General),
1997 年、ローマ

はじめに

世界の変革のために努力することは、ナイーブな夢想家の仕事でもなければ、血気盛んな愛好家の仕事でもありません。世界を変革するということは、私たちが世界についてある程度のことがかわかっており、何を変える必要があるのかを知っているということを意味します。正義のために行動しようと思うなら、世界の飢え、路上生活者の問題、暴力と環境破壊の多くを生み出すもととなる構造的な不正を認識しなければなりません。正義と平和と被造物の保全のための養成プログラムにおいては、不正のシステムや構造とそれがどのようにして、なぜ機能するのかという問題にかなりの部分を充てるべきです。必要とされているのは、社会のシステムと不正につながるそうしたシステムの機能不全の兆候を調査する方法論、またはプロセスです。社会的/制度的分析のために役に立つマニュアルはたくさんありますが、中でも最も総合的なマニュアルは Holland and Henriot の「社会分析：信仰と正義の結びつき」(*Social Analysis: Linking Faith and Justice*) でしょう。

JPIC の推進者は正義の問題を解決する行動を起こす前に、そうした問題を慎重に吟味する必要があります。彼らが自分の取り組んでいる問題を理解しようと思うならば、このような慎重な準備が必要です。正義の問題を検討または分析する方法が必要なのは、もし正義のために働く人々がそうした問題の根本原因を十分に認識していなければ、問題を悪化させる恐れがあるからです。

社会分析は私たちが社会の構造（政治的、経済的、文化的、社会的、宗教的）を調査し、社会的不正の根本原因を明らかにするのを可能にしてくれる一般的で効果的な道具です。分析することによって私たちは、ドナル・ドールが「相対す

る共感」(face-to-face compassion) と呼んだものから「どのようにして」「なぜ」と尋ねる段階へと移行することができるのです。たとえば、この人たちはどのようにして貧しくなったのか？なぜ失業率が増加しているのか？社会分析によって、権力を握っている者、決断を下す者、これらの決断の結果社会の中で恩恵を受ける者と受けない者を見分けることができます。そのおかげで私たちは、社会システムの中で働いている相互関係や影響力を見ることができるのです。この方法は、キリスト教のグループによってさらに発展を遂げました。彼らはキリスト教的神学的考察を行うと同時に社会分析をも用いて、正義と平和と被造物の保全の推進のための行動計画を立案しようとしています。

社会分析は私たちに対する「目、耳、口を開く」ようにとの呼びかけです。私たちが自分の使命の「なに」と「どうやって」を理解するために、イエスが耳、目、口を開くようにと招かれたことを象徴する3つの奇跡がマルコ福音書に記されています。「まだ、分からないのか。悟らないのか。心がかたくなになっているのか。目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。覚えていないのか。(Mk 8:18)」耳の聞こえない人の癒し (Mk 7:31-37)。盲人の癒し (Mk 8:22-26, 10:46-52)。口のきけない人の癒し (Mk 9:17-27)。社会分析は、私たちが耳を傾け、見、自分が住む世界の叫びを聞くようにと招きます。

方法

社会分析の方法は使うのに難しいものではありません。それは、JOC (カトリック青年労働者連盟) 若いキリスト教の労働者と若いキリスト教の学生の基本的な「見て、判断し、行動する」という方法を含んでいます。この方法は後にラテン・アメリカの神学者たちによって基礎キリスト教共同体 (Basic Christian Communities) の活動に取り入れられ、解放の神学の随所に反映されています。

社会分析には4つの主要な段階があります。(次に挙げる4つの段階の内容の多くは、Tony Byrne CSSp 著「正義と平和のために働く」*Working for Justice and Peace* (ザンビア、ミッション出版) 1988年、P57-63 からとられたものです)。

(社会分析を実際に始める前に、価値観について話し合っておくと役に立つで

しょう。)

第一段階：出発点：グループのメンバーは分析や調査を必要とする問題のリストを作成します。

- 不正と不正の間に相関関係やつながりがあるかどうかを見ましょう。
- 最も深刻な問題は何かを決め、それをリストにしましょう。
- これらすべての不正を表す一つの共通の名前があるかどうか考えましょう。
- この方法でグループが検討する具体的な問題を一つ決めましょう。二つの問題を同時に分析することはほとんど不可能であることを覚えておくことが大切です。

第二段階：構造分析

- 問題を詳しく説明しましょう。
- 問題が始まったのはいつですか？
- なぜ始まったのでしょうか？
- 私たちはいつ、それが深刻な問題だと気づいたのでしょうか？
- 問題のどこが私たちの注意を引いたのでしょうか？

一般的な構造：

- 社会の構造や組織についての討論から始めましょう。
- 今扱っている問題を経済、政治、階級、文化、宗教などの社会構造との関連において検討しましょう。

経済的構造：

- 問題の原因は誰にありますか？
- この問題から金を得ているため、それが続いてほしい、もしくは悪化してほしいとさえ願っている多国籍企業や地元の企業がありますか？
- この問題から経済的に利益を得ているため、それを維持したり支持したりしている個人やグループがこの社会に存在しますか？

政治的構造：

- この問題の結果、権力を得るのは誰ですか？
- 権力を得るもしくは維持するために、この問題を利用する政治家や政党は存在しますか？
- この問題が起こるのを許した権威や権力を持つ人は誰でしょう？
- 権力を得るために、この問題が続いてほしいと願っている地域社会のリーダーはいますか？

階級構造：

- この問題は社会の中に社会的分裂を生み、それを維持し、支えるのに力を貸していますか？
- この問題のために社会的重要性や地位を得ている特定の人がありますか？それは誰ですか？
- この問題のために社会的重要性や地位を失っている特定の人がありますか？それは誰ですか？

文化的構造：

- 私たちの文化や伝統は、この問題を生み、維持し、支えるのを助長しているでしょうか？
- どのような文化的価値や伝統がこの問題の深刻化に力を貸しているでしょうか？
- この問題を態度や心的構造との関係から検討しましょう。

宗教的構造：

- この問題に関係があると思われる宗教団体や教会組織とはなんのでしょうか？
- それらの宗教団体や教会組織はどのようにしてこの問題を生み、助け、維持しているのでしょうか？
- この問題から利益を得ている宗教団体・教会組織がありますか？
- それらは、自分たちの重要性を維持したりメンバーを増やしたりするために、この問題を利用していますか？

心的構造または態度

不正はしばしば社会の不公平な構造によって引き起こされます。しかし、たとえそうした社会構造が変化したとしても、人々の態度やメンタリティーが変わらなければ不正の問題は残るのです。

こうした態度のことを心的構造と呼ぶことがあります。これを変えるのは容易なことではありません。不公平な状況を生み出す心的構造や態度を変えるためには、回心が必要です。回心するためには、人々は「正義に飢え渴く」精神と心を持っていなくてはなりません。

私たちはこの問題を作り出し、維持し、支えるのを助長するようなどんな態度をとっているのでしょうか？私たちが個人または共同体として持っている態度で、この問題を深刻化するのに力を貸してしまうような態度を挙げることができずか？

第二段階の終わりに、次の質問について考えてみるとよいでしょう。

- これらの考察と討論の結果、私たちは問題の原因を前よりよく理解することができるようになったでしょうか？
- この分析の結果として浮上し明るみに出た最も重要な洞察や新しい考えとはなんのでしょうか？

第三段階：聖書と教会の教えに基づくキリスト教的考察

- 聖書や教会の教えが問題に新しい光を投げかける一助となるかどうか調べること。
- この問題について、聖書にはなんと書かれていますか？
- 教皇、評議会、司教グループなどが発した教会の宣言の中で、この問題に応用できるようなものを見つけることができますか？

第四段階：行動計画。グローバルに考え、ローカルに行動すること

行動の計画：

- この問題の解決策とはなんですか？
- 私たちはグループとして、または個人として、この問題について何ができるでしょうか？
- 私たちは行動計画を実行するのに助けとなるどのような手段がありますか？
- 役に立つもっと多くの手段がありますか？
- 問題の一部でも今すぐ取り組むことのできるものがありますか？
- 私たちが最初に取り組むべきステップとはなんですか？
- 責任は各メンバーで分担する。
- 計画の各段階、また計画全体の実現のためにタイムリミットを設ける。
- 経済的資源、およびその他の資源を考察し、注意深く計画を作成する。

評価しなさい：

- 私たちは最初に何をしようと思いましたか？
- どこまで捗りましたか？
- 捗るのを助けてくれたのはなんですか？
- 捗るのを妨げたのはなんですか？
- 私たちが今しなければならぬことはなんですか？ 目的の変更？ 方法の変更？ 資源の刷新？

注意事項：(評価は計画実行の様々な段階で行うことが必要です。祝祭 [典礼を含む] は、社会分析のプロセス全体に組み込まれる必要があります。)

この方法に近づくもう一つの方法は、次のようにすることです。

見る

私たちの周りに何が見えますか？なぜそれらは今のような状態になっているのでしょうか？

判断する

状況判断において私たちはどのような偏見を持ち込むでしょうか？どのようなレンズを通して物事を見ているでしょうか？この問題に対する私たちの無意識の認識とはどんなものでしょうか？問題を分析するにあたってどのような知恵と人生経験を用いるでしょうか？私たちは誰の知恵に結びついているでしょうか？お金持ちの知恵に？それとも貧しい人の知恵でしょうか？

状況を評価するにあたって、私たちは本当に貧しい人々の側に立って行ったでしょうか？現実の認識にあたって、貧しい人々の体験よりもエリートの言うことに耳を傾けているのではないのでしょうか？福音の知恵はどこにいつてしまったのでしょうか？正義のために働くためには、聖書に深く根ざした霊性が必要です。それがなければ、私たちの仕事は手におえない、不可能なものになってしまうでしょう。社会改革者として、また福音宣教者として召し出しを受けている私たちは、神の国をもたらすために祈り、熟考して神のご計画を探しています。私たちは状況を神のご計画に照らして判断するのです。

行動する

私たちを取り巻く世界で何が起きているかをよりよく認識し、状況を福音の視点から判断してから行動する必要があります。共同体の他の人々（NGO、他宗派、地元のグループ）との協力や、可能であるならば、国際的なネットワーク作りは非常に大切であり、大きな効果をあげる可能性があります。

実際的アプローチ

貧しい人々や社会から除外された人々と積極的に関わり、その後の社会分析に参加し、そして自分の態度や行動を絶えず反省することによって、世界の変革に貢献するのに必要な批判的意識を発達させることができるでしょう。

わたしは
黒い女
糸杉のように高く
強い

すべての定義を超えて静かに
場所と
時間と
状況を無視し
執拗に攻撃されても
動じず
破壊不可能なもの
見なさい
わたしを、そして
新しくなりなさい。

メアリ・エヴァンズ (Mari Evans)

(「わたしは黒い女」マーガレット・バズビー編「アフリカの娘たち」(ニューヨーク、パンテオン・ブックス、1992年)、P300)

「彼らは路上で私をさらっていきました。私は治安警察に抵抗しましたが、彼らは私の頭を殴りました。母と父の顔がいつまでも眼に焼き付いていました。イラク刑務所のやり方は彼らの野蛮さを端的に表しています。そのやり方とはレイプです。・・・それについて何度も聞かされてきましたが、実際に自分がそんな目に会うなんて思ってもいかなかったのです。それは未だに私の中から消えてくれません。まだたくさん出血します。私は一人の男にレイプされたのではなく、集団にレイプされたのです。彼らは私の叫び声を封じ、抵抗を押さえつけました。私はされるがままになっていました。しかもそれは見世物で、多くの人々が見に来たのです。」クルド人の女性

(アムネスティ・インターナショナル「人権とは女性の権利」*Human Rights are Women's Rights* 1995年、p. 85より)

セクションIで述べたように、多くの女性にとって暴力(戦争における暴力、政治的暴力、性的暴力、家庭内暴力)は日常生活の恐るべき現実です。北京女性会議において暴力は文化的・地理的境界を越えた問題でした。バングラデシュ女性会議のAyesha Khanamは「女性に対する暴力は全世界に行動を求める問題です」と述べています。北京で取り上げられた暴力の問題の中には、少女たちの性器切

除、「持参金殺人」(インドでは何千人もの若い花嫁たちが、持参金が不十分だという理由で殺されています)、家庭内の身体的虐待(アメリカ合衆国では殺人の犠牲となる女性の約三分の一が夫やボーイフレンドによって殺されています)、そして戦争の武器としてのレイプや強制売春などがありました。どうすればこのような暴力を止められるかは、私たち全員(女性、男性、信徒、修道者、キリスト教徒、他宗教の信徒)に突きつけられた課題です。

以下は、女性と暴力の問題に対する構造分析的アプローチの概略です。

場面の設定:ある小教区グループは最近発行された家庭内暴力に関する全国調査について話し合っています。この調査によれば、5人に一人の女性が夫またはボーイフレンドから暴力を受けたことがあります。アンケートに答えた人の59パーセントが暴力の犠牲になっている女性を知っていると言い、13パーセントが精神的虐待を受けていると報告しています(彼女たちは部屋に閉じ込められたり、友人に会うことを禁止されたり、言葉による暴力を受けたり、金銭を奪われたりしています。)10パーセントは、蹴られたり、階段から突き落とされたり、殴られたり、刺されたり、首を締められたりするなど、ひどい身体的暴力を受けています。また、ナイフや銃で脅されて、性的虐待を受けた人もいます。地元紙の社説はこう結論づけています。

「政府は女性保護のための法律を提供することはできても、暴力の原因を知るまでは家庭内暴力を減らすためのプログラムを作成することはできない。政府は原因の究明を目標とする一方で、避難所とレイプ危機センターの支援のためにできる限りのことをすべきである。」

私たちはこれに答えることができるでしょうか？ 私たちにできることは何でしょうか？ この小教区内で私たちの知らない所で暴力に苦しんでいる人は誰でしょうか？ こういった数多くの質問が急速に浮上してきます。社会分析の方法を用いてこれらの質問にどのように答えることができるでしょうか？ このような問題の分析には少なくとも2時間のセッションが2つ必要であるということに注意することが重要です。

第一段階：問題を明らかにする

家庭内暴力に関する情報を探し、分かち合いましょう。調査報告書を一部取り寄せましょう。講演者を招いてもよいでしょう。国内の家庭内暴力の歴史のあらましをまとめてみましょう。社会の政治的、経済的、文化的、社会的、宗教的発展のどのような側面が女性に対する暴力に力を貸してきたでしょうか？関連や相互関係を探しましょう。ここではどのような価値観が危機に瀕しているのでしょうか？

第二段階：構造の分析

女性に対する暴力につながるような経済制度がありますか？たとえば、持参金制度、法的権利や財産権の欠如、動産としての女性、一家の稼ぎ手としての男性、失業など。女性の経済的依存によって利益を得ている社会的力がありますか？

政治制度の中で力を持っているのは誰ですか？女性に対する身体的暴力を黙認している政党や政治グループはありますか？女性に「自分の分をわかまえさせる」ことで利益を受けるのは誰ですか？もしあるとすれば、政府の中で女性が果たせる政府の職務には何がありますか？フェミニズムの隆盛を脅威と捉えているグループはありますか？女性は権利を持っていますか？

たとえば「男性的逞しさの誇示」の伝統のような、女性に対する暴力を文化的に支持する傾向はありますか？社会的交流はどのような形態をとっていますか？女同士、男同士？アルコールは重要な男性的儀式ですか？貞潔は女性にだけ期待されて、男性には期待されない？男性はどの程度の教育を受けていますか？女性はどの程度の教育を受けていますか？メディアは女性をどのように扱っていますか？性的対象、浮気、気まぐれ、頭が悪い？

社会構造は暴力を奨励しているのでしょうか？たとえば、雇用主が労働者を所有していて、所有物として訓練したり、貧しい住環境に置いて、適切な健康管理と社会的サポートを与えなかったりする？決定を下すのは誰ですか？

宗教的組織において女性はどのような役割を担っていますか？女性を特定の役割に就かせるような教え、伝統、風習がありますか？神話の中で女性はどのように描かれていますか？聖書の中では？教会の中では？

経済的、政治的、社会的、文化的、宗教的構造の中に、女性に対する暴力を助

長するような相互関係がありますか？

第三段階：考察と祈り

「サマリヤの女」(ヨハネ4章1-12)のような聖書の一節を使いましょう。この聖書のくんだり聖書全体はこの問題について何と言っていますか？イエスはどうのように応答されていますか？教会の教えや、教皇、司教、宗教的指導者の声明文でこの問題を明らかにするのに役立つものはありますか？

第四段階：行動計画

解決策は何ですか？具体的に、私たちが変わってほしいと思っていることは何でしょう？私たちはグループの中に、家庭内暴力の問題に答えるのを助けるどのような手段を持っていますか？問題の中で今すぐ取り組める部分は何でしょう？より大きな小教区とどのように連絡をとりますか？まず最初にどんなステップを踏みますか？行動計画には様々な側面がありますが、それぞれの責任者は誰ですか？いつまでに私たちは様々なステップを実行しますか？

評価

行動計画と実際に行われた行動を再検討し評価するプロセスを組み入れることは非常に重要です。

ローマ、総長連合正義と平和と被造物の保全委員会の「JPIC マニュアル」

5 . JPIC の具体的な活動現場

日常生活

これらの選択肢は、本書の第一部と第二部で理論的に紹介した構想を具体化するための実際的な提案として皆さんに提供するものです。これらの構想ができる

だけ私たちの日常生活の一部となり、またフランシスカンの生活様式を日々実現させるものとなることを願っています。

私たちの提案は、2つの一般的レベルと2つの特定のレベルとに分けて考えることができます。

1. 一般的レベル：

管区レベル（管区の指導部にできること）

地域レベル（各兄弟共同体、および兄弟各人にできること）

2. 特定のレベル：

“Ad intra”（我々の組織の中で）

“Ad extra”（我々の組織の外で）

I. 日常の正義

A. 管区レベルで

1. “Ad intra”

- a) 初期養成では、司祭職を選んでいない志願者を差別してはいけません。彼らにも平等に勉学と技術的養成の機会を与えるべきです。
- b) 司祭でない兄弟たちが、管区の中であらゆる役職に就く権利と、管区会議に一定数の代表者を送る権利を保持すること。
- c) 高齢の兄弟や病気の兄弟に対する最大のケアと助力を、可能ならば各人の修道院で直接的・間接的な形で提供すること。それができなければ、彼らのために快適で受け容れられていることを実感できるような看護室を作るべきです。
- d) 兄弟の近親者が経済的・社会的に困難な状態にある場合、私たちの建物の一部を提供してでも、彼らを助けるべきです。
- e) 民間の選挙の際には、管区の JPIC 担当室を通じてすべての兄弟に、それぞれの政党の公約や候補者に関する情報を十分に提供すること。

2. “Ad extra”

- a) 毎年の収支をチェックし、総収入の内一定の割合を毎年決めて、貧しい人々に生活の向上プロジェクトの形で還元していくこと。できれば兄弟全員の賛同を得て決定されるのが望ましい。
- b) 良心的な金融機関に預金し、社会的貢献をする機関に出資したり貯蓄すること。高い利息や個人の利益を追求しないこと。
- c) 健康な兄弟たちのことも考えながら、私たちの公的な場所を誰もが容易に快く利用し、礼拝できることを優先させること。
- d) 定期的に直接的・個人的に管区の JPIC 担当室に問い合わせて、選挙の立候補者に与えた信任がふさわしかったかどうかを確認する。

B. 地域レベルで

1. “Ad intra”

- a) 可能な限り責任の平等分担を図り、兄弟共同体のすべてのメンバーがそれぞれのカリスマに従い、修道院の健全な管理に共同責任を持って参加できるようにすること。炊事や共同個所の清掃など基本的な奉仕および重労働に関しては全員が順番に行うようにすること。
- b) 各兄弟が休暇を生かすことができるよう、清貧の誓願の範囲で兄弟たちに必要な金銭を与えるなど便宜を図ること。
- c) 各兄弟が兄弟共同体と教会への奉仕のために自分の才能を自由に発揮できるようにすること。

2. “Ad extra”

- a) もし家事労働のためにフランスカンでない者を雇う必要が生じた場合、その選定の第一基準は生産性や効率ではなく就職志望者が必要とすることである。
- b) もし適切な規則がなかったとしても、私たちを頼りにしている職員の社会の中での安定を第一に考え、彼らに公正な給料を払うこと。
- c) かりにコストが平均より高かったとしても、できる限り公正で協力的な業者から製品を購入し、使うこと。

- d) 正義のために闘っている宗教団体や民間団体(たとえば、アムネスティ・インターナショナルなど)を助け、支援し、また、いつかは彼らに加わること。
- e) 地域での政治的、社会的活動に関心を示し、たとえ自分自身の身の安全や自由を賭してでも、社会で最も底辺に追いやられた人々を守るためのグループを支援し、支持し、また、そのようなグループを結成すること。
- f) いつでも、またどこにいても、投票権を行使すること。そして、人々の平等の推進のために闘い、信教の自由と人間の尊厳を守る政党や運動に投票すること。

II. 平和、私たちの姉妹である日常生活

A. 管区レベルで

1. “Ad intra”

- a) 可能な限り親睦と祝いの時をつくること。
- b) できる限り、兄弟たちの「よい仕事」が知られるようにすること。コミュニケーションを促進し、互いの仕事を評価し合うこと。「コミュニケーションはコミュニオン(交わり)を深める。」
- c) 非暴力と反軍国主義を福音宣教的見地から選択すること。

2. “Ad extra”

- a) 「緊急ピースメーカー」としての兄弟のグループを形成する(国際平和旅団、International Brigades of Peace, BPA の例に倣って)。このグループは管区長または JPIC の管区代表に対し直接責任を負うものとし、紛争が起こった場合に備えて、「現地」に派遣される。彼らはその非暴力の存在によって、当事者間の和平交渉に貢献する。このような管区のグループはその活動にあたって JPIC 本部担当室 (General JPIC Office) の指示を仰ぐものとする。
- b) アッシジの精神に従い、毎年 10 月 27 日に「平和のための断食と祈りの日」を持つように計らう。

B. 地域レベルで

1. "Ad intra"

- a) お互いのマナーを向上させ、毎日挨拶を交わし、自分たちの喜びや苦しみを分かち合うことによって、できるだけ兄弟として親しくなること。お互いのために祈り、誕生日や霊名日を祝いあうこと。
- b) いつも「結論」を下そうとしないように努める。他人の意見を受け入れること。
- c) 一人の人が共同体の犠牲者になっているという感じ方をしないように注意を払うこと。誰かを犠牲にすることがないようにすべきである。

2. "Ad extra"

- a) すべての人に従い、小さき者として生きること。
- b) たとえ正義を犠牲にしても、誰かを批判したり、裁いたりしてはならない。
- c) 兵役と軍事費に対する良心的拒否を公表し、支援すること。

III. 被造界、私たちの共通の家

A. 管区レベルで

1. "Ad intra"

- a) 管区および地域の会計係にエコロジー意識を植え付けること。
- b) 初期養成および生涯養成の課程において、「人間的エコロジー」に関する授業を設けること。

2. "Ad extra"

- a) リサイクル可能な容器に入った製品を買うこと。
- b) 全出版物を再生紙に印刷すること。
- c) 可能であれば、たとえ効率が悪くても、メタンガスや液体プロパンガスを使った交通手段を選ぶこと。
- d) 修道服の布地に、できるだけ安価なものを買うこと。

B. 地域レベルで

1. “Ad intra”

- a) 節度のある生活様式（特に食べ物と衣服について）と、可能な限り質素でナチュラルな生活様式を選ぶことによって、広く普及した消費主義に異を唱えること。
- b) 「使い捨て」スタイルのもの選ばず、これに反対すること。
- c) ゴミ（特に紙、ガラス、プラスチック）を分別すること。それぞれの修道院は一箇所または二箇所以上にゴミ収集場を設け、ゴミ収集の責任者を置くこと。
- d) 修道院の暖房はメタンガスまたは天然ガスで行うこと。可能ならば、石炭やディーゼル燃料から暖房方法を変えること。
- e) エネルギーと水の使用を必要最小限に留めること。

2. “Ad extra”

- a) エコロジー運動を奨励し、支持し、これに参加し、最終的には形成するようにする。この運動は非暴力的な方法で世論を形成し、共同体や管区的・地域的・国家的行政機関に被造物（自然）の保護を目指して対策を講じるよう働きかけるものです。例：ゴミの分別収集、交通や工業におけるよりエコロジカルなシステムなど。
- b) できる限り、交通手段として自転車を利用すること。健康的で、公害の原因にもならない。
- c) もし自転車が無理なら、公共交通機関を利用すること。できれば電気、天然ガス、「エコロジック」なガソリン（この順番で）で動くものを選ぶこと。
- d) 最も効率のよい生産のためではなく、自然の肥料を使って耕作すること。季節毎の休息のサイクルを尊重すること。
- e) 公害の最も少ない製品を購入すること。

はじめに述べたとおり、ここに提案したリストは完全なものであると言うつもりはありませんし、小さき兄弟会の置かれた様々な地理的状况をすべて考慮したものでありません。しかしながら、できるだけ広範囲に及ぶようにと心がけました。

福音と我々の会則の光に照らしてあなたに伝えようとしたこのメッセージを良心に従って自分自身の生活に適用するのは、兄弟よ、あなた次第です。このメッセージをあなたの置かれた環境にあてはめてください。そうすれば、あなたはかけがえのない神の愛のしるしとなることができるでしょう。このしるしは聖フランシスコとクララの模範に倣った、まじめで喜びに満ちた生活様式の中に現れることでしょう。

ロベルト・クランチ OFM (Roberto Cranchi OFM)

「諸国の民」に宣教する使命

修道生活は、それが始まった最初の頃から、この世に対する神の限りない愛を形にしたものとして、また福音の完全性のしるしとして、さらには、世界を変革する解放の力として現れています。修道生活が当初から教会の司牧的活動または慈善事業の表現形態としてではなく、むしろ、この世に奉仕する教会とはどういうものかを示す目に見えるしるしとして定義されているのは注目に値します。キリスト者でない人々に向けられている福音宣教は、しばしばその光と影の両面を含みながらも、主に男女修道者、信徒、そして聖職者の務めとなってきました。どの時代においても、次のようなある特定の使命が強調されています。

- 「諸国の民」に宣教する使命とは、神の国の文化と法律と秩序を無学で貧困でしばしば凶暴な人々にもたらすという意味でもありました。
- 「諸国の民」に宣教する使命とは、アメリカ大陸の先住民をキリスト教徒にするプロジェクトとなりました。
- 「諸国の民」に宣教する私たちの使命とは、世界中の多くの人々を真理に導くことであり、当時の私たちにとってそれはローマン・カトリックに導くことを意味していました。

今日の「諸国の民」に宣教する使命

この30年間に変わったのは、私たちの生活様式や衣服や祈りの生活だけではありません。私たちの社会生活も急激に変化したのです。教会の内部では、聖書研究や神学的考察において大きな発展があり、同時に自然科学や社会科学を神学の中に取り込もうとする動きが生まれました。神・教会・宣教の使命に対する私たちの理解は、こうした変化の影響を色濃く受けているのです。

何世紀もの間、地平線上に日が昇り、日が沈むのを毎日眺めているうちに人々は自分が宇宙の中心であり、太陽は自分の回りを周っていると思い込むようになりました。何気なく眺めていたことから始まったものが宇宙論、つまり、知覚を説明する論理へと発展していったのです。この宇宙論から見れば、キリスト教の教会と西洋文明は、人類に対する神のご計画と救済・礼拝・掟・倫理・図像学な

どの必要性を包含する一つの完璧な世界観を形成していました。ガリレオ・ガリレイの新しい理論は無害なものでもなければ、単なる面白い観察でもなかったのです。ガリレイはシンプルな新しいレンズを用いて、宇宙における太陽系と人類との位置関係に対する人間の理解を 180 度転換させたのでした。この新しい転換の体験は従来からの宇宙論と当時の多くの通年を根底から覆すことになりました。この危機は深刻な問題を孕んでいました。この新しい情報は、キリスト教の神理解と世界観、そこに占める自分の位置についての理解を脅かすものとなりました。社会の宇宙論的な基盤に対するこの脅威はあまりにも大きかったので、この新しい角度から現実を見るようにと司教に話し掛け、説得を試みることは困難なだけでなく、危険なことだったのです。

今日私たちも同様に、従来の宇宙論的前提が変化する危険な時代に生きています。新しい宇宙論を導き出した現代の新しいレンズとは、おそらくそれを通して月面から地球を眺めるカメラのレンズのことです。世界中の人々は、重力の法則を破って宇宙空間を移動し、月面から私たちの地球という惑星がまるでクリスマスの飾りのように輝き、暗い夜空を回転するのを見ている人を、地球上から客観的に見るという共通の体験をしました。私たちは、280,000 マイル (470,000 キロメートル) も離れた月面に設置されたカメラを通して、自分自身と自分たちの住む惑星、すなわち国境のない、華奢な、一人ぼっちで輝いている地球を見ることができたのです。

今日人類の半分を占める女性は、残りの半分を占める男性に対して自分のアイデンティティーや自分の権利を明確にしつつあります。このことは人類史上においておそらく最も重要な論点の一つでしょう。世界は地球村と化しつつあり、そこではますます多くの人々が精神世界に関心を抱いていますが、そのことを宗教と結びつけて考えてはいません。被造物について知識を深め、コンピューターによって世界中の新しい兄弟姉妹に出会うにつれ、私たちのものの見方は変わってきます。自然界や他人に対する見方が変わってくるだけでなく、神に対する理解も変わってくるのです。神を思い浮かべて怖れを抱く人は少なくなりました。すべての宗教は人生行路に役立つ良いものだと考えられるようになっていきます。被造物中心の態度をとり、貧しい人々と人権のための闘いに関与する霊性が多くなりました。かつては宗教の敵とみなされてきた物理学者たちは、今では物質と精

神が同じ現実の2つの側面であること、そして、すべての物質の基盤は精神であることを私たちに教えてくれます。

今では歴史上初めて、全地球家族は同じ体験を同時に分かち合うことができます。テレビによってこの家族は一つの新しい囲炉裏を囲むことができるようになりました。私たちはモスクワのロシア大統領府が襲撃されるのをテレビで目撃し、世界中のあらゆる国々の何億もの人々がワールドカップサッカーの優勝を決めるゴールを同時に見て、一緒に息を呑むのです。私たちは、独裁者の頭越しに国境を越えてファックスを送って、人々に希望と人権蹂躪に関する最新の情報を提供することができます。情報を入手できるということは、効率のよい工場生産高以上に力があるということなのです。情報は人々に人生を決める選択の力を与えてくれるのです。

この10年ほどの間に、教会中心もしくは極端にキリスト中心の宣教（修道生活も含めて）のモデルから、中心が移動するのが見られました。新しい中心は全く教会にもキリストにも忠実でありながら、来るべき世界、「新しい天と新しい地」、つまり神の国（支配）が視野に入っているモデルへと移動したのです。このように、教会のアイデンティティーを定義するのは神の国であり、教会内における修道生活を再定義するのも神の国なのです。もしも教会のアイデンティティーが宣教であるならば、神の国とその価値観（平和、正義、神の子であること、人々の交わり、すべての生命に対する無条件の尊重、唯一神の下にすべての国々が兄弟姉妹であること）が教会の宣教する使命の目標となります。

現代の神学は教会（修道生活をも含めて）の自己理解の基盤について、かなりのところまで意見が一致してきているようです。イエスの生活と仕事の中心は、神の国の到来を言葉と行いによって、特にその死と復活を通して告知知らせることです。聖書学者たちによれば、イエスはご自分の使命を、神の国という新しい現実の預言者となることであると理解しておられました。イエスは、人間一人ひとりに関わる神、被造物のすべてに関わる神、そして歴史に関わる神について語られます。この歴史の中で、またこの歴史を通して神の愛が生まれ、世の終わりまで成長を続けるのです。「神の国は、・・・愛と正義と平等の社会の理想像であり、それは人類が内的に変化を遂げたか、あるいは力を得た時に実現するもので

す。この理想的な社会では、人々はそれぞれ「存在」も「感じ方」も異なるので、その「行動」も「共同生活」もさまざまです。」(P. Knitter)

第二バチカン公会議は、宣教を教会の自己理解のまさに中心に置きました。教会はその本姓上宣教するものでもあるからです。宣教は教会の核心に触れる部分です。言い換えれば、教会のアイデンティティーは宣教であるということです。この考え方によれば、宣教は教会の権威者から出される命令に由来するものではなく、洗礼に由来するのです。洗礼によってすべてのキリスト者が「交わり」へと導きいられるのです。「交わり」とは閉鎖的な集団のことではなく、イエスが「多くの人々」のためにご自身を渡されたように、分かち合いと自己奉獻の行為から成る生きた体のことです。教会は明らかに、自分自身のために存在しているではありません。教会は、教会憲章に述べられているように、人類の交わりの「秘跡」であり、すべての被造物と神との交わりの「秘跡」なのです。すなわち、ご自分が造られたものに対する神の救済と解放のご計画の秘跡に他なりません。

宣教（ミッション）と逆宣教

「宣教」について語るとき、他人の生活を改善するために、「メッセージの内容」を伝えるプロジェクトや、出版すべき書物、書くべき論文、製作すべき映画をさがすのは簡単です。しかし、「宣教」は伝えたり、教えたり、手渡したりできる一定量の情報とは違うのです。宣教とは存在することによって、また多分に言葉によって神の国を告げ知らせるために遣わされる者の態度のことです。

780年前の十字軍の時代に、私たちの兄弟アッシジのフランシスコは敵のスルタンに福音を宣教しようと東方に赴きました。もしもスルタンが改宗すれば、平和が訪れるはずでした。スルタンが賢明でオープンな人でしたのでフランシスコは幸運でした。スルタンはフランシスコの伝道に腹を立てるどころか、フランシスコを野営地に招き、討論をしたのです。フランシスコは生涯で2度目の回心を体験したことになります。フランシスコはイスラム教徒にはなりませんが、「サラセン人」に対して深い尊敬の念を抱いてアッシジに戻ってきました。彼はスルタン以上に福音の影響を深く受けたのでした。第一会則の中で、フランシスコはこう述べています。「回教徒および非キリスト教徒のもとに行く兄弟たちは、

口論や争いをせず、神のためにすべての人に従い、自分はキリスト者だと宣言することによって彼らの間で霊的に生活することができる。主のみ心にかなうと判断するなら、神のみ言葉を宣べ伝えて、洗礼をさずけることができる。」

フランシスコはここで福音宣教と宣教の使命について素晴らしい手本を示してくれました。馴染みのない状況に身を置き、そこで人々のやり方がわかるようになるまで尊敬の念を持って彼らと生活を共にするのです。私たちは彼らと口論したりせず、また神のご意志によってその時が示されるまでは説教しません。

宣教とはこのように一つの態度、視点、悟り（仏陀）であり、私たちはそれを通して現実そこにあるものを「見る」のです。すなわち、神は謙遜に質素に私たちの間におられ、私たちは神と共に生きているということです。宣教は物質と精神が調和している神の国を見ようとするところから始まります。宣教は、私たち一人ひとりの日常生活にも神の国が生まれるということ信じることから始まるのです。宣教とは神の国、すなわち私たちの周りにありながら生活の表面から隠れている私たち各人の中にある神の国を信じ、希望することです。それは選り取られた態度であり、すべてを神のご計画にかなうものとして見たいと望みながら、平和と正義を好む態度なのです。それは、「倉庫から宝を持ち出す管理人」のように隠されたものを表にあらわす能力を持っています。それは、神が私たちを愛されたが故にこの私たちの間に住まわれたことを信じ、その視点でこの世とそこに住む人々を見、理解することなのです。この信仰の態度を描写した聖イグナチオ・ロヨラの素晴らしいエピソードがあります。聖イグナチオが晩年になって隠居生活をしていたころ、彼はよくお花畑を散歩していました。彼はよくよろめいて満開の植物にぶつかりそうになったものでした。そんな時、彼は花々に向かって杖をかざし、花を優しく揺さぶりながらこう言うのでした。「わかった、わかった、そんなに大声を出さないでくれ！」

弟子であること いつの時代にも基本となる態度

使徒たちの心を捉えたのはイエスの教えの内容だけではありません。イエスが個人的に使徒たちに関心を抱き、使徒たちを招いてくれたからです。イエスは自分の内面や周囲にある神の国に気づくようにと彼らを招きました。彼らが自由に

なって本当の自分を取り戻すためです。イエスはヘロデの屋敷の中庭で召使の女の問いかけを大声で否定した臆病者シモンの動揺の陰に、隠れた偉大なリーダーとしての資質を見抜いていました。ヤコブとヨハネが、彼らに一夜の宿を提供してくれなかったサマリア人の町にソドムとゴモラの火と硫黄を降り注がせたいと願ったのも、彼らの隠れた優しさでした。ザアカイが誰かから何かだましとっていたら、それを四倍にして返しますと約束したのも、彼の隠れた公平さの表れでした。敵のために喜んで仕事をし、自分の民衆から税を徴収しようとしたのも、使徒であり殉教者であったマタイの隠れた誠実さだったのです。自分の内面や周囲にある神の国を見ることが出来ず、聞くこともできないか、あるいは、無関心で応答しようもしない人々を助けて神の国を体験させるのが私たちの宣教なのです。

質問

神の国に奉献しようとする、福音宣教の方法について多くの質問が出てきます。たとえば、修道者として中国にいるとは、また将来中国に行くとはどういうことか？中国での宣教の目的とは何か？中国は世界最古の文化が連綿と続いている国です。神は何千年もの間中国の人々と生活と仕事を共にしながら、彼らを愛してこられたのだと思います。私たちが彼らと共に暮らすよう召し出されていると感じるのはなぜでしょうか？私たちは彼らに何を語り、彼らから何を求めたらよいのでしょうか？

最近のルワンダでの福音宣教の体験から私たちはどんな教訓を得ているのでしょうか？アフリカの別の地域での体験からはどうでしょうか？修道共同体が国連と提携して活動する NGO となる可能性はどうでしょうか？私たちは、キリストの死と復活と再臨を信じる私たちの信仰を国連にどのように伝えることができるのでしょうか？

教会や修道会を他の国々に設置するとき、私たちはどれほど順応性と適応性を備え、貧しくいられるのでしょうか？私たちがそれらを設置した国の文化や風習を十分に尊重しているのでしょうか？私たちは地元の若い教会に組織の所有権や管理権を委ねているのでしょうか？私たちの修道会が育てた「若い」教会は、宣教師

を「派遣」するほど活発になっているのでしょうか？アフリカやアジア、ラテン・アメリカからの宣教師が増えてこないのはなぜでしょうか？私たちは信徒や聖職者、男女の間に福音に基づいた尊厳と平等を証しすることによって宣教しているのでしょうか？私たちはみな福音宣教という同じ基本的な任務で結ばれているのです。西洋の宣教師たちは旧来から抱え込んでいる問題や分裂を若い教会に持ち込んではいないのでしょうか？

挑戦

修道生活の刷新と「諸国の民 キリスト者でない人々」に向けられている私たちの宣教の使命はどうなっているのでしょうか？思い違いをしないように、刷新というものはその性質上ほとんどが死を通して実現するものであることを念頭に置いておく必要があります。一粒の種が地に落ちて死ななければ、実を結ぶことはないのです。死は進歩と発展の可能性を開き、以前とは全く異なる生命を生み出すのです。私たちは種まきに備え、未知の未来が自分の内に育つのを信じ、希望する種のようなのです。私たちは恐らく、敷居をまたいで次の段階に移行する最中なのです。造られたものが進化の境界線を越えようとするときしばしば抵抗に出会います。抵抗を受けながら前進しようとするときに生ずる摩擦によって新しいエネルギーが生まれます。この新しいエネルギーは造られたものを次の段階に進ませる役目を果たすのです。

私たちの修道会は、生まれ故郷でも海外でも同様に、自分の周囲の問題に適応する必要があります。たとえば、神の国に無関心か、神の国が見えないか、あるいは神の国に敵意を抱いている人々の間に小規模の福音的な生活を送るキリスト者のグループを形成する必要があるのです。単なる必要性からではなく人類の連帯を公に証しするために、国際的で多文化的な共同体で生活する術を学んだり、男女が共に協力して働き、他の宗教を信奉する人々と定期的に祈り、働くことも必要でしょう。神が創造に関与しておられるというメッセージを科学者の共同体と分かち合うこと、社会の発展に関する世界サミット（コペンハーゲン）、世界女性会議（北京）、国連人間居住会議（トルコ）などで声なき人々の代弁者となることも大切です。

修道生活の刷新や「諸国の民」に対する私たちの宣教の使命は、水素と酸素の分子のようなごく小さい兄弟姉妹からも学ぶことができます。それらは水素でも酸素でもなくなって姉妹なる水となる時、新しい命となって現れるのです。水は聖フランシスコによれば有益で謙遜、貴く、純潔です。この水において、水素と酸素は想像もつかない有益なものに変身するのです。各分子が結合して何か新しいものになるためには、変化し、転換し、自分を無にしなければなりません。キリスト教の初期、受肉のメッセージはユダヤ人の家庭から西洋に伝達されました。ギリシャやローマに伝達され、そこで東洋のメッセージと西洋の文化との融合が起こったのです。こうした交換や結合は、優しい姉妹なる水をつくった水素と酸素の結合に似ています。私たちに問われていることがあります。それは、私たちは個人として、または修道会として、この世界の分子を他の世界の分子と融合させて受肉の新しい理解とそれに伴う結果を受け入れる用意があるだろうかということです。たとえば、西洋世界の神学や考察と孔子の教えが融合して中国のカトリック教会が生まれるとしたらどうでしょうか？

修道生活の伝統的な様式の多くは死んで、未知の新しい生活に生まれ変わりつつあります。来世紀には、きっと様々な形態の修道生活が教会に生まれていると思います。それらは、多様であるばかりでなく、異なった教会論に基づいて非常に異なった社会状況の中で機能するはずで、国によっては、修道会は50-60年前に西洋で栄えたように今後も栄えるでしょう。また別の国では、善意と努力があっても、修道者の数が減ることでしょうし、過去に教会の役に立っていた修道会すら消えてしまうかもしれません。しかし、それと同時に、新しい形の修道生活が教会から生まれるかもしれません。たとえば、過去の伝統を受け継いでいるものの、様式の異なったちょうど苗木と種子ほどの違いのある形態の修道生活が生まれるかもしれないのです。

アッシジの自治都市の繁栄はフランシスコとクララが新しい生活様式を始める触媒の役割を果たしました。同様に、私たちの新しい世界も、新しい霊的指導者が神への奉献を公にした新しい生活様式を始める触媒の役目を果たしてくれるかもしれません。こうした新しい形態の「修道」生活は、新鮮で自由な様々な方法で、成長する地球村が突きつけてくる挑戦に応えるものとなるはずで、そして、新しい修道生活の関心事とはおそらく神の国を見ることのできない人々の

目を開かせることなのではないでしょうか。

修道生活を読み間違ふ危険性に注意を払わなければなりません。この危険性は北半球と南半球のいずれにある教会にも存在します。その危険性とは、修道生活の功利的な側面しか考えようとしないうちに、修道生活の「存在理由」、つまり、根本的な靈性が背景に追いやられてしまう傾向です。修道生活の根本的な靈性とは、神の現存と愛を謙遜に預言的に示すしるしのことです。それは神の靈によって福音が常に新しく具体化され、この世の様々な文化の中で神の国の到来を証しする生きた聖靈のしるしでもあります。ここで、修道生活の深遠な目的は、司牧職に奉仕することではないということを強調したいと思います。修道生活はそれ自体が重要なのであって、神の現存を証しし、教会と社会を変革する福音の力を証しするものです。「すべての修道者の使徒職は、主としてその奉獻生活の証しにあり、彼らはその生活を祈りと悔い改めによって育ててゆくのです。」(CIC 673)。

結論

いくつかの特別な挑戦

1. ニューフロンティア - への招き

修道生活にはここからここまでという境界はありません。(初代の兄弟たちは貴女清貧の話の中で、「私たちの修道院はこの世間です」と述べています。)たいいていの場合、修道生活をその構成要素とか地理的限界を設けて厳密に定義することは困難です。修道生活は本来ダイナミックなものであって静止したものではないからです。それで、しばしば教会や社会の変化の主な原因となってきました。修道生活はその本来の性質上、「究極のもの」を絶えず求め、人生と歴史の完成を目指しています。それでいながら、修道生活は今すでに終末の時を喜びに満ちて生きつつ、それを告げ知らせ、待ち望み、預言しています。修道生活は、「諸国の民」に宣教する使命において、神の国が「すでにここにある」と同時に「まだ到来していない」ということを表すしるしなのです。

考察と討論のヒントとして次にいくつかの簡単な質問を設けてみました。

- 私たちはこの世で復活された主を証ししていますか？
- 私たちは構造的不正の世の中で叫んでいる貧しい人々の声となっているのでしょうか？
- 私たちは正義を求めて絶えず叫び続けていますか？
- 私たちはあわれみ深い神を指す者、またその神を現存させる者となっていますか？
- 私たちは貪欲、国粹主義、消費主義、人種的優越感、権威主義（出世追求）と逆の態度をとっていますか？
- 私たちは平和の働き手となっていますか？まず自分の心や修道会の中にも平和をもたらそうとしているのでしょうか？
- 私たちは他の人々にとって希望と勇気の源となっているのでしょうか？
- 私たちは母なる大地を大切にしているのでしょうか？
- 私たちは外国人、やもめ、孤児、移民、難民申請者、失業者、忘れられた人々を深く受け入れているのでしょうか？
- 私たちは和睦する教会のしるしとなっているのでしょうか？（様々なメンバーからなる国際的な修道会としての問題）
- 私たちは、教会を初めの愛と使徒的精神に呼び戻す者、教会にとって特別の賜物となっているのでしょうか？

2 . 「過ぎ越し」

イエスは、ご自分の使命をまっとうするためにご自分をむなしくして、馴染みのある安定した神の世界から罪びと・見捨てられた人々・無関心な人々・墮落した人々・不道徳な人々の世界へと自ら「過ぎ越し」で行かれました。今日、イエスに従うためには、私たちの共同体が貧しい人々の生活へと「過ぎ越し」ていくための新しい方法を考え、実行することが必要です。貧しい人々を優先することは、自分を無にすることによって他の状況や文化に融合し、その一部となることなのです。

3 . 地元の文化に溶け込んだ教会を建てること

地元の文化に溶け込んでいると同時に国際的でもある（「カトリック＝普遍的」）教会を根付かせるためには、私たちは誠意をもって行動する必要があります。歴史から学び、さらに今日の現代社会科学から学びながら、慎重に行動せねばなりません。地元の文化に溶け込むということを皮相的に捉えて誤解することのないようにしましょう。地元の文化に融けこむとか「文化の尊重」とかの美文に惑わされてあらたな国粹主義に陥ることのないようにしなければなりません。「諸国の民」に宣教する使命の重要な部分とは、人々を部族主義という破壊的な畏に陥らないように助けることです。他の場所に行って他の兄弟姉妹たちに助言を与える前に、こうした同様の人間の諸問題を我々の修道会内で取り組んでおく必要があります。

4．福音の尊厳と平等を証しすること

この最後の点は、私たちが自分で日々実践している福音的尊厳と平等を証しすることによって、福音宣教を実現するよという挑戦です。私たちフランスカンは信徒と聖職者の間の関係や男性と女性との関係について絶えず歴史的な問題を抱えています。それでいて、すべては同じ福音宣教という基本的な任務によって一つに結ばれているのです。私たち修道者は自分を見つめ、次のように自問してみることが大切です。私たちは昔から抱えている問題や分裂を若い教会にまで持ち込んではいないかと。他の人々の間で神の国を証ししたいと望むなら、日常生活の中で日々和睦を実現する必要があります。言葉と行いによって私たちが宣べ伝えるメッセージは、神がご自分の創造されたこの世界に真剣に関与しておられるということを表明するものでなければなりません。「諸国の民」に宣教する使命を遂行するにあたり、私たちは教会の社会教説から学びながら、知恵と行動力をもって貧しい人々の苦しみを共に分かち合うことを求められています。正義と平和のための私たちの仕事は福音宣教に必要不可欠の部分です。対話も「諸国の民」に宣教する使命の必要不可欠の要素です。対話とは、1986年にアッシジで開かれた世界宗教者会議でみられた態度のことです。

ヘルマン・シャルック OFM

小教区司牧活動における正義と平和と被造物の保全の仕事

このセクションでは、正義と平和とエコロジーの仕事を小教区の活動のなかにもどのように取り入れることができるかということを中心に重点的に取り上げたいと思います。

そのために次のような目標を設定してみました。すなわち、正義と平和とエコロジーは小教区の活動の基本的な部分であって、一部の専門家に任せるべきものではないということです。

これから紹介するアイデアと具体的な提言は小教区が正義と平和とエコロジーの問題に関わってゆくのに助けになると思います。次のような分野を検討してみましょう。

- 1．イエスの三つの奉仕職
- 2．社会奉仕と預言的な奉仕
- 3．他のグループとの関係
- 4．リーダー育成
- 5．人々の理解
- 6．兄弟共同体の役割

イエスの三つの奉仕職

すべての小教区は、三つの奉仕職、すなわち、預言の奉仕（核兵器反対運動や人権擁護の活動など）、典礼の奉仕（ミサや秘跡）、社会奉仕（路上生活者の人々を援助や難民支援の活動など）をその組織と計画の中に組み入れようとしています。

バランスのとれた司牧的アプローチを試みるのはたやすいことではありません。時として一部の活動の成長が他の活動の軽視を生むことがあります。社会的、預言的活動よりも典礼の活動や秘跡の活動の方が人々を熱心にさせるのは簡単です。バランスのとれた活動や奉仕職の目標とは、イエスとその福音の全体像を示すことであって、人が喜びそうな見方や提示しやすい課題を示すことではありません。

ません。

この点を明確にしさえすれば、正義と平和とエコロジーを小教区の活動に取り入れることはたやすくなります。ただし、活動をうまく調整することが基本です。これとともに、一連の問題が生じてきます。それは、グループや運動が成長して他のグループとの連帯が不要になるに従い、統一が崩れること、そして共通の目標を達成することができなくなることです。

そこで、私たちは各小教区に、様々な教会グループと活動から人を集めてうまく調整された参加しやすい小教区委員会をつくることを提案したいと思います。人々の生活のペースとか、文化とか、社会・政治的、宗教的状況を考慮に入れ、評価可能な優先順位をつけて司牧計画を作り上げることが必要不可欠です。

社会的な活動と預言的な活動

社会的、預言的な活動に責任のあるチームや委員会は、その小教区の正義と平和とエコロジーの促進に直接の責任がありますが、それのみにとどまりません。

社会・経済的、政治的現実を小教区で検討（診断）してみれば、これらの委員会は人間性の向上を必要としているのはどんな分野か、また最も弱く、注意を必要とする人々は誰かなどを突き止めることができます。すべての挑戦に応じることのできる小教区などありません。ですから、重点的に考慮すべき最も重要な人間性の向上の優先順位のリストと共同体や小教区のグループが検討すべきテーマのリストを作成する必要があります。

たとえば、水不足や環境汚染、多くの難民、特定のグループの排斥などが問題になっていると仮定しましょう。この場合、小教区は状況改善のための具体的な行動を決定するために検討の段階で関与することができます。行動は熟慮の結果生まれたものでなければならず、できるだけ多くの小教区委員会のメンバーによって検討されたものであることが望ましいのです。行動がいったん実行に移されれば、次に必要なことは行動の評価です。参加する過程に比べると結果はそれほど重要でない場合がよくあります。率先して行動に参加する多くの人は失敗する

かもしれませんが、最終的に一部の人は成功するでしょう。時には失敗してもみんなプロジェクトを手がけることの方が一握りの人たちの成功より大切です。小事に負けて大事に勝つほうがよいのです。とはいえ同時に、一握りの人たちの緊急の行動を必要とする特定の分野も常にあるはずで、大切なのは地域的、国内的、国際的な諸問題に対するプロジェクトや応答の数ではなくて、それらのプロジェクトがうまく調整されていること、そして情報を小教区全体で分かち合うことです。

正義と平和とエコロジーの仕事を一握りの専門家に委ねてしまうのは賢明ではありません。人間の常として、人は専門家の集団を見つけると仕事を彼らに委ねてしまう傾向があります。確かにすべての仕事は少数の人たちで始まります。しかしながら、これら少数の人たちは、他の人々を参加させる広い視野を持ち、適切な時期に責任とリーダーシップを明け渡す心構えができていなければなりません。

他のグループとの関係

1. 正義と平和とエコロジーの問題に懸命に取り組んでいるのは小教区ばかりではありません。人々が一致団結しているところには力が生まれます。小教区は生命と人間の尊厳を促進する他のグループや組織や教会(地元の市民団体、政党、労働組合、連合、市区町村の評議会、プロテスタントおよび東方正教会、他の教派や修道会)をすべて知っていなくてはなりません。また、地元の司教区の目標や計画をよく把握し、それと連携する方法を知るために特別な配慮が必要です。
2. これらすべてのグループの目標とその実践の過程をしっかりと批評眼をもって分析しなければなりません。
3. 福音的な価値を尊重するグループがあれば、彼らとは競争するより協力することが望ましい。
4. ごまかしを回避するために、連携が適切に行われているかどうか、仕事の結果はどうかなど時々見直しを行うことが大切です。
5. 小教区は可能ならば、小教区の活動に他のグループを招いて参加させるべきですが、正しい意向を持っていない人は除外すべきです。

リーダーの育成

- 1．正義と平和とエコロジーの活動のリーダーとなる人は初期および生涯を通じて、教会の神学的・社会的教え、フランシスカン霊性、組織的、技術的な面などの養成を受ける必要があります。
- 2．リーダーとなる人は、正義と平和とエコロジーの問題に直接に携わるようになる前に、小教区の通常の活動に一時期積極的に関わるべきです。そうでないと仕事に忙殺されてキリスト教的視点を見失う可能性があります。
- 3．リーダーとなる人はバランスのとれた精神性を必要とします。
- 4．リーダーとなる人は、小教区の他のグループと接触したことがあるか、少なくとも彼らを知っていなければなりません。
- 5．リーダーとなる人は、小教区の共同体に評価され受け容れられる人でなくてはなりません。
- 6．リーダーとなる人は、慎重でリスクを負うことのできる人でなくてはなりません。
- 7．リーダーとなる人は、政党のリーダーと連携してはなりません。

人々の理解

概して、人々は正義と平和とエコロジーの問題から眼をそらします。理由は、恐れから（紛争のある国々では）、もしくは聖性を俗事と切り離して考えているために、または、計画がお粗末だったり、十分な支援を受けていないためだったりするからです。

活動は人々のペースに合わせて行うべきです。正しい宗教教育や総合的教育がなければ、多くを期待することはできません。生命と人権の擁護が聖性の基本的な一部であることを彼らが認識している場合には、何らかの実りを期待することができます。

どのようにして人々を熱心にさせるか？

- 1 . 最初のうちは、人々の意欲をそそるような成功しやすい計画や簡単な活動を選びます。成功に勝る動機はないからです。
- 2 . 最初のうちは、論争の的になりそうな冒険的なプロジェクトは避けましょう。
- 3 . プロジェクトは、最初のうちは大多数の人々が重要と感じることを選びましょう。
- 4 . 責任者や中心的に働く人を選びましょう。積極的にやる気のある人がよいです。
- 5 . どんなに重要なことでも、プロジェクトを押し付けるのはやめましょう。
- 6 . リーダーシップが長続きするように気を配りましょう。
- 7 . 目標を明確にし、見直しを行いましょ。

兄弟共同体の役割

- 1 . 小教区といっしょにその社会的、政治的状況を分析し、行動の計画を立てましょう。
- 2 . 人々の提案に注意深く耳を傾けましょう。
- 3 . 正義と平和とエコロジー関連の社会的活動のプロジェクトを積極的に支援しましょう。
- 4 . 支援とは必ずしも、兄弟の直接的な介入や物理的な存在を意味しません。
- 5 . グループへの兄弟たちによる経済面での支援と動機付け(たとえば会議室の提供などの後方支援)。
- 6 . 主役を演じないように、そして兄弟たちへの依頼心を植え付けないようにしましょう。
- 7 . しばらくしたら、兄弟の参加の回数を減らしましょう。
- 8 . 私たちフランシスカンは永遠に小教区に留まるわけではありません。私たちが去った後も、小教区の共同体は正義と平和とエコロジーの仕事が続けてゆくのです。

Gearoid O Conaire OFM

言葉の奉仕

み言葉の奉仕

何世紀にもわたり、JPICの問題は兄弟たちの言葉による奉仕の一部となってきました。たとえば、1231年にアントニオの四旬節の説教がきっかけとなって、パドアの市民が借金を返せない人々の投獄を禁じる法律を成立させたことはそのよい例です。兄弟の説教がきっかけとなって質屋が生まれ、人々は銀行に高い利子を払わずに資本を起こすことができるようになりました。著作活動する兄弟や説教する兄弟は各地で先住民の権利を守ってきました。本書の第二部で取り上げたJPICの7つのテーマのそれぞれについて、兄弟たちは他のフランシスカン家族と協力してきました。

兄弟たちは、そのすべての活動において、聖フランシスコが1223年の会則で定めた二重の課題に直面することになります。一つはイエス・キリストの聖福音を守り（第1章）熱意を込めて福音的勧告を生きることであり、第二は、同時に「ぜいたくで、華美な衣服を身にまとっている人、また、美味しいものを飲食する人を見ても、彼らを軽蔑したり、裁いたりしない」（第2章）という謙遜な態度です。アッシジのフランシスコが彼の時代の人々や後世に大きな影響を及ぼした主な理由の一つは、彼が聖福音を守って生きる情熱とそのように生きたいが自分はまだ不完全であるという感覚とを併せ持っていたことです。したがって、人々はフランシスコのことを、神の豊かな恵みに対して常に惜しみなく応えようとする、内的に調和のとれた透明な人と考えてきました。フランシスコは人々に挑戦しただけでなく「もう一度始める」ように励ましたのです。

兄弟たちが聖福音を生きる情熱と謙遜さを併せ持つ必要に気づいてそれを尊重した時、彼らは正義と平和の状況を改善するにあたって、同時代の人々に影響を及ぼすことに成功しました。しかし、兄弟たちが聖福音を生きることに情熱的なあまりに、謙遜さを欠いて自分の不完全さを認めなかったら、彼らは神の国を証しするどころか、その逆を示し、正義と平和の状況を改善することに失敗してしまいます。

このような情熱と謙遜さの不均衡は、過去においてフランシスカンが福音を証しするのを妨げましたが、将来も、いろいろな活動において妨げとなる可能性があります。兄弟たちが生活/活動と JPIC の問題を意識的に結びつけて考えることはなくても、社会から除外された人々や貧しい人々と実際に共に過ごす体験は、すべての兄弟の生活と活動に豊かな実りをもたらすことでしょう。以下に、一般向けの説教や著作、ラジオ・テレビなどのマルチメディアを通して JPIC の問題を伝える方法として、いくつかの具体例を挙げてみましょう。

記事

- 本書の第二部で取り上げた 7 つのテーマについての活動に関してフランシスカンまたはその他の出版物に一般向けの記事を投稿すること。
- 7つの分野におけるフランシスカンまたはその他の著名人のインタビュー。
- JPIC 問題に関して良い記事であればそれを賞賛する手紙を、誤解を生むような記事（たとえば、風刺漫画など）であれば抗議する手紙を編集者に出すこと。
- 教会内や人類家族内の和解を促進すること。
- フランシスカンの出版活動については、スタッフの賃金や年金、昇進に関して正義が守られるように計らうこと。
- これらの問題の最前線にいる兄弟たちともっとコンタクトを取ること（たとえば、管区広報に寄稿させるとか、そうした兄弟との相互訪問や手紙のやりとり）。
- これら 7 つの分野の一つにおいて直接的にパートタイムの職務に関わること（たとえば、刑務所の教戒師になるとか、貧しい人のための無料食堂で働くとか、人権擁護委員として働くなど）。
- これら 7 つの分野や JPIC に関連する分野について専門的な記事を書くこと（専門雑誌に投稿したり、本を書いたりする）。

ラジオ/テレビ/マルチメディア

- できるだけインタビューを多用して、これらの 7 つのテーマに関する特別番組や連続番組を放送すること。

- たとえば、いくつかのラジオ局では、識字教育番組や健康教育番組をもっている。
- 宣教師の兄弟やその他の兄弟をインタビューに登場させること。
- これら7つのテーマを紹介する番組制作において他のグループ(宗教的または一般社会の)と協力すること。
- 管区レベルや管区協議会レベルでの使用を目的としたこれら7つのテーマを扱う番組を制作すること。
- スタッフの賃金、年金、昇進に関して正義が守られるように計らうこと。

小教区での活動

- 姉妹教会の関係を結ぶこと(同じ司教区内や国内、もしくは国際的レベルで)について、実例やこれから検討すべき計画を紹介すること。
- すでに準備された講話を再検討すること。これらの7つの分野のテーマから新しい題材を取り入れること。
- これら7つの分野のテーマの大切さを実感している講話者の個人的体験談。
- 信者にゆるしの秘跡の準備をさせる時、良心の糾明の中にこれらの7つのテーマを取り入れること(たとえば、人種差別や性差別のジョークなどを不用意に口にすることがあるかどうか)。
- これら7つのテーマについてもっと知るよう信者を促すこと。
- 活動の全部または一部を女性とチームを組んで行うこと。
- これらのテーマについて適切な視聴覚教材を用い、講話においては社会的関わりを持たない私化した宗教の危険性を訴えること。

黙想会

- これら7つのテーマをできるだけたくさん取り入れた講話を行うこと。
- これら7つのテーマが自分の生活に占める位置を振り返るように黙想者を促し、具体的なテーマについて理解が変わった場合にそれを確認し、これから直接的な行動に移ることを検討するように励ますこと(たとえば、ボランティア ワークなど)。

- これらのテーマについて適切な視聴覚教材を用いること。
- 黙想会の全部または一部を女性とチームを組んで行うこと。
- 黙想者のグループの7つのテーマとの関わりや、最近の取り組みについてグループの連絡係に尋ねること。
- 可能な限り、これら7つのテーマに関する地域の取り組みを紹介すること。
- これら7つのテーマに関して黙想者の教育と考察を続行するために、適切な書物や雑誌、映画を勧める。また、黙想指導者はこれらのテーマに関して自分の体験を分かち合うこと。

パトリック・マクロスキーOFM (Patrick McCloskey OFM)

教育の役務

「世界に平和をもたらしたいなら、まず子どもたちのことから始めなければなりません。子どもたちが天真爛漫に育ってゆくならば、私たちは空しい理想論を掲げる必要はなく、愛から愛へ、そして平和から平和へと進むことができ、ついには世界中が隅々まで平和と愛で満たされるようになります。そのようになることを全世界は意識的にあるいは無意識的に渴望しているのです。」 マハトマ・ガンジー

「・・・諸国の国民は誤った目標のもとに育てられています。私たちの教科書は戦争を美化し、戦争の残虐性を覆い隠しています。それによって子どもたちは憎しみを吹き込まれているのです。私は憎しみよりも平和を、戦争よりも愛を学びたい。教科書は書き換えられる必要があります。教育制度は、過去の争いや偏見にとらわれることなく、新しい精神に満ち溢れたものでなくてはなりません。私たちの教育は揺りかごから始まります。全世界の母親たちは、自分の子どもに永続する平和な感覚を植え付ける責任があるのです。・・・」 アルバート・アインシュタイン

はじめに

大半の兄弟たちにとって、時間と資源はすでに限界に達しているのではないのでしょうか。教育の役務において多大な努力が払われていることを私たちは知っています。それでもなお、私たちはこの役務における平和と被造物の保全の問題(世界中の教育制度がなおざりにしてきている問題)を中心に話を進めたいと思います。多くの兄弟たちが教育現場で働いている以上、彼らはこうした問題の推進者となることができますが、それこそがフランシスカン霊性の必要不可欠な部分なのです。この資料集およびここに書かれていることは、万人向きの総合的なプログラムではありません。むしろ、それぞれの国の教育制度の中で必要な変化に影響を与える立場にいる兄弟たちの献身と創造性に目を向けて、正義と平和と被造物の保全の問題を学校の授業内容に組み入れることを目指すものです。私たちは兄弟たちを励まして、正義と平和と被造物の保全を教えることの重要性を広く伝える手助けをしたいのです。このことはとりもなおさず、他の人々、殊に貧しい

人々や社会の底辺にいる人々を思いやる心を育てることであり、また、正義と共同体と被造物の保全に関するキリスト教およびフランシスコ会の教えを振り返ることでもあります。

全体的な展望

私たちの姉妹である母なる大地を破壊する力をもった国々の緊張関係が高まっている現代では、正義と平和と被造物の保全のための教育に新しい試みを展開する必要があることは明らかです。大切なことはいかにして争いを避けるかではなく、いかにして平和作りという建設的な手法を推奨するかなのです。被造物に対する心のこもった責任感を育てずして、エコロジーの問題を解決する新しい技術を開発するだけでは不十分なのです。地上の生命が生き残ると同時に人類が精神的に生き残るためには、正義と平和と被造物保全の教育が教育の一部としてではなく、中心として位置付けられねばなりません。そのような教育は、広い意味での草の根教育として様々な状況下でなされるものです。その目的はすべての人類とすべての被造物のかけがえのなさを尊重する心を育て、最終的にはそれらすべてを愛するように仕向けることです。そのような教育で培われた見方に立てば、今の政治的思考とか政治的平和工作とか「環境維持可能な開発」などの、いわゆる「現実政策」というものは本当の現実を反映しない失策に思われるかもしれません。そして、そのような教育を受けてきた人たちは、それと違う政治、すなわち、「現実政策」の「現実」を拡大して人間同士の和解という現実も、人類以外の被造物に配慮した「環境維持可能な開発」という現実も含む政治を求めるようになるかもしれません。

現在、世界中の学校で多くの紛争がみられます。これらの紛争はしばしば破壊的な道を辿ります。未解決のまま、緊張だけが膨らむのです。子どもたちや先生や学校に対する攻撃は日常茶飯事です。教育機関は、暴力に流されやすい風潮に抵抗するための建設的な環境を本来提供すべきなのに、反社会的な行動の原因をなかなか究明できずにいます。教育機関は安全圏内に引きこもり、攻撃する側に対して敵意ある行動を起こしがちです。

紛争に巻き込まれた子どもたちや若者を力づくで押さえることによって暴力

を鎮圧しようとの試みは、暴力を、好ましい手段とはいえないまでも場合によっては問題解決の手段として容認することになってしまいます。このような手段は人間性を貶め、若者たちに暴力的な行動様式に代わる具体的な模範を示すことができません。彼らは私たちの言葉より、攻撃や争いに対応する私たちの態度から学ぶのです。言葉で教えることも重要ですが、その言葉は行動と一致していなければなりません。

多くの人々は日々の生活の中で直面する争いに、創造的に対処する態度と技術を身に付けることができていません。彼らの争いに対する身の処し方は、偶然に、しかも(テレビやビデオ、映画などの)破壊的な手段を強調する背景で身に付けたものです。もし子どもたちが争いに対する建設的な身の処し方を系統立てて学んでいれば、情緒不安定や自殺、暴力、その他の反社会的な行動の影響を受けることは少ないでしょう。私たちはこの核の時代に、国家間に必然的に生じる紛争に建設的に対処できるよう若い世代を教育していかなければなりません。

非暴力とは単なる戦争の終結ではありません。それは私たちの心に平和を生み出すことでもあります。非暴力を通して平和を教えることは、若い人々に力の哲学を考えるチャンスを与えることなのです。力の哲学とは、正義の力、愛の力、富を分かち合う力、腐敗した権力に団結して抵抗する力、思考力のことです。学校は生徒たちを思考力で装備させ、生徒たちに非暴力の歴史と技術と実践を教えるべきです。非暴力の力の哲学によって生きることを選ぶということは、カエサルを捨ててイエスを選び、ナポレオンを捨てて聖フランシスコを選ぶようなものなのです。非暴力の授業は幼稚園と小学校一年から始まり、次いで中学校、高校での授業へと継続されるものでなければなりません。

非暴力の力(交渉、妥協、団結した抵抗、非協力、デモンストレーション、非武装防衛)で紛争解決を計ろうとするのは非現実的であることが多いのですが、それはそうした手段が学校で教えられることがめったにないからです。つい最近まで、非暴力の紛争解決技術の教育は、私立学校や平和主義傾向の学校に大幅に委ねられていました。学校が平和教育をなおざりにしてきた結果、平和に対する無知が生まれたのです。平和教育のチャンスを学校のカリキュラムにも与えねばなりません。

現状を憂えるばかりでなく、私たちは学校改革のために何ができるかを一人ひとりが自分に問うてみる必要があります。平和教育の授業を受けられるよう道徳的圧力をかけなければならないのは生徒たち自身です。しかし私たちは生徒たちに、この世界と未来は彼らのものであることを教えなければなりません。生徒たちに自分の生きたい世界のことを考えるように教え、世界に何を建設すべきかを教え、さらにそういうことを教えてもらいたいと要求することを教えるのも私たちの責任です。

H.フェルダーは、フランシスカン運動のことを「今までにとられた最大の平和行動であり、今までに宣言された最大の平和の理想である」と評しています(1923年)。この理想を生きることが常時フランシスカンの課題となっています。私たちは世界の暴力的な文化を平和の文化に変えてゆくよう求められているのです。その指針を偉大なキリスト教とフランシスカンの伝統の中に見出すことができます。開かれた精神と何でも受け入れる心があれば、平和は教えることができ、また学ぶことができるのです。

私たちには、武器を使わずに紛争を解決する決意と能力を若い世代に伝える責任があります。人々が洗練された問題解決技術を身に付けている世界とは、対話と交渉の世界であり、私たちが生き残るためには、対話と交渉の技術を身に付ける必要があります。

具体的な提言

教育効果をあげるためには、実践が欠かせません。実践とは、母なる大地に棲息するもの同士の具体的な交流のことです。知識を得ることによって手近の状況を変えることができると思う人が多いのですが、そんなことはありません。知識を得ることが状況改善につながるのは、その知識によって言動が導かれ、他の人々との交流が図られる場合のみです。したがって、平和と被造物の保護教育の基本理念とは、積極的に相互関係というものを学び、その具体化を損なうことは学ばないということであり、建設的な結果を得たいと思うならば、それは実行に移さなければなりません。

宗教教育プログラムがあれば、正義と平和と被造物の保全に関するカトリックの社会教説に焦点を当てるチャンスはたくさんあります。学校で宗教教育プログラムに実際に携わっている人々は、以下のような点を考慮に入れるとよいでしょう。

平和教育のための提言

- 聖書およびフランシスコ会の伝統に含まれている正義と平和と被造物の保全の問題を生涯教育プログラムと学校のカリキュラムに取り入れること。
- OFM の管区協議会レベルで、社会正義・環境正義と平和の問題に関するマニュアルやチラシ、リーフレット、ポスターなどを作成すること。
- 自ら選択し、その選択に責任を持つことによって、自由であることの苦しみに直面するよう子どもたちを励ますこと（責任を持つということは、処罰ではなくて自由に選択する場合の当然の成り行きであることを教えること）。
- 社会的役割よりも全き人間としての責務のほうに関わるよう若者たちを教育すること。
- すべての子どもたちの才能を大切に、それを伸ばすような教育環境を提供すること。
- 協調性と競争心を育てるようなゲームや教材を提供すること。
- 宗教教育プログラムの一環として、貧しい子どもたちやお年よりについて学び、彼らに奉仕するよう、子どもたちや生徒たちを励ますこと。
- エッセイコンテストや、貧しい子どもたち・お年より・貧しい人々のための地元の施設訪問などの特別プロジェクトを主催すること。
- 学校の集会にゲストスピーカーを招くこと（たとえば、人権運動家、ソーシャルワーカー、エコロジスト、宣教師など）。
- 先進国の子どもたちに発展途上国の子どもたちやその文化について学ぶチャンスを提供すること。
- 怒り、欲求不満、脅迫感などの異なる感情を具体的に挙げ、そうしたネガティブな感情を互いに親しくなるというポジティブな行動に変える練習をすること。

- テレビ番組の中の暴力について討論すること。
- クリスマスプレゼントや爆竹を買うために使っていたかもしれないお金を募金することによって慈善活動や正義に参加するよう促すこと。
- 友情や援助、手紙などを送ることによって困っている子どもの里親になるようクラスを励ますこと。貧困や病気に対して人間的な思いやりをもって接することが大切です。そのような接触から、貴重な人生の教訓を得ることができます。
- 身体障害者の児童たちが学校の児童や生徒たちと一緒にできる行事を計画すること。
- 正義と平和と被造物の保全に影響を及ぼすような政策の立案に際して、政治的責任とキリスト者としての役割を推進するような手紙書き運動やその他の活動に参加すること。
- レクリエーションや、社会的・精神的にためになるような行事を計画すること。たとえば、クラスでの黙想会、運動会、自然の中でのパーティーなど。
- ゆるしの秘跡や初聖体、堅信といった秘跡の準備の一環として、世界情勢や社会正義・平和・被造物の荒廃に対するキリスト者としての責任に注意を払うよう教えること。これは健全なキリスト者の連帯感を養うためです。
- 異文化間の対話を含む修学旅行を計画すること。
- 国際的レベルまたは全国レベルで、正義と平和と被造物保全の問題をテーマとする様々な行事を組織すること。
- 社会正義と環境正義の問題が扱われている様々な国の行事や国際的な行事に青年たちを派遣するための奨学金制度を設けること。
- 自分のクラスや学校や小教区の継続的な活動に他のクラスや学校や小教区の青年たちを招待すること。

自然界との一体感を発見するためのヒントをいくつか挙げてみましょう。

- エコロジーの問題を教育の一環として組み入れること。
- 自然が秘跡と同じように、目に見えない神聖な働きを表す「しるし」であることを思い起こし、それぞれの被造物にその尊厳にふさわしい名前をつけてみて、自然界を黙想の場とすること。自然の神秘を祈りのため

のインスピレーションの源として活用すること。

- 創造の祝日（安息日）を様々な機会に、特に大地の実りに感謝を捧げる感謝祭を祝うこと。
- 自然に親しむ修学旅行を組織し、自然の中で神の被造物の兄弟性についてなどの様々なテーマでミサを捧げること。
- 経済が環境に及ぼす影響および、豊かな国々と貧しい国々、豊かな地域と貧しい地域、豊かな人々と貧しい人々といったそれぞれの関係に及ぼす影響について定期的に情報を提供すること。
- 被造物の保護とそれに関連するプロジェクトに携わる組織と協力すること。
- 水、空気、火、土、動物などに接した際の幸福感と感謝の気持ちを表現することを子どもたちに教えること。
- 被造物の美と神秘に接した時の子どもたちの素直な情感を分かち合い、子どもたちがそうした情感から深い幸福感を引き出すことができるよう励ますこと。
- 一つの物をじっくりと静かに観察するように、また、その物が世の中で持っている役目や価値についてそれに語りかけ続け、その物から「返事」が来るのを待つように子どもたちや生徒たちを励ますこと。
- 被造物の保全の様々なトピックに関する歌唱コンテストや、エッセイコンテスト、絵画コンテストを開催すること。
- 自然界の中で最も弱いもの 苦しんでいる人間や動物たち に対する感受性と思いやりの心を育てること。
- 緑化運動を起こすこと。
- リサイクル運動が始まっていない国々や地域で、リサイクル可能な材料を集めるための行動を起こすこと。
- 子どもたちに分かち合いの習慣をつけさせ、大人たちには、自動車や備品の共用を促すこと。
- 様々なエキューメンカルな行事を行うに際して、エコロジーをテーマにすること。
- 新しい人間像と人間以外の被造物に対するその役割を明らかにすることによって、自然界が最もよく守られるような立場を表明すること。
- 地上の生命について、またこの世に神が現存しておられることについて、

常に神を賛美し、神に感謝を捧げること。

「平和教育とはすなわち人生を祝うことです。平和教育は争いを排除するものではありません。争いは、新しい世代の若い人々を戦争や貧困、人種差別、環境劣化、そして不正義に建設的に対処するよう力づけることによって、建設的で協力的な問題解決の起爆剤となり得るものです。平和教育とは静的なものではなく、行動的な参加なのです。」(アリス・フリードマン)

ボーズ・ブレタ OFM (Boze Vuleta OFM)

養成の役務

フランシスコ会養成綱領

はじめに

『養成綱領 (RFF)』には、正義と平和と被造物の保全に関して言及した個所がたくさんあります。これらの示唆に富む言葉を現実の行動に移すことができないならば、私たちは社会の最底辺に追いやられた人々、貧しい人々、抑圧された人々に貢献することはできません。前総長ジョン・ヴォーンが 1985 年に述べたように、「私たちにはたくさんの文書や言葉がありますが、世界が私たちに期待しているのは行動なのです」。

このセクションで私たちが目標としていることは、世界中の各管区で行われている具体的な行動のいくつかをみなさんと分かち合うことです。ここにご紹介できない例もたくさんありますが、ご紹介する事例はすべての被造物と調和した、より正義と平和にあふれた世界を求めて闘い続けるように初期養成および生涯養成中の兄弟たちを励ましてくれることと思います。

『養成綱領』では随所に、正義と平和と被造物の保全に関する言及がみられます。ここではその中から 6 つのサブタイトルを選び、各サブタイトルで『養成綱領』からいくつかの文を引用し、次いで各管区で実際に行われている具体的な事例をご紹介します。ご紹介するサブタイトルは、兄弟性、存在、声なき人々の声、批判的意識、すべての人を迎える、生涯養成です。

I . 兄弟性

a) #(18)

#(RFF 21 a)

#(RFF 28 b)

b) 事例

1) 正義と平和と被造物の保全の問題に実際に携わったことのある兄弟たちは、

広い意味で、彼らの考えや悩みを初期養成中の兄弟たちと分かち合うように促されています。兄弟同士のこのような接触が非常に実りの大きいことは、多くの管区で実証されています。初期養成の兄弟たちの多くは、自分たちが後にそれぞれの職務に携わるようになったのは先輩たちの模範に励まされたからだと考えています。

2) アフリカ、米国、中央アメリカ、インドでは、文化や言語の異なる兄弟たちが一緒に初期養成を受けています。一部の管区では、初期養成段階の一定期間に、異なる文化的背景を持った兄弟たちと勉学や仕事や生活を共にするよう、若い兄弟たちに奨励しています。このようにして兄弟たちは寛容性というものを学び、未来の国際的な課題に力を合わせて対処する術を身に付けてゆくのです。

II. 存在

a) #(RFF 22 b)

#(RFF 25 a)

#(RFF 32 a)

#(RFF 155)

b) 実例

1) 小さい共同体で貧しい人々の中に住む事が多くの管区で実践されています。フィリピン、ブラジル、中央アメリカ、ドイツ、イタリア、コロンビアでは、大部分の兄弟は初期養成期間の一部、またはすべてを貧しい人々の中に構えた共同体の中で生活します。兄弟たちは家事のすべてを自分たちで行います。場合によっては小教区内で協力しあいます。様々な教会で働いたり、生活費を得るために世間で使徒的な働きをしたりする兄弟もいます。概して彼らは経済的に自立しています。

人々に近接して質素な生活をしているために、兄弟たちは人々の日々の悩みを体験することができ、そのことによって彼らの神学的・学究的な考察は現実的で具体的なものとなります。

カリフォルニア州サンタバーバラ管区の修練者たちは、修練期の二年目をグアテマラの町外れの貧民街で過ごします。彼らはスペイン語を学び、本格的な研究生生活または職業訓練に入る前の一年間を貧しい人々の間で過ごすのです。

2) 社会から除外された人々との接触

大部分の管区が、修練期間を終えた養成中の兄弟を囚人や病人、難民、薬物依存症者、高齢者、ハンセン病者のもとに送り、彼らと分かち合いの体験をするよう促しています。

3) 地元の各種団体に対する支援

多くの管区（バスク、中央アメリカ、ブラジル、韓国、南アフリカの）が、地域社会の向上を目指して活動する地元の宗教団体や民間団体に参加し、その活動を支援するように若い兄弟たちを促しています。似たような団体を新たに組織するよりも、正義と平和と被造物の保全のために奮闘する既存の団体と連帯することにより、兄弟たちは指導的な立場を取るというより、人々と手を携えて歩むことができます。

4) 多くの管区では、若い兄弟たちは一時勉学を離れ、一年またはそれ以上の期間を管区のために奉仕します。ある兄弟たちはその所属管区、または別の管区の宣教地に赴き、貧しい人々と共に働きます。また別の兄弟たちは地元に残り、そこで社会から除外された人々の世話をします。それは、大抵フランシスコ会員が以前から関わっている場で行います。

. 声なき人々の声

a) #(RFF 25 b)

#(RFF 34 b)

b) 実例

1) 正義と平和と被造物の保全のための管区委員会に参加すること

中央アメリカでは、若い兄弟たちは正義と平和と被造物の保全委員会の活動に携わるよう促されています。委員会は管区本部から正式に任命された兄弟たちだけによるものではないので、若い兄弟たちも委員会のメンバーとなります。こうした兄弟たちの何人かは、地元や海外で短期の講習会やセミナーなどに参加することにより、正義と平和と被造物の保全に携われるよう準備することを奨励されます。このようにして、管区は将来も継続して活動ができるよう将来に備えるのです。

2) 多くの管区では、兄弟たちはアムネスティ・インターナショナルなどのような人権擁護団体を直接的、間接的に支援しています。兄弟たちは、そうした団体の地元の支部に参加し、人権を剥奪され虐待を受けている囚人たちの釈放を求めて、諸国の政府や関係当局に嘆願書を書いたりしています。

. 批判的意識

a) # (RFF 32 b)

(RFF 79)

(RFF 162)

b) 実例

管区によっては兄弟たちが毎月の修道院会議で一定時間を定めて、正義と平和と被造物の保全に関する問題について全員で一緒に検討する時間を設けているところもあります。そこでは、一人の兄弟が社会・経済・政治・宗教の分野において地域レベルや全国レベルで起こっている事柄について簡単な説明を行います。そして他の兄弟たちは知っている情報を提供し、その事柄が兄弟たちや人々に及ぼす影響について自分の考えを述べます。具体的な提言があった場合は、行動を決定し、責任者を決めます。

．すべての人を迎え入れ、暴力を拒絶する

a) #(RFF 21 b)

b) 実例

1) バスク地方の兄弟たちは、スペインでは国民の義務である兵役を拒否しています。彼らは兵役に就かない人々に提供される行政事務に就くことも拒否しています。こうした役務に就くことは軍事的風潮に荷担するように思えるからです。このような抵抗に対しては、大抵一年間の禁固刑が課せられます。

2) 居住空間を貧しい人々と分かち合うこと

オーストラリア、シンガポール、タイでは、兄弟たちは自分の居住空間を分かち合うことによって、エイズに苦しむ人々に援助の手を差し伸べています。政治難民や経済難民に修道院を避難所として公に開放している管区もあります。アイルランドの管区や一部のイタリアの管区、アメリカの管区では、修道院の建物の一部を薬物依存症者やエイズ患者、ストリートチルドレンなどのような貧しい人々や最下層の人々のために提供しています。

ウルグアイでは、兄弟たちがフランシスカン家族と協力して自分たちの住居の一部を、私たちのカリスマの視点から見て、人権擁護運動に携わり、この問題に取り組んでいる非政府組織に提供しています。

2 . 生涯養成

a) #(RFF 58)

b) 実例

1) 管区レベルでの集会

多くの管区では、定期的に(年に1~3度)正義と平和と被造物の保全の問題について検討するための管区レベルでの集会を開いています。これにはすべての兄弟が参加するよう招かれています。大抵の場合、この運動に携わる地元の人々も参加します。この集会の目的は、活動体験を分かち合い、将来の取り組み方について皆の意見をまとめることです。管区によっては、フランシスカン家族と一緒に集会を開くところもあります。有期誓願の兄弟たちも参加するよう勧められています。

2)多くの兄弟は、地域の改良を目指す地元の共同体組織に加わります。大抵の場合、兄弟たちは脇役に徹し、指導的な立場には就きません。また他の兄弟たちは、地元の支援グループに参加して、他の国々・大陸・文化における正義と平和と被造物の保全に関する意識を高めるために働きます。

ゲアロイド・オコネール OFM Gearoid O Conaire OFM

第四部

付 録

- 1．貧しい者の優先 1971年から1997年の総会と総評議会における正義・平和・被造物の保全
- 2．聖書のテキスト
- 3．フランシスカン源泉資料のテキスト
- 4．教会の社会教説
- 5．貧しい者の優先 会憲における正義・平和・被造物の保全
- 6．「フランシスカン養成綱領」の中のJPICに関するテキストの抜粋
- 7．JPICに関するフランシスカンの働きの特徴
- 8．連絡先
- 9．様々な信仰の伝統による祈り

1. 1971年から1997年の総会および総評議会における 貧しい者の優先、正義・平和・被造物の保全

メデリン総会（1971年）

小さき兄弟たちの養成

第1章 フランシスカンの召命

8. 貧しい者と共に貧しく、小さい者と共に小さく

これらと、その他たくさんの似たような目標が実践可能ですし、実際に多くの方法で実現しています。これらの目標は聖フランシスコの最初の直感を反映していると言えないでしょうか？すなわち、兄弟愛に満ち、貧しく、小さい人、福音的生活を送り、「愛されていない愛」を知らせたいという願いに燃える平和の道具であった人の洞察を反映していると言えるのではないのでしょうか。

フランシスコがタボル山で瞑想し、ゴルゴタの丘での苦しみに至るまでキリストに従いたいと望み、人間の心に愛を育て、すべての人と平和に生きることを自分の模範と言葉によって人々に教え、隣人の尊厳と平等を認めた時、聖フランシスコと同時代を過ごした人々は、フランシスコの中に福音が完全に復元したのを見たのです。フランシスコは兄弟たちが貧しい人々と共に貧しく、小さい人々と共に小さくあることを求めました。

10. 世間に住まうことこそ、人々を惹きつける鍵である

私たちの修道会は、その聖なる創立者に忠実でありながら現代社会に溶け込んで、世の中の大義のために身を捧げることができたなら、完全な奉献を願い、真に価値ある生活を送りたいと望む人々をたやすく惹きつけることができるでしょう。

第3章 養成の具体的な要素

1 . フランシスカンの生活のしるし

24 . 神の愛と人々

神の愛のうちに生きることは、他の何よりもフランシスカンのような生き方をよく示しています。この愛は明らかに人々をも含んでいます。キリストを着るということは、すべての人を愛し、すべての被造物に対して親切で善良であることと同じなのです。

小さき兄弟は、キリストとその弟子たちの使徒的な生き方に倣い、喜びに満ち、謙遜で単純、静かで完全に人間的な生活を送ることによって、来るべき神の国を証ししながら、しるしとなることを願っています。彼は常に福音の基準によって自らを計り、福音の光のもとで常に新しく始める準備ができています。

個人としての生活に浸りながら、フランシスカンは自分のすべての活動に内側からインスピレーションを与えてくれる聖フランシスコの使徒的精神を理解しようと努めます。証しと説教によって彼は今日の世界のあらゆる社会的・文化的状況を福音と関連付けようと努力するのです。

26 . 小ささ

小ささは兄弟愛と同様に、私たちの生活のきわめて重要なしるしです。フランシスコ会の修道者は自分自身が「ケノーシス」(キリストの自己放棄)の中で主に従うために働いている限り「小さき者」です。彼は謙遜と柔和さのうちに主に従い、子どもとして喜んで神に仕えると同時に、すべての兄弟にも進んで仕え、最も低い地位につく準備さえもできています。小さき兄弟は、すべての人を神に導くために、現代に教会と本会の姿を正しく示すことを求めながら、如何なる形であれ、他者への支配を拒絶します。小さき兄弟は、健全で謙遜な大胆さで、誤解や危険に苦しむ心構えもできています。小ささは弱さとは違うのです。

小ささは兄弟共同体一人ひとりの兄弟を平和の道具にします。それは、共通の

善という必要があれば、一人ひとりの兄弟が安らかな心で自分の可能性を犠牲にし、断念する心構えを備えさせるものです。たとえば、仕事、住居や活動の変更、無報酬の奉仕にいつでも取り掛かれることなどです。フランシスカンたちは、必要があれば、教会の中にいつでも応じられる奉仕グループを形成する用意がなくてはなりません。小さくあるということは、表面的に小さいとか無能力という意味ではありません。むしろ逆に、技能や根気強い労働を必要とするのです。

50．物質的・精神的な貧しさ

聖フランシスコはすべての兄弟に、キリストは貧しい旅人の生活を送られたこと、そしてキリストのみならず、聖母マリアも 12 使徒もそうであったことを思い起こさせ、兄弟たちもその模範に倣うようにと促しました。したがって、教育に携わる人々は学生たちを、私たちの兄弟会のしるしであるあの小ささを協力して生きるよう指導するのです。教育に携わる人々はその生活と言葉によって、兄弟たちに小さくあることを教え、神への愛のためにすべての人に仕えることを教えます。

これは絶えざる自己否定と真の謙遜を意味します。私たちは主が私たちを通して言われたりなさったりすることについて自惚れてはなりません。むしろ、地位の低い者、単純で軽蔑すべき者として考えられていることを受け容れねばならないのです。なぜなら、人間は神の前にいるだけの者であって、それ以上の何者でもないからです。

兄弟たちの養成は貧しい生活を通して達成されます。兄弟たちの住居は質素で、つつましい場所に建てられていることが望ましいのです。しかし、この貧しさを汚さや怠慢と混同してはなりません。貧しい人々の困難や夢を知るためにも、また、彼らとの真に福音的な意味での連帯を感じるためにも、貧しい人々との接触が培われることは望ましいでしょう。

兄弟たちが、社会の最下層の蔑まれた人々、貧しく弱い人々、病人や物乞いの間にいる時、聖フランシスコのように喜べますように。

4．世間と通じ合うための養成

52．世間の中にあること

真の志願者の養成は、彼らが属し、働かなければならない世間に対して彼らを準備させる段階においても行われることが望ましいのです。

フランシスカンの生活はこの世からの逃避ではなく、むしろ「人となられたみ言葉」の模範に倣って、この世に生きることであり、神がこの世に置いてくださった善きものを発見しながら、超越的な現実の確かさを証しすることです。それは、これらの善きものが表現されて生活のために使われ、しるしとして神に向けられるためです。

世間に住まうということは志願者の人間的・職業的・霊的な成熟度を反映して行われるべきです。このことは聖フランシスコの霊性に従って理解されるべきでしょう。聖フランシスコは、砂漠に引きこもってキリストのように祈り、神と交流したいと願いながらも、人々の間で懸命に働いたのです。このようにして彼は、自分がこの世に生活しながら、この世のものではなく、自分自身を他者に捧げているということを示したのです。

兄弟たちは、自分の家族との通常の関係の他に、あらゆる種類の人々と折々に接触し働くことを有益なことと考えなければなりません。これらの接触や仕事を通して志願者たちは人々の特有の性格や心理を感じ取り、自分の使徒職を形成する機会を得、独身生活と結婚生活が神の教会では相互に補い合うものであるという事実を学ぶのです。

53．社会の現実には注意を向ける

すべての教育的社会メディアが学生の成長を助けるよう、それらとそれぞれに合った関係を築くことも有益だと思います。しかし、この広大で複雑な社会の現実の中では、養成者は志願者たちが受身の傍観者になることなく、現代社会の物品や影響力に対して批判的な立場をとることができるように彼らを助けるべき

であることを肝に銘じておかなければなりません。

兄弟たちは、社会現象を理解し、評価することに関しても養成されることが必要です。それは彼らが将来自分たちの住んでいる社会のメンタリティー・習慣・法律・構造にキリスト教の精神を浸透させることができるようになるためです。こうして、フランシスカンたちは自分たちに任された範囲で、言葉と生き方によってより人間的で正しい世界の実現のために協力します。

7. エキュメニズムのための養成

59. 普遍的メンタリティー

今日のエキュメニカル運動は、志願者の心を真の意味での普遍性に目覚めさせる養成を求めています。

エキュメニズム神学の熱心な研究の他に、兄弟たちはカトリックでない人々や他の宗教を信奉する人々とゆっくり話し合ったり、共同で祈ったり、異論のある問題を討議したりして、エキュメニカルな精神を表明する機会を与えられるべきです。これらの祈りや討議は常に教会の規範に従って行われます。教会はこのように重要な問題についてはその懸念と意向とを明らかにしてきました。

メデリン総会（1971年）

フランシスコ会の宣教活動

5. 兄弟共同体：人類への奉仕

この時代に、キリストと聖フランシスコに倣った兄弟的生活が人類に大いに貢献できると私たちは固く信じています。そして私たちが望んでいるのは、私たちの兄弟共同体が本当に今日の人々の必要に応えることなのです。

神の御子は、人間を神聖な本性を分かち合う者とするために、真の受肉の道を歩まれました。御子は豊かであったのに、ご自分の貧しさによって私たちを豊か

にするために貧しくなられました。人の子は仕えられるためではなく、仕えるために、そしてすべての人を救うためにご自分の命を身代金として差し出すために来られたのです。

6 . 私たちの兄弟共同体による協力

私たちは兄弟共同体が人々に奉仕し、それによって人々が人間の尊厳と経済に偏らない総合的な発展や真の解放といった福音的価値を認識できるようになることを願っています。それは、人々が「進歩発展」ということをよりよく批評し、その概念を明確にすることができるようになるためです。「進歩発展」は現代社会の動機・価値基準・目標として土台をなす根本概念です。

第2章：地域社会に住む人々が我々の宣教の対象である

場所ではなく、人に向かって

7 . 私たちの宣教は場所に向けられるものではなく、人に 特定の地域社会に向けられています。教会を通して語られる父なる神が私たちを彼らのもとに送り出されます。私たちが向かってゆく人々は、信仰を持っていない人々かもしれません。彼らがどのような人々であれ、私たちは彼らの兄弟・友人・僕となることを望んでいます。私たちは、人生の新しい意味を求めている人々や、真実の豊かさ・人間の尊厳・正義と自由に飢え渴く人々、貧しい人々、病気の人々、社会の中で無視されたり、拒絶されている人々を特別に大切にしています。未だかつてなかったほどに、私たちは彼らの中で、また彼らのために生きる決意を固めています。

この時代に、私たちは本当に一人ひとりの隣人となり、偶然出会った一人ひとりを積極的に助けるという特別な責務を負っています。それはすべての人に見捨てられた老人であったり、不当に軽視された外国人労働者であったり、難民であったり、正式な結婚によらずに生まれて自分の与り知らぬ罪のために苦しんでいる子どもであったり、または「これらの私の兄弟の中でもっとも小さい者にしてくれたことは、私にしてくれたことである」という主の言葉を思い出させて、私たちの良心をかき乱す飢えた人であったりします。

第5章：我々は平和の人である

18．正義のない平和はない

私たちフランシスカンは、今日世界のいたるところで多くの兄弟が直面している厳しい現実を目をつぶっていることはできません。多くの地域で人間の悲惨さ、貧困、不正が頂点に達しているということは否定しようのない事実です。「平和とは発展である」が私たちの見解です。しかしながら、平和は正義のないところでは不可能なのです。

19．リスクを受け入れる真の証人

キリスト者の生き方とは基本的に、十字架につけられ、復活されたキリストへの回心とその結果として生じる具体的な証しであると私たちは信じています。フランシスコに倣う者として、私たちは福音の真の証人となり、人々に忠実に献身的に仕えなければなりません。そして、平和・正義・迫害・神の国のために必要とされるいかなるリスクをも受け入れる用意ができていなければなりません。

20．平和の人、ただし、妥協の人にあらず

召命に忠実な私たちは基本的に「平和の人」ですが、妥協の人ではありません。私たちがそのために身を捧げている平和とは、真の正義と愛の産物です。暴力的な革命の問題が起きたら、キリスト者の一般的な規範や規則としては、それを拒絶することになっています。しかし、キリスト者はまた、場合によっては暴力の使用を認める神学的・社会的・法的な伝統があることも認識しています。

マドリッド総会（1973年）

今日のフランシスコ会の召命

第4章：人々の中での兄弟たち

12．ひとりではなく、兄弟たちと共に

主は私たちに、ひとりではなく兄弟の共同体の中で福音に従って生きようと呼びかけられました。私たちの召命が成熟するのはこの共同体の中であり、またこの共同体のおかげなのです。なぜなら、共同体は私たちが神と出会うための特別な場所だからです。兄弟たちと一緒に生活し、同じ目標に向かって努力しながら目標を達成するために助け合うだけではなく、主の模範と教えに従い、お互いに対する愛をもって互いに仕えあうことが私たちの願いです。私たちは、尊敬の念をもってお互いを兄弟と思い、単純さをもって自分の必要を知らせ、謙遜にお互いに仕え合い、口論・愚痴・怒り・ネガティブな批判を避けなければなりません。つまり、言葉だけではなく行いをもって、母親が子どもに対するような優しさをもって、互いに愛し合わなければならないのです。

15．分け隔てのない愛

真に兄弟愛に満ちた共同体とは閉鎖的なものではなく、すべての人に手を差し伸べるものでなくてはなりません。なぜなら、すべての人はキリストの現れなのですから。私たちは、友人も敵も、彼らが私たちのもとへやって来るとしても、あるいはこちらから出かけてゆくとしても、同じように愛し、親切に受け容れなければなりません。それを望む人々と共に、私たちはまた、フランススカン家族の様式にそった新しいキリスト教的な生活様式を探すこともできます。私たちは、社会が階級別に分けられ、また、思想の違いによっても分類されているという事実を認識しながらも、これらの分類に基づいて裁いたり断罪したりすることを拒否します。福音の証人として、人とのコンタクトにおいて論争におぼれたり、人を改宗させようとするのは、たとえそれが宗教的性質のものであっても、私たちのなすべきことではありません。私たちはひたすら、平和の働き手となることを望んでいます。それは、気取らず、礼儀正しく、喜びに満ち、すべての人に仕え、必要ならば無抵抗を實踐し、私たちよりはるかに偉大なみ言葉の奉仕者であるという確信を持ち続ける態度です。明快で優しい愛によって、私たちは一人ひとりの人間のかげがえのなさを感じなければなりません。

16．被抑圧者と抑圧者の解放

私たちは、経済的・社会的・政治的構造がすべての面から人間を圧迫し、巧妙

な操作によって真の自由を不可能にしている世界に住んでいます。私たちはこのような状況に無関心であることはできませんし、人が未開発であったり搾取されているために人間らしく生きられないような状況を許すことはできません。ですから、正義と愛の名において、そしてまさに「平和の使者」としての私たちの召命に忠実であるために、私たちはこれらの悪と戦い、回心と福音への信仰を宣べ伝えながら、抑圧者と被抑圧者双方の解放を求めて働くように招かれています。

第5章：すべての人の僕

18．権力欲の放棄

「小さき兄弟」という私たちの名前は、兄弟愛の必要と謙遜に仕える(minority) 必要を表しています。はじめから、私たちは内部では互いに仕えあうようにと招かれており(1221年の会則、第5条) 役職上何らかの権限を与えられた場合は、すべての支配と権力欲を排除し、最も謙遜に奉仕するように招かれています。

19．小さな兄弟たちの会

私たちは共同体としても個人としても、すべての人を尊敬し、また神のためにすべての被造物に服従して、「小さい者」、僕とならなければなりません。奉仕することだけを求め、支配や押し付けを(特に霊的な目的のために)しようとならない者、だれも恐れない「小さい者」になるのです。このような態度でいるためには、子どものような心もち、小さく、単純であり、そして人や出来事からの困難に屈せず楽観的でなければなりません。私たちは、自分が弱くて傷つきやすい「取るに足りない僕」(ルカ 17 章 10) であり、神のみが強い方であることを認めて、組織や理念の不安定さ、将来の不確かさを受け入れるのです。このようにして、私たちはキリスト教共同体の姿をさらに輝かすために貢献できるでしょう。その姿は、仕えられるためではなく仕えるために来られた主の姿でもあります。

第6章：貧しい人キリストの弟子

20．私たちの永遠の課題

私たちの会則と生活はすべてにおいてイエス・キリストの足跡に従うことです。主が私たちのためにご自分を貧しい者とされたのですから、私たちは貧しさと謙遜のうちに主に仕え、この世で寄留人として、また旅人として生きるように招かれています。貧しく生きるということには、社会的な意味と精神的な意味がありますが、その両面こそが私たち独自の永遠の課題なのです。

22．小さな人々のように生きる

今日、私たちは創立当時と異なる社会経済状況の中で、いかに自分たちが選んだ貧しさの本質を守るかを知っていなければなりません。過去において、絶えずフランシスコの徹底的な貧しさに惹きつけられていた本会は、物質的に安定しすぎる傾向に対して常に大なり小なり反発してきました。今日も同じような反発が必要であり、私たちはみな、その抵抗をいかに表わすかを見つけるよう促されています。土地を持たず、労働によって生活し、雇用も不安定であることは今日では多くの人々にとって日常的な状態ですが、さらに多くの人々が非人間的な状況の中で生活しています。現代の「小さな人々」のように生きることを学ぶために、このような人に目を向けるべきです。いうまでもなく、それは、それぞれの地域の状況を考慮に入れて学ぶことです。私たちは実社会に参加しながらも、人々を悲惨な状況に追いやる構造を容認せず、むしろその人々と共に新しい社会、キリストの救いにあずかるような新しい社会のパン種となるよう努力します。

23．自由に、妨げられずに

もし私たちがこのような生き方を学ぶなら、生産と消費に駆り立てられている社会の中で挑戦的な役割を果たすことになるでしょう。不動産を持たず、質素で品位のある生活を労働によって営み、消費者のことしか念頭にない広告に負けないことで、私たちは物質的なものに真の意味を与え、自らを貧しい人々、社会から除外された人々、そして物質的に豊かな社会に意味を見いだせず、より自由に妨げられない生活を探している人々に近づくことができるのです。

24．恐怖からの自由

私たちの貧しさはまた、分かち合うことをも意味します。持っているものを自分たちの間で分かち合うだけでなく、物質的に、あるいは精神的に困っている人々を助けるために彼らにも与えようとしています。自ら選び取った貧しさによってすべての恐怖から解放され、神との約束に基づいた希望を喜んで生きながら、私たちは現代の人々に、世界には意味があることを証しすることができます。その意味は世界自体を超越するもので、イエス・キリストという未来へ世界を導いてくれるのです。

25．エコロジーと兄弟的人類

『兄弟なる太陽の賛歌』に倣って、自然界を兄弟として心に留めてゆきましょう。この自然界は今日、工業化された消費志向の強い社会の貪欲で無責任な行動に脅かされています。私たちが受け継いだ地球は、私たちが愛してくださる神からの贈り物です。私たちが望むのは、この地球が人間のような扱いを受けること、つまり地球がすべての人の兄弟、みなのために仕える兄弟となるようにそれを治めることです。このようにして、私たちはこの時代の大問題に取り組むとともに、その取り組みの動機を明らかにすることになります。その動機とは、被造物は愛である神から生まれたもので、その存在意義をなすのも愛だということから生じるのです。その存在意義が実現するのは、キリストのうちに集められて、みな兄弟となった人類が現れてくるときです。世界はキリストによって、キリストのために創られたものなのです。

第8章：現代世界における平和の使者

31．新しい人間性

私たちの兄弟会の基本的な使命、教会と世界におけるその召命は、私たちの生涯にわたって誓約を生き抜こうとする現実の中にあります。すなわち、人々との共同体の中で信仰体験を生きること、すべての人に開かれた愛と奉仕の兄弟共同体を作ること、貧しさの中に生活し日々の糧を得ること、そして、貧しい人々の希望を分かち合うこと、それらのことによって、復活されたイエスの周りに集う

新しい最初の間人像を示すことができると信じています。そして、それは、とりもなおさず何にも先んじて教会の建設に貢献する方法でありましょう。つまり、私たちは自分の生き方によって証しするのです。

33．都市の中心部で

バックグラウンドの異なる様々なタイプの人々が生活や物品、仕事を分かち合うような兄弟的な共同体を都市の中心部に作るのが私たちの願いです。それは、仕えるためにすべての支配権を放棄し、貧しい人々に近づき、抑圧されたすべての人の運命に敏感なライフスタイルを選択する共同体です。このような共同体を作りたいという私たちの願いは、好むと好まざるとに関わらず、社会的・政治的反響を巻き起こします。私たちは、この願いを特定の政治的潮流と混同したり、それらに利用されたりすることのないよう注意せねばなりません。むしろ、私たちは山上の垂訓で求められている生き方をまっとうするよう努力しなければなりません。このようにして私たちは、一つの共同体を作る可能性を示すことができると思います。そこでは、人間が自由で、兄弟として認められ、そのかけがえのなさのために尊敬されるような、そんな共同体です。

34．社会的・政治的闘争

私たちの召命が平和の人であることを考えると、今日の諸問題や社会的・政治的闘争に本当の意味で参加することができるでしょう。私たちが感傷的な熱狂や手っ取り早い不公正な判断、無責任な宣言を避け、客観的に状況分析ができるようになるためには、本格的で正確な情報を必要とします。さらに、もし私たちが真剣に正義と分かち合いを実践したいと思うならば、そしてもし自分の可能性と賜物に従って現代の貧しい人々や見捨てられた人々の運命に参加するならば、私たちに抑圧された人々の声に自分たちの声を合わせる権利と義務があります。しかし、私たちがそうするのは、すべての人の中に見いだす人間を愛するからであって、その人の属する社会グループのゆえにではありません。このように、真の平和の作り手として働きながら、私たちは神の国の到来を早めることができるのです。そこではもはや、人と人との間に壁があってはならず、人が人を支配することもあってはなりません。「もはや奴隷も自由人もなく・・・みな神の子ら」

なのです。

アッシジ総会（1979年）

総会によって決定された優先事項と具体的な指令

2. かつてないほど世俗化された世界に住む小さき兄弟たちは、世界の諸問題に兄弟として多面的に深く関わることによって、また福音を宣教することによって、世界のキリスト教的成長に貢献する。

6. 福音の精神がより明確な形で表れるよう、「基本的キリスト教共同体」と協力しましょう。同じように、私たちの使命は平和と正義の推進者であることをしっかりと心に留め、迫害と搾取に苦しむ人々の側に立ち、共に歩みましょう。会則にある主のみ言葉（RegB 10）「正義のために迫害されるものは幸いである、天の国は彼らのものである」を心に留め、自分自身の生活が平和と正義を推進するような生き方をしましょう。

バヒア総評議会（1983年）

福音の私たちへのチャレンジ

第1章：私たちの使命は福音化です

13. 私たちの希望と抱負があふれるこの世界には、人間としての基本的ニーズを満たしたいという願望とともに、共同生活や平和、そして正義や人間の尊厳の回復に対する願望が見られます。同時に、社会は無神論と宗教への無関心、観念の食い違い、戦争、人種差別、圧制そして貧しい者と富める者との差の限らない広がりなどにむしばまれています。そのような状況にあって、私たちは何を提供して行かなければならないのでしょうか？

14. イエスは、「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされた

のは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」(Lk 4:18-19)と私たちに仰せになっています。このイエスと、彼が述べ伝えた神の国を表すことが教会の使命です。イエスは、全人類が罪からまた圧迫するすべての事から自由になり、そして、人々が主の命にあふれて・・・正義、平和、希望、喜びそして愛の生活を楽しむことができるようになることを望んでいます。

15 . 諸文化の中に福音的価値を見つけつつイエスの道を受け入れるためには、まず私たちに個人的また共同体的回心、メタノイアが要求されます。私たち自身はもっともっと福音的でなければなりません。それには私たちが罪から、また不正義と圧迫において私たちが抱えているだろうどんなことから自由になること、この世で私たちが神の愛を受け入れ、また宣べ伝える働きを邪魔するどんなことから自由になることです。

16 . より良い福音宣教者を求めて私たちは、その時代に新しい内的光と強調点をもたらしたフランシスコに目を向けます。

兄弟性・・・教会の中で外部の人を異端者として裁き、また彼らに対し軍隊までもさし向けていた時代に、フランシスコは彼らが自分たちの兄弟であり姉妹であるという良い便りを宣言したのでした。

平和・・・市が他の市と戦い、また社会が封建制度で分裂していたとき、彼は平和の良い便りを宣言したのでした。

貧しさ・・・富が神のように追い求められていた時代に、フランシスコは、貧しい者に「祝福がある」という新しい良い便りを宣言したのでした。

小ささ・・・多くの人々の目標が力と権威であったとき、フランシスコは小さき者である(ミノリタス)ことを良い便りとして宣言したのでした。

エコロジー・・・ある者は自然を恐れ、またある者はそれを自分たちの利用

のために従わせようとねらっていた時代に、フランシスコは大地が私たちの姉妹、母であり、また全被造物が一つの家族として敬意をもって扱われるという良い便りを宣言したのです。

共にいる・・・修道者が一般の人々から自分を隔離していた時代に、フランシスコは兄弟が一般の人々、小さき人々と共にいることを望みました。

聖霊・・・教会が非常に組織化されていた時代にフランシスコは、聖霊の働きに敏感であり、そして、その兄弟たちが「霊に活かされた人」であることを常に期待し、彼らに私たちの会の真の総長は聖霊であると話していました。

17. 小さき兄弟として、私たちはつねに刷新されつつある教会の中で、福音宣布の先鋒であるようにと招かれています。従って私たちは特に教会の内外両方においての聖霊の働きに目覚め、敏感でなければならないのです。信者への奉仕だけでなく、まだ社会の中で福音に触れていない人々、また、伝統の故に福音から隔離されている人々にも、何とか接触しなければならないと私たちは感じています。私たちが彼らと共にいることによって彼らの経験を理解したり、また、私たちが彼らの中によいものを見いだして彼らを励まし助けることができます。そして、もし神のみ旨ならば (RegNB 16:7)、私たちははっきり主を宣べ伝えることができます。なおまた、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの地方教会では大きな援助を必要としています。私たちは、兄弟の皆さんにそれに寛大に応えてくださるようお願いいたします。まだ 30 億の人々が福音を聞いていません。私たちはフランシスコのビジョンを彼らにもたらし、また同時に彼らの文化によって私たちが富んだ者になる大きな機会とチャレンジを受けています。

第 2 章：兄弟として送られる

19. 今日、貪欲、人種差別、圧迫そして戦争が人々を分けています。しかし、特に国際的レベルでの連帯を勧める諸グループの中とか、また人権、エキュメニズム、労働組合、若者間の一致、また発展途上国の人々との実際的な交流を勧める諸運動の中に希望と新しい生命の種をみることができます。

20 . そのような連帯、生活と仕事の分かち合いは家族の特徴を示すもので、これが私たち人間、天における同じ神の子、すべての兄弟と姉妹たちのありかたなのです。イエスは、天と地のすべてのものを一つにするために、私たちの兄弟となりました。彼はすべての者を神の家族の一員となるように招いておられます。この家族を成立させることは私たちの努力の中心です。

第3章：貧しい人々の中の小さき者

24 . 特に第三世界では、ほとんどの人々が飢え、病気、文盲、失業そして貧民街での生活などの非人間的な貧しさに苦しんでいます。移民や難民は社会の片隅に追いやられています。何百万もの人々が政治的に抑圧され、多くの人々が拷問され、また殺されることさえあります（教会は新しい殉教者のリストを更新しています）。毎年三千万人の人が飢えで死んでいます。女性たちは物として扱われ辱められています。大方の人々は経済的、政治的発展の外に置かれています。彼らには全くと言ってよいほど正義がありません。家がなく、土地がなく、仕事がなく、お金がなく、自由がなく・・・、彼らは絶望へと駆り立てられています。

25 . また東西の富んだ国々にも貧しい「除外された者」がいます・・・移民、少数グループ、失業者、障害者、そして政治的にまた宗教的に迫害されている人々など。また「持てる者」の間においても、孤独な人、精神病患者、アルコールや薬の犠牲者の数が増えているのです。

26 . 悲しいことに、先進諸国はその人が何を生産しているか、何を所有しているかで人の価値を決める消費主義によって支配されています。さらに消費主義はマスメディアの媒介によって発展途上の国々にも広がりつつあります。そして必ず必要でないものを造り出し、ほんとうの価値を引き下げています。

27 . すでに旧約聖書の中に、また特に新約聖書の中で、神の貧しい者へのあわれみのはっきりと現れています。イエスは、貧しさの深い意味をご自身の人格を通して、誕生、生活、そして十字架上の死によって表されました。イエス

はご自身を貧しい者とされたのです (Matt . 25 : 40 参照) 。言葉と行いにおいて彼は弱い者の強さを述べ伝えていています。貧しい者を除外するどころか、イエスは彼らを、彼の生活と奉仕活動の中心に置いています。イエスは使徒を送り出すとき、彼らが貧しさをたずさえて行くことを要求しました (Lk 10 参照) 。その母マリアも貧しい者の一人として生活しました。(Lk 1:46; 2EpFid 5; Ult Vol 1; RegNB 9:5)

28. フランシスコは最も貧しいハンセン病者を通してキリストを見出しました。ベツレヘムの貧しいみどり児とカルワリオで苦しむ僕を通して御父の愛は彼にとり現実のものとなったのです。フランシスコはハンセン病者や貧しい人々の「幸い」を共有するために、彼らと共に生活し働いたのです。彼は、彼らの謙遜と権力への無関心、神の計らいへの大きな信頼と彼らの自由を喜びました。私たちフランシスコ人もまた、貧しい人がするように生活し、貧しい人のために、貧しい人と共にいる時、イエスを見いだすことになるでしょう。ですから、私たちは自分の貧しさと小ささを通して、自ら福音化され、そして人々に福音を伝えることができるのです。

- 29 . 私たちが貧しいキリストに従うならば (RegNB 9:1 参照) 私たちはおのずから *minores* (小さき者) として貧しい人々と共に生き、彼らと同じような生活をし、彼らと連帯し、彼らと同じように小さく、謙遜で無力なものとなるはずでず。このように、私たちは福音宣教をしながら、同時に彼らによって福音化されているのです。

- 30 . しかしながら私たちは現在のところ、しばしば貧しい人々からかけ離れた生活をしているということを率直に認めなければなりません。特にこのことに関して、私たち自身は繰り返し繰り返し福音化されなければなりません。私たちが貧しい人々の心配とか不安定さ、そして基本的に必要なものを共に担うとき、本当に貧しい者になるでしょう。貧しい人の中の権力のない貧しい兄弟たちとして、私たちは神の御計らいに頼らざるを得なくなるでしょう。いろいろなことでの不安定さはかえって私たちを生きていくうえで回りの人々との対話へと開かせるでしょう。

- 31 . 多くのラテン・アメリカの地方教会が貧しい者を優先的に選択したように、この必要性のビジョンは今日の世界において私たちのフランシスカンの立場を変えるものです。

故に、総評議会は兄弟たちに次のように要請します：

- 1) 貧しい者と共に生きること、そうしたら私たちは彼らの視点から歴史と現実を見ることができます。
- 2) 不必要なものを買ったり所有したりすることを避けること、そうしたら増大する消費主義に対して先覚的(預言的)証しを立てることができます。
- 3) 貧しい人々から連帯と真の兄弟性の精神を学ぶこと、これは必要以上に大きくまた快適すぎる修道院のなかにいる私たちには難しいことです。
- 4) 第三世界の何百万もの人々を東洋・西洋の超大国や豊かな国々が社会経済的・政治的・文化的に支配しているという不正なシステムや、多国籍企業に関する問題意識を私たち自身と人々がもつこと。そして、世界により大きな正義をもたらす新しい経済的・政治的秩序を推進すること。
- 5) すべての抑圧的・全体主義的体制に対して、先覚的(預言的)立場をとること。
- 6) 貧しい人々を解放するための組織に福音をもたらすこと。特に、労働組合あるいはその他の目覚めた社会運動である民衆の組織が、真に彼らの権利が認められ理解される位置にまで引き上げられるように計画されること。

第4章：正義と平和の道具

- 32 . 前の章では、貧しい人々が基本的権利を奪われて苦しんでいる不正義に

ついて言及しました。貧しい人はまた他の人々と共に、戦争がもたらす不正義にも苦しんでいます。貧富の差は、都市や国の中に、また北半球と南半球の間にさえも存在します。

- 33 .ラテン・アメリカの司教たちはプエブラで次のように発言しました。「この時代の最大の犯罪である軍備競争は、私たちの仲間の国々の中の緊張関係の結果でもあり、原因でもあります。そのために、膨大な量の資源が生命に関わる重大な問題解決のために使われるのではなく、兵器を購入するために使われています」。教皇ヨハネ・パウロ 2 世は、広島で、私たちの世界において平和は福音宣教の生命線であることを声を大にして述べられました。「意識的な選択によってのみ、人類は生き残ることができるのです」と。
- 34 .私たちは戦争の暴力性に気づいていますが、不正義が引き起こす暴力についてはそれほど気づいていません。子どもが飢えて死ぬとき、それは暴力です。ブラジルでは、教会とその他の人々はこの種の暴力 飢え、追放、投獄、拷問、失業などの暴力 に対する意識を高めるために働いています。多くの人々が直接的にも、間接的にも暴力に苦しみながら生きなければならないのです。未来がないままに育ってゆく子どもを見ることは暴力です。
- 36 .お互いに滅ぼし合い、地球を滅ぼすことは、神が人類にお計らいになった運命であるはずがありません。イザヤの預言には「私は平和の契約を永遠に守る」と記されています (Is 54:10)。イエスご自身もこう約束されました「私は平和をあなたがたに残し、私の平和を与える」(Jn 14,27)。毎日 14 億 4000 万ドルが軍備のために費やされ、その間にも毎日 4 万人の子どもが飢えて死んでゆくという事実直面して、私たちの世界はイザヤの訓戒が実現する方法、つまり「剣を鋤に変える」(Is 2:4) 方法を見つけなければなりません。そして、この莫大な額のお金 (年間 5 千億ドル) を、人類という家族の必要のために使わなければなりません。

38 . 平和の作り手であることは、私たちのフランシスカン生活とこの世界への福音宣教の重要な部分です。故に、総評議会は兄弟たちに次のように呼びかけます。

- 1) 神とすべての人々に対して平和の人となるよう祈ること。祈りと断食を私たちの平和のための努力の一部とすること。社会の平和を求める運動を支持すること。また、これらの運動に個人的に参加すること。
- 2) 平和のための非暴力の努力を支持すること。良心的な戦争反対者（特に核戦争反対）を支援すること。正義と平和のための信念と努力の故に投獄されている人々の側に立つこと。
- 3) 特に私たちの学校や神学校の若者たちのための平和教育を盛んにすること。
- 4) 私たち自身の中の不正義をなくす方法を見だし、そして私たちがお互いの違いにもかかわらず私たちの兄弟の家で互いにキリストの証人として平和に生活すること。
- 5) 可能であれば兄弟たちをフルタイムで正義と平和に参加させ、また修道会と管区の正義と平和担当室で既にこの仕事に携わっている兄弟たちを支援すること。
- 6) まだ生まれていない子どもたちの権利と、既に生まれているが未来に希望のない子どもたちの権利を代弁すること。
- 7) 軍備競争と既に生産されたすべての核兵器を声高に、またはっきりと非難すること。

アッシジ総会（1985年）

福音宣教への私たちの使命

5 .この総会で議決された会憲と総則は私たちへの福音の呼びかけに対する共通の応答を現代にふさわしいものにしようとの試みです。これらとその他の最近の文書を見ると、兄弟たちが次の三つのテーマに焦点を絞り、それが幾度も扱われていることがわかります。

- 1) 私たちの生活の観想的側面
- 2) 貧しい者の優先 正義と平和
- 3) 宣教の精神 (福音宣教) に向けての養成

B. 貧しい者の優先 - 正義と平和

卑しくて(と考えられている)見捨てられている人々の間や、貧しくて体の不自由な人々、病人、ハンセン病者、道ばたで物乞いする人々の間で生活する時、喜ぶべきである。(RegNB 9:2)

23 .貧しい者の優先について語るとき、私たちは国によって貧しさの形や原因が異なることに気づかされます。「小さな兄弟たち」として、私たちは貧しい人と共にあり、彼らが正義を手に入れるのを助けたいと望んでいます。

- 1 .それぞれの管区が少なくとも一つの兄弟共同体を貧しい地域に置くことが奨励されます。そこでは、兄弟たちは貧しい人々の仲間となり、祈りのうちに彼らと共に考え、よりよい世界を求める彼らの闘いに加わることが出来ます。貧しい人々は私たちが神のみ言葉を聴くのを助けてくれるに違いありません。
- 2 . 私たちは本会、特に各管区が、私たちがより真実に *minores*(より小さい者)として生きることができるよう、財産や所有物を放棄する具体的な方法を見つけることを奨励します。

- 3 . 各兄弟共同体と兄弟各人は、物品を使用するにあたり、増大する消費主義に対して預言的な証を立てるために、より質素なものを選び、贅沢なものを所有したり購入することを拒否するべきです。
- 4 . 各管区は貧しい人々と物品を分かち合うための具体的な方法を考え出すべきです。その際、養成と宣教の必要を満たす十分な資金を持っていないフランスカン兄弟共同体、兄弟たちの困っている家族、元会員などに特別の注意を払う必要があります。
- 5 . フランシスコの平和へのコミットメントを認識し、今日の小さき兄弟たちは、平和・和解・あらゆる形の暴力の拒否のための積極的なプログラムを作成するよう努力すべきです。そして、軍備競争や兵器取引に反対する人々に協力し、核兵器廃絶と人類の防御を支援するべきなのです。すべての管区とすべての兄弟共同体および兄弟各人は、もっとも効果的な方法で、パヒア文書 n . 38 で提案されたような具体的な行動を積極的にとることが求められます。しかし、だれもがこの種の活動に積極的なわけではないので、できる人たちはこれを実践し、他の人たちはこれを支援するよう励ましてゆきましょう。
- 6 . 各管区に正義と平和委員会があるべきです。各管区の代表は協議会形式の集まりを開くべきです。会は、これらすべての協議会の協力を得て、平和と正義のための効果的で具体的なプログラムを作成するための適切な組織を設立すべきです。
- 7 . 兄弟各人と会全体は、世界の平和と正義を推進するために、他の信仰やイデオロギーを持つ人々を含む発展途上国の人々との対話を図るべきです。
- 8 . 平和と正義はなによりもまず兄弟共同体内部の生活の中で実践されるべきものですから、これを各地の修道院会議で毎年テーマとして取り上げ、注意深く討論するべきです。復活の平和の信頼できる証人となるためには、兄弟間での不正のケースには特別の注意が払われなければなり

ません。

9. 観想し、聖フランシスコの模範に倣って神の言葉に耳を傾けるためには、また、現在の核兵器による大量虐殺の脅威に直面して、常に暴力や国家間の戦争に傾きがちな世界と接触するためには、私たち一人ひとりが平和の作り手でなければなりません。

平和の作り手として：

私たちは貧しい人々に対する暴力(その最悪の姿は、栄養失調による何百万人ももの死という形で現れています)を終わらせるために正義を求めます。

全体主義的・抑圧的政府によって続けられている拷問を終わらせるためにあらゆる手段がとられるべきであること、そして信教の自由を含むあらゆる基本的人権が保障されるべきであることを私たちは主張します。

私たちは、国家間に存在する深刻な不均衡を是正するような新しい政治的・経済的秩序を求めます。

私たちは暴力反対キャンペーンをすべての被造物にまで広げ、私たちを取り囲む自然環境を回復するために、また、環境破壊を止めさせるために働きます。

バンガロール総評議会(1988年)

み言葉の奉仕者、すべてのものの僕

II. 貧しい者の優先 正義と平和

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主が

わたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」(Lk 4:18-19)。

34 . この優先課題に関する兄弟たちの意識化はうまく進んでいるようです。結果は地味ですが多様性に富んでいます。世界の様々な地域では、同じ用語を用いても、意味する現実が違ったりするのです。

35 . 兄弟たちは、兄弟間の権利と義務の平等という実際的な問題が未解決であることをよく承知しています。総評議会は、すべての兄弟(聖職もブラザーも)が平等であるという私たちの理解を教会にどのように伝えたらよいかを話し合いました。地域共同体では、次のことについて兄弟間に真の正義があるべきです。すなわち、家事の分担、収入を共通の管区の資金に還元すること、物品の使用や休暇の取り方、リーダーシップの分担などにおいて兄弟たちがより平等に生活することなど。総長は、開会の辞の中で、私たちが兄弟たちの世俗的な性格を尊重しているかどうか、また、知的・専門的な職業を選択しない人々の召命をどのように奨励することができるかと尋ねました。

36 . 他者への態度について、ますます多くの兄弟たちにとり貧しい人は単なる兄弟ではなく、優先すべき兄弟となっています。フランシスコや初期の兄弟たちのように「貴女清貧」と結婚するということは、単に個人的にあるいは共同体として貧しさを実践することではなく、貧しい人々と生活を共にし、彼らの運命と、その解放に至る緩慢で痛みを伴う歴史的道のりを分かち合うことでもあります。いくつかの新しい管区では、ほとんどすべての兄弟がそのように生活しています。ますます多くの兄弟たちが自由と解放を求める人々と連帯しています。

37 . かなりの数の団体が、少なくとも一つの兄弟共同体を貧しい地域(労働者、移民、農民)または除外された人々(失業者、路上生活者、薬物依存症者)の間に置いています。これらの共同体のうちいくつかは、アルコール依存症者や薬物依存症者のためのヘルスセンター、障害者、老人、難民、路上生活者、ハンセン病者のための支援センター、囚人の司牧などを提供しています。

様々な共同体が自分たちのライフスタイルを見直し、簡素化しようと試みています。

38 . この総評議会で、私たちはベトナム管区のギー・マリー・グエン (Guy-Marie Nguyen) の証言に感動しました。新しい政治状況下で、教育施設も社会的施設もないので、ベトナムの兄弟たちは生活の状況を分かち合い、新しい社会の中で働くという決断をしたのです。解脱と奉仕の精神で、何人かは小教区で働き、何人かは生産の分野や協同組合で、また数人は社会・教育サービスの分野で働いています。彼らは、神がこの人々の歴史の中に現存しておられること、そして自分たちがイエス・キリストを証ししながらベトナムの教会と共に生きるよう招かれていることを信じています。彼らは受け入れることを余儀なくされたことを、今では恵みと考えています。

39 . OFM 正義と平和国際評議会 (OFM International Council for Justice and Peace) は、世界のいたるところで抑圧的政府の暴力に打ち勝つために闘っている多くの人々を考慮に入れ、非暴力に関する声明文を作成しようと試んでいます。国連では非政府組織という立場を得ようとするインターフランシスカンの努力が行われています。インドでは、私たちは非暴力の背景にある宗教的精神 (ahimsa) を知らされ、マハトマ・ガンジーの偉大な遺産を思い出します。¹ エコロジーは前述の評議会と兄弟たちにとって、ますます大きな関心事となっています。²

40 . 多くの管区や協議会は、「福音宣教に対する私たちの使命」の勧めに従って、正義と平和委員会を設立しました。総本部にある正義と平和担当室は、管区

¹ アッシジ平和センターは世界の政府の指導者と共に平和を推進しています。兄弟たちは平和のために断食をし、1986年のアッシジ平和の集いの前には、他の人々の断食に参加しました。

² フランシスコの土地へと巡礼したのち、ポーランドの兄弟たちは科学者でもある在世フランシスカンたちと共に、ポーランドにエコロジーセンターを設立しました。インドの兄弟 Scaria Varanath は、ヒンズー教とフランシスカンの源泉に基づく宇宙中心の霊性が土・大気・水の地球規模の汚染を癒す道であることを総評議会に訴えました。彼によれば、ヒンズー教の霊性とフランシスコの全被造物に対する深い尊敬の念はよく似ているということです。

や協議会、本会の一般レベルの人々を活性化し、彼らの間の調整をはかる役割を果たしており、この分野におけるモデルやプロジェクトの情報提供や提案をしています。担当室はまた、正義と平和の分野においてフランスカン家族の他のメンバーや教会の様々なセクターとの調整にもあたっています。

41. 社会問題に関する特別なプログラムが生涯養成・初期養成中の兄弟のために立案されています。いくつかの団体では、貧困と不正義の原因に関して幅広く深い考察がなされています。貧困と抑圧を生み出すシステムを変える新しい方法を探すよう奨励する出版物を発行している団体もあります。

42. 会憲は、この貧しい人々の優先について私たちを次のように促しています。「兄弟たちは、最高の清貧がキリストとその貧しき御母に由来することを思い起こし、『帰って、あなたの持ち物を売り、貧しい人々に施しなさい』という福音の言葉を銘記して、貧しい人々と境遇を共にするよう努める」(8:2)。「キリストの模範にならって、『軽んじられ、さげすまれている人々と交わるとき』それを喜びとし、こういう生き方をはっきりと表明する」(8:3; 66:1; 87:3)。私たちは持っている物を困っている人々、特に貧しい人々と分かち合うべきです。(53; 72:3; 75:1)。私たちは貧しい人々の声に耳を傾け(93:1)、断食(34:2)、奉仕と司牧(78:1)、そして福音宣教の仕事(97)において貧しい人々との連帯を表明するべきです。

43. 同様に、会憲は私たちを、「和解と平和と正義を、行いをもって告知らせ」、正義と平和の推進者となるよう促しています(1:2; 68)。私たちは「労苦をいとわず、平和な神の国を築くために働く」べきです(69:2; 85)。私たちは「すべての人の権利と人間としての価値が尊ばれる」ところで(96:3)、特に貧しい人々の権利と尊厳(97:2)が尊ばれるところで「復活したキリストにおいて、正義と解放と平和の社会を築くように献身」しなければなりません(96:2)。私たちの方法は公正で(80:2)、非暴力で(69:1)、人々の間に「イエス・キリストの十字架によってもたらされた和解」(33:1; 70; 98:2)を推進するものであるべきです。私たちは、「自分たちの間で営むその同じ兄弟的交わりを、すべての人に及ぼす」よう努めなければなりません(87:1)。そして、他のすべてのキリスト者と他宗教の信仰者、

特にイスラム教の民に対して謙虚さをもって接するべきです（95）。

44. 私たちは、教会とフランシスカンの伝統に由来する数々の問題に挑戦することができます。

- a) 回勅「真の開発とは」の中で、教皇ヨハネ・パウロ2世は教会は余っているものだけでなく必要なものをも与えねばならず、そのためには不必要な教会の装飾品や礼拝のための高価な備品をも売り払うほどでなければならないと主張しています。私たちは自分の財産を貧しい人々と分かち合うという模範を示しているでしょうか？
- b) 同じ回勅の中で、教皇ヨハネ・パウロは次のように記しています。「貧しい人々の間での連帯意識の盛り上がり、相互に助け合おうとする自助努力もそのひとつなら、役所仕事の非効率あるいは役人たちの腐敗に直面しての反対の意思表示、それも暴力に頼るのではなく、自らの必要性、権利の擁護を掲げての主張の社会的表示など・・・」（39）。私たちは、貧しい者として彼らと共にいるでしょうか？
- c) 「私はすべてを私の兄弟、師として尊敬したい」（AP 38 参照）と言っていたフランシスコの体験を私たちは共有しているでしょうか？私たちはどれほど「神への愛のためにすべての人の僕および臣下となる」（2EpFid 9:47）覚悟ができているでしょうか？
- d) 私たちは、貧しい人々の中に「キリストの顔を見、もし生活に必要なものを与えられていたら、それを彼らに気前よく与えただけでなく、まるでそれが実際彼らのものであるかのように与えた」（LM 3:7）フランシスコのように、貧しい人々と関わっているでしょうか？
- e) 平和の作り手として私たちは次のフランシスコの訓戒の言葉を自分のものとしているでしょうか？「あなたが口で宣言しているこの平和を心の中に豊かに持ちなさい。だれからも怒りや反感を買うことなく、むしろあなたの柔かさによってすべての人を平和、善、そして調和へと導きなさい」（1Cel 9）。

サンディエゴ総会（1991年）

本会と今日の福音宣教

II. 具体的な提案

「時のしるし」と福音宣教

時のしるしを識別することによって私たちに課せられた要求を意識しながら、私たちは次のように提案します。

23. 管区長たちは、その集まりにおいて管区の伝統的な福音宣教活動を、新しく受けたチャレン

ジに応えて識別し、福音宣教の新しい分野と新しい奉仕の形を模索し、兄弟たちをこれに対して準備すること。

24. はっきりした地元の文化がある地域では、管区長とその集会はこれらの文化に対する今まで

の福音宣教活動が適切かどうかを識別し、これらの文化に照らして福音宣教プロジェクトを準備するよう心がけること。

25. 特に他の宗教が強力に存在する国々では、管区は宗教間の対話の形式を見直し、勅書によって裁可されていない会則16章、および「アッシジ平和の日（Assisi Peace Reflection Day）」の精神に基づいて新しいアプローチを模索するよう心がけること。

26. 本会の総理事会は、イスラム教が多数を占める地域と、まとまった人数のイスラム教徒がいる他の国々において、兄弟たちがそうした地域で聖フランシ

スコの模範に倣って福音を証しすることができるよう彼らを助けると同時に彼らの活動を励まし、支援する。また、本会のイスラム委員会を支援する。

27. 本会の宣教グループは、貧しい人々の優先、正義と平和に基づく社会へのコミットメント、また被造物に対する敬意の中で、今まで取られてきたあるいはこれから取るべき具体的なステップを検証すること。この検証は最も貧しい国々における外国への債務や私たちの間で最も弱い者の抑圧、暴力、人間の生命の軽視、創造されたものの見境のない浪費などの問題の解決を模索するときに特に効果を発揮します。

28. 本会の宣教グループは、特に少数民族や抑圧された人々の中で奉仕する場合、その社会で男性や女性の組織作りを指導する人々との協力という観点からその福音宣教のあり方を検証すること。また、これらの宣教グループがこのような人々への関わりをますます強めてゆくことを望みます。

アッシジ総会（1997年）

記念から預言へ

兄弟共同体と世界：新しい状況

対話

7. 「対話が愛の新しい名称」であること、そして宗教的多様性、平和の要求、社会生活と人間性向上のためのあらゆる分野での相互依存は、対話による関係を求めていることに注目して、総集会は
- 7.1 総理事会によって設置され、三つの委員会（エキュメニカル対話、諸宗教間の対話、文化間の対話）に組織された対話のための奉仕部を承認する；
- 7.2 協議会が自分の管轄地域において対話のための奉仕部の設置の可能性について検討するよう勧める；
- 7.3 イスラム教が強力に存在する協議会地域では、イスラム教との対話のためにサブ・コミッションを設けるよう勧める；
- 7.4 教会間の対話を特別に奨励する。

希望と連帯の文化のために

- 8 . 苦しみに満ちていても、希望のしるしが認められる現代世界において、「希望と連帯の新しい文化」の推進者となるために、総集会は
- 8.1 総理事会がフランシスカンズ・インターナショナルの支援を現在のレベルで継続するように、またその組織、位置、本会と全フランシスカン・ファミリーとの関係を明確にするために、現在進行中の検討に参加するよう勧める；
 - 8.2 貧しい人々、今日の社会から除外されている人々への優先的選択を承認し、兄弟たちが彼らからも福音を受けるために、彼らの生活、歴史、希望に関わるよう求める；
 - 8.3 富んでいる人と貧しい人との間に深い分裂をもたらし、除外と疎外のもととなっている不平等からの挑戦を受ける兄弟たちが、小さき兄弟としてのアイデンティティーに忠実にとどまり、協議会レベルでまた全フランシスカン・ファミリーと連携して、正義、平和、被造物保全のために、また新しい千年紀へのフランシスコ会的な貢献を行うために、私たちの霊性をもって具体的な取り組みをするよう励ます；
 - 8.4 土地放棄を強制されている多くの人々、特に移住労働者、難民、少数民族の状態を心に留めて、総理事会に願う：すべての協議会と管区の協力のもとに、正義、平和、被造物保全担当室を通して、難民援助のための人材と財源のネットワークを作るように；
 - 8.5 総理事会と管区長たちが、2000年の聖年のために聖地管区によって準備された計画に参加できる兄弟たちの派遣について配慮するよう勧める。

2 . 聖書のテキスト

ここには以下の問題に関する聖書のテキストを挙げてあります。

正義

女性

解放

平和

赦し 和解 あわれみ

貧しい人々

分かち合い 連帯

兄弟性

対話 エキュメニズム

奉仕 チャリティー

自然 創造

1 . 正義

出エジプト記 23 : 6

申命記 15 : 7 - 11、16 : 20、27 : 19

レビ記 19 : 12 - 18

ヨブ記 29 : 14

詩篇 9 : 8&16、11 : 7、33 : 5、72、89 : 14、103 : 6、140 : 12

箴言 21 : 15、29 : 4&7

エレミア 9 : 23 - 24、22 : 15 - 16、23 : 5

イザヤ 1 : 10 - 20、5 : 23、10 : 2、29 ; 21、30 : 18、32 : 15 - 20、42 : 4、61 :

8

ホセア 12 : 6

アモス 2 : 7、5 : 12

マラキ 2 : 17

マタイ 5 : 20、23 : 23、25 : 31 - 46

ルカ 3 : 10 - 14、11 : 42、18 : 8

使徒行録 4 : 32 - 37

ローマ 3 : 25 - 26

2 . 女性

士師記 4 : 5

ユディト書 8 : 4 - 8、 9 : 8 - 10

エステル記 4、 12 - 14、 5、 1 - 3、 7 - 8

ルツ記 1 : 16 - 18、 2 : 8 - 13、 4 : 9 - 17

マタイ 16 : 17 およびヨハネ 11 : 27 を合わせて読むこと

マルコ 14 : 9

ルカ 7 : 36 - 50、 10 : 38 - 42、 21 : 1 - 4

使徒行録 2 : 17 - 18、 21 : 8 - 9

ガラテヤ 3 : 28

3 . 解放

出エジプト記 2 : 23 - 25、 3 : 1 - 15

申命記 26 : 5 - 11

詩篇 9 : 3 - 4、 10 : 18、 12 : 5、 74 : 14、 103 : 6

ミカ書 3 : 4

バルク書 4 : 21

ルカ 4 : 18

ガラテヤ 5 : 1 & 13

4 . 抑圧

出エジプト記 1 : 11

申命記 26 : 6、 28 : 33

ネヘミヤ 9 : 36 - 37

詩篇 6 : 3 - 10、 17 : 9 - 12、 44 : 22 - 25、 94 : 5 - 6

エレミヤ 50 : 33

ミカ 3 : 3

5 . 平和

レビ記 19 : 1 & 9 - 18

詩篇 32、72、85 : 9 - 11、122 : 6 - 8

イザヤ 2 : 1 - 5、9 : 5 - 6、11 : 1 - 9、32 : 15 - 20、52 : 7、53 : 5、57 : 19

箴言 24 : 1 - 4、22 : 31

マタイ 5 : 1 - 12 & 38 - 48、10 : 5 - 13 & 34

ルカ 10 : 35、12 : 51、24 : 36

ヨハネ 14 : 23 - 27、19 : 19 - 23、20 : 19 & 21

ローマ 12 : 18、14 : 17 & 19

2 コリント 3 : 11

エフェソ 2 : 11 - 18、4 : 3 & 31 - 32

ガラテヤ 5 : 22

フィリピ 2 : 5 - 11

ヤコブ 3 : 13 - 18

6 . 赦し 和解 あわれみ

エゼキエル 11 : 17 - 21

マタイ 7 : 1 - 5、18 : 21 - 35

ルカ 6 : 27 - 38、15 : 1 - 10

ローマ 5 : 11

2 コリント 5 : 14 - 21

エフェソ 2 : 14 - 18

コロサイ 3 : 12 - 17

フィレモン 1 : 18 - 21

2 ペトロ 3 : 8 - 12

7 . 貧しい人々

出エジプト記 1 : 8 - 14、 22 : 20 - 26

申命記 15 : 4 - 11、 24 : 10 - 22、 26 : 5 - 11

レビ記 19 : 9 - 18、 25 : 8 & 10 & 23 - 24 & 35 - 38 & 42 - 43

詩篇 9 : 13 - 14 & 19、 12 : 6、 14 : 6、 18 : 28、 22 : 27、 25 : 9 & 16、 35 : 10、
37 : 11、 69 : 30、 70 : 6、 72 : 1 - 4 & 12 - 14、 74 : 19 - 20、 76 : 10、 140 : 13

イザヤ 1 : 11 - 17、 5 : 1 - 23、 11 : 1 - 9、 58 : 5 - 7、 61 : 1 - 2

エレミヤ 22 : 13 - 18

アモス 2 : 6 - 16、 3 : 14 - 4 : 3、 8 : 4 - 7

ミカ 2 : 1 - 5、 3 : 1 - 4 & 9 - 12、 4 : 6 - 7

ゼファニア 3 : 11 - 12

シラク 34 : 18 - 22

マルコ 10 : 17 - 22、 10 : 23 - 27

マタイ 10 : 9 - 10

ルカ 1 : 46 - 56、 12 : 33 - 34

使徒行録 2 : 44 - 45、 4 : 32 & 34 - 35、 11 : 27 - 30

1 コリント 1 : 17 - 31

2 コリント 8 : 1 - 15、 9 : 6 - 13

フィリピ 2 : 5 - 9

ヤコブ 2 : 1 - 5、 4 : 13 - 5 : 6

8 . 分かち合い 連帯

列王記上 17 : 7 - 16

イザヤ 58 : 1 - 12

マルコ 12 : 38 - 44

マタイ 25 : 31 - 46

ルカ 1 : 46 - 55、 10 : 25 - 37、 16 : 19 - 31

使徒行録 4 : 32 & 34 - 35

フィリピ 2 : 4 - 11

ヘブライ 13 : 12 - 16

ヤコブ 2 : 14 - 18、 5 : 1 - 6

黙示録 21 : 1 - 6

9 . 兄弟性

箴言 3 : 27 - 33

マタイ 12 : 46 - 49

ヨハネ 17 : 1 & 6 - 11 & 20 & 26

ヘブライ 2 : 10 - 17

2 ペトロ 2 : 12、 3 : 8 - 9 & 13 - 16

1 ヨハネ 4 : 4 - 21

10 . 対話 エキュメニズム

創世記 17 : 1 - 7

イザヤ 54 : 1 - 3

マタイ 10 : 41 - 45、 18 : 12 - 19、 22 : 1 - 10

ヨハネ 17 : 18 - 24

使徒行録 2 : 1 - 11

1 コリント 12

エフェソ 1 : 3 - 14

コロサイ 3 : 12 - 17

ヘブライ 2 : 8b - 12

2 ペトロ 4 : 7 - 11

11 . 奉仕 チャリティー

列王記上 17 : 7 - 16

集会の書 4 : 1 - 10

マタイ 10 : 35 - 45

ルカ 10 : 25 - 37

ヨハネ 13 : 1 - 17 & 34 - 35、 15 : 9 - 17

ローマ 12 : 9 - 17

1 コリント 13 : 1 - 13

フィリピ 2 : 1 - 4
1 ペトロ 4 : 7 - 11
1 ヨハネ 4 : 7 - 17

12 . 自然 創造

創世記 1 : 1 - 2 : 3、 9 : 9 - 11
出エジプト記 3 : 7 - 10、 15 : 22 - 27、 23 : 10 - 12
レビ記 25 : 1 - 24
イザヤ 11 : 1 - 9、 40 : 12 - 31
ダニエル 3 : 57 以降
詩篇 8、 19 : 24、 104 : 16 - 23、 136、 148 : 1 - 4 & 7 - 10
箴言 8 : 22 - 31
マルコ 5 : 35 - 41
マタイ 6 : 26 - 30
ヨハネ 9、 12 : 23 - 26
ローマ 8 : 18 - 25
コロサイ 1 : 15 - 20
黙示録 21 : 1 - 5、 6 : 16 - 21

3．フランシスカン源泉資料のテキスト

1．正義

「ペルーシア伝記」62

- * 「具体的な介入によって人類の病を癒す」(聖フランシスコ生誕 800 年に際しての、フランシスカン・ファミリーの総長からの手紙より)
- * バヒア文書、第 4 章 32 - 38 番
- * マットリ 4 「正義と平和への闘争の中で」

2．女性

チェラノのトマス「聖フランシスコの第一伝記」18b - d

小さき花 15, 16, 19

聖ボナヴェントウラ「聖フランシスコの大伝記」12 : 2

「ペルーシア伝記」101、107

聖クララの伝記 5

「マットリ文書」マットリからのインターフランシスカン・メッセージ (1982)
2 番「女性を支持し、差別に反対して」

3．平和

聖フランシスコ「非裁可会則」22 : 1 - 4、16 : 6

聖フランシスコ「裁可された会則」2 : 17、3 : 10 - 14

聖フランシスコ「訓戒の言葉」13、15

聖フランシスコ「遺言」6、23

チェラノのトマス「聖フランシスコの第一伝記」23、37、40 - 41、57

チェラノのトマス「聖フランシスコの第二伝記」37

聖ボナヴェントウラ「聖フランシスコの大伝記」6 : 9、9 : 7 - 9

「ペルーシア伝記」44、67

ペルーシアの無名者による伝記 17d、38c

小さき花 21、24

「三人の伴侶の伝記」26、58

4．貧しい人々

「非裁可会則」5：9 - 12、7：1 - 9&13、8：4&12

「裁可された会則」5

聖フランシスコ「遺言」1 - 3、20 - 22

チェラノのトマス「聖フランシスコの第一伝記」14 - 15、17、44、76

チェラノのトマス「聖フランシスコの第二伝記」5、8、37、81、83 - 92、196

聖ボナヴェントウラ「聖フランシスコの大伝記」11：2

「三人の伴侶の伝記」37、40、55 - 56

バヒア文書第3章「貧しい人の中の小さき者」

5．赦し 和解 あわれみ

「訓戒の言葉」27

「ある管区長への手紙」1 - 11&13 - 17

「全キリスト者への手紙1」5．28 - 29

「主祷文についての釈義」1&7&8

チェラノのトマス「聖フランシスコの第一伝記」23、89

チェラノのトマス「聖フランシスコの第二伝記」185b

聖ボナヴェントウラ「聖フランシスコの大伝記」3：2、8：1

「ペルーシア伝記」1、44、67

EP 101

「三人の伴侶の伝記」11 - 12、26

小さき花 21

マットリ No.5 「和解の道具」

6．分かち合い 連帯

聖フランシスコ「遺言」1 - 3

チェラノのトマス「聖フランシスコの第二伝記」175

聖ボナヴェントウラ「聖フランシスコの大伝記」1：2c - 3a

「三人の伴侶の伝記」11 - 12

バヒア文書 19 - 23a

7 . 兄弟性

チェラノのトマス「聖フランシスコの第一伝記」38-39a

チェラノのトマス「聖フランシスコの第二伝記」175

聖フランシスコは普遍的な交わりと家族精神を培った(総長たち「私は自分の役割を果たした。あとはキリストが教えてくださるだろう」 - 1981 -)

バヒア文書第2章「兄弟として送られる」

8 . 対話 エキュメニズム

「非裁可会則」14、16、22 : 1 - 4

「裁可された会則」12 : 1

チェラノのトマス「聖フランシスコの第一伝記」40a&41b-c、57

聖ボナヴェントゥラ「聖フランシスコの大伝記」9 : 7 - 9

小さき花 24

マツトリ「他宗教との対話のうちに」No.7

9 . 奉仕 チャリティー

聖フランシスコ「遺言」1 - 3

チェラノのトマス「聖フランシスコの第二伝記」172、175、177

聖ボナヴェントゥラ「聖フランシスコの大伝記」9 : 1 & 4

「三人の伴侶の伝記」11 - 12

聖クララの会則 VIII:12-16

10 . 自然 創造

太陽の賛歌

チェラノのトマス「聖フランシスコの第一伝記」77、79、81

チェラノのトマス「聖フランシスコの第二伝記」165

「ペルージア伝記」84、51

4 . 教会の社会教説

キリスト教人類学

a) 人間の尊厳、神の似姿

ディヴィニ・レデンプトーリス : 30 と 32 - 33

マーテル・エト・マジストラ (キリスト教の教えに照らしてみた社会問題の最近の発展について) : 219 - 220

パーチェム・イン・テリス (地上の平和) : 3 1、28 - 34、そして何よりも 44

ガウディウム・エト・スペース (現代世界憲章) : 31

エクレジウム・スアム : 19

レデンプトール・ホミニス (人間のあがない主)

キリスト教徒の解放と自由 : 20 , 34

ラポーレム・エクセルチェンス (働くことについて) : 4-9

ガイドライン : 31 番

カトリック教会のカテキズム : 355 - 379、1700 - 1709

b) 人間、教会の使命の道

ガウディウム・エト・スペース : 1 と 3

エヴァンジェリイ・ヌンチアンディ (福音宣教) : 29、31、33、35、36、38

レデンプトール・ホミニス : 13 - 14

c) 人間の自由への憧れ

キリスト教徒の自由と解放に関する教え : 1 と 38

d) 男性と女性、連帯する人々

マーテル・エト・マジストラ : 218 - 219、59 - 67

パーチェム・イン・テリス : 31

ガウディウム・エト・スペース : 24 - 25

キリスト教徒の自由と解放 : 73

e) すべての人の基本的平等

ガウディウム・エト・スペース：24 と 29

f) 組織に対する人間の優先

キリスト教徒の自由と解放に関する教え：73、75

ガウディウム・エト・スペース：31

レデンプトール・ホミニス：14

レコンシリアチオ・エト・ペニテンチア：16

g) 罪の構造

ガウディウム・エト・スペース：13, 25

キリスト教徒の自由と解放に関する教え：75

ソリシチュード・レイ・ソシアリス（真の開発とは）：36 - 37

チェンテシムス・アヌス（新しい課題）：38

カトリック教会のカテキズム：1878 - 1889

人権

a) 人権の侵害

ガウディウム・エト・スペース：27

オクトジェジマ・アドヴェニエンス：23、RH：17 参照

ソリシチュード・レイ・ソシアリス：15：26、33

b) 基本的人権のパノラマ

パーチェム・イン・テリス：143 - 144、11 - 34、75 - 79

ガウディウム・エト・スペース：27、79、29、60、52、75、71、67、68、65、
69、59

オクトジェジマ・アドヴェニエンス：23

ブエブラ：3890 - 3893

レデンプトール・ホミニス：17

ソリシチュード・レイ・ソシアリス：26、33 - 34

c) 人権、福音の要求

ブエブラ：開会の辞

キリスト教徒の自由と解放に関する教え：65

公共の利益

マーテル・エト・マジストラ：65、78 - 81

パーチェム・イン・テリス：53 - 66、136

ガウディウム・エト・スペス：26、74

ポプロールム・プログレシオ（諸民族の進歩推進について）：54

オクトジェジマ・アドヴェニエンス：46

レデンプトール・ホミニス：17

ソリシチュード・レイ・ソシアリス：26：33 - 34

チェンテシムス・アヌス：9:37-38、47

カトリック教会のカテキズム：1897 - 1912

連帯と補助

a) 定義・相互関係・原理

ガウディウム・エト・スペス：32、80

キリスト教徒の自由と解放：73

カトリック教会のカテキズム：1883 - 1884、1939 - 1942、2437 - 2440

b) 連帯

ピオ十二世、1952年のクリスマス・ラジオ・メッセージ：26 - 27

パーチェム・イン・テリス：98

ソリシチュード・レイ・ソシアリス：38 - 40

チェンテシムス・アヌス：10c、33、41d、51

c) 補助

クアドラジェジモ・アンノ：79 - 80

マーテル・エト・マジストラ：51 - 52、54 - 55、57 - 58

パーチェム・イン・テリス：140 - 141

ラボーレム・エクセルチェンス：17

d) 社会参加

- マーテル・エト・マジストラ：91 - 92
- ガウディウム・エト・スペース：31、55、59、63、68
- オクトジェジマ・アドヴェニエンス：22、24、46 - 47
- キリスト教徒の自由：86、95
- ソリシチュード・レイ・ソシアリス：45
- チェンテシムス・アヌス：33
- カトリック教会のカテキズム：1913 - 1917

富の一般的な運命

- ガウディウム・エト・スペース：69 - 71
- ポプロールム・プログレシオ：22 - 23
- キリスト教徒の自由：90
- チェンテシムス・アヌス：30-32

個人の所有権

- レールム・ノヴァールム：3：12 - 16
- クアドラジェジモ・アンノ：44 - 52
- マーテル・エト・マジストラ：104 - 121
- ガウディウム・エト・スペース：69 - 71
- ポプロールム・プログレシオ：19、22 - 24
- ラボーレム・エクセルチェンス：14
- ソリシチュード・レイ・ソシアリス：28、42

共有財産

- レールム・ノヴァールム：23 - 25
- クアドラジェジモ・アンノ：105 - 110
- マーテル・エト・マジストラ：51 - 67
- ガウディウム・エト・スペース：70 - 71
- ポプロールム・プログレシオ：23 - 24、33 - 34
- ラボーレム・エクセルチェンス：14

ソリシチュード・レイ・ソシアリス：15

労働と賃金

a) 人間の労働に関する考察

レールム・ノヴァールム：32

マーテル・エト・マジストラ：82 - 103

ガウディウム・エト・スペース：67

ラボーレム・エクセルチェンス：1、3、4 - 10、18 - 19、22 - 27

ソリシチュード・レイ・ソシアリス：18

b) 賃金は個人のものか家族のものか？

レールム・ノヴァールム：32 - 33

クアドラジェジモ・アンノ：71

ラボーレム・エクセルチェンス：19

c) 給料制度：給料制度は人間を市場向けの商品に貶めるものか？

クアドラジェジモ・アンノ：64 - 68

マーテル・エト・マジストラ：75 - 77

ラボーレム・エクセルチェンス：19

d) 具体的な問題：量

レールム・ノヴァールム：32

クアドラジェジモ・アンノ：70 - 75

マーテル・エト・マジストラ：68、71

ストライキ

レールム・ノヴァールム：29

クアドラジェジモ・アンノ：94

ガウディウム・エト・スペース：68

オクトジェジマ・アドヴェニエンス：14

ラボーレム・エクセルチェンス：20

組合

レールム・ノヴァールム：34 - 40

クアドラジェジモ・アンノ：34 - 38、81 - 97

マーテル・エト・マジストラ：97 - 103

ガウディウム・エト・スペース：68

ポプロールム・プログレシオ：38 - 39 および

- オクトジェジマ・アドヴェニエンス：14

ラポーレム・エクセルチェンス：20

ソリシチュード・レイ・ソシアリス：15

政治と政治的なもの

ガウディウム・エト・スペース：73、76

オクトジェジマ・アドヴェニエンス：3 - 4、48 - 51

ソリシチュード・レイ・ソシアリス：47 - 48

市民的・政治的共同体

a) 特徴

ガウディウム・エト・スペース：74^a

b) 権威

パーチェム・イン・テリス：46 - 52

ガウディウム・エト・スペース：74^{b-e}

c) 公共の利益

(前述)

政治的権力

a) 国家：政治的組織

マーテル・エト・マジストラ：20 - 21、44、52 - 53、104、201 - 202

パーチェム・イン・テリス：68 - 69、72、75 - 79、130 - 131

ガウディウム・エト・スペース：73 - 75

オクトジェジマ・アドヴェニエンス：46

b) 政治体制

パーチェム・イン・テリス : 52、68 , 73

ガウディウム・エト・スペース : 73 , 74 , 75

レデンプトリス・ホミニス : 17

ソリシチュード・レイ・ソシアリス : 41

キリスト者の社会・政治へのかかわり合い

a) ポプロールム・プログレシオ以前 (労働者と経営者の義務)

レールム・ノヴァールム : 14 - 16、クアドラジェジモ・アンノ : 50-51、63-64、
78、141-142

マーテル・エト・マジストラ : 51、82 - 84、91、122

ガウディウム・エト・スペース : 65 - 70

b) ポプロールム・プログレシオ以降

発展途上と発展について : PP : 14、19 - 21、43 - 51、56 - 59、OA : 24 - 25、
37、46 - 51、SRS: 27-39

社会の中の行動について : PT : 146-152、GS : 36、75-76、OA : 3-4、48-51、
SRS : 47-48

キリスト者の政治的多様性 : OA : 50 - 51

c) 人道主義的政治の動機となる原則

真理・正義・愛・自由 : PT : 35、GS : 26c、27 - 28、OA : 23、45

平等と参加 : PT : 73、GS : 75、OA : 24 - 25、47

解放 : ヨハネ・パウロ二世による第三回 CELAM 協議会開会の辞 : III: 5 と 6、
世界における正義についての第三回司教シノドス : 50 - 51

d) イデオロギーとユートピア : オクトジェジマ・アドヴェニエンス : 25 - 37

国際共同体

a) 基礎 : ガウディウム・エト・スペース : 84

b) 国際関係 : PT : 86 - 108、120 - 125、GS : 85 - 90、PP : 78、CA : 21、27、
SRS : 14、16、43、45

社会暴力

a) 社会暴力の類型論 :

構造的暴力

革命の暴力 : PT : 161 - 162、PP : 30 - 31、LE : 11 - 13

戦争における暴力 : PT : 109 - 116、GS : 77 - 82、PP : 53、78、SRS : 10、
20、23 - 24、39

b) 積極的非暴力 : ガウディウム・エト・スペース : 79、キリスト教徒の自由と解
放 : 77 - 79、

カトリック教会のカテキズム : 2306

平和

a) 戦争の現実

PT : 109 - 117、GS : 79 - 80、82、CA : 14b、17a、b、19a、カテキズム : 2307
- 2317

b) 軍備競争のスキャンダルと軍縮

PT : 109 - 112、GS : 81、PP : 53、SRS : 23 - 24、CA : 28c

c) 平和の倫理

何よりもまず平和 : パーチェム・イン・テリス

平和のためのすべての人の仕事 : ガウディウム・エト・スペース : 78 - 82、カ
テキズム : 2302 - 2305

平和の新しい名前、発展 : ポプロールム・プログレシオ : 76

正義と連帯の実り、平和 : GS : 78、SRS : 26、39、CA : 5c、29a

キリスト教信仰と文化

ガウディウム・エト・スペース : 53 - 62

PP : 12 以降、40 - 41、42、CA : 32 以降、38 - 41、50 - 52

社会的なコミュニケーションメディア

a) メディアに対するキリスト教のスタンス : OA : 20

従うべき価値 : コミュニオ・エト・プログレシオ (CP) : 14 - 17

避けるべきリスク : CP : 58、80、SRS : 22

b) 特定の問題

情報 : コミュニオ・エト・プログレシオ : 33 - 47、75 - 76

プロパガンダ : コミュニオ・エト・プログレシオ : 23、30、59 - 62

世論 : コミュニオ・エト・プログレシオ : 26 - 32、114 - 125

エコロジー

MM : 196 - 199、OA : 21、RH : 8 と 15、LE : 4、SRS : 26、29、34、CA :
37 - 38

ヨハネ・パウロ二世の「世界平和の日」メッセージ (1990年1月1日) : 創造
主である神との平和、全被造物との平和

カトリック教会のカテキズム : 299 - 301、307、339 - 341、344、2415 - 2418

5 . 貧しい者の優先 会憲における正義と平和と被造物の保全

注：以下は会憲の JPIC に関する条文の要約です（直接の引用ではない）。

第 1 章

第 1 条 1 , 2 : これは兄弟のアイデンティティーの総合です。

福音に従った生活

祈りと奉獻

悔い改めの証しと小さき者であることの証し

兄弟的交わりの生活

すべての人に対する愛

和解と平和と正義を、行いをもって説くこと

第 3 条：小さき兄弟たちは「兄弟会」を構成する。この中ではすべての人が同等の権利と義務を持つ兄弟である。誰もいかなる理由によっても疎外されることのない真の兄弟的交わりを求めているという証し。

第 4 条、 1 : 兄弟たちは、神の民の一員として、時代の新しいしるしを検討し、常に移り行く世界の情勢と関わってゆくべきである。

第 7 条、 3 : 兄弟たちは進んで互いに仕え合い、従い合って、共に主なる神のみ旨のしるしを求めるべきである。

第 8 条：天の御父の摂理のしるしとなるために、「すべての持ち物を売って」徹底的に福音を生きること。イエスとその御母の模範に従うという（何よりも個人的な）選択をすることによって貧しい人々と境遇を共にすること。兄弟たちは貧しい人々と共に生きる時(新しい生活様式であっても)幸せであるべきである。

第 2 章

第 27 条、 1 : 兄弟たちの祈りと奉獻の精神は、単純な人々（このような人々に神の国は示される）の間にいることによって、また、彼らと会話することによっ

て培われるべきである。兄弟たちは庶民と共に生きることによって民衆的な信心業の健全な形態を学び、自分と他者のキリスト教徒としての生活を養う術を身に付けることができる。

第 27 条、 2 : 民衆と共に祈ることは、その現実に姿を与え、信仰と希望の分かち合いとなり、しるしとなる。

第 32 条、 3 : 悔い改めは他者、特に（私たちが代わりに何も受け取ることのない）最も小さき人々への奉仕において表現される。聖フランシスコは悔い改めをハンセン病患者への奉仕という形で表現している。

第 33 条 : 兄弟は召命によって、兄弟各人と、共同体と和解する道具となり、しるしとなる。これは彼の召命の特別な「役務」となる。

第 33 条、 3 : 和解には社会的側面がある。

第 34 条、 2 : 断食とは、多くの困難に苦しむ人々の中に現存するキリストの苦しみを分かち合うことである。

第 3 章

第 39 条 : 友情の上に築かれた真の兄弟会とは、すべての人を朗らかに（礼節をもって）受け入れることができるように導く教育であるともいえる。それは、希望のしるしとなり、また、平和と幸福の宣言となると同時に、キリスト者として、修道者としての完全な人間的成熟のしるしでもある。

第 51 条 : フランシスカンの親切なもてなしは兄弟生活の基本である。

第 52 条 : 兄弟共同体内の兄弟的交わりは、すべての人々との交わりにつながる。すべての人々（友好的な人であれ、友好的でない人であれ、また彼らが訪ねて来る場合でも、こちらから行く場合でも）を親切に受け入れ、彼らに暖かく接すること。

第 53 条：清貧と愛の証しとして、兄弟たちは、教会の必要を援助し、真に困窮している人々に助けを与え、兄弟会に与えられた物資を貧しい人々と分かち合う義務がある。

第 4 章

第 64 条：「小ささ」(謙遜さ)はキリストに従うしるしであると同時にキリストの御父への従順のしるしでもある。それはまた、喜びの証しであり、平和を告げ知らせるための必要条件である。

第 66 条、2：謙遜さは、「社会の最下層の人々」が私たちとの兄弟関係から疎外されていると感じないようにするための確かな分かち合いを可能にする。この兄弟関係は、社会的・経済的発展の結果である物を奪われている人々を大事にするよう招かれている。

第 67 条：謙遜さは、真の福音的価値を証しするものとして、また、世界の偽の価値を糾弾するものとして、特別な預言的価値を有する。

第 68 条、1：平和は善を行うことによって告げ知らされ、引き継がれる。平和を暴力によって打ちたてることはできない。

第 68 条、2：口で平和を告げ知らせるということは誰も怒らせたり、憤慨させたりしないということでもある。平和や、正義と平和の仕事というものは心の平安から生まれるものである。

第 69 条、1：平和の仕事、特に不正に権利を奪われている人々に関するものは、新しい心と、正義と平和に対する愛から生まれる。これらの権利は、暴力的な方法によってではなく、貧しい人々にも使えるその他の手段によって守られねばならない。

第 69 条、2：兄弟たちは、戦争やあらゆる形での暴力行為を同じように強く非難する。平和は、あらゆる暴力行為や不正義に反対の声をあげることによって築かれる。

第 70 条：この項目は清貧の解放的側面を強調し、すべての人の自由で公正な関係と、相互受容、和解を奨励している。富と金持ちや権力者への愛着は奴隷となるきっかけを与え、小さき者としての私たちの召命にふさわしい奉獻と使命を實踐する自由で完全な生活の障害となるものである。

第 71 条：創造主である神の似姿はすべての被造物にみられる。したがって、兄弟は神への敬意の故に、この世に存在するあらゆる形の生命を尊重すべきである。

第 72 条、 1：清貧の誓願は、私たちと共に歩んでくださる旅人イエスに従うことの基本的なしるしである。巡礼者のような超然たる態度が私たちの生活に反映され、私たちが生活や仕事のために使用する物品にも反映されなければならない。

第 72 条、 2：私たちが使用する建物は、兄弟たちが住んでいる貧しい居住環境に調和したものでなければならない。私たちが手に入れ、使用するすべてのものに関しても同じことが言える。

第 72 条、 3：兄弟たちは建物の所有権を持つべきではなく、生活と福音宣教に必要な使用にのみとどめるべきである。建物の所有権はむしろ、私たちが仕えるために呼ばれた人々が、後援者、もしくは教皇庁に属するべきである。

第 76 条：兄弟たちの仕事は「奉仕」と考えられるべきであって、自給自足や自立の手段、ましてや他者をコントロールする機会と考えてはならない。仕事は、仕事を持たない人と分かち合うべき贈り物である。働く兄弟は、働かず自分の生活を支える手段をもたない人々と分かち合うべきである。

第 77 条、 1、 2：兄弟は自分の活動に適する技術を身に付けているべきであるが、第一の適性は兄弟として修道院に住み、他の兄弟と同じ権利と義務を有することである。如何なる仕事であれ、それによって特権を得ることはなく、ましてや特定の家に固執する権利はない。

第 78 条：仕事が兄弟たちを引き離すようなことがあってはならない。仕事は貧

しい人々へのより適切な「奉仕」の中で、すべての人々とのより大きな連帯に役立つものでなければならない。

第 80 条、 1、 2：可能な限り、すべての兄弟が修道院内の家事を行うべきである。他の人々が兄弟会のために働く場合は、正義のために国家法の規定を守らなければならない。

第 82 条、 3：兄弟たちが仕事の報酬として受け取る物は、金銭を蓄えるきっかけとなってはならない。十分な金銭があるときは、それが教会と貧しい人々のものであることを思い起こすべきである。私たちは金銭を、自分が貧しいから使用するのであって、所有者としてではなく、貧しい人として金銭を使用するのだからなければならない。

第 5 章

第 5 章は私たちが福音宣教へと召されていることについて述べています。この召し出しは謙遜と貧しさに対する私たちの忠実さの基本です。ゆえに、私たちの召し出しは誓願に忠実な手段で実行に移されるべきであり、より貧しい地域を中心に行われるべきです。

第 85 条：平和を宣べ伝えることは私たちの福音宣教の基本である。

第 87 条、 1：兄弟たちは、自分たちのためだけでなく、他者の利益のために生きるべきである。兄弟たちは、自分たちの中に作り出すのとおなじような兄弟的關係をすべての人との間に持つよう努めるべきである。

第 87 条、 3：希望のしるしとして、兄弟たちは貧しい地域や一般庶民の間に兄弟的共同体を設置し、それらの共同体を、福音を告げ知らせるための恵まれた手段であると考えべきである。

第 91 条：謙遜が兄弟たちの教会における使命の基本であるから、兄弟たちは特権を求めたり受けたりしてはならない。

第 92 条、 2 : 兄弟たちは、どこに住んでいても、喜んで地域文化への開化を進めるよう手助けをするべきである。

第 93 条、 1 : 真の兄弟愛によって、兄弟たちは貧しい人々を自分たちの教師と考え、かれらの言葉に耳を傾けることが要求される。このようにして、兄弟たちは貧しい人々との真の対話を維持することができる。

第 94 条 : 諸文化の福音化はきわめて重要であり、兄弟たちは精力的にこれを押し進める。

第 95 条、 1 - 3 : どこにおいてもエキュメニカルな精神が培われるべきである。兄弟たちは、他のキリスト教徒や他宗教の信仰者たち、特にイスラム教の人々と共に働く方法を追求するべきである。

第 96 条、 1 : 福音宣教は、人々および家庭が直面する社会的諸問題を理解することを必要とする。このような知識がキリスト者としての適切な応答のもととなる。

第 96 条、 2 : 正義・自由・平和の問題は根本的なものである。兄弟たちは、正義と自由が侵された結果生じる深刻な諸問題の解決策を見いだすよう献身する。兄弟たちは、世界に正義と平和を回復するために活動している人々と一緒に働くべきである。

第 96 条、 3 : 兄弟たちは、人間の尊厳とすべての人の権利が教会と本会の内部においても尊重され、培われるよう、謙虚に勇気をもって働くべきである。

第 97 条、 1 : 兄弟たちは、主によってハンセン病者の間に導かれた聖フランシスコの模範に倣うべきである。兄弟一人ひとりが、今日のハンセン病者、すなわち、除外された人々、貧しい人々、抑圧されている人々、苦しめられている人々、病気の人々の間に自分自身の召し出しを再発見するべきである。兄弟たちは、彼らの間で生きることを喜び、あわれみを示すべきである。

第 97 条、 2 : 兄弟たちは貧しい人々自身が、人間としての尊厳をもっと自覚するように配慮し、彼らがそれを護り、高めるように配慮するべきである。

第 98 条、 1 : 兄弟たちは裕福な人や権力のある人を軽蔑したり、裁いたりしてはならない。むしろ、彼らに回心の必要性を謙虚に伝え、すべての良いものを、貧しい人々の中に常に現存しておられる、主なる神にお返しするよう勧めるべきである。

第 98 条、 2 : 聖フランシスコの模範に倣い、兄弟たちは、他者の生活と自由を脅かしている人々のもとへ行き、和解と回心の良きたよりと、新しい生命の希望をもたらすべきである。

第 6 章

第 6 章では、兄弟たちの養成の問題を扱っています。兄弟たちの生活と活動に関してこれまで述べてきたすべてのことは、初期および生涯養成の方向付けとなるものです。以下にいくつかの例を挙げます。

第 127 条、 2、 3 : 兄弟たちは、積極的に社会生活に参加できるように準備を受けるべきである。養成は、神との親密な関係、人間と他の被造物との愛に満ちた関係、さらに教会的な交わりと使徒的奉仕の感覚をも育てるべきである。

第 127 条、 4 : 養成の根本原理とは、フランシスカン的な福音の生き方を、兄弟として、また小さき者として、貧しさと労働の実践のうちに、さらに、本会における福音宣教の展望を生きることによって、学び、体験することである。

第 128 条 : フランシスカン養成は全人格の総合的な養成を旨とするものである。したがって、人格的な面と社会的な面の養成も考慮に入れる。

第 129 条、 1、 2 : 養成においては、各人の固有の賜物が深く尊敬され、責任感をもって自由を行使することが奨励される。養成は、物事に対するバランスのとれた批判精神を養うものでなければならない。

第 132 条：兄弟的交わりと貧しい人々との連帯のうちに生きるためには、兄弟たちを成熟へと養成する必要がある。

第 153 条、2：フランシスカン生活をより深く体得するために、修練者は、規則の定めに従って、修道院内外において、観想、悔い改め、清貧、労働および現代の貧しい人々への謙虚な奉仕にいそしむべきである。

6. 「フランシスカン養成綱領 (RFF)」における 正義・平和・被造物の保全

「聖フランシスコの流儀にそって、イエス・キリストの御跡に従うことは、和解と平和の使者として、小さき兄弟を教会に関わらせ、現代の人々への奉仕へと導く」(RFF 3)。

「兄弟は、自分に対する神の限りない愛を観想し、聖書や歴史のなかに、また、生活のどんな場面においてもそこに関わる兄弟やすべての被造物のなかに、聖霊の働きを見分けようとする絶えざる努力によって、イエス・キリストを探求し見出すよう導かれる」(RFF 12b)。

「小さき兄弟は、貧しくそして十字架にかけられた師であるキリストの前に身を置き、主と福音、教会、本会と本会の使命、そして人々と時代への自己の忠実さを絶え間なく確認する」(RFF 15b)。

「兄弟共同体は、・・・生きている真のキリストとの出会いを可能にする、和解と平和の場でもある」(RFF 18)。

「神が父であることと、キリストが兄弟であることの体験は、小さき兄弟たちに小ささと単純さ、喜びと連帯の精神において、すべての人々とすべての被造物の兄弟であることを自覚させる」(RFF 21a)。

「小さき兄弟は、すべての人を温かく迎え入れる。だれも除外せず、すべての人、とくに貧しい人と弱い人を愛する。そして、母のような思いやりで仕え、暴力を拒絶し、正義と平和のために働き、被造物を大切にする」(RFF 21b)。

「小さき兄弟は、自身が小さいことと、すべての善きことの源泉である神に完全に依存していることを発見する。また、旅人であり寄留者として、わだかまりを捨てた和を重んじる人であり、誰をも快く迎え入れる人として、そ

してすべての被造物の兄弟であり臣下として生きる」(RFF 22b)。

「小さき兄弟たちは、神によってハンセン病者の間に導かれた聖フランシスコの模範にならい、貧しい人々の生活と境遇を選び取りながら、自分たちが彼らと同一であることを認め、*圧迫されている人々や悩む人々、病人たちに奉仕し、また彼らから福音宣教してもらおう*」

(RFF 25a)。

「小さき兄弟は、*すべての形態における不正と、この世界の非人間的な構造に鋭敏となり、それらをなくすために働く。正義と平和の道具、この世におけるキリストのパン種として、声なき人々の声となって、貧しい人々への明白な選択をする*」(RFF 25b)。

「主の弟子たちであり、神の言葉の告知者である小さき兄弟たちは、使徒たちの模範に倣い、教会がもつ福音宣教への使命に参加し、*出会うすべての人々に、主の平和と恵みをもたらす*」(RFF 26a)。

「小さき兄弟は、*兄弟的交わりや観想と悔悛の生活、兄弟共同体内と人間社会での奉仕を通して、平和の人として、心からの喜びと単純さにおいて生きた証しを与える*」(RFF 28b)。

「主が望まれるなら、小さき兄弟たちは言葉によるあかしをもって福音を明確に宣べ伝え、特に、*貧しく十字架につけられたキリストの秘義を告げ知らせながら、すべての人々に悔い改めと和解、平和を説く*」(RFF 29a)。

「この世界にご自分の住まいを置かれたキリストに従い、小さき兄弟たちは、*すべての人々のなかで自分たちのカリスマを生きるように、また正義と平和の道具として、時のしるしに注意深くあるようにと召されている*」(RFF 32a)。

「小さき兄弟は、*世界と人間についてのフランシスカンの理念を獲得し、物事についてのバランスのとれた批判的判断力を磨き、そして神がこの世界に*

実現させた善をそこに発見する」(RFF 32b)。

「平和の前触れ者として小さき兄弟は、心に平和を携え、他の人々にそれを勧め、人間の尊厳とキリスト教的諸価値に反するすべてのものに力強く*非を唱える*ことを心構える」(RFF 34b)。

「キリスト者的・・・成長の最も重要な局面のうちで、養成は次のことに注意を払う：

教会と世界に関して：

- 世界における神の現存の意識；
- カトリック信仰の知識；
- カトリック教会への愛；
- 宣教と教会一致の精神；
- *正義と平和の探求*」(RFF 56.2b)。

「・・・フランシスカンの成長の最も重要な局面のうちで、養成は次のことに注意を払う：

教会と世界に関して：

- 教会への愛；
- 福音宣教と宣教；
- 預言者的精神；
- 貧しい人々の優先；
- *和解と赦しへの努力*；
- *自然と環境への敬意*」(RFF 56.3c)。

「生涯養成は、小さき兄弟の日々の生活状況のなかで行われる。すなわち、祈り、労働、兄弟共同体内外との関係のなかで、また、自分が活動する文化的・社会的・政治的世界との接触のなかで行われる」(RFF 58)。

「養成修道院の兄弟共同体は、世界とその歴史、あるがままの社会的現実注目し、我々の独自性である小ささに合わせて、特に、貧しい人々と疎外されている人々に開かれている」(RFF 79)。

「有期誓願の兄弟は、自己の召命を生きるように召されているこの世界の現実と、その国の諸問題とに関わり、連帯すべきである」(RFF 155)。

「荘厳誓願への兄弟の適性評価において、その基準として考慮されるべき点は、以下のようなものである：

- 情緒的成熟。
- 祈りにおける神とのふさわしく、成熟したパーソナルな関係の明らかなしるし。
- 自分の修道生活への個人的な自発性と責任。
- 兄弟共同体と共に生活し、労働する能力。
- 他者、特により貧しい人々への奉仕に、積極的に傾注できる能力。
- *憐れみと和解の精神。*
- 福音的勧告を遵守しながら、生涯にわたる義務を引き受ける能力。
- *正義と平和と、被造物の保全へのセンス。*
- 聖福音をあかしし、告げ知らせる心構え。
- 十分な内的自由と、貧しさの実践。
- 兄弟共同体、管区、本会、教会への帰属意識」(RFF 156)。

「一般教養面での養成は、人格的發展に益し、以下のことを可能にする理解と分析の道具を与える：

- *社会と世界についての批判的視点を持つこと。*
- 自身を知ること：人間存在と、人間存在の発達段階、およびその心理とを知り、理解すること。
- 兄弟共同体や文化的環境の中で交わること。
- 他の言語を話す人々やグループと交わること。

- 職業的で専門的な養成に入るために必要な水準を持つこと。
- 福音宣教の仕事、兄弟共同体と本会への奉仕、また、正義と平和と創造への敬意に向けて社会を変革するという任務において、効果的であること」(RFF 162)。

「隣人愛の役務を果すうえで、小さき兄弟は：

- イエス・キリストの模範にならい、下僕であり貧しい人となる。
- 無償で奉仕することを知る。
- 分かち合うことと、連帯することを知る。
- 諸問題を認め、それらの原因を理解するために、現実に対する鋭敏さを養う。
- 教会と激動の時節が必要とすることに対して、絶えず適応する能力を持つ。
- 正義と平和と和解の使者となる。
- 愛徳のわざの受取人が、自分たちの人間的地位の向上と自身の解放の主人公となるように配慮する」(RFF 180a)。

7. 正義・平和・被造物の保全のための フランシスカンの働きの特徴

はじめに

地球的レベル、地域レベルでの深刻な社会的・環境的諸問題を列挙するのは簡単です。人権侵害、妊娠中絶、大量虐殺、児童遺棄、軍需産業、麻薬、環境汚染などはそのほんの一例にすぎません。しかしながら、これらの諸問題の解決策や打開策を見つけるのは困難です。この困難な状況は様々な伝統が互いに対立するような対応を提案したり、要求したりすることによって更にこじれてしまいます。優しい声もあれば、暴力的な声もあります。私たちの対応は確実で、かつフランシスカンの働きでなければなりません。

“*Pace e Bene*” (平和と善!)という言葉は、聖フランシスコの時代からずっと何百万人もフランシスカンたちによってすべての大陸で、農民・支配者・聖人・罪人に挨拶するのに使われてきました。それはフランシスカン家族の非公式のモットーとなりました。「平和と善」はフランシスカンの人生へのアプローチを直観的に、しかも単純に表わしています。今日、「平和と善」と挨拶するとき、その言葉にはどのような意味と働きがこめられているのでしょうか。

この文書は、国際インターフランシスカン正義と平和委員会が、正義・平和・被造物の保全のために働く時のフランシスカンのアプローチの重要な特徴を表わした合意宣言を起草するための試みです。私たちは兄弟間での話し合いや仕事上出会った人々との話し合いを重ねた末、意見をまとめました。私たちのコメントが、考察やさらなる討議を促すものとなることを願って、私たちの意見を皆様と分かち合いたいと思います。

平和

平和はイエス・キリストのうちにご自分を顕された貧しい神から来るもの

です。

アッシジの聖人たちは喜びに満ちた平和を広め、それは世界中で認められてきました。この平和は、彼らの身体的健康や安全の結果ではありませんでした。彼らは自分たちの守られた生誕の地であるアッシジの自治都市を公然と離れて、社会の片隅に追いやられていたハンセン病者や貧しい人々の住む不安定な住宅に移り住んだのです。

彼らと同時代を生きた人々は、聖人たちの貧しいライフスタイルを、福音に関する預言的な論評、当時の社会に対する批判と捉えていました。聖人たちの生き方に暗示された社会分析は、単なる人道主義的な動機によるものでもなければ、哲学や「現状(status quo)」批判によるものでもありませんでした。それはむしろ、彼らが神のご托身に感銘を受けていたからでした。貧しく十字架につけられた彼らの主なるイエス・キリストが彼らの平和の与えぬしであり、理由であったのです。完全な質素さでイエスの福音的生き方に文字通り倣おうとする彼らの試みは、彼らの生活の基盤となり、掟となりました。当時の「福音的」あるいは預言的グループとは異なり、フランシスコとクララは自分たちの個人的なインスピレーションと確信に対する普遍教会(Universal Church)の承認と認可を得ることにこだわりました。

観想と体験によって、フランシスコとクララはベツレヘムの馬小屋で生まれ、十字架上で見捨てられ、ご聖体によって食べ物となられた非暴力で弱く貧しいイエスのうちに神の姿を見たのです。神の完全な柔和さ、謙遜、そして貧しさに導かれて、フランシスコとクララは「天のおん父が完全であられるように完全に」なりたいという熱烈な願いを抱くに至りました。

貧しさは、真の平和であられる神の神秘に与るための信仰の入り口を通る時に使う灯火のようなものです(聖ボナヴェントゥラ)。何世紀にもわたって、清貧の解釈をめぐる、フランシスカンの間に多くの論争と改革が生まれました。ほとんどのフランシスカンたちは、自分が貧しい人々のために働いていると考えています。多くのフランシスカンたちが貧しい人々と共に、ま

た彼らに交じって働いており、中には、貧しい人々とまったく同じライフスタイルと仕事を続けている者もいます。神の「完全さ」を追求したフランシスコは、貴女清貧を配偶者とし、「完全な喜び」という平和を手に入れたのです。クララはその生涯を通して姉妹たちには完全な貧しさが絶対に必要であり、またそれは彼女たちの特権でもあることを主張し続けました。

善良さ

神は貧しいだけでなく、被造物の中に反映されている善そのものです。

生命に対するフランシスカンの姿勢は、善なる神が純粹に愛によって創造された被造物の重要性と美と善を尊重するという態度に表れています。私たちは、この地球とその資源、私たちの生活と仕事を私たちの兄弟姉妹である神のすべての被造物と分かち合っています。自然を支配しようとした人々とは異なり、アッシジの偉大な二人の聖人は、私たちの姉妹である母なる地球への依存を軽くし、地球にも彼らに食物や衣類を与えてくれるものたちにも負担にならないようにしようとしていました。

実践的な神学と霊性を持っていたフランシスコの社会分析は、すべての人が神の前に平等な責任と権利を有するというものでした。それぞれの個体が聖なる価値を有するとするフランシスカンの考え方は、ドゥンス・スコトゥスの思想の中で開花したものです。それぞれの個体（植物、石、アメーバなど）はかけがえのないものです。どのような被造物もつまらないものとして退けられることはありません。神の愛の完全な表現が被造物の中に実現されるものだとなれば、それぞれの被造物は完全な個性を有するに違いないのです。

特徴

フランシスカン運動は、アッシジの聖フランシスコと聖クララの生涯と伝記によって始まりました。二人の聖人の物語はこの運動に永続的なインスピ

レーションと方向性を与えています。何世紀もの間、多くの人々が聖霊によって導かれ、クララとフランシスコという単純な天才とその実際的な神学的知恵によってインスピレーションを受けてきたのです。何世代にもわたって、兄弟姉妹たちはフランシスカン独特のインスピレーションを発展させ、広めてきました。フランシスコとクララの精神がこのように発展した結果、キリスト教や西洋文明、その他の文化にきわめて深い人間的な影響を及ぼすことになりました。

フランシスカンたちはこれまで、深刻な社会問題に対して、聖フランシスコから受け継いだ信念（神と被造物が絶対的に善であるという信念、愛とご托身とそのキリスト中心的な意味の一義的重要性）に基づいて具体的な方法で応えてきました。初期の在世フランシスコ会のメンバーによる武器の放棄は、ヨーロッパの封建制度を崩壊させるきっかけとなりました。フランシスカンたちはヨーロッパで最初の薬屋を始めた人たちでもありますが、そのきっかけは、アッシジになだれ込んで来ていた多くの衰弱した巡礼者たちの手当てだったのです。借金の膨大な利子の返済に苦しんでいた貧しい人々を守るために、イタリアの兄弟たちはモンテ・ピエタティスという現代の銀行制度の前身ともいえるべき金融組織を創立しました。数え切れないほど多くのフランシスカンたちが、家のない若い人々に自宅を開放し、社会が与えてくれない庇護と教育を彼らに提供してきました。貧しい人々が医療サービスを受けられない国々で、フランシスカンたちは病院や医療システムを作ることによって実際的な方法で必要に応えたのです。

フランシスコは大きな使命にとりつかれていました。彼は神と神の平和のメッセージの使者でした。神の愛のメッセージは、フランシスコの中で激しく燃えさかっている抑えきれないほどでした。彼の時代の使者たちは主人の前を行ってその到着を知らせましたが、フランシスコも同じように、村から村へと旅をして神の善と平和を告げ知らせたのです。フランシスコによれば、福音は言葉によってだけでなく、何よりもまず福音的生活を生きることによって告げ知らされるものです。適切と思われるときに、また、聖霊に促されたときに、私たちは他者に自分の信仰の理由を説明しますが、決して論争

的になることはありません。フランシスコにとって、もっとも完全な形の福音宣教とは殉教でした。殉教によって私たちは完全な福音宣教者であるイエスに結ばれ、神の愛という福音のメッセージのために自分の命を完全に捧げるのです。

「太陽の賛歌」や「隠遁所のために与えられた規則」などの小品集、小さな兄弟たちやクララ会の姉妹たち、悔悛者たちとの交わりをみると、フランシスカン運動がまさに最初から女性的・男性的エネルギーとタレントを組み合わせていたことがわかります。歴史的に、また理論的に、フランシスカンの生活とは男性と女性の相互的な敬意、協力、協同を意味しているのです。

フランシスコが考えた「偉大な王」は、彼の時代のキリスト教徒の神と同じであると同時に非常に異なってもいました。教会がその敵であるサラセン人に対して聖なる十字軍を派遣して戦わせた時代に、福音的生活とその要求についてのフランシスコの解釈は革命的とも言えるものでした。彼の争いに対する態度は、非暴力的で、独創的かつ行動的でした。彼が受身だったというわけではありません。彼は仲裁役を買って出、対立する両陣営に和解のための対話を求めたのでした。フランシスコは対話に素早く、キリスト教徒の敵とみなされていた裕福なスルタンと対話し、また、グッピオの人々に恐れられていた狼とも対話したのです。兄弟たちはアッシジの司教と市長を公衆の面前で叱責することなく、「太陽の賛歌」を彼らの前で歌うことによって和解させることに成功したのでした。

フランシスコが「太陽の賛歌」を書いたのは深い落胆の時期のことでした。その頃、彼は病気で、イエスからの肉体的な傷と兄弟たちに対する失望という心理的な悩みに苦しんでいたにもかかわらず、完全な喜びを体験し続けました。痛みの中の彼の喜びは自虐的なものではありませんでした。彼は痛みと傷を素直に認めるとともに、その傷のうちに支えられる意外な喜びを発見したのです。彼を苦しみの中で支えてくれる何らかの恩寵、あるいは尊いお方の存在があったにちがいません。フランシスコの喜びは、もっとも苦しい時に聖霊が彼を支えてくれるという認識から来るものでした。「総長」

である聖霊はフランシスコを、理解されるよりも理解すること、慰められるよりも慰めること、愛されるよりも愛することを求めるように導いたのです。フランシスカンの喜びとは、単に人間の苦しみや問題を否定するものではありません。それは、人生がどれほど理不尽であっても、聖霊は常に私たち、他者、被造物のうちにおられるという信念です。喜びがあったからこそ、フランシスコは苦痛と失望の中にあってもひねくれずにいられたのでした。

結論

聖フランシスコと聖クララは、愛によって暴力を徐々に緩和する方法を知っていました。開かれた眼とあらゆる階層の人々に対する愛情に満ちた敬意をもって、2人は貧しい人々の中で貧しく生きることを選んだのです。二人は、当時の社会のネガティブな悪い面にこだわるよりも、建設的な行動によって社会のポジティブな面を強調する預言的な方法を選んだのでした。

フランシスカンは、貧しい人々の必要の中に示される時代のしるしを読み取る伝統を持っています。貧しい人々の必要に対する応えは、実際的で、大抵の場合小さなステップでしたが、抑圧的な文化的体系を打破するのに役立ちました。

今日、共同体としてまた個人として私たちに突きつけられた課題は、これらの伝統的なフランシスカンの霊性を現代の具体的な状況や文化に即して発達させることです。問題の症状を検討するだけではなく、根本原因を探りながら、私たちは建設的で実際的な解決策を考案するために勤勉に働かねばなりません。

確かな教育と実践を身に付けた私たちは、社会の中に「平和と善」を実現するために私たちに与えられた新しい道具を活用しなければなりません。私たちはフランシスカンの初期および生涯養成プログラムが、正義・平和・被造物の保全に関する聖書的・宗教的・倫理的考察を含むものであると同時に、社会学・心理学・政治学に対する造詣をも深めてくれるものであることを願

っています。和解・貧しい人々に対する配慮・被造物の保全を提唱する私たちの活動は、もっと一般に広く知れわたるべきなのです。

私たちは、この地球とその社会が抱える諸問題に応えるという重要な義務と課題を、善意あるすべての人々と共有しています。私たちの伝統・数・教育・様々な社会における倫理的影響力を考えれば、国際社会が世界の諸問題に及ぼすフランシスカン家族のポジティブな影響力に期待するのも当然と言えます。「多くが与えられた人々には、多くが期待されるのです」。

国際インターフランシスカン正義と平和委員会、1993年

8 . 連絡先 (1999年現在)

フランシスカン家族協議会

Ministro Generale OFM
Via Santa Maria Mediatrice 25
00165 Roma, Italy
Tel: (+39.06) 68 49 19 Curia
Fax: (+39.06) 63 80 282 Curia
E-mail: mingen@ofm.org
Web: <http://www.ofm.org/>

Ministro Generale OFM Conv.
Piazza SS. Apostoli 51
00186 Roma, Italy
Tel: (+39.06) 699 571
Fax: (+39.06) 699 57 321
E-mail: jzambanini@ofmconv.org
Web: <http://www.ofmconv.org/>

Ministro General OFM Cap.
Via Piemonte 70
00187 Roma, Italy
Tel: (+39.06) 4620 121
Fax: (+39.06) 4620 1210
E-mail: curiagen08@ofmcap.org
Web: <http://www.ofmcap.org/>

Ministro General TOR
Via dei Fori Imperiali I
00186 Roma, Italy
Tel: (+39.06) 699 15 40
Fax: (+39.06) 678 49 70
Web:
<http://home.penn.com/franciscanstor/>

Presidente CFI-TOR
Piazza del Risorgimento 14, Int. A-1

00192 Roma, Italy
Tel: (+39.06) 39 72 35 21
Fax: (+39.06) 39 72 35 21
E-mail: isctorsg@tin.it

Ministro Generale OFS
Via Pomponia Grecina 31
00145 Roma, Italy
Tel: (+39.06) 512 39 64
E-mail: ciofs@ofs.it
Web: <http://www.ofs.it/>

OFM JPIC Office
Via S. Maria Mediatrice 25
00165 Roma, Italy
Tel: (+39.06) 6849 1218
Fax.: (+39.06) 6849 1266
E-mail: pax@ofm.org
Web: <http://www.ofm.org/>

Fraternitas
Curia Generaliza dei Frati Minori
Via S. Maria Mediatrice 25
00165 Roma, Italy
Tel: (+39.06) 68 49 19 Curia
Fax: (+39.06) 63 80 292 Curia
E-mail: comgen@ofm.org
Web: <http://www.ofm.org/>

ローマの組織

Pontifical Council for Justice and
Peace
Palazzo San Callisto
00120 Vatican City State
Tel: (+39.06) 69 88 71 91
Fax: (+39.06) 69 88 72 05
E-mail: pcjust@justice.va
Web: <http://www.ofm.org/>

JPIC Commission of the Union of
Superior General

Via Aurelia 476
00100 Roma, Italy
Tel/Fax: (+39.06) 662 29 29

非政府組織 (NGO)

Franciscans International
211 East 43rd St. Room 1100
New York, NY 10017-4707, USA
Tel: (+1.212) 490 4624
Fax: (+1.212) 857 4977
E-mail: franintl@undp.org
Web: <http://www.franintl.org/>

Franciscans International and
Dominicans
P.O.Box 97
1211 Geneva 25, Switzerland
Tel: (+41.22) 839 20 91
Fax: (+41.22) 839 21 29
E-mail: geneve@compuserve.com
Web: <http://www.fiop.org/>

Pax Christi International
Oude Graanmarket 21
1000 Brussels, Belgium
Tel: (+32.2) 502 55 50
Fax: (+32.2) 502 46 26
E-mail: office@pci.ngonet.be
Web: <http://www.pci.ngonet.be/>

Amnesty International
1 Easton Street
London WC1X 8DJ, United Kingdom
Tel: (+44.1-71) 413 55 00
Fax: (+44.1-71) 956 11 57

E-mail: amnestyis@amnesty.org
Web: <http://www.amnesty.org/>

International Committee of the
RedCross
19, Avenue de la Paix
CH-1202 Geneva, Switzerland
Tel: (+41.22) 734 60 01
Fax: (+41.22) 733 20 57
E-mail: webmaster.gva@icrc.org
Web: <http://www.icrc.org/>

Oficina Internacional de Derechos
Humanos-Accion Colombia
OIDH-ACO
Lourdes Castro
Vlasfabriekstraat 11
B-1060 Brussel, Belgium
Tel: (+32.2) 536 11 11
E-mail:
Lourdes.Castro@ncos.ngonet.be

Catholic Institute of International
Relations (CIIR)
Unit 3 Canonbury Yard
190a New North Road, Islington
London N1 7BJ, United Kingdom
Tel: (+44.1) 71 354 08 83
Fax: (+44.1) 71 359 00 17
E-Mail: ciirlon@gn.apc.org

International Alert
1 Glyn Street
London SE115 HT, United Kingdom
Tel: (+44.1) 71 793 83 83
Fax: (+44.1) 71 793 79 75
E-mail: intlalert@gn.apc.org

Peace Brigades International

Archway Resource Centre
1b Waterloo Road
London N19 5NJ, United Kingdom
Tel: (+44.1) 71 272 44 48
Fax: (+44.1) 71 272 92 43 (attention
of
PBI-Colombia)
E-mail: pbicolombia@gn.apc.org
Web:
<http://www.igc.apc.org/pbi/index.html>

OMCT/SOS Torture
Rue de Vermont 37-39
1211 Geneve 20, Switzerland
Tel : (+41 22) 733 31 40
Fax : (+41 22) 733 10 51

APT (Association for the prevention
of
torture)
P.O.Box 2267
1211 Geneva 2, Switzerland
Tel: (+41.22) 734 20 88
Fax: (+41.22) 734 56 49
E-mail: apt@apt.ch
ICMC (International Catholic
Commission for Migration)
37-37, rue de Vermont
1202 Geneve, Switzerland
(P.O.Box 96, 1211 Geneve 20,
Switzerland)
Tel: (+41 22) 919 10 20
Fax: (+41 22) 919 10 48
E-mail: secretariat@icmc.dpn.ch

Washington Office on Latin America
1630 Connecticut Avenue
Washington D.C. 20009, USA
Tel: (+1.202) 797 21 71

Fax: (+1.202) 797 21 72
E-mail: wtate@wola.org

Meryknoll Office for Global Concerns
Peace, Social Justice and Integrity of
Creation
P.O.Box 29132
Washington D.C. 20017 , , USA
Tel: (+1.202) 832 17 80
Fax: (+1.202) 832 51 95
E-mail: mknolldc@igc.apc.org
Web: <http://www.maryknoll.org>

Centro de Derechos Humanos
Serapio Rendon 57B
Col. San Rafael
06740 Mexico, D.F., Mexico
Tel: (+52.5) 66 78 54 or 46 82 17
Fax: (+52.5) 35 68 92
E-mail: prodh@laneta.apc.org

国連機関

His Excellency
Secretary General of the United
Nations
United Nations Headquarters
New York, NY 10017, USA
Web: <http://www.un.org/>

Managing Director
International Monetary Fund, IMF
(FMI)
700 19th Street, N.W.
Washington D.C. 20431, USA
Tel: (+1.202) 623 70 00
Fax: (+1.202) 623 46 61
E-mail: pulicaffairs@imf.org
Web: <http://www.imf.org/>

President World Bank
1818 H. Street, N.W.
Washington D.C. 20433, USA
Tel: (+1.202) 473 06 93
Fax: (+1.202) 522 33 13 or 522 32 28
Web: <http://www.worldbank.org>

Office of the High Commissioner for
Human Rights
Palais Wilson
12, rue des Paquis
1201 Geneva, Switzerland
Tel : (+41.22) 917 12 34
Fax : (+41.22) 917 90 12
Web : <http://www.unhchr.ch/>

ILO (International Labor Office)
Route des Morillons 14
1202 Geneva, Switzerland
Tel : (+41.22) 799 61 11
Web: <http://www.ilo.org/>

WTO (World Trade Organization)
Rue de Lausanne 154
1202 Geneva, Switzerland
Tel : (+41.22) 739 51 11
Fax: (+41.22) 731 42 06
Web: <http://www.wto.org/>

UNHCR (United Nations High
Commissioner for Refugees)
1202 Geneva, Switzerland
Tel: (+41.22) 739 81 11
E-mail: hqpi00@unhcr.ch
Web: <http://www.unhcr.ch>

政府

US Secretary of the Treasury
1500 Pennsylvania Ave, N.W.
Washington D.C. 20220, USA
Tel: (+1.202) 622 20 00
Fax: (+1.202) 622 64 15
E-mail: OPCMAIL@treas-sprint.com

President
The White House
Washington D.C. 20500, USA
Tel: (+1.202) 456 14 14
Fax: (+1.202) 456 24 61
E-mail: president@whitehouse.gov
Web: <http://www.whitehouse.gov/>

US Secretary of State
2201 C. Street, N.W.
Washington D.C. 20520, USA
Web: <http://www.state.gov/>

Prime Minister
10 Downing Street
London SW1A 2AA, United Kingdom
Tel: (+44.171) 270 30 00
Web:
[http://www.number-10.gov.uk/index.h
tml](http://www.number-10.gov.uk/index.html)

Bundeskanzler
Berlin, Germany
Web: <http://www.bundeskanzler.de>

President European Commission
200 Rue de la Loi
1049 Bruxelles, Belgium
Tel : (+32.2) 299 11 11
Tel : (+29) 53914 / 62288
Fax : (+29) 605 54
E-mail : echo@echo.cec.be

President of Russia
Kremlin
Moscow, Russia
Tel: (+7.95) 925 35 81
Fax: (+7.95) 206 85 10
Web: <http://www.gov.ru/>

Prime Minister
House of Commons 111 Wellington St
Ottawa, Ontario K1A 0A2, Canada
Tel: (+1.613) 992 42 11
Web: <http://www.canada.gc.ca/>

President of the Republic
Palais de l'Elysee
55, rue du Faubourg Saint-Honore
75008-Paris, France
Web : <http://www.elysee.fr/>

Prime Minister
Prime Minister's Office
57, rue de Varennes
75700 Paris, France
Web :
<http://www.premier-ministre.gouv.fr/>

Prime Minister
Palazzo Chigi
Piazza Colonna
00187 Roma, Italy
Web: <http://www.palazzochigi.it/>

Prime Minister Office
1-6-1 Nagata-cho
Chiyoda-ku
Tokyo 100, Japan
E-mail: ipm@kantei.ga.jp
Web:

<http://www.sorifu.go.jp/english/index.html>

代理機関

Misereor (Funding Agency for Latin America, German Catholic Bishops)
Mozartstrasse 9
D-52064 Aachen, Germany
Tel: (+49.241) 442 178 or 442 223
Fax: (+49.241) 442 188
Web: <http://www.misereor.de/>

Trocaire (Irish funding agency for Caritas Latin America)
Departemento de Proyectos
169 Booterstown Avenue
Blackrock, Co. Dublin, Ireland
Tel: (+353.1) 288 53 85
Fax: (+353.1) 283 6022
E-mail: patty@trocaire.ie
CAFOD
Roero Close
Stockwell Road
London SW9 9TY, United Kingdom
Tel: (+44.1) 71 733 79 00
Fax: (+44.1) 71 274 96 30
E-mail: hqcafod@cafod.org.uk
Web: <http://www.cafod.org.uk/>

Oxfam House
274 Banbury Road
Oxford, OX2 7DZ, United Kingdom
Tel: (+44.1865) 311 311
E-mail: Oxfam@oxfam.org.uk
Web: <http://www.oxfam.org.uk/>

USCC (United States Catholic
Conference
Bishops)
Department of Social Development
and
World Peace
3211 4th Street NE
Washington DC 20017-1194, USA
Tel: (+1.202) 541 31 53
Fax: (+1.202) 541 33 39
E-mail: sdwpmail@nccbuscc.org
Web: <http://www.nccbuscc.org/>

One World – a community of over 350
global justice organizations. One
World is dedicated to promoting
human rights and sustainable
development by harnessing the
democratic potential of the Internet.
<http://www.oneworld.org/>

USCC (United States Catholic
Conference Bishops)
Migration and Refugees Services
3211 4th Street NE
Washington DC 20017-1194, USA
Tel: (+1.202) 541 32 60
Fax: (+1.202) 541 33 99
E-mail: mrs@nccbuscc.org
Web: <http://www.nccbuscc.org/>

JRS (Jesuit Refugee Service)
Borgho Santo Spirito 4
00193 Roma
PO Box 61.39 0095 Roma Prati, Italy
Tel: (+39.06) 689 77 388
Fax: (+39.06) 940 22 60
E-mail: jrs.rome@agora.stm.it
Web: <http://www.jesuit.org/refugee/>

Caritas International
Piazza San Callisto, 16
00120 Vatican City
Tel: (+39.06) 69 88 71 97
Fax: (+39.06) 69 88 72 37
E-mail: ci.comm.@caritas.va
Web: <http://www.caritas.net/>

9 . 様々な信仰の伝統による祈り

聖フランシスコへの祈り

(教皇ヨハネ・パウロ二世、1993年9月17日、La Verna)

おお、ラ・ヴェルナで聖痕を受けられた聖フランシスコよ、
世界は、十字架につけられたイエスの似姿として
あなたを求めています。

世界は、神と人とに開かれたあなたの心、
あなたの傷ついた裸足、
あなたの刺し貫かれ、請い願う手を必要としています。

世界はあなたの弱々しい声、
福音の力で強くなった声を求めています。

おお、フランシスコよ、今日の人々が
罪の悪を認識し、
悔い改めの中でそれを洗い流すことを求めるよう助けてください。

彼らが、今日の社会を押しつぶしている
悪の構造そのものから
自らを解放するのを助けてください。

為政者たちの意識の中に、
国家間と民族間の平和の緊急な必要性を呼び覚ましてください。

若者たちの心に、あなたの生への情熱を注いでください。
彼らが多くの死の文化の罿を
避けることができるよう助けてください。

あらゆる種類の悪意によって
傷つけられたすべての人に、
フランシスコよ、赦すことを学ぶことの喜びを
伝えてください。

苦しみ、飢え、戦争によって
十字架につけられているすべての人に、
もう一度、希望の扉を
開いてください。
アーメン。

聖霊への祈り（ヘルマン・シャルック）

神よ、私たちは今日、あなたに祈ります。あなたの霊を送ってください、私たちのために燃え輝く炎となり、私たちの影を照らし、私たちの愛をもう一度生き返らせるために。聖霊が私たちにとって、快い息となり、未来に対する私たちの臆病な不安を慰め、やわらげてくださいますように。聖霊が私たちの帆をふくらませ、大胆な針路に向かわせ、私たちを新しい地平へと導く強い風となりますように。聖霊が、旱魃の後で新しい花々を咲かせるために、空気と水を清める嵐となりますように。おお、私たちの生活と歴史の主よ、あなたの霊によって、あなたが真に私たちに授けてくださった古い使命が、この新しい時代においてもなお世界を変えることができるということを、私たちが直接に体験することができますように。

ポルチウンクラの聖母への祈り（ヘルマン・シャルック）

マリアよ、貧しく十字架につけられた私たちの兄弟で主であるイエス・キリストの母よ、
私たち家族の母にして貧しい者の母よ、
私たちが今日あなたに捧げる、つつましく信頼に満ちた祈りを聞き入

れてください。

今日、物質的なパンと精神的なパンを持たない人々がたくさんいます。多くの人々の精神と心には、真理と愛のパンが欠けています。多くの人々の間には、み言葉のパンと主のパンがありません。

多くの人々の心から、
不毛のもととなるエゴイズムを取り除いてください。

世界のすべての人々が、真の光を受け入れ、
私たちの神の人間性に根ざした
お互いに対する尊敬と連帯の中で、
平和と正義の道を歩むことができますように。

ポルチウンクラの聖母よ、
私たちの希望に光を与え、私たちの心を清め、
すべての人にとってより正しくより自由な世界へと向かう
福音宣教の道において、私たちと共にいてください。
アーメン。

平和の建設者となるために（パウロ六世）

平和の神なる主よ、
あなたの善意の対象である私たちを、
あなたの栄光を分かち合うために創造された方よ、
私たちはあなたをあげ、あなたに感謝します。
なぜならあなたは、もっとも愛する息子であるイエスを
私たちのもとに送ってくださり、
その過ぎ越しの神秘によって、
彼を救い主、すべての平和の源、
すべての兄弟の絆とされたからです。

平和の霊が私たちの時代に呼び起こされた、
憎しみを愛に、不信を理解に、
無関心を連帯に変えるための熱意と努力と成果の故に、
私たちはあなたに感謝します。
私たちがさらに偉大な平和の建設者となることができるように、
私たちの魂と心を、私たちの兄弟愛が求める具体的な要求に対して
もっと開いてください。

慈しみ深い父よ、
より兄弟的な世界の誕生のために苦しみ、死んでゆく
すべての悩める人々を心に留めてください。
人種や言語の違いを超えて、すべての人々が、
あなたの正義と平和と愛のみ国に来ますように。
地上があなたの栄光で満たされますように。
アーメン。

兄弟になろう、国境のない兄弟に（R. フォルロー（R. Follereau））

主よ、人類はこの百年の間に、百回もの戦争をしてきました。
あなたの子どもたちに、互いに愛し合うことを教えてください。
主よ、あなたの愛がなければ、愛はありえません。
毎日、喜びにおいても苦しみにおいても、
私たちを国境のない兄弟にしてください。
そうすれば、私たちの病院はあなたの大聖堂となり、
私たちの研究室はあなたの偉大さの証拠となるでしょう。
一度は忘れられていた人々の心に、
あなたの幕屋が輝くでしょう。
その時、憎しみ、暴力、金銭に押しつぶされた私たちの文明は、
あなたの善以外のなにものにも支配されず、
平和と正義のうちに栄えるでしょう。
夜明けが暁となり、そして昼間となるように、

あなたの愛は2000年の子どもたちが
希望のうちに生まれ、平和のうちに育ち、
最後には、主よ、あなたがいのちであることを発見して、
光に到達するように望んでおられます。

私たちに調和と平和をお与えください（教皇クレメンス三世）

主よ、あなたにお願いいたします。
あなたの息子たち、娘たちの罪を数えないでください。
むしろ、あなたの真実の清らかさで彼らを清めてください。
また、清らかな心で歩み、
あなたの目と、私たちを導いてくださる方の目に、
美しく、喜ばしく映るようなことをするように、
私たちの歩みをまっすぐにしてください。
そうです、主よ、私たちに平和の具を与え、
あなたの力強い手で私たちを守り、あなたの権威ある腕で
私たちをすべての罪から解放し、また、
不当に私たちを憎む者から私たちを救うために、
あなたの顔を私たちに示してください。
私たちと、世界のすべての住民に、
調和と平和をお与えください。
あれほど謙遜に、信仰と真実をもって
あなたに祈った私たちの祖先に
そうされたように、
力強くあらゆる徳に満ちたあなたのみ名の僕である私たちにも
それをお与えください。
主よ、あなたはこの地上の王や指導者たちに、
あなたの素晴らしく形容しがたい権威を通して
国を治める力をお与えになりました。
それは、彼らがあなたから与えられた
栄光と名誉を認識するためです。

主よ、あなたは彼らに
健康、平和、調和、確信をお与えになりました。
それは、彼らがあなたから与えられた権威を
支障なく行使するためです。
主よ、あなたの目に美しく快いものに従って
彼らの意思を導いてください。
彼らが、あなたから与えられた力を、
平和と謙遜のうちによく使うことによって、
あなたにふさわしいものとなるように。
私たちの間でこのような良いことがお出来になる唯一の方であり、
もっと偉大な方であるあなたに、
私たちは、偉大なる祭司であり私たちの魂の守護者である
イエス・キリストを通して、あなたに感謝を捧げます。
この方のゆえに、あなたに感謝と偉大さが帰せられますように、
今もいつも世々にいたるまで。アーメン。

主よ、教えてください（R. フォルロー）

主よ、教えてください、自分たちを愛さないことを、
自分たちだけを愛さないことを、
自分たちを愛する者だけを愛さないことを。
他者のことを考え、
誰にも愛されない人をまず最初に愛することを教えてください。
主よ、他者の苦しみを私たちにも味わわせてください。
私たちがあなたに守られて、喜びでいっぱいの生活をしているとき、
飢えて死ぬにふさわしいことは何もしていないのに飢えて死に、
凍え死ぬにふさわしいことは何もしていないのに凍えて死んでゆく
何百万人もの他の人々、
あなたの子どもであり
私たちの兄弟姉妹である人々がいるということを
理解する恵みをお与えください。

主よ、世界のすべての貧しい人々を憐れんでください。
何の根拠もない恐れから、
彼らを見捨ててきた私たちをお赦してください。
そして、主よ、私たちがもう自分ひとりだけで
幸せに生きることがないようにしてください。
私たちが世界の悲惨さを感じ取ることができるように助け、
私たちを自分自身から解放してください。アーメン。

その人は道の真ん中にいた（ミッシェル・クオスト）

その人は道の真ん中にいました、
千鳥足で、酔っ払いのしゃがれた声で
大声で歌いながら。
人々は面白がって振り返り、立ち止まりました。
警察官が静かに後ろから近づき、
乱暴に彼の肩を掴んで、
警察に連れてゆきました。
彼はまだ歌っていました。
そして人々は笑っていました。

主よ、私は笑いませんでした。
私は、その夜空しく彼の帰りを待つ彼の妻のことを考えました。
この町の他のすべての酔っ払いのこと、
パブやバーや、リビングルームやカクテルパーティーにいる
人々のことを考えました。
彼らの夜の帰宅のことを、
怖がる子どもたち、
空っぽの財布、
拳、
泣き声、
涙のことを考え、
酔った抱擁によって生を受ける子どもたちのことを考えました。

主よ、今あなたは夜のとばりを広げます。
そして悲劇が展開する間、
アルコールを正当化した人々、
アルコールを製造した人々、
アルコールを売った人々は
その同じ夜、平和に眠っています。
私はこれらの人々のことを考え、彼らを憐れみます。
彼らは苦悩の種を売り、
罪を生産し、売ったのです。
私は他の人々のことを考えます、
建設するためではなく破壊するために、
高揚させるためではなく麻痺させるために、
品位を高めるためではなく貶めるために
働いているすべての人々の群れのことを。
主よ、私は特に戦争のために働く多くの人々のことを考えます、
家族を養うために、
他者を破滅させる仕事をせねばならない人々のことを、
生きるために、死を製造しなければならない人々のことを。

主よ、彼ら全員にその仕事をやめさせてほしいとはお願いしません。
それは不可能なことです。
しかし、主よ、
彼らがそれを疑問に思いますように、
彼らの眠りが不安で乱されますように、
彼らがこの混沌とした世界と戦えますように、
彼らがパン種として働き、
救う者となりますように。
兄弟たちの仕業によって、魂と体に傷を負ったすべての人のために、
何千人もの人々が入念に製造した死によるすべての死者のために、
道の真ん中で酔っ払ったあのグロテスクな道化のために、

彼の妻の屈辱と涙のために、
彼の子どもたちの恐怖と泣き声のために、
主よ、ついまどろんでしまう私を憐れんでください。
主よ、完全に眠りこけていて、
兄弟たちが糧を得るために互いに殺しあうような
世界に協力しているすべての惨めな人々をも憐れんでください。

貧しい神に貧しい人として従うために （シャルル・ド・フォーコー）

主イエスよ、あなたを心から愛し、
「善い方」よりも豊かであることに耐えられない人は、
どうすればすぐに貧しくなることができるのでしょうか？

主イエスよ、
これらのうちの一人にしたことはあなたにしたことであり、彼らに
しなかったことはあなたにしなかったことだと考えている人は、
どうすればすぐに貧しくなることができ、
周囲の人々を悲惨さから解放することができるのでしょうか？

主イエスよ、
「もし完全でありたいなら、持ち物をすべて売り払い、
貧しい人に与えなさい」「貧しい人は幸いである、
なぜなら私のために持ち物をすべて失うこと
を望む人は、この世でその100倍を受け、
天上では永遠のいのちを受けるからである」
というあなたの言葉と、その他たくさんのごことを
信仰によって受け入れる人は、どうすればすぐに
貧しくなることができるのでしょうか？
わが神よ、あなごの貧しさを見ながら
平気で金持ちでいられる人の気持ちが私にはわかりません。

自分のことを主人より、
「愛する善」よりも偉大であると考えて、
すべてにおいて、特に低くされたことにおいてあなたに
倣おうとしない人の気持ちが私にはわかりません。
私は彼らがあなたを愛することを心から望んでいます。
しかし神よ、彼らの愛には何かが欠けているのです。
ですから、私に関する限り、
私は愛を、あなたに従い、あなたに倣い、
そして何よりも人生のすべての苦しみ、
困難、希望を分かち合おうと願うことの緊急の必要性から
切り離して考えることはできません。
あなたが貧しく、悲惨な窮乏の中で生活し、
重労働に耐えておられたのに、自分は虚栄の中で豊かに、
ぬくぬくと物に囲まれて快適に暮らしながらあなたを愛するこ
となど、神よ、私にはできません。
僕が主より偉大であるのは正しくないし、
夫が貧しい時に（特に自らすすんで貧しくなっている時に）
妻が金持ちであるのは正しくありません。

神よ、私は誰のことも裁きません。
他者はあなたの僕、私の兄弟であり、私には彼らを愛し、
彼らに善をなし、彼らのために祈ることしかできません。
しかし、あなたと同じようになろうとせずに、また、
あなたのすべての十字架を分かち合おうとすることなく、
愛を理解することなど私には不可能です。

私の声を聞いてください（ヨハネ・パウロ二世）

自然と人類、真実と美の創造主よ、
私は祈りを捧げます。

私の声を聞いてください、
それは、個人同士の、また国と国との
戦争や暴力の犠牲者の声だからです。

私の声を聞いてください、
それは、人々が武器と戦争に頼るとき、
いつも苦しみ、これからも苦しみつづける
すべての子どもたちの声だからです。

私の声を聞いてください
すべての人の心に
平和の知恵、正義の力、友情の喜びを注いでくださいと
私があなたにお願いする時に。

私の声を聞いてください、
私は、戦争を望まず、平和の道を歩みたいと願っている
あらゆる国、歴史上のあらゆる時代の多くの人々の名において
話しているからです。

私の声を聞いてください、
憎しみに愛をもって、
不正に正義への完全な奉獻をもって、
必要に自分自身の参加をもって、
戦争に平和をもって応える
能力と力をお与えください。

ああ神よ、私の声を聞いてください、
そして、いつも世界にあなたの平和をお与えください。

平和の君 （ヨハネ23世）

平和の君は、人間の心から
平和を脅かすすべてのものを遠ざけ、
人々を真実、正義、兄弟愛の証人に変えてくださいます。
国家に対して責任を負う人々を啓蒙してください、
彼らはその国民の幸福を第一に考え、
平和という大いなる贈り物を保証し、守るように。
すべての人の意思を燃え立たせてください、
分割する障壁を乗り越えることができるように。
互いの愛の絆を育ててください、
他者を理解するために、また、他者を傷つける人々を赦すために。
あなたの行為のおかげで、地上のすべての人々がより近くなり、
待ち望んだ平和が彼らの中でいつも栄え、支配しています。

対立しない力をお与えください（ユダヤ教の祈り）

おお、主よ、
悪、策略、虚偽を語ることがないように
私の唇をお守りください。
私を侮辱する人々と
対立しない力をお与えください。
その力によって、
教訓が実現する喜びと
あなたの掟を十分に理解する喜びが
得られますように。
私が高慢にならないようにしてください。
私に害を加えようとする人々の
意地の悪い計画を
無効にしてください。
私に、知恵、忍耐、聡明さ、生計の手段、
信心深さ、慈悲をお与えください。
創造の調和を確立されたお方よ、

人類とイスラエルに平和をお与えください。

暴力のない文化を築くのを助けてください（ヨハネ・パウロ二世）

万物の神である主よ、あなたはあなたのすべての子らが聖霊によって一つに結ばれ、調和と平和のうちに互いを受け入れることによって共に生き成長することを望んでおられます。私たちの心は、人間のエゴイズムと貪欲が現代におけるあなたのご計画の実現を妨げているために、苦しんでいます。

私たちは、平和があなたからの贈り物であることを知っています。私たちはまた、あなたの道具として協力するためには、知恵をもってこの地球資源をすべての人の真の発展のために管理することが必要であるということも知っています。この知恵は、生命に対する尊敬と深い崇敬の念、人間の尊厳と各人の良心の聖性に対する思いやり、そして法律と生活におけるあらゆる形の差別に対する継続的な闘いを要求します。

私たちは、兄弟姉妹と共に、歴史におけるあなたの現存とみ業に対する知識を深め、真実と責任をより効果的に実践し、あらゆる形態の抑圧からの解放を求め、すべての障壁の撤廃によって兄弟愛を育み、正義とすべての人々の人生の豊かさを求めるために、自分自身を捧げます。主よ、私たちが協同の努力において互いに積極的に協力しながら生活し、成長することができるようにしてください。暴力のない文化を築くために、また、破壊的な武器の製造に安全を託すのではなく、相互信頼と、愛・真実・平和に満ちた世界文明においてあなたのすべての子らによりよい未来を残そうとする勤勉な労働とに安全を託す世界共同体を築くために。。

主よ、本当にそうしたいのです（R.フォルロー）

主よ、私は本当に他の人々が生きるのを助けたいのです。
何故とわからぬままにうめき苦しみ、
苦しみから解放してくれる死を待っているすべての人々、
私たちの兄弟を。
私は働きたいのです、
すべての人々が食べることができ、働くことができ、
最後には年を取って死んでゆくことができるように。

いいえ！これはあなたの約束された平和ではありません！
主よ、私は本当に他者が生きるのを助けたいのです・・・
不毛の感情で施しを侮辱することなく。
貧しい人々の死を防ぐのは良いことです。
しかし、もしそれが彼らを一生
飢えて死ぬがままにまかせることになるなら、
彼らの人生を終わりなき死にしてしまうことになるなら、
私は彼らの暗殺に手を貸したことになるでしょう。
何故なら私は、彼らが生きるのを助けるはずの
余剰品を無駄遣いしているからです。
世界の富を仲良く分け合うことは、
あなたの創造のみ業に参加することです。
主よ、私は本当に他の人々を助けたいのです、
孤立状態で闘っている他のすべての人々、私たちの兄弟を。
縛られた心と妥協した良心で、
こんなにも多くの人々の人生を腐らせるあの惨めなお金を
少々、貪欲に蓄えるために、
または、楽園での実在しないわずかな時間を「手に入れる」ために、
お互いを苦しめ、踏みつけ合っている他のすべての人々、
私たちの兄弟を。

いいえ！これはあなたが約束された平和ではありません！
主よ、私は本当に他の人々を助けたいのです、

孤独の中で迷っている他のすべての人々、私たちの兄弟を・・・
あなたに辿り着くために、彼らをあせりから、
あなたに耳をかたむけるために、彼らを混乱から、
あなたを知るために、彼らを富から、
あなたが約束された平和を知るために、彼らを空しい虚栄から
解放してあげたいのです。
彼らの解放に私の人生を捧げさせてください、
もしそれがあなたのみ旨なら。

私は平和を信じる (Boze Vuleta、クロアチア)

私は平和を信じます、
それは指示されたものではなく
認められたもの、
義務付けられたものではなく
提供されたもの、
命令されたものではなく
与えられたもの、
外面的な義務ではなく
内面的な決意、
決して完成することはないが
永久に築かれてゆくもの、
排斥されるものではなく
宣べ伝えられるもの、
季節ごとの収穫はないが
希望のうちに実るもの。

私は平和を信じます。
力によって得たものではなく
祈りのうちに求められ、祝われる平和を。

さまざまな宗教の祈り
(1986年、アッシジでの世界平和のための祈りの日)

仏教の平和の祈り

8世紀の仏教の聖人・学者であるShantidevaによる「菩薩の道への参加」(Engaging in the Ways of the Bodhisattva)の献呈の章からの抜粋。

悟りに至る道に入ろうとするこの努力の徳によって、
生きとし生けるものが
それらの行いに参加するようになりますように。

肉体的・精神的苦痛に悩む
この地上のすべての生きものが、
私の功德によって
一面に降り注ぐ幸福と喜びを手に入れますように。

彼らとその輪廻の中に留まる限り、
その(現世の)幸せが衰えることなく、
彼らすべてが菩薩から喜びの波を
絶え間なく受けられますように。

菩薩の偉大な雲から注がれる
果てしない水によって、
寒さに苦しむ人々が温もりを得、
熱さに苦しむ人々が涼を得ますように。

すべての動物が、お互いに食べられることの恐怖から
自由になりますように。
飢えた幽霊たちが、

北の大陸の人々と同じくらい幸せになりますように。

盲人が姿を見、
耳の聞こえない人が音を聞き、
Mayadeviがそうであったように、
妊婦が苦しまずに子どもを産むことができますように。

裸の人が衣類を、
飢えた人が食べ物を見いだしますように。
寄る辺のない人が新しい希望と、
いつまでも続く幸せと繁栄を見いだしますように。

すべての病気の人々が
速やかにその病から解放され、
世界のあらゆる病気が
二度と起こることがありませんように。

怖がっている人々が恐れるのをやめ、
束縛された人々が自由になりますように。
力のない人々が力を見だし、
人々が互いに友人となることを考えますように。

すべての旅人が、どこに行っても
幸せを見つけますように。
そして彼らが目的を
苦勞することなく達成できますように。

船で旅をする人々が、
求めるものを手に入れ、
安全に陸に戻ってきて、
親族と嬉しい再会を果たすことができますように。

道に迷って困っている放浪者たちが、
仲間の旅人たちと再会できますように。
そして、盗賊や虎を恐れることなく、
彼らの旅路が疲れを知らずたやすいものでありますように。

道のない恐ろしい荒れ野にいる人々、
子どもたち、老人、庇護のない人々、
正気を失った人々が、
天使たちに守られますように。

妊婦が苦しむことなく子を産みますように。
宇宙の宝庫のように、
また争いや害（の原因）となることなく、
彼らが望むとおりにそれをいつでも享受することができますように。

すべての形ある被造物が、
鳥たちや木々、
光や宇宙そのものから発せられる御仏の教え（sound of Dharma）を
邪魔されることなく聞くことができますように。

天が恵みの雨を降らせ、
豊かな収穫を得ることができますように。

王たちが御仏の教えに従って行動し、
世界の人々がいつも繁栄しますように。

いかなる生きものも苦しんだり、
悪を行ったり、病に倒れたりすることがありませんように。
誰も怖れたり、見くびられたり、
心が沈んだりすることがありませんように。

生きものが自分より低い世界の惨めさを
味わうことはありませんように、
また、苦難に遭うこともありませんように。
神々にまさる肉体の姿をもって、
彼らが速やかに悟りの境地に達しますように。

宇宙が続く限り、
また、生命を持つものがある限り、
私もまたその時まで
世界の惨めさを払いのけて生きてゆくことができますように。

生きるもののあらゆる苦しみが
私の上（のみ）に実を結び、
菩薩僧団（Bodhisatta Sangha）の力を通して、
すべての生きものが幸せを体験することができますように。

ヒンズー教の平和の祈り

A. ウパニシャッドからの祈り

神が私たちを守り、養ってくださいますように。
私たちが元気で共に働くことができますように。
私たちの学問が実を結びますように。
私たちが互いに愛し合い、
平和のうちに生きることができますように。
平和、平和、すべての人に平和あれ。

団結していなさい、調和のうちに語りなさい、
私たちの心が分け隔てなく理解する
ようにしなさい。私たちの集まりの目的が共通であるように。
私たちの決意が共通であるように。
私たちの熟慮が共通であるように。

仲間に対する感情が分け隔てのないように。
私たちの心が一つであるように。私たちの意図が共通であるように。
平和のための私たちの一致が完全であるように。
平和、平和、すべての人に平和あれ。

良い前兆を自分の耳で聞くことができますように。
良い前兆を自分の目で見ることができますように。
神の栄光を歌い、長寿と健康な生活を
楽しむことができますように。
平和、平和、すべての人に平和あれ。

神よ、非現実から現実へ、私たちを導いてください。
神よ、闇から光へ、私たちを導いてください。
神よ、死から永遠の命へ、私たちを導いてください。
平和、平和、すべての人に平和あれ。

B. 平和のための祈り

天に平和あれ。空と地上に平和あれ。
水に平和あれ。草木に平和あれ。
すべての神々に平和あれ。
すべての生きものに平和あれ。
平和、平和、すべてのものに平和あれ。

C. 会衆の答え

平和、平和、すべてのものに平和あれ。

D. 平和への献身

世界中のすべての宗教と協力して正義と平和の実現のために献身す

ることを確約します。

私たち、ここに集まった諸宗教の代表者たちは、私たちの共通の努力を通して人々の間に正義が実現されるよう神に祈ります。私たちはまた、あらゆる民族間の愛と平和のためにも祈ります。

ヴェーダからの賛歌

すべてのものの友である全能の神が、私たちの平和のためにいてくださいますように。聖なる審判者が私たちに平和をくださる方でありますように。すべてのものの至高なる支配者が私たちに平和をくださる方でありますように。すべての偉大なものの師であり、すべての力と豊かさの源である主が、私たちの平和のためにいてくださいますように。底知れぬ力を持ち、どこにでもおられる神が、私たちに平和をくださる方でありますように。

全能の神なる主よ、天の国に平和がありますように。地上に平和がありますように。水が渇きを癒してくれますように。薬草が健康に良く、木や草がすべてのものに平和をもたらしますように。すべての情け深い人々が私たちに平和をもたらしてくれますように。あなたのヴェーダの掟が世界中に平和を伝えますように。すべてのものが私たちにとって平和の源となり、あなたの平和そのものがすべてのものに平和を与え、その平和が私のところにも訪れますように。

イスラム教の平和の祈り

イスラム教の祈りはすべて「コーラン」からとられています。最初の部分は、コーランの第一章「ファティハ」であり、出席した全イスラム教徒によってアラビア語で暗誦されます。第二部はコーランの抜粋で、朗読者が暗誦します。

第一部： ファティハ

慈悲をくださる慈悲深い神の名において。
宇宙の主である神、慈悲をくださる慈悲深い方が
賛美されますように。
報奨の日の支配者よ、
私たちはあなたを崇め、あなたに助けを求めます。
まっすぐな道、あなたが愛する人々の道に沿って
私たちを導いてください。
あなたはその人々に対して怒らず、
彼らは道に迷うことがない。

第二部： コーランからの詩句の暗誦

あなた方はこう言いなさい。
「私たちは、神と、私たちに与えられた啓示および主
からすべての預言者に与えられた啓示を信じます。
私たちは彼らを区別せず、イスラムの神に頭を下げます。」
(スーラ II, v. 136)

おお人類よ。あなたの守護者である主を崇めよ。
主は一人の人からお前たちを作り、
同じような性質を持った彼の伴侶を作り、彼ら二人から数え切れない
男と女を種のように播かれた。お前たちが相互の権利を主張する
者を通して神を崇めよ。お前たちを生んだ胎をあがめよ。なぜなら
神はいつでもお前たちを見ておられるから。

(スーラIV, v.1)

おお、信じる者よ。神の大義のために異国に赴くとき、注意深く調
査し、お前にあいさつする者に「お前は信仰者ではない」と言って
はならない。朽ちやすいこの世の物を欲しがらな。神のもとには利

益とご褒美がたくさんある。

神がお前たちに恵みを与えてくださる前は、お前たちもまさにこのようであったのだから、注意深く調査せよ。神はお前たちが行うすべてのことをわかっておられるのだから。（スーラIV, v.94）

しかしもし敵が平和を求めるなら、お前も（また）平和を求め、神に信頼せよ。なぜなら、神こそ（すべてを）聞き、知っておられる方だからである。（スーラVIII, v.61）

そしてもっとも恵み深い方（神）の僕たちとは、謙遜に地の表を歩み、無知な者が彼らに呼びかけるとき、「平和！」と応える者たちのことである。（スーラXXV, v.63）

おお人類よ。我々はお前たちを一組の男女から創造し、民族や部族を作った。それはお前たちが互いを知り合うためであり、互いを軽蔑するためではない。まことに、神の目にもっとも名誉ある者とは、お前たちの中でもっとも正しい者のことである。そして神は完全な知識を持ち、（すべてを）良く知っておられる。（スーラXLIX, v.13）

アフリカの伝統的な平和の祈り

全能の神よ、

私たちが結び目を作るのになくってはならない「偉大なる親指」よ、

大木を引き裂くとどろく雷よ、

地上の岩山にアンテロープの足跡さえも見ておられる天上の全知の主よ、

あなたは、私たちの呼びかけにためらわずに応えてくださる方、

あなたは平和の礎です。

今日、私たちは一つの理由のゆえに、あなたに呼びかけます。私た

ちの世界には平和がありません。私たちのまわりはいつも戦争や紛争に満ちています。私たちには平和が必要です。だからこそ、教皇は世界中のすべての宗教者を、平和のために共に祈るように呼び集めたのです。

ですから、私たちは世界平和のために祈ります。平和がバチカンを支配しますように。アフリカに平和をお与えください。個人・家庭・家族に平和を与え、それを世界の隅々にまで広げてください。

私たちは教皇ヨハネ・パウロ二世とその助言者たちの長寿・知恵・平和・思慮深さ・勇気のために祈ります。彼らの上に豊かな恵みを注いでください。

平和の実現のための尊い努力を打ち砕く邪悪な人々に呪いあれ。

あなたの祝福が、平和を支持し、求めるすべての人々の上に豊かにありますように。

最後に、少ない言葉で祈ります。あなたは私たちを守り、ここまで安全に導いてくださいました。私たちの家路もお守りください。

すべての邪悪な祖先や霊が、その邪悪な飲み物を受けて破滅しますように。

しかし、私たちが呼びかけた良い霊と祖先たち、あなた方は私たちの飲み物を受け、私たちを豊かに祝福し、私たちに平和をお与えくださいますように。

ユダヤ教の平和の祈り

天におられる私たちの神、平和の主は、私たちと、平和を探し求めながら主の慈悲と憐れみを請い願う地上のすべての人々に、憐れみと慈悲をかけてくださいます。

天におられる私たちの神よ、天からの霊が私たちの上に現われ、砂漠がぶどう園となり、ぶどう園が森となるまで、行動し、働き、生きる力を私たちにお与えください。

正義が砂漠に宿り、愛がぶどう園に宿るでしょう。正義の行動は平和を創り出し、正義の働きは永遠に平安と安全を生むでしょう。そして私の民は、安全な住まいとかき乱されることのない安息の場所で平和に包まれるでしょう。

ですから、私たちの神である主、私たちの父の神よ、私たちと全世界のために、預言者ミカを通してあなたが約束されたことを実現してください。「終わりの日に、主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち、どの峰よりも高くそびえる。もろもろの民は大河のようにそこに向かい、多くの国々が来て言う。『主の山に登り、ヤコブの神に家に行こう。主は私たちに道を示される。私たちはその道を歩もう』と。主の教えはシオンから、御言葉はエルサレムから出る。主は多くの民の争いを裁き、はるか遠くまでも、強い国々を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。人はそれぞれ自分のぶどうの木の下、いちじくの木の下に座り、脅かすものは何もないと万軍の主の口が語られた。」

おお天の主よ、地上に平和をお与えください。世界に幸福を与え、私たちの住まいに平安をお与えください。

そして「アーメン」と言いましょう。

ナバホ族の聖歌（夕べの祈り）

私の前にあるもの、すべてが美しい。
私の後ろにあるもの、すべてが美しい。
私の下にあるもの、すべてが美しい。
私の上にあるもの、すべてが美しい。
私の周りにあるもの、すべてが美しい。

これがすべてを覆っている、
空と、美しい道を持つ至高の力。
すべてが美しい・・・

これがすべてを覆っている、
山々と、美しい道を持つ至高の力。
すべてが美しい・・・

これがすべてを覆っている、
水と、美しい道を持つ至高の力。
すべてが美しい・・・

これがすべてを覆っている、
闇と、美しい道を持つ至高の力。
すべてが美しい・・・

これがすべてを覆っている、
暁と、美しい道を持つ至高の力。
すべてが美しい・・・

私の前にあるもの、すべてが美しい。
私の後ろにあるもの、すべてが美しい。
私の下にあるもの、すべてが美しい。

私の上にあるもの、すべてが美しい。
私の周りにあるもの、すべてが美しい。

ナバホ族、神は私たちと共におられる。

レイプされた女性の祈り

ハヴァの嘆願

その夜、キャンプの中で七人の男に強姦されていた時に、
私はあなたに、この犬のような奴らの種を私の胎内から吐き出して
くださるように お願いしました。
主よ、どうしてあなたは私の願いを聞き入れてくださらなかったの
ですか？
私はあなたに何もしていないのに。

私はあなたにお願いしました。
せめて一瞬の間、私の拷問者の用心深い目から私を解放してくださ
いと、
私が自分の爪で子宮を引き裂けるように。
主よ、どうしてあなたは私の願いを聞き入れてくださらなかったの
ですか？
私はあなたに何もしていないのに。

私は水から顔を背けました。
私はパンから顔をそむけました。
死が私の祈りを憐れんでくれるように。
全能の神よ、すべてがあなたの手の中にあるのに、
どうして死が私を憐れんでくれるのでしょうか？

私は自分をレイプした人々に、
母を虐殺した人々に、
家を燃やした人々に、
あなたの名において嘆願しました、

もし私を殺すだけなら、四つ裂きにするだけなら、
私は彼らを赦すだろうと。
彼らは聞き入れませんでした。
しかし彼らは私にリンゴを差し出しました。
毎日毎日、彼らは自分たちの果実が育ってゆくを感じていました。

赤ん坊が私の中で最初に動いたその朝、
私はあなたに嘆願しました、
私の夫アリジャが二度と戦場から戻らないようにと。
主よ、あなたは私の願いを聞き入れてくださいませんでした。
私が病院へ連れてゆかれ、
子どもを自分の腿で窒息させないように
四人の医師たちが私の手足を固定するのが
あなたのお望みでした。
太陽を見るより、
私はその子が死んでいるのを見たいと思いました。
あるいは、子どもが自分の母親が死んでいるを見ればよいと思
いました。
主よ、どうして私の願いを聞き入れてくださらなかったのですか？
私も、この小さく哀れな無垢の子どもも、
あなたに何もしていないのに。

憐れみ深い主よ、私に力をお与えください。
私がこの子を育てられるように、
あなた以外の誰も守ってくれないこの子を。
そしてこの子が人々と彼らの真実と共に生きられるように、
恵みをお与えください。
これが、この子の不幸せな母親ハヴァのあなたへの嘆願です。

Enes Kicevi

祈りの集い

はじめに

兄弟たちはいつも何かに携わって忙しくしているので、時間に追われているということをまず申し上げておかねばなりません。このことが、JPICの仕事をしばしば困難にしています。兄弟たちは時間内にしなければならないたくさんの任務、責任、要望を抱えています。JPICの推進者として、私たちは現実的になり、簡単に挫折しないように注意しなければなりません。兄弟たちのJPICに対する問題意識を育て、彼らに問題に参加する可能性を示し、彼らがすでに実行していることを通して問題に参加する方法を考えるよう兄弟たちを励ますためには、独創性と想像力を働かせる必要があります。

いつも何か新しい活動を組織するのではなく、すでに兄弟たちが置かれている状況や行っている活動を利用すべきです。兄弟たちは少なくともいつも祈っているべきです。

このことを心に留め、私たちはJPIC委員会と推進者たちが、だれもが手軽に利用でき、それぞれの兄弟共同体の事情に適合した祈禱会を企画することを提案します。

次のような祈禱会を四旬節の6週間の間利用することができます。この祈りの形式は、週に一度聖務日課の代わりに使用することができます。もし兄弟たちが祈りの形式を変えることに抵抗を感じるならば、テーマのいくつかを朝か夕方の伝統的な祈りの中に組み込むことも可能です。

私たちは、特定のエコロジーに関するテーマとか現実生活に即したテーマを提案します。たとえば、水、暴力、ゴミ、貧しさ、富、教育、ストリートチルドレン、売春、土地のない人々、失業者など。

祈禱会の形式としては、次のようなものが考えられます。

テーマ「水」

導入 落ち着いて形式張らない方法で、その国や地域にどんな問題が存在するかを補足することができます。たとえば、エル・サルバドルでは、次のようなことが助けになるでしょう。

四旬節の典礼は、水と砂漠について考えるよう私たちに招いています。これらのテーマは、人口の半分（45.2%）が水道を持たないエル・サルバドルでは重要な意味を持ちます。水道の供給を受けている人々は、自分が幸運であるということに気づいています。水道会社でさえ、深刻な水質汚染を認めています。河川、湖、井戸もまた汚染されています。エル・サルバドルの360の河川の内、清潔な河床のあるのは5パーセントだけです。首都サンサルバドルの井戸は毎年1メートルの割合で減少しています。

ハイチの次に、エル・サルバドルはラテン・アメリカでもっとも森林伐採が進んだ国です。無差別な森林の伐採と、商業施設や工場、借家の建設のために、森は国土の12パーセントにしかありません。エル・クリスフィオのような自然保護区域は破壊の危険にさらされています。2010年までに、エル・サルバドルに中央アメリカの砂漠ができるのではないかと危惧されています。

詩篇137（136）

聖書朗読 エゼキエル 36章24 - 27

考察のための質問

水質汚染に対して責任があるのは誰でしょうか？

私たちは黙っているべきですか？

私たちの兄弟共同体の中で、水を守るために何ができますか？

森林破壊に責任があるのは誰でしょうか？

私たちは所有地の植物や樹木をどのように世話していますか？

共同祈願 （任意）

主の祈り

最後の祈り

歌

もし兄弟たちが聖務日課の形式を維持したければ、朗読の後でテーマについて考え、質問に答えることもできます。共同祈願は、テーマに関連して任意に行うことができます。

謝 辞

この JPIC 資料集の作成に協力して下さった以下の兄弟たち、聖職者たち、信徒の方々に謝意を表わします。特に、本書の企画と完成にご尽力くださった John Quigley, OFM と Vicente Felipe, OFM に感謝申し上げます。

Louis B. Antl(アメリカ合衆国)、Hose Arregui (スペイン)、Yusuf Bagh(パキスタン)、Claudio Baratto(エルサレム)、Pierre Beguin (フランス)、Gilles Bourdeau (カナダ)、Louis Brennan (アイルランド)、Margaret Carney (アメリカ合衆国)、Rodrigo de Castro Amedee Peret (ブラジル)、Roberto Cranchi (イタリア)、Vicente Felipe (スペイン)、Rose Fernando (スリランカ)、Fernando Figueredo (コロンビア)、Charles Finnegan (アメリカ合衆国)、Carmelo Galdos (ボリビア)、Javier Garrido (スペイン)、Oswald Gill (アイルランド)、Philippa Hitchen (イギリス)、Ken Himes (アメリカ合衆国)、Pat Hudson (アイルランド)、Thaddeus Jones (イタリア)、Eloi Leclerc (フランス)、Bernardino Leers (ブラジル)、Julie Lonneman (アメリカ合衆国)、Pat McCloskey (アメリカ合衆国)、Hugh McKenna (アイルランド)、Francis Mathews (アメリカ合衆国)、David Moczulski (アメリカ合衆国)、Joe Nangle (アメリカ合衆国)、Dan Neylon (オーストラリア)、Gearoid Francisco O'Conaire (中央アメリカ)、Francois Pacquette (カナダ)、Rodrigo A. Peret (ブラジル)、Daniela Persia (イタリア)、John Quigley (カナダ)、Prasad Reddy (インド)、Alain Richard (フランス)、Joseph G. Rozansky (アメリカ合衆国)、Hermann Schaluck (ドイツ)、Ruben Tierrablanca (メキシコ)、ヨブ戸田 (日本)、Fernando Uribe (コロンビア)、Angel Valdez (メキシコ)、Theo van den Broek (インドネシア)、Ambrose Van Si (ベトナム)、Robert Vitillo (アメリカ合衆国)、Boze Vuleta (クロアチア)、Justus Wirth (アメリカ合衆国)、Philippe Yates (英国)。

この資料集は、OFMロ - マ総本部のJPIC担当室によって編集されたものの日本語版です。

英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語版は
以下のアドレスからダウンロードできます。

<http://www.ofm-jpic.org/handbook/index.html>

日本語版ファイルのダウンロードは <http://www.ofm-j.or.jp/> から

2003年4月20日 復活祭

フランシスコ会日本管区 正義と平和エコロジー委員会(JPIC)

〒106-0032

東京都港区六本木 4 - 2 - 39 聖ヨゼフ修道院

電話 03-3403-8088 FAX 03-3401-3215

E-MAIL jpica@ofm-j.or.jp